

## 目次(2021年度教養科目)

フレッシュマンセミナー	1
フレッシュマンセミナー	2
フレッシュマンセミナー	3
フレッシュマンセミナー	4
フレッシュマンセミナー	5
フレッシュマンセミナー	6
フレッシュマンセミナー	7
フレッシュマンセミナー	8
フレッシュマンセミナー	9
フレッシュマンセミナー	10
フレッシュマンセミナー	11
基礎ゼミナールⅠ	12
基礎ゼミナールⅠ	13
基礎ゼミナールⅠ	14
基礎ゼミナールⅠ	15
基礎ゼミナールⅠ	16
基礎ゼミナールⅠ	17
基礎ゼミナールⅠ	18
基礎ゼミナールⅠ	19
基礎ゼミナールⅠ	20
基礎ゼミナールⅠ	21
基礎ゼミナールⅠ	22
基礎ゼミナールⅠ	23
基礎ゼミナールⅠ	24
基礎ゼミナールⅠ	25
基礎ゼミナールⅠ	26
基礎ゼミナールⅠ	27
基礎ゼミナールⅠ	28
基礎ゼミナールⅠ	29
基礎ゼミナールⅠ	30
フレッシュマンセミナー	31
基礎ゼミナールⅠ	32
フレッシュマンセミナー	33
フレッシュマンセミナー	34
フレッシュマンセミナー	35
フレッシュマンセミナー	36
フレッシュマンセミナー	37
フレッシュマンセミナー	38
フレッシュマンセミナー	39
フレッシュマンセミナー	40
フレッシュマンセミナー	41
フレッシュマンセミナー	42
フレッシュマンセミナー	43
フレッシュマンセミナー	44
フレッシュマンセミナー	45
フレッシュマンセミナー	46
基礎ゼミナールⅠ	47
基礎ゼミナールⅠ	48
基礎ゼミナールⅠ	49
基礎ゼミナールⅠ	50
基礎ゼミナールⅠ	51
基礎ゼミナールⅠ	52
表現活動による人間力養成Ⅰ	53

フレッシュマンセミナー	54
フレッシュマンセミナー	55
フレッシュマンセミナー	56
フレッシュマンセミナー	57
フレッシュマンセミナー	58
フレッシュマンセミナー	59
フレッシュマンセミナー	60
フレッシュマンセミナー	61
フレッシュマンセミナー	62
フレッシュマンセミナー	63
フレッシュマンセミナー	64
フレッシュマンセミナー	65
フレッシュマンセミナー	66
フレッシュマンセミナー	67
フレッシュマンセミナー	68
フレッシュマンセミナー	69
フレッシュマンセミナー	70
フレッシュマンセミナー	71
基礎ゼミナールⅠ	72
基礎ゼミナールⅠ	73
基礎ゼミナールⅠ	74
基礎ゼミナールⅠ	75
基礎ゼミナールⅠ	76
基礎ゼミナールⅠ	77
基礎ゼミナールⅠ	78
基礎ゼミナールⅠ	79
基礎ゼミナールⅠ	80
基礎ゼミナールⅠ	81
基礎ゼミナールⅠ	82
基礎ゼミナールⅠ	83
基礎ゼミナールⅠ	84
基礎ゼミナールⅠ	85
基礎ゼミナール	86
基礎ゼミナールⅠ	87
基礎ゼミナールⅠ	88
基礎ゼミナールⅠ	89
コンピュータリテラシーⅠ	90
コンピュータリテラシーⅠ	91
コンピュータリテラシーⅠ	92
コンピュータリテラシーⅠ	93
体育実技	94
体育実技	95
体育実技	96
体育実技	97
IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	98
IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	99
IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	100
IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	101
コンピュータリテラシーⅠ	102
コンピュータリテラシーⅠ	103
コンピュータリテラシーⅠ	104
コンピュータリテラシーⅠ	105
体育実技	106
体育実技	107
体育実技	108
体育実技	109
IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	110
IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	111

IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	112
IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	113
基礎ゼミナールⅠ	114
基礎ゼミナールⅠ	115
基礎ゼミナールⅠ	116
基礎ゼミナールⅠ	117
基礎ゼミナールⅠ	118
英会話	119
英会話	120
英会話	121
英会話	122
心理学	123
心理学	124
英会話	125
英会話	126
コンピュータリテラシーⅠ	127
コンピュータリテラシーⅠ	128
コンピュータリテラシーⅠ	129
コンピュータリテラシーⅠ	130
体育実技	131
体育実技	132
体育実技	133
体育実技	134
IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	135
IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	136
IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	137
IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	138
コンピュータリテラシーⅠ	139
コンピュータリテラシーⅠ	140
コンピュータリテラシーⅠ	141
コンピュータリテラシーⅠ	142
体育実技	143
体育実技	144
体育実技	145
体育実技	146
IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	147
IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	148
IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	149
IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	150
英会話	151
英会話	152
英会話	153
英会話	154
体育実技	155
体育実技	156
英会話	157
英会話	158
IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)	159
IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)	160
コンピュータリテラシーⅡ	161
IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)	162
コンピュータリテラシーⅡ	163
コンピュータリテラシーⅡ	164
IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)	165
IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)	166
英会話	167
英会話	168
IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)	169

IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)	170
IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)	171
IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)	172
IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)	173
IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)	174
IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)	175
英会話	176
英会話	177
体育理論	178
体育理論	179
倫理学(宗教を含む)	180
英語Ⅰ	181
英語Ⅰ	182
英会話	183
英会話	184
日本の伝統文化	185
政治・経済学	186
コンピュータリテラシーⅡ	187
コンピュータリテラシーⅡ	188
コンピュータリテラシーⅡ	189
日本の伝統文化	190
体育理論	191
コンピュータリテラシーⅡ	192
コンピュータリテラシーⅡ	193
コンピュータリテラシーⅡ	194
コンピュータリテラシーⅡ	195
英語Ⅰ	196
英語Ⅰ	197
コンピュータリテラシーⅡ	198
コンピュータリテラシーⅡ	199
コンピュータリテラシーⅡ	200
コンピュータリテラシーⅡ	201
コンピュータリテラシーⅡ	202
コンピュータリテラシーⅡ	203
IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)	204
英会話	205
英会話	206
コンピュータリテラシーⅡ	207
コンピュータリテラシーⅡ	208
IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)	209
英会話	210
英会話	211
日本国憲法	212
IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)	213
IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)	214
日本国憲法	215
体育理論	216
日本国憲法	217
日本国憲法	218

キャリアディベロップメント	219
キャリアディベロップメント	220
キャリアディベロップメント	221
キャリアディベロップメント	222
キャリアディベロップメント	223
キャリアディベロップメント	224
キャリアディベロップメント	225
キャリアディベロップメント	226
キャリアディベロップメント	227
キャリアディベロップメント	228
キャリアディベロップメント	229
キャリアディベロップメント	230
基礎ゼミナールⅡ	231
基礎ゼミナールⅡ	232
基礎ゼミナールⅡ	233
基礎ゼミナールⅡ	234
基礎ゼミナールⅡ	235
基礎ゼミナールⅡ	236
基礎ゼミナールⅡ	237
基礎ゼミナールⅡ	238
基礎ゼミナールⅡ	239
基礎ゼミナールⅡ	240
基礎ゼミナールⅡ	241
基礎ゼミナールⅡ	242
基礎ゼミナールⅡ	243
基礎ゼミナールⅡ	244
基礎ゼミナールⅡ	245
基礎ゼミナールⅡ	246
基礎ゼミナールⅡ	247
基礎ゼミナールⅡ	248
基礎ゼミナールⅡ	249
基礎ゼミナールⅡ	250
基礎ゼミナールⅡ	251
キャリアディベロップメント	252
キャリアディベロップメント	253
キャリアディベロップメント	254
キャリアディベロップメント	255
キャリアディベロップメント	256
キャリアディベロップメント	257
キャリアディベロップメント	258
キャリアディベロップメント	259
キャリアディベロップメント	260
キャリアディベロップメント	261
基礎ゼミナールⅡ	262
基礎ゼミナールⅡ	263
基礎ゼミナールⅡ	264
基礎ゼミナールⅡ	265
基礎ゼミナールⅡ	266
基礎ゼミナールⅡ	267
表現活動による人間力養成Ⅱ	268
キャリアディベロップメント	269
キャリアディベロップメント	270
キャリアディベロップメント	271
キャリアディベロップメント	272
キャリアディベロップメント	273
キャリアディベロップメント	274
キャリアディベロップメント	275
キャリアディベロップメント	276

キャリアディベロップメント	277
キャリアディベロップメント	278
キャリアディベロップメント	279
キャリアディベロップメント	280
キャリアディベロップメント	281
キャリアディベロップメント	282
キャリアディベロップメント	283
キャリアディベロップメント	284
キャリアディベロップメント	285
キャリアディベロップメント	286
基礎ゼミナールⅡ	287
基礎ゼミナールⅡ	288
基礎ゼミナールⅡ	289
基礎ゼミナールⅡ	290
基礎ゼミナールⅡ	291
基礎ゼミナールⅡ	292
基礎ゼミナールⅡ	293
基礎ゼミナールⅡ	294
基礎ゼミナールⅡ	295
基礎ゼミナールⅡ	296
基礎ゼミナールⅡ	297
基礎ゼミナールⅡ	298
基礎ゼミナールⅡ	299
基礎ゼミナールⅡ	300
基礎ゼミナールⅡ	301
基礎ゼミナールⅡ	302
基礎ゼミナールⅡ	303
基礎ゼミナールⅡ	304
経営学	305
英語Ⅱ	306
数学基礎	307
コンピュータリテラシーⅠ	308
英会話	309
人権と教育	310
数学基礎	311
英語Ⅱ	312
人権と教育	313
コンピュータリテラシーⅢ	314
人権と教育	315
コンピュータリテラシーⅢ	316
コンピュータリテラシーⅢ	317
コンピュータリテラシーⅢ	318
IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	319
フレッシュマンセミナー	320
基礎ゼミナールⅡ	321
基礎ゼミナールⅡ	322
基礎ゼミナールⅡ	323
基礎ゼミナールⅡ	324
基礎ゼミナールⅡ	325
時事教養	326
コンピュータリテラシーⅡ	327
IPUジェネリックスキルズⅢ(シチズンシップ)	328
IPUジェネリックスキルズⅢ(シチズンシップ)	329
コンピュータリテラシーⅢ	330
コンピュータリテラシーⅢ	331
多文化共生のための異文化理解	332
IPUジェネリックスキルズⅢ(シチズンシップ)	333
IPUジェネリックスキルズⅢ(シチズンシップ)	334

数学	335
キャリアディベロップメント	336
英語Ⅰ(基礎)	337
表現活動による人間力養成Ⅲ	338
ゼミナールⅠ(基礎)	339
ゼミナールⅠ(基礎)	340
キャリアデザインⅠ	341
キャリアデザインⅠ	342
キャリアデザインⅠ	343
キャリアデザインⅠ	344
統計学	345
キャリアデザインⅠ	346
生化学	347
アカデミックスキルズⅠ	348
統計学	349
コミュニケーションの心理学	350
食育論	351
英語Ⅱ(応用)	352
キャリアデザインⅡ	353
キャリアデザインⅡ	354
キャリアデザインⅡ	355
キャリアデザインⅡ	356
地理・地政学	357
キャリアデザインⅡ	358
自然科学基礎	359
特別講義Ⅱ	360
近現代史	361
時事教養	362
表現活動による人間力養成Ⅳ	363
キャリアサポート	364
キャリアサポート	365
キャリアサポート	366
キャリアサポート	367
キャリアサポート	368
キャリアサポート	369
フレッシュマンセミナー	370
フレッシュマンセミナー	371
フレッシュマンセミナー	372
基礎ゼミナールⅠ	373
基礎ゼミナールⅠ	374
基礎ゼミナールⅠ	375
キャリアディベロップメント	376
キャリアディベロップメント	377
キャリアディベロップメント	378
基礎ゼミナールⅡ	379
基礎ゼミナールⅡ	380
基礎ゼミナールⅡ	381
英語Ⅱ(応用)	382
キャリアデザインⅠ	383
時事教養	384
コンピュータリテラシーⅠ	385
IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	386
コンピュータリテラシーⅠ	387
IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	388
キャリアサポート	389
英会話	390
コンピュータリテラシーⅡ	391
コンピュータリテラシーⅡ	392

IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	.....	393
コンピュータリテラシーⅡ	.....	394
キャリアデザインⅡ	.....	395
政治・経済学	.....	396
コンピュータリテラシーⅠ	.....	397
日本の伝統文化	.....	398
日本の伝統文化	.....	399
生化学	.....	400
日本国憲法	.....	401
日本の伝統文化	.....	402
特別講義Ⅱ	.....	403
人権と教育	.....	404



科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	高崎 展好				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自立した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことを目標とする。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上をめざし、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理ができるようになることで、学び続ける学生としての資質・能力を身に付ける。

#### <授業の方法>

1. 講義(ゲストスピーカー等による講話) 2. グループワーク(ディスカッション) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表・Google classroomを活用して動画視聴並びに課題管理等)

#### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間 復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5(汎用的技能:情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能)と関連付けられている。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、レポート課題 60%、最終課題 10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学①	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	求められる教師像とは	学部長・学科長の講話をもとに「今後求められる教師像」について考える。
3	キャリアアップ講座①	自己理解の重要性を理解し、進路選択について理解を深める。
4	IPU学②	「学歌」について理解を深める。
5	自尊感情を育む	「自尊感情を育む」ことについて考える。
6	スピーチスキルアップ講座①	伝わるスピーチの特徴について理解を深める。
7	学長講話	「折れない・やめない」ということについて考えを深める。
8	スピーチスキルアップ講座②	スピーチ原稿作成のポイントについて理解を深める。
9	スピーチスキル・アップ講座③	心を動かす伝える技術について理解を深める。
10	キャリアアップ講座②	教職についての理解を深める。
11	スピーチコンテスト	代表者のスピーチを聴き評価する。
12	キャリアアップ講座③	教員採用試験の現状と対策についての知識を深める。
13	IPU学③	非認知能力・ディスカバリーについての理解を深める。
14	キャリアアップ講座④	夢を実現した先輩からの講話をもとに進路について考える。
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、2年生への抱負をまとめる。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	後藤 由佳				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自立した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことを目標とする。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上をめざし、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理ができるようになることで、学び続ける学生としての資質・能力を身に付ける。

#### <授業の方法>

1. 講義(ゲストスピーカー等による講話) 2. グループワーク(ディスカッション) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表・Google classroomを活用して動画視聴並びに課題管理等)

#### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間 復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5(汎用的技能:情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能)と関連付けられている。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、レポート課題 60%、最終課題 10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学①	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	求められる教師像とは	学部長・学科長の講話をもとに「今後求められる教師像」について考える。
3	キャリアアップ講座①	自己理解の重要性を理解し、進路選択について理解を深める。
4	IPU学②	「学歌」について理解を深める。
5	自尊感情を育む	「自尊感情を育む」ことについて考える。
6	スピーチスキルアップ講座①	伝わるスピーチの特徴について理解を深める。
7	学長講話	「折れない・やめない」ということについて考えを深める。
8	スピーチスキルアップ講座②	スピーチ原稿作成のポイントについて理解を深める。
9	スピーチスキル・アップ講座③	心を動かす伝える技術について理解を深める。
10	キャリアアップ講座②	教職についての理解を深める。
11	スピーチコンテスト	代表者のスピーチを聴き評価する。
12	キャリアアップ講座③	教員採用試験の現状と対策についての知識を深める。
13	IPU学③	非認知能力・ディスカバリーについての理解を深める。
14	キャリアアップ講座④	夢を実現した先輩からの講話をもとに進路について考える。
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、2年生への抱負をまとめる。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	本庄 慶樹				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自立した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことを目標とする。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上をめざし、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理ができるようになることで、学び続ける学生としての資質・能力を身に付ける。

#### <授業の方法>

1. 講義(ゲストスピーカー等による講話) 2. グループワーク(ディスカッション) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表・Google classroomを活用して動画視聴並びに課題管理等)

#### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間 復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5(汎用的技能:情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能)と関連付けられている。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、レポート課題 60%、最終課題 10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学①	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	求められる教師像とは	学部長・学科長の講話をもとに「今後求められる教師像」について考える。
3	キャリアアップ講座①	自己理解の重要性を理解し、進路選択について理解を深める。
4	IPU学②	「学歌」について理解を深める。
5	自尊感情を育む	「自尊感情を育む」ことについて考える。
6	スピーチスキルアップ講座①	伝わるスピーチの特徴について理解を深める。
7	学長講話	「折れない・やめない」ということについて考えを深める。
8	スピーチスキルアップ講座②	スピーチ原稿作成のポイントについて理解を深める。
9	スピーチスキル・アップ講座③	心を動かす伝える技術について理解を深める。
10	キャリアアップ講座②	教職についての理解を深める。
11	スピーチコンテスト	代表者のスピーチを聴き評価する。
12	キャリアアップ講座③	教員採用試験の現状と対策についての知識を深める。
13	IPU学③	非認知能力・ディスカバリーについての理解を深める。
14	キャリアアップ講座④	夢を実現した先輩からの講話をもとに進路について考える。
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、2年生への抱負をまとめる。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	趙 秋華				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自立した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことを目標とする。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上をめざし、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理ができるようになることで、学び続ける学生としての資質・能力を身に付ける。

#### <授業の方法>

1. 講義(ゲストスピーカー等による講話) 2. グループワーク(ディスカッション) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表・Google classroomを活用して動画視聴並びに課題管理等)

#### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間 復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5(汎用的技能:情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能)と関連付けられている。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、レポート課題 60%、最終課題 10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学①	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	求められる教師像とは	学部長・学科長の講話をもとに「今後求められる教師像」について考える。
3	キャリアアップ講座①	自己理解の重要性を理解し、進路選択について理解を深める。
4	IPU学②	「学歌」について理解を深める。
5	自尊感情を育む	「自尊感情を育む」ことについて考える。
6	スピーチスキルアップ講座①	伝わるスピーチの特徴について理解を深める。
7	学長講話	「折れない・やめない」ということについて考えを深める。
8	スピーチスキルアップ講座②	スピーチ原稿作成のポイントについて理解を深める。
9	スピーチスキル・アップ講座③	心を動かす伝える技術について理解を深める。
10	キャリアアップ講座②	教職についての理解を深める。
11	スピーチコンテスト	代表者のスピーチを聴き評価する。
12	キャリアアップ講座③	教員採用試験の現状と対策についての知識を深める。
13	IPU学③	非認知能力・ディスカバリーについての理解を深める。
14	キャリアアップ講座④	夢を実現した先輩からの講話をもとに進路について考える。
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、2年生への抱負をまとめる。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	中西 紘士				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自立した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことを目標とする。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上をめざし、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理ができるようになることで、学び続ける学生としての資質・能力を身に付ける。

#### <授業の方法>

1. 講義(ゲストスピーカー等による講話) 2. グループワーク(ディスカッション) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表・Google classroomを活用して動画視聴並びに課題管理等)

#### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間 復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5(汎用的技能:情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能)と関連付けられている。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、レポート課題 60%、最終課題 10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学①	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	求められる教師像とは	学部長・学科長の講話をもとに「今後求められる教師像」について考える。
3	キャリアアップ講座①	自己理解の重要性を理解し、進路選択について理解を深める。
4	IPU学②	「学歌」について理解を深める。
5	自尊感情を育む	「自尊感情を育む」ことについて考える。
6	スピーチスキルアップ講座①	伝わるスピーチの特徴について理解を深める。
7	学長講話	「折れない・やめない」ということについて考えを深める。
8	スピーチスキルアップ講座②	スピーチ原稿作成のポイントについて理解を深める。
9	スピーチスキル・アップ講座③	心を動かす伝える技術について理解を深める。
10	キャリアアップ講座②	教職についての理解を深める。
11	スピーチコンテスト	代表者のスピーチを聴き評価する。
12	キャリアアップ講座③	教員採用試験の現状と対策についての知識を深める。
13	IPU学③	非認知能力・ディスカバリーについての理解を深める。
14	キャリアアップ講座④	夢を実現した先輩からの講話をもとに進路について考える。
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、2年生への抱負をまとめる。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	細井 健				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自立した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことを目標とする。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上をめざし、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理ができるようになることで、学び続ける学生としての資質・能力を身に付ける。

### <授業の方法>

1. 講義(ゲストスピーカー等による講話) 2. グループワーク(ディスカッション) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表・Google classroomを活用して動画視聴並びに課題管理等)

### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間 復習 テーマに即したレポートの作成1時間

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5(汎用的技能:情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能)と関連付けられている。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、レポート課題 60%、最終課題 10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学①	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	求められる教師像とは	学部長・学科長の講話をもとに「今後求められる教師像」について考える。
3	キャリアアップ講座①	自己理解の重要性を理解し、進路選択について理解を深める。
4	IPU学②	「学歌」について理解を深める。
5	自尊感情を育む	「自尊感情を育む」ことについて考える。
6	スピーチスキルアップ講座①	伝わるスピーチの特徴について理解を深める。
7	学長講話	「折れない・やめない」ということについて考えを深める。
8	スピーチスキルアップ講座②	スピーチ原稿作成のポイントについて理解を深める。
9	スピーチスキル・アップ講座③	心を動かす伝える技術について理解を深める。
10	キャリアアップ講座②	教職についての理解を深める。
11	スピーチコンテスト	代表者のスピーチを聴き評価する。
12	キャリアアップ講座③	教員採用試験の現状と対策についての知識を深める。
13	IPU学③	非認知能力・ディスカバリーについての理解を深める。
14	キャリアアップ講座④	夢を実現した先輩からの講話をもとに進路について考える。
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、2年生への抱負をまとめる。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	赤松 久美子				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自立した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことを目標とする。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上をめざし、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理ができるようになることで、学び続ける学生としての資質・能力を身に付ける。

#### <授業の方法>

1. 講義(ゲストスピーカー等による講話) 2. グループワーク(ディスカッション) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表・Google classroomを活用して動画視聴並びに課題管理等)

#### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間 復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5(汎用的技能:情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能)と関連付けられている。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、レポート課題 60%、最終課題 10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学①	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	求められる教師像とは	学部長・学科長の講話をもとに「今後求められる教師像」について考える。
3	キャリアアップ講座①	自己理解の重要性を理解し、進路選択について理解を深める。
4	IPU学②	「学歌」について理解を深める。
5	自尊感情を育む	「自尊感情を育む」ことについて考える。
6	スピーチスキルアップ講座①	伝わるスピーチの特徴について理解を深める。
7	学長講話	「折れない・やめない」ということについて考えを深める。
8	スピーチスキルアップ講座②	スピーチ原稿作成のポイントについて理解を深める。
9	スピーチスキル・アップ講座③	心を動かす伝える技術について理解を深める。
10	キャリアアップ講座②	教職についての理解を深める。
11	スピーチコンテスト	代表者のスピーチを聴き評価する。
12	キャリアアップ講座③	教員採用試験の現状と対策についての知識を深める。
13	IPU学③	非認知能力・ディスカバリーについての理解を深める。
14	キャリアアップ講座④	夢を実現した先輩からの講話をもとに進路について考える。
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、2年生への抱負をまとめる。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	楠本 信治				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自立した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことを目標とする。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上をめざし、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理ができるようになることで、学び続ける学生としての資質・能力を身に付ける。

#### <授業の方法>

1. 講義(ゲストスピーカー等による講話) 2. グループワーク(ディスカッション) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表・Google classroomを活用して動画視聴並びに課題管理等)

#### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間 復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5(汎用的技能:情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能)と関連付けられている。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、レポート課題 60%、最終課題 10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学①	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	求められる教師像とは	学部長・学科長の講話をもとに「今後求められる教師像」について考える。
3	キャリアアップ講座①	自己理解の重要性を理解し、進路選択について理解を深める。
4	IPU学②	「学歌」について理解を深める。
5	自尊感情を育む	「自尊感情を育む」ことについて考える。
6	スピーチスキルアップ講座①	伝わるスピーチの特徴について理解を深める。
7	学長講話	「折れない・やめない」ということについて考えを深める。
8	スピーチスキルアップ講座②	スピーチ原稿作成のポイントについて理解を深める。
9	スピーチスキル・アップ講座③	心を動かす伝える技術について理解を深める。
10	キャリアアップ講座②	教職についての理解を深める。
11	スピーチコンテスト	代表者のスピーチを聴き評価する。
12	キャリアアップ講座③	教員採用試験の現状と対策についての知識を深める。
13	IPU学③	非認知能力・ディスカバリーについての理解を深める。
14	キャリアアップ講座④	夢を実現した先輩からの講話をもとに進路について考える。
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、2年生への抱負をまとめる。



科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	木戸 和彦				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自立した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことを目標とする。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上をめざし、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理ができるようになることで、学び続ける学生としての資質・能力を身に付ける。

#### <授業の方法>

1. 講義(ゲストスピーカー等による講話) 2. グループワーク(ディスカッション) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表・Google classroomを活用して動画視聴並びに課題管理等)

#### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間 復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5(汎用的技能:情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能)と関連付けられている。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、レポート課題 60%、最終課題 10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学①	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	求められる教師像とは	学部長・学科長の講話をもとに「今後求められる教師像」について考える。
3	キャリアアップ講座①	自己理解の重要性を理解し、進路選択について理解を深める。
4	IPU学②	「学歌」について理解を深める。
5	自尊感情を育む	「自尊感情を育む」ことについて考える。
6	スピーチスキルアップ講座①	伝わるスピーチの特徴について理解を深める。
7	学長講話	「折れない・やめない」ということについて考えを深める。
8	スピーチスキルアップ講座②	スピーチ原稿作成のポイントについて理解を深める。
9	スピーチスキル・アップ講座③	心を動かす伝える技術について理解を深める。
10	キャリアアップ講座②	教職についての理解を深める。
11	スピーチコンテスト	代表者のスピーチを聴き評価する。
12	キャリアアップ講座③	教員採用試験の現状と対策についての知識を深める。
13	IPU学③	非認知能力・ディスカバリーについての理解を深める。
14	キャリアアップ講座④	夢を実現した先輩からの講話をもとに進路について考える。
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、2年生への抱負をまとめる。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	坂元 智子				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自立した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことを目標とする。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上をめざし、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理ができるようになることで、学び続ける学生としての資質・能力を身に付ける。

#### <授業の方法>

1. 講義(ゲストスピーカー等による講話) 2. グループワーク(ディスカッション) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表・Google classroomを活用して動画視聴並びに課題管理等)

#### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間 復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5(汎用的技能:情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能)と関連付けられている。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、レポート課題 60%、最終課題 10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学①	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	求められる教師像とは	学部長・学科長の講話をもとに「今後求められる教師像」について考える。
3	キャリアアップ講座①	自己理解の重要性を理解し、進路選択について理解を深める。
4	IPU学②	「学歌」について理解を深める。
5	自尊感情を育む	「自尊感情を育む」ことについて考える。
6	スピーチスキルアップ講座①	伝わるスピーチの特徴について理解を深める。
7	学長講話	「折れない・やめない」ということについて考えを深める。
8	スピーチスキルアップ講座②	スピーチ原稿作成のポイントについて理解を深める。
9	スピーチスキル・アップ講座③	心を動かす伝える技術について理解を深める。
10	キャリアアップ講座②	教職についての理解を深める。
11	スピーチコンテスト	代表者のスピーチを聴き評価する。
12	キャリアアップ講座③	教員採用試験の現状と対策についての知識を深める。
13	IPU学③	非認知能力・ディスカバリーについての理解を深める。
14	キャリアアップ講座④	夢を実現した先輩からの講話をもとに進路について考える。
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、2年生への抱負をまとめる。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	高橋 純一				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自立した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことを目標とする。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上をめざし、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理ができるようになることで、学び続ける学生としての資質・能力を身に付ける。

#### <授業の方法>

1. 講義(ゲストスピーカー等による講話) 2. グループワーク(ディスカッション) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表・Google classroomを活用して動画視聴並びに課題管理等)

#### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間 復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5(汎用的技能:情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能)と関連付けられている。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、レポート課題 60%、最終課題 10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学①	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	求められる教師像とは	学部長・学科長の講話をもとに「今後求められる教師像」について考える。
3	キャリアアップ講座①	自己理解の重要性を理解し、進路選択について理解を深める。
4	IPU学②	「学歌」について理解を深める。
5	自尊感情を育む	「自尊感情を育む」ことについて考える。
6	スピーチスキルアップ講座①	伝わるスピーチの特徴について理解を深める。
7	学長講話	「折れない・やめない」ということについて考えを深める。
8	スピーチスキルアップ講座②	スピーチ原稿作成のポイントについて理解を深める。
9	スピーチスキル・アップ講座③	心を動かす伝える技術について理解を深める。
10	キャリアアップ講座②	教職についての理解を深める。
11	スピーチコンテスト	代表者のスピーチを聴き評価する。
12	キャリアアップ講座③	教員採用試験の現状と対策についての知識を深める。
13	IPU学③	非認知能力・ディスカバリーについての理解を深める。
14	キャリアアップ講座④	夢を実現した先輩からの講話をもとに進路について考える。
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、2年生への抱負をまとめる。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	高崎 展好				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する。②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる。③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる。

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）40%、スピーチ20%、課題 40%

### <教科書>

吉原恵子/馬淵泰尚/富江英俊/小針誠（2018年5月1日） スタディスキルズ・トレーニング改訂版 実教出版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の授業計画・授業の到達目標と注意事項、成績評価などを確認する。クラス目標の設定、クラス内の相互理解（自己紹介）
2	FSの振り返り、防災教育①	IPU学①についての振り返りを行う。学力・進路・主副免許取得・生活面について目標を設定する。大学内のハザードマップについて考える。保育体験のための事前学習
3	大学とはどのようなところだろう	大学内の部署・施設、場所・開閉時間・役割をまとめ大学生活に役立てる
4	大学・学部・学科について知ろう	大学の歴史や理念、学部・学科のディプロマポリシーについて理解を深める
5	FSの振り返り大学生としての心構え	これからの大学生活を考える
6	チームビルディング	学部、学科、クラスのチームビルディング。帰属意識について考えよう。
7	FSの振り返りスピーチ原稿作成	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。伝わるスピーチ原稿を作成する。
8	FSの振り返りプレ・スピーチコンテスト（テーマ：私という存在）	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマFSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマに基づいて自分自身について1分間でスピーチしたことを基に意見交換をする。
9	後期目標設定・体育祭説明・体育祭種目決め	後期目標設定。体育祭参加に向け、クラス内のチームビルディング。
10	スピーチスキル・アップ①クラス予選	スピーチコンテストに向けてクラス内予選を行う。
11	スピーチスキル・アップ②学科予選	スピーチコンテスト学科予選クラス代表のスピーチを聴いて評価する。
12	スピーチコンテストの振り返り学科の学びと進路①	スピーチコンテストの感想を伝え合い、考えを共有する。保育教育という仕事について意見を出し合い、進路決定の参考にする。
13	FSの振り返り学科の学びと進路②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。保育士採用試験の問題を実際に解いてみる。
14	FSの振り返り学科の学びと進路③	学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。学科教育と進路のつながりについて考える。進路決定した4年生に聴いてみたいこと（グループワーク）
15	2年生に向けたロードマップ作成	1年間を振り返り、2年生の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	後藤 由佳				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する。②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる。③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる。

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）40%、スピーチ20%、課題 40%

### <教科書>

吉原恵子/馬淵泰尚/富江英俊/小針誠（2018年5月1日） スタディスキルズ・トレーニング改訂版 実教出版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の授業計画・授業の到達目標と注意事項、成績評価などを確認する。クラス目標の設定、クラス内の相互理解（自己紹介）
2	FSの振り返り、防災教育①	IPU学①についての振り返りを行う。学力・進路・主副免許取得・生活面について目標を設定する。大学内のハザードマップについて考える。保育体験のための事前学習
3	大学とはどのようなところだろう	大学内の部署・施設、場所・開閉時間・役割をまとめ大学生活に役立てる
4	大学・学部・学科について知ろう	大学の歴史や理念、学部・学科のディプロマポリシーについて理解を深める
5	FSの振り返り大学生としての心構え	これからの大学生活を考える
6	チームビルディング	学部、学科、クラスのチームビルディング。帰属意識について考えよう。
7	FSの振り返りスピーチ原稿作成	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。伝わるスピーチ原稿を作成する。
8	FSの振り返りプレ・スピーチコンテスト（テーマ：私という存在）	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマFSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマに基づいて自分自身について1分間でスピーチしたことを基に意見交換をする。
9	後期目標設定・体育祭説明・体育祭種目決め	後期目標設定。体育祭参加に向け、クラス内のチームビルディング。
10	スピーチスキル・アップ①クラス予選	スピーチコンテストに向けてクラス内予選を行う。
11	スピーチスキル・アップ②学科予選	スピーチコンテスト学科予選クラス代表のスピーチを聴いて評価する。
12	スピーチコンテストの振り返り学科の学びと進路①	スピーチコンテストの感想を伝え合い、考えを共有する。保育教育という仕事について意見を出し合い、進路決定の参考にする。
13	FSの振り返り学科の学びと進路②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。保育士採用試験の問題を実際に解いてみる。
14	FSの振り返り学科の学びと進路③	学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。学科教育と進路のつながりについて考える。進路決定した4年生に聴いてみたいこと（グループワーク）
15	2年生に向けたロードマップ作成	1年間を振り返り、2年生の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	本庄 慶樹				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する。②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる。③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる。

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）40%、スピーチ20%、課題 40%

### <教科書>

吉原恵子/馬淵泰尚/富江英俊/小針誠（2018年5月1日） スタディスキルズ・トレーニング改訂版 実教出版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の授業計画・授業の到達目標と注意事項、成績評価などを確認する。クラス目標の設定、クラス内の相互理解（自己紹介）
2	FSの振り返り、防災教育①	IPU学①についての振り返りを行う。学力・進路・主副免許取得・生活面について目標を設定する。大学内のハザードマップについて考える。保育体験のための事前学習
3	大学とはどのようなところだろう	大学内の部署・施設、場所・開閉時間・役割をまとめ大学生活に役立てる
4	大学・学部・学科について知ろう	大学の歴史や理念、学部・学科のディプロマポリシーについて理解を深める
5	FSの振り返り大学生としての心構え	これからの大学生活を考える
6	チームビルディング	学部、学科、クラスのチームビルディング。帰属意識について考えよう。
7	FSの振り返りスピーチ原稿作成	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。伝わるスピーチ原稿を作成する。
8	FSの振り返りプレ・スピーチコンテスト（テーマ：私という存在）	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマFSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマに基づいて自分自身について1分間でスピーチしたことを基に意見交換をする。
9	後期目標設定・体育祭説明・体育祭種目決め	後期目標設定。体育祭参加に向け、クラス内のチームビルディング。
10	スピーチスキル・アップ①クラス予選	スピーチコンテストに向けてクラス内予選を行う。
11	スピーチスキル・アップ②学科予選	スピーチコンテスト学科予選クラス代表のスピーチを聴いて評価する。
12	スピーチコンテストの振り返り学科の学びと進路①	スピーチコンテストの感想を伝え合い、考えを共有する。保育教育という仕事について意見を出し合い、進路決定の参考にする。
13	FSの振り返り学科の学びと進路②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。保育士採用試験の問題を実際に解いてみる。
14	FSの振り返り学科の学びと進路③	学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。学科教育と進路のつながりについて考える。進路決定した4年生に聴いてみたいこと（グループワーク）
15	2年生に向けたロードマップ作成	1年間を振り返り、2年生の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	趙 秋華				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する。②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる。③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる。

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）40%、スピーチ20%、課題 40%

### <教科書>

吉原恵子/馬淵泰尚/富江英俊/小針誠（2018年5月1日） スタディスキルズ・トレーニング改訂版 実教出版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の授業計画・授業の到達目標と注意事項、成績評価などを確認する。クラス目標の設定、クラス内の相互理解（自己紹介）
2	FSの振り返り、防災教育①	IPU学①についての振り返りを行う。学力・進路・主副免許取得・生活面について目標を設定する。大学内のハザードマップについて考える。保育体験のための事前学習
3	大学とはどのようなところだろう	大学内の部署・施設、場所・開閉時間・役割をまとめ大学生活に役立てる
4	大学・学部・学科について知ろう	大学の歴史や理念、学部・学科のディプロマポリシーについて理解を深める
5	FSの振り返り大学生としての心構え	これからの大学生活を考える
6	チームビルディング	学部、学科、クラスのチームビルディング。帰属意識について考えよう。
7	FSの振り返りスピーチ原稿作成	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。伝わるスピーチ原稿を作成する。
8	FSの振り返りプレ・スピーチコンテスト（テーマ：私という存在）	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマFSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマに基づいて自分自身について1分間でスピーチしたことを基に意見交換をする。
9	後期目標設定・体育祭説明・体育祭種目決め	後期目標設定。体育祭参加に向け、クラス内のチームビルディング。
10	スピーチスキル・アップ①クラス予選	スピーチコンテストに向けてクラス内予選を行う。
11	スピーチスキル・アップ②学科予選	スピーチコンテスト学科予選クラス代表のスピーチを聴いて評価する。
12	スピーチコンテストの振り返り学科の学びと進路①	スピーチコンテストの感想を伝え合い、考えを共有する。保育教育という仕事について意見を出し合い、進路決定の参考にする。
13	FSの振り返り学科の学びと進路②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。保育士採用試験の問題を実際に解いてみる。
14	FSの振り返り学科の学びと進路③	学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。学科教育と進路のつながりについて考える。進路決定した4年生に聴いてみたいこと（グループワーク）
15	2年生に向けたロードマップ作成	1年間を振り返り、2年生の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	中西 紘士				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要になる。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指す。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣を確立する。②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる。③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる。

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びを深めるため、フレッシュマンセミナーでまとめたレポート等をGoogle classroom上で交流し、その内容をもとにしてグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられている。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指す。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等） 40%、スピーチ 20%、課題 40%

### <教科書>

吉原恵子他（2017） 「スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル」 実教出版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	クラス運営・履修内容の確認と学部・学科への理解	自己紹介。履修内容をチェックするとともに、授業計画、授業の到達目標と注意事項、成績評価法などを確認する。
2	IPU学①の振り返り、大学・学部・学科への理解、防災教育①	IPU学①についての振り返りを行う。学力・進路・英検取得状況・生活面について目標を設定する。大学内のハザードマップについて考える。
3	FSの振り返り・防災教育②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。ハザードマップについて発表する。
4	FSの振り返り、テキストの確認	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テキストの課題内容をお互いに確認する。
5	IPU学②の振り返り、クラス経営①	IPU学②での学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。クラス経営のためのグループワークを体験する。
6	FSの振り返り、クラス経営②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。クラス経営のためのグループワークを体験する。
7	FSの振り返り、スピーチ原稿作成	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。伝わるスピーチ原稿を作成する。
8	FSの振り返り、プレ・スピーチコンテスト（テーマ：私という存在）	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマに基づいて自分自身について1分間でスピーチしたことを基に、意見交換をする。
9	FS振り返り、後期目標設定・体育祭説明・体育祭種目決め	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。後期の目標を設定し、見直しをもつ。体育祭について出場種目や役割分担を決める。
10	FS振り返り、スピーチコンテストクラス予選	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。スピーチ大会に向けてクラス内で予選を行う。
11	スピーチコンテスト学科予選	学科代表のスピーチを聴き評価する。
12	学科の学びと進路①	スピーチコンテストの感想を伝え合い、考えを共有する。教職という仕事について意見を出し合い、進路決定の参考にする。
13	FS振り返り、学科の学びと進路②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。教員採用試験の問題を実際に解いてみる。
14	IPU学③の振り返り、学科の学びと進路③	IPU学③での学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。教員採用試験に合格した4年生に対して質問したいことについて意見を出し合う。
15	ロードマップ作成【2年生に向けて】春休休業中の課題について	1年間を振り返り、2年生の大学生活を具体的に計画する。春休休業中の課題を知り、見直しをもつ。



科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	細井 健				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要になる。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指す。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣を確立する。②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる。③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる。

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びを深めるため、フレッシュマンセミナーでまとめたレポート等をGoogle classroom上で交流し、その内容をもとにしてグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられている。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指す。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等） 40%、スピーチ 20%、課題 40%

### <教科書>

吉原恵子他（2017） 「スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル」 実教出版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	クラス運営・履修内容の確認と学部・学科への理解	自己紹介。履修内容をチェックするとともに、授業計画、授業の到達目標と注意事項、成績評価法などを確認する。
2	IPU学①の振り返り、大学・学部・学科への理解、防災教育①	IPU学①についての振り返りを行う。学力・進路・英検取得状況・生活面について目標を設定する。大学内のハザードマップについて考える。
3	FSの振り返り・防災教育②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。ハザードマップについて発表する。
4	FSの振り返り、テキストの確認	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テキストの課題内容をお互いに確認する。
5	IPU学②の振り返り、クラス経営①	IPU学②での学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。クラス経営のためのグループワークを体験する。
6	FSの振り返り、クラス経営②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。クラス経営のためのグループワークを体験する。
7	FSの振り返り、スピーチ原稿作成	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。伝わるスピーチ原稿を作成する。
8	FSの振り返り、プレ・スピーチコンテスト（テーマ：私という存在）	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマに基づいて自分自身について1分間でスピーチしたことを基に、意見交換をする。
9	FS振り返り、後期目標設定・体育祭説明・体育祭種目決め	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。後期の目標を設定し、見直しをもつ。体育祭について出場種目や役割分担を決める。
10	FS振り返り、スピーチコンテストクラス予選	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。スピーチ大会に向けてクラス内で予選を行う。
11	スピーチコンテスト学科予選	学科代表のスピーチを聴き評価する。
12	学科の学びと進路①	スピーチコンテストの感想を伝え合い、考えを共有する。教職という仕事について意見を出し合い、進路決定の参考にする。
13	FS振り返り、学科の学びと進路②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。教員採用試験の問題を実際に解いてみる。
14	IPU学③の振り返り、学科の学びと進路③	IPU学③での学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。教員採用試験に合格した4年生に対して質問したいことについて意見を出し合う。
15	ロードマップ作成【2年生に向けて】春休休業中の課題について	1年間を振り返り、2年生の大学生活を具体的に計画する。春休休業中の課題を知り、見直しをもつ。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	赤松 久美子				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要になる。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指す。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣を確立する。②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる。③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる。

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びを深めるため、フレッシュマンセミナーでまとめたレポート等をGoogle classroom上で交流し、その内容をもとにしてグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられている。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指す。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等） 40%、スピーチ 20%、課題 40%

### <教科書>

吉原恵子他（2017） 「スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル」 実教出版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	クラス運営・履修内容の確認と学部・学科への理解	自己紹介。履修内容をチェックするとともに、授業計画、授業の到達目標と注意事項、成績評価法などを確認する。
2	IPU学①の振り返り、大学・学部・学科への理解、防災教育①	IPU学①についての振り返りを行う。学力・進路・英検取得状況・生活面について目標を設定する。大学内のハザードマップについて考える。
3	FSの振り返り・防災教育②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。ハザードマップについて発表する。
4	FSの振り返り、テキストの確認	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テキストの課題内容をお互いに確認する。
5	IPU学②の振り返り、クラス経営①	IPU学②での学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。クラス経営のためのグループワークを体験する。
6	FSの振り返り、クラス経営②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。クラス経営のためのグループワークを体験する。
7	FSの振り返り、スピーチ原稿作成	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。伝わるスピーチ原稿を作成する。
8	FSの振り返り、プレ・スピーチコンテスト（テーマ：私という存在）	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマに基づいて自分自身について1分間でスピーチしたことを基に、意見交換をする。
9	FS振り返り、後期目標設定・体育祭説明・体育祭種目決め	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。後期の目標を設定し、見直しをもつ。体育祭について出場種目や役割分担を決める。
10	FS振り返り、スピーチコンテストクラス予選	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。スピーチ大会に向けてクラス内で予選を行う。
11	スピーチコンテスト学科予選	学科代表のスピーチを聴き評価する。
12	学科の学びと進路①	スピーチコンテストの感想を伝え合い、考えを共有する。教職という仕事について意見を出し合い、進路決定の参考にする。
13	FS振り返り、学科の学びと進路②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。教員採用試験の問題を実際に解いてみる。
14	IPU学③の振り返り、学科の学びと進路③	IPU学③での学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。教員採用試験に合格した4年生に対して質問したいことについて意見を出し合う。
15	ロードマップ作成【2年生に向けて】春休休業中の課題について	1年間を振り返り、2年生の大学生活を具体的に計画する。春休休業中の課題を知り、見直しをもつ。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	楠本 信治				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要になる。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指す。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣を確立する。②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる。③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる。

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びを深めるため、フレッシュマンセミナーでまとめたレポート等をGoogle classroom上で交流し、その内容をもとにしてグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられている。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指す。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等） 40%、スピーチ 20%、課題 40%

### <教科書>

吉原恵子他（2017） 「スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル」 実教出版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	クラス運営・履修内容の確認と学部・学科への理解	自己紹介。履修内容をチェックするとともに、授業計画、授業の到達目標と注意事項、成績評価法などを確認する。
2	IPU学①の振り返り、大学・学部・学科への理解、防災教育①	IPU学①についての振り返りを行う。学力・進路・英検取得状況・生活面について目標を設定する。大学内のハザードマップについて考える。
3	FSの振り返り・防災教育②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。ハザードマップについて発表する。
4	FSの振り返り、テキストの確認	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テキストの課題内容をお互いに確認する。
5	IPU学②の振り返り、クラス経営①	IPU学②での学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。クラス経営のためのグループワークを体験する。
6	FSの振り返り、クラス経営②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。クラス経営のためのグループワークを体験する。
7	FSの振り返り、スピーチ原稿作成	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。伝わるスピーチ原稿を作成する。
8	FSの振り返り、プレ・スピーチコンテスト（テーマ：私という存在）	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマに基づいて自分自身について1分間でスピーチしたことを基に、意見交換をする。
9	FS振り返り、後期目標設定・体育祭説明・体育祭種目決め	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。後期の目標を設定し、見直しをもつ。体育祭について出場種目や役割分担を決める。
10	FS振り返り、スピーチコンテストクラス予選	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。スピーチ大会に向けてクラス内で予選を行う。
11	スピーチコンテスト学科予選	学科代表のスピーチを聴き評価する。
12	学科の学びと進路①	スピーチコンテストの感想を伝え合い、考えを共有する。教職という仕事について意見を出し合い、進路決定の参考にする。
13	FS振り返り、学科の学びと進路②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。教員採用試験の問題を実際に解いてみる。
14	IPU学③の振り返り、学科の学びと進路③	IPU学③での学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。教員採用試験に合格した4年生に対して質問したいことについて意見を出し合う。
15	ロードマップ作成【2年生に向けて】春休休業中の課題について	1年間を振り返り、2年生の大学生活を具体的に計画する。春休休業中の課題を知り、見直しをもつ。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	木戸 和彦				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要になる。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指す。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣を確立する。②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる。③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる。

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びを深めるため、フレッシュマンセミナーでまとめたレポート等をGoogle classroom上で交流し、その内容をもとにしてグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられている。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指す。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等） 40%、スピーチ 20%、課題 40%

### <教科書>

吉原恵子他（2017） 「スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル」 実教出版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	クラス運営・履修内容の確認と学部・学科への理解	自己紹介。履修内容をチェックするとともに、授業計画、授業の到達目標と注意事項、成績評価法などを確認する。
2	IPU学①の振り返り、大学・学部・学科への理解, 防災教育①	IPU学①についての振り返りを行う。学力・進路・英検取得状況・生活面について目標を設定する。大学内のハザードマップについて考える。
3	FSの振り返り・防災教育②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。ハザードマップについて発表する。
4	FSの振り返り、テキストの確認	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テキストの課題内容をお互いに確認する。
5	IPU学②の振り返り、クラス経営①	IPU学②での学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。クラス経営のためのグループワークを体験する。
6	FSの振り返り、クラス経営②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。クラス経営のためのグループワークを体験する。
7	FSの振り返り、スピーチ原稿作成	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。伝わるスピーチ原稿を作成する。
8	FSの振り返り、プレ・スピーチコンテスト（テーマ：私という存在）	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマに基づいて自分自身について1分間でスピーチしたことを基に、意見交換をする。
9	FS振り返り、後期目標設定・体育祭説明・体育祭種目決め	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。後期の目標を設定し、見直しをもつ。体育祭について出場種目や役割分担を決める。
10	FS振り返り、スピーチコンテストクラス予選	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。スピーチ大会に向けてクラス内で予選を行う。
11	スピーチコンテスト学科予選	学科代表のスピーチを聴き評価する。
12	学科の学びと進路①	スピーチコンテストの感想を伝え合い、考えを共有する。教職という仕事について意見を出し合い、進路決定の参考にする。
13	FS振り返り、学科の学びと進路②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。教員採用試験の問題を実際に解いてみる。
14	IPU学③の振り返り、学科の学びと進路③	IPU学③での学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。教員採用試験に合格した4年生に対して質問したいことについて意見を出し合う。
15	ロードマップ作成【2年生に向けて】春休休業中の課題について	1年間を振り返り、2年生の大学生活を具体的に計画する。春休休業中の課題を知り、見直しをもつ。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	坂元 智子				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要になる。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指す。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣を確立する。②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる。③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる。

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びを深めるため、フレッシュマンセミナーでまとめたレポート等をGoogle classroom上で交流し、その内容をもとにしてグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられている。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指す。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等） 40%、スピーチ 20%、課題 40%

### <教科書>

吉原恵子他（2017） 「スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル」 実教出版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	クラス運営・履修内容の確認と学部・学科への理解	自己紹介。履修内容をチェックするとともに、授業計画、授業の到達目標と注意事項、成績評価法などを確認する。
2	IPU学①の振り返り、大学・学部・学科への理解、防災教育①	IPU学①についての振り返りを行う。学力・進路・英検取得状況・生活面について目標を設定する。大学内のハザードマップについて考える。
3	FSの振り返り・防災教育②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。ハザードマップについて発表する。
4	FSの振り返り、テキストの確認	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テキストの課題内容をお互いに確認する。
5	IPU学②の振り返り、クラス経営①	IPU学②での学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。クラス経営のためのグループワークを体験する。
6	FSの振り返り、クラス経営②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。クラス経営のためのグループワークを体験する。
7	FSの振り返り、スピーチ原稿作成	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。伝わるスピーチ原稿を作成する。
8	FSの振り返り、プレ・スピーチコンテスト（テーマ：私という存在）	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマに基づいて自分自身について1分間でスピーチしたことを基に、意見交換をする。
9	FS振り返り、後期目標設定・体育祭説明・体育祭種目決め	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。後期の目標を設定し、見直しをもつ。体育祭について出場種目や役割分担を決める。
10	FS振り返り、スピーチコンテストクラス予選	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。スピーチ大会に向けてクラス内で予選を行う。
11	スピーチコンテスト学科予選	学科代表のスピーチを聴き評価する。
12	学科の学びと進路①	スピーチコンテストの感想を伝え合い、考えを共有する。教職という仕事について意見を出し合い、進路決定の参考にする。
13	FS振り返り、学科の学びと進路②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。教員採用試験の問題を実際に解いてみる。
14	IPU学③の振り返り、学科の学びと進路③	IPU学③での学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。教員採用試験に合格した4年生に対して質問したいことについて意見を出し合う。
15	ロードマップ作成【2年生に向けて】春休休業中の課題について	1年間を振り返り、2年生の大学生活を具体的に計画する。春休休業中の課題を知り、見直しをもつ。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	高橋 純一				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要になる。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指す。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣を確立する。②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる。③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる。

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びを深めるため、フレッシュマンセミナーでまとめたレポート等をGoogle classroom上で交流し、その内容をもとにしてグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられている。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指す。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等） 40%、スピーチ 20%、課題 40%

### <教科書>

吉原恵子他（2017） 「スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル」 実教出版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	クラス運営・履修内容の確認と学部・学科への理解	自己紹介。履修内容をチェックするとともに、授業計画、授業の到達目標と注意事項、成績評価法を確認する。
2	IPU学①の振り返り、大学・学部・学科への理解、防災教育①	IPU学①についての振り返りを行う。学力・進路・英検取得状況・生活面について目標を設定する。大学内のハザードマップについて考える。
3	FSの振り返り・防災教育②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。ハザードマップについて発表する。
4	FSの振り返り、テキストの確認	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テキストの課題内容をお互いに確認する。
5	IPU学②の振り返り、クラス経営①	IPU学②での学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。クラス経営のためのグループワークを体験する。
6	FSの振り返り、クラス経営②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。クラス経営のためのグループワークを体験する。
7	FSの振り返り、スピーチ原稿作成	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。伝わるスピーチ原稿を作成する。
8	FSの振り返り、プレ・スピーチコンテスト（テーマ：私という存在）	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマに基づいて自分自身について1分間でスピーチしたことを基に、意見交換をする。
9	FS振り返り、後期目標設定・体育祭説明・体育祭種目決め	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。後期の目標を設定し、見直しをもつ。体育祭について出場種目や役割分担を決める。
10	FS振り返り、スピーチコンテストクラス予選	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。スピーチ大会に向けてクラス内で予選を行う。
11	スピーチコンテスト学科予選	学科代表のスピーチを聴き評価する。
12	学科の学びと進路①	スピーチコンテストの感想を伝え合い、考えを共有する。教職という仕事について意見を出し合い、進路決定の参考にする。
13	FS振り返り、学科の学びと進路②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。教員採用試験の問題を実際に解いてみる。
14	IPU学③の振り返り、学科の学びと進路③	IPU学③での学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。教員採用試験に合格した4年生に対して質問したいことについて意見を出し合う。
15	ロードマップ作成【2年生に向けて】春休休業中の課題について	1年間を振り返り、2年生の大学生活を具体的に計画する。春休休業中の課題を知り、見直しをもつ。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	古山 喜一				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）40%、スピーチ20%、課題 40%

### <教科書>

特に指定なし

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	小玉 京士朗				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

#### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

#### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）40%、スピーチ20%、課題 40%

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

特に指定なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。



科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	飯出 一秀				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

#### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

#### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）40%、スピーチ20%、課題40%

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

特に指定なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	河野 儀久				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）40%、スピーチ20%、課題40%

### <教科書>

特に指定なし

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	畑島 紀昭				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）40%、スピーチ20%、課題40%

### <教科書>

特に指定なし

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	宮本 彩				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）40%、スピーチ20%、課題40%

### <教科書>

特に指定なし

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	坂本 賢広				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）40%、スピーチ20%、課題 40%

### <教科書>

特に指定なし

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	簗戸 崇史				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）40%、スピーチ20%、課題40%

### <教科書>

特に指定なし

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	増岡 希望				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自立した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことを目標とする。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上をめざし、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理ができるようになることで、学び続ける学生としての資質・能力を身に付ける。

#### <授業の方法>

1. 講義(ゲストスピーカー等による講話) 2. グループワーク(ディスカッション) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表・Google classroomを活用して動画視聴並びに課題管理等)

#### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間 復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5(汎用的技能:情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能)と関連付けられている。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、レポート課題 60%、最終課題 10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学①	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	求められる教師像とは	学部長・学科長の講話をもとに「今後求められる教師像」について考える。
3	キャリアアップ講座①	自己理解の重要性を理解し、進路選択について理解を深める。
4	IPU学②	「学歌」について理解を深める。
5	自尊感情を育む	「自尊感情を育む」ことについて考える。
6	スピーチスキルアップ講座①	伝わるスピーチの特徴について理解を深める。
7	学長講話	「折れない・やめない」ということについて考えを深める。
8	スピーチスキルアップ講座②	スピーチ原稿作成のポイントについて理解を深める。
9	スピーチスキル・アップ講座③	心を動かす伝える技術について理解を深める。
10	キャリアアップ講座②	教職についての理解を深める。
11	スピーチコンテスト	代表者のスピーチを聴き評価する。
12	キャリアアップ講座③	教員採用試験の現状と対策についての知識を深める。
13	IPU学③	非認知能力・ディスカバリーについての理解を深める。
14	キャリアアップ講座④	夢を実現した先輩からの講話をもとに進路について考える。
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、2年生への抱負をまとめる。

科目コード	14100				区分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	増岡 希望			
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する。②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる。③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる。

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）40%、スピーチ20%、課題 40%

### <教科書>

吉原恵子/馬淵泰尚/富江英俊/小針誠（2018年5月1日） スタディスキルズ・トレーニング改訂版 実教出版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の授業計画・授業の到達目標と注意事項、成績評価などを確認する。クラス目標の設定、クラス内の相互理解（自己紹介）
2	FSの振り返り、防災教育①	IPU学①についての振り返りを行う。学力・進路・主副免許取得・生活面について目標を設定する。大学内のハザードマップについて考える。保育体験のための事前学習
3	大学とはどのようなところだろう	大学内の部署・施設、場所・開閉時間・役割をまとめ大学生活に役立てる
4	大学・学部・学科について知ろう	大学の歴史や理念、学部・学科のディプロマポリシーについて理解を深める
5	FSの振り返り大学生としての心構え	これからの大学生活を考える
6	チームビルディング	学部、学科、クラスのチームビルディング。帰属意識について考えよう。
7	FSの振り返りスピーチ原稿作成	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。伝わるスピーチ原稿を作成する。
8	FSの振り返りプレ・スピーチコンテスト（テーマ：私という存在）	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマFSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマに基づいて自分自身について1分間でスピーチしたことを基に意見交換をする。
9	後期目標設定・体育祭説明・体育祭種目決め	後期目標設定。体育祭参加に向け、クラス内のチームビルディング。
10	スピーチスキル・アップ①クラス予選	スピーチコンテストに向けてクラス内予選を行う。
11	スピーチスキル・アップ②学科予選	スピーチコンテスト学科予選クラス代表のスピーチを聴いて評価する。
12	スピーチコンテストの振り返り学科の学びと進路①	スピーチコンテストの感想を伝え合い、考えを共有する。保育教育という仕事について意見を出し合い、進路決定の参考にする。
13	FSの振り返り学科の学びと進路②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。保育士採用試験の問題を実際に解いてみる。
14	FSの振り返り学科の学びと進路③	学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。学科教育と進路のつながりについて考える。進路決定した4年生に聴いてみたいこと（グループワーク）
15	2年生に向けたロードマップ作成	1年間を振り返り、2年生の大学生活を具体的に計画する。



科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	古山 喜一				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次ににおける大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学長講話	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	IPU学①	建学の精神について
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える？	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座？	伝わる内容を考える
7	体育会入会式	体育会について知る
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	IPU学③	夢・挑戦・達成
12	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
13	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
14	4年生・卒業生による講話（教員・公務員・企業・トレーナー）	夢を実現した先輩からの講話をもとに大学生活について考える
15	メンター講話【2年生に向けて】、最終レポート、進路希望調査	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	小玉 京士朗				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次に開ける大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学長講話	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	IPU学①	建学の精神について
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える?	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座?	伝わる内容を考える
7	体育会入会式	体育会について知る
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	IPU学③	夢・挑戦・達成
12	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
13	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
14	4年生・卒業生による講話（教員・公務員・企業・トレーナー）	夢を実現した先輩からの講話をもとに大学生活について考える
15	メンター講話【2年生に向けて】、最終レポート、進路希望調査	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	飯出 一秀				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次ににおける大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学長講話	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	IPU学①	建学の精神について
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える?	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座?	伝わる内容を考える
7	体育会入会式	体育会について知る
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	IPU学③	夢・挑戦・達成
12	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
13	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
14	4年生・卒業生による講話（教員・公務員・企業・トレーナー）	夢を実現した先輩からの講話をもとに大学生活について考える
15	メンター講話【2年生に向けて】、最終レポート、進路希望調査	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	河野 儀久				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次に開ける大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学長講話	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	IPU学①	建学の精神について
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える？	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座？	伝わる内容を考える
7	体育会入会式	体育会について知る
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	IPU学③	夢・挑戦・達成
12	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
13	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
14	4年生・卒業生による講話（教員・公務員・企業・トレーナー）	夢を実現した先輩からの講話をもとに大学生活について考える
15	メンター講話【2年生に向けて】、最終レポート、進路希望調査	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	畑島 紀昭				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次ににおける大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学長講話	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	IPU学①	建学の精神について
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える?	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座?	伝わる内容を考える
7	体育会入会式	体育会について知る
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	IPU学③	夢・挑戦・達成
12	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
13	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
14	4年生・卒業生による講話（教員・公務員・企業・トレーナー）	夢を実現した先輩からの講話をもとに大学生活について考える
15	メンター講話【2年生に向けて】、最終レポート、進路希望調査	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	宮本 彩				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次ににおける大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学長講話	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	IPU学①	建学の精神について
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える?	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座?	伝わる内容を考える
7	体育会入会式	体育会について知る
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	IPU学③	夢・挑戦・達成
12	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
13	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
14	4年生・卒業生による講話（教員・公務員・企業・トレーナー）	夢を実現した先輩からの講話をもとに大学生活について考える
15	メンター講話【2年生に向けて】、最終レポート、進路希望調査	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	坂本 賢広				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次ににおける大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学長講話	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	IPU学①	建学の精神について
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える?	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座?	伝わる内容を考える
7	体育会入会式	体育会について知る
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	IPU学③	夢・挑戦・達成
12	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
13	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
14	4年生・卒業生による講話（教員・公務員・企業・トレーナー）	夢を実現した先輩からの講話をもとに大学生活について考える
15	メンター講話【2年生に向けて】、最終レポート、進路希望調査	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	箕戸 崇史				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次ににおける大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学長講話	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	IPU学①	建学の精神について
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える？	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座？	伝わる内容を考える
7	体育会入会式	体育会について知る
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	IPU学③	夢・挑戦・達成
12	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
13	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
14	4年生・卒業生による講話（教員・公務員・企業・トレーナー）	夢を実現した先輩からの講話をもとに大学生活について考える
15	メンター講話【2年生に向けて】、最終レポート、進路希望調査	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。



科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	國枝 陽輔				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学の4年間はその後的人生に大きな影響を与える。本学での4年間をどのように生きるのか、学生一人ひとりが責任を持って、社会人として成長するための助言・指導の時間とする。また、基本的な生活習慣と学力の関係を学び、自己コントロールできる自主自律した学生の育成を目指す。さらに、読むこと、書くこと、聞くこと、伝えることの4スキルの獲得も同時に行う。

#### <授業の到達目標>

本授業は、大学生として読解力、傾聴力、プレゼンテーション力を身につけること、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけること等を目標とする。

#### <授業の方法>

初回授業時に通知する。各回の講義はテキストを用いたワークが中心で、キャンパスライフデザインや就職業界研究などの回では小グループごとのディスカッションが行われる。また、講義の後半ではワークの成果を必ずプレゼンテーションする。授業の開始時にはその日の講義内容に関するアンケートや意識調査、講義中にも質問やクイズなどをLMS上で実施し、学生には各自の情報端末から参加してもらい、それら集計結果はその場で全員で確認する。なお、授業内容について、スケジュール変更が生じた場合には、随時履修者に連絡する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講したテーマ・内容に即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各授業で指示。毎回、次の授業までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

豊かな人間性・幅広い教養に基づく課題提案力、異文化理解に基づくコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、国際人としての自覚とアイデンティティーの涵養に基づく実践力と生涯学習力、経営に対する総合的な学習経験に基づく知識の習得とそれらを活かす実践力を身につける科目である。特に、総合的な学習経験に基づき、社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ガイダンス、自己紹介
2	大学生活について	大学の授業・プロジェクトについて理解する
3	学長講話 (1)	大学生の学びについて理解する
4	メンター講話	自己学習時の注意点について学ぶ
5	リスニングスキル	「聞く・話す」スキルを身につける
6	理事長講話 (1)	大学理念について学ぶ
7	スピーチスキル (1)	スピーチの基本的なスキルを学ぶ
8	2年生プロジェクトにむけて	2年生でおこなうプロジェクトを理解し、計画を立てる
9	スピーチスキル (2)	相手に伝えるスピーチを学ぶ
10	ライティングスキル	「書く・伝える」スキルをつける
11	スピーチコンテスト (1)	学科代表のスピーチコンテスト
12	スピーチコンテスト (2)	学年代表のスピーチコンテスト
13	人権教育	人権問題について考える
14	理事長講話 (2)	非認知能力について学ぶ
15	学長講話 (2)	新2年生に向けて、学ぶことや目標を考える

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	手嶋 竜二				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学の4年間はその後的人生に大きな影響を与える。本学での4年間をどのように生きるのか、学生一人ひとりが責任を持って、社会人として成長するための助言・指導の時間とする。また、基本的な生活習慣と学力の関係を学び、自己コントロールできる自主自律した学生の育成を目指す。さらに、読むこと、書くこと、聞くこと、伝えることの4スキルの獲得も同時に行う。

#### <授業の到達目標>

本授業は、大学生として読解力、傾聴力、プレゼンテーション力を身につけること、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけること等を目標とする。

#### <授業の方法>

初回授業時に通知する。各回の講義はテキストを用いたワークが中心で、キャンパスライフデザインや就職業界研究などの回では小グループごとのディスカッションが行われる。また、講義の後半ではワークの成果を必ずプレゼンテーションする。授業の開始時にはその日の講義内容に関するアンケートや意識調査、講義中にも質問やクイズなどをLMS上で実施し、学生には各自の情報端末から参加してもらい、それら集計結果はその場で全員で確認する。なお、授業内容について、スケジュール変更が生じた場合には、随時履修者に連絡する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講したテーマ・内容に即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各授業で指示。毎回、次の授業までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

豊かな人間性・幅広い教養に基づく課題提案力、異文化理解に基づくコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、国際人としての自覚とアイデンティティーの涵養に基づく実践力と生涯学習力、経営に対する総合的な学習経験に基づく知識の習得とそれらを活かす実践力を身につける科目である。特に、総合的な学習経験に基づき、社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ガイダンス、自己紹介
2	大学生活について	大学の授業・プロジェクトについて理解する
3	学長講話（1）	大学生の学びについて理解する
4	メンター講話	自己学習時の注意点について学ぶ
5	リスニングスキル	「聞く・話す」スキルを身につける
6	理事長講話（1）	大学理念について学ぶ
7	スピーチスキル（1）	スピーチの基本的なスキルを学ぶ
8	2年生プロジェクトにむけて	2年生でおこなうプロジェクトを理解し、計画を立てる
9	スピーチスキル（2）	相手に伝えるスピーチを学ぶ
10	ライティングスキル	「書く・伝える」スキルをつける
11	スピーチコンテスト（1）	学科代表のスピーチコンテスト
12	スピーチコンテスト（2）	学年代表のスピーチコンテスト
13	人権教育	人権問題について考える
14	理事長講話（2）	非認知能力について学ぶ
15	学長講話（2）	新2年生に向けて、学ぶことや目標を考える

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	多賀 美紀				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学の4年間はその後的人生に大きな影響を与える。本学での4年間をどのように生きるのか、学生一人ひとりが責任を持って、社会人として成長するための助言・指導の時間とする。また、基本的な生活習慣と学力の関係を学び、自己コントロールできる自主自律した学生の育成を目指す。さらに、読むこと、書くこと、聞くこと、伝えることの4スキルの獲得も同時に行う。

#### <授業の到達目標>

本授業は、大学生として読解力、傾聴力、プレゼンテーション力を身につけること、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけること等を目標とする。

#### <授業の方法>

初回授業時に通知する。各回の講義はテキストを用いたワークが中心で、キャンパスライフデザインや就職業界研究などの回では小グループごとのディスカッションが行われる。また、講義の後半ではワークの成果を必ずプレゼンテーションする。授業の開始時にはその日の講義内容に関するアンケートや意識調査、講義中にも質問やクイズなどをLMS上で実施し、学生には各自の情報端末から参加してもらい、それら集計結果はその場で全員で確認する。なお、授業内容について、スケジュール変更が生じた場合には、随時履修者に連絡する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講したテーマ・内容に即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各授業で指示。毎回、次の授業までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

豊かな人間性・幅広い教養に基づく課題提案力、異文化理解に基づくコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、国際人としての自覚とアイデンティティーの涵養に基づく実践力と生涯学習力、経営に対する総合的な学習経験に基づく知識の習得とそれらを活かす実践力を身につける科目である。特に、総合的な学習経験に基づき、社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ガイダンス、自己紹介
2	大学生活について	大学の授業・プロジェクトについて理解する
3	学長講話 (1)	大学生の学びについて理解する
4	メンター講話	自己学習時の注意点について学ぶ
5	リスニングスキル	「聞く・話す」スキルを身につける
6	理事長講話 (1)	大学理念について学ぶ
7	スピーチスキル (1)	スピーチの基本的なスキルを学ぶ
8	2年生プロジェクトにむけて	2年生でおこなうプロジェクトを理解し、計画を立てる
9	スピーチスキル (2)	相手に伝えるスピーチを学ぶ
10	ライティングスキル	「書く・伝える」スキルをつける
11	スピーチコンテスト (1)	学科代表のスピーチコンテスト
12	スピーチコンテスト (2)	学年代表のスピーチコンテスト
13	人権教育	人権問題について考える
14	理事長講話 (2)	非認知能力について学ぶ
15	学長講話 (2)	新2年生に向けて、学ぶことや目標を考える

科目コード	13100				区分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	本村 大輔			
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学の4年間はその後的人生に大きな影響を与える。本学での4年間をどのように生きるのか、学生一人ひとりが責任を持って、社会人として成長するための助言・指導の時間とする。また、基本的な生活習慣と学力の関係を学び、自己コントロールできる自主自律した学生の育成を目指す。さらに、読むこと、書くこと、聞くこと、伝えることの4スキルの獲得も同時に行う。

#### <授業の到達目標>

本授業は、大学生として読解力、傾聴力、プレゼンテーション力を身につけること、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけること等を目標とする。

#### <授業の方法>

初回授業時に通知する。各回の講義はテキストを用いたワークが中心で、キャンパスライフデザインや就職業界研究などの回では小グループごとのディスカッションが行われる。また、講義の後半ではワークの成果を必ずプレゼンテーションする。授業の開始時にはその日の講義内容に関するアンケートや意識調査、講義中にも質問やクイズなどをLMS上で実施し、学生には各自の情報端末から参加してもらい、それら集計結果はその場で全員で確認する。なお、授業内容について、スケジュール変更が生じた場合には、随時履修者に連絡する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講したテーマ・内容に即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各授業で指示。毎回、次の授業までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

豊かな人間性・幅広い教養に基づく課題提案力、異文化理解に基づくコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、国際人としての自覚とアイデンティティーの涵養に基づく実践力と生涯学習力、経営に対する総合的な学習経験に基づく知識の習得とそれらを活かす実践力を身につける科目である。特に、総合的な学習経験に基づき、社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ガイダンス、自己紹介
2	大学生活について	大学の授業・プロジェクトについて理解する
3	学長講話（1）	大学生の学びについて理解する
4	メンター講話	自己学習時の注意点について学ぶ
5	リスニングスキル	「聞く・話す」スキルを身につける
6	理事長講話（1）	大学理念について学ぶ
7	スピーチスキル（1）	スピーチの基本的なスキルを学ぶ
8	2年生プロジェクトにむけて	2年生でおこなうプロジェクトを理解し、計画を立てる
9	スピーチスキル（2）	相手に伝えるスピーチを学ぶ
10	ライティングスキル	「書く・伝える」スキルをつける
11	スピーチコンテスト（1）	学科代表のスピーチコンテスト
12	スピーチコンテスト（2）	学年代表のスピーチコンテスト
13	人権教育	人権問題について考える
14	理事長講話（2）	非認知能力について学ぶ
15	学長講話（2）	新2年生に向けて、学ぶことや目標を考える

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	塩盛 俊明				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学の4年間はその後的人生に大きな影響を与える。本学での4年間をどのように生きるのか、学生一人ひとりが責任を持って、社会人として成長するための助言・指導の時間とする。また、基本的な生活習慣と学力の関係を学び、自己コントロールできる自主自律した学生の育成を目指す。さらに、読むこと、書くこと、聞くこと、伝えることの4スキルの獲得も同時に行う。

#### <授業の到達目標>

本授業は、大学生として読解力、傾聴力、プレゼンテーション力を身につけること、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけること等を目標とする。

#### <授業の方法>

初回授業時に通知する。各回の講義はテキストを用いたワークが中心で、キャンパスライフデザインや就職業界研究などの回では小グループごとのディスカッションが行われる。また、講義の後半ではワークの成果を必ずプレゼンテーションする。授業の開始時にはその日の講義内容に関するアンケートや意識調査、講義中にも質問やクイズなどをLMS上で実施し、学生には各自の情報端末から参加してもらい、それら集計結果はその場で全員で確認する。なお、授業内容について、スケジュール変更が生じた場合には、随時履修者に連絡する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講したテーマ・内容に即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各授業で指示。毎回、次の授業までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

豊かな人間性・幅広い教養に基づく課題提案力、異文化理解に基づくコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、国際人としての自覚とアイデンティティーの涵養に基づく実践力と生涯学習力、経営に対する総合的な学習経験に基づく知識の習得とそれらを活かす実践力を身につける科目である。特に、総合的な学習経験に基づき、社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ガイダンス、自己紹介
2	大学生活について	大学の授業・プロジェクトについて理解する
3	学長講話（1）	大学生の学びについて理解する
4	メンター講話	自己学習時の注意点について学ぶ
5	リスニングスキル	「聞く・話す」スキルを身につける
6	理事長講話（1）	大学理念について学ぶ
7	スピーチスキル（1）	スピーチの基本的なスキルを学ぶ
8	2年生プロジェクトにむけて	2年生でおこなうプロジェクトを理解し、計画を立てる
9	スピーチスキル（2）	相手に伝えるスピーチを学ぶ
10	ライティングスキル	「書く・伝える」スキルをつける
11	スピーチコンテスト（1）	学科代表のスピーチコンテスト
12	スピーチコンテスト（2）	学年代表のスピーチコンテスト
13	人権教育	人権問題について考える
14	理事長講話（2）	非認知能力について学ぶ
15	学長講話（2）	新2年生に向けて、学ぶことや目標を考える

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	三垣 雅美				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学の4年間はその後的人生に大きな影響を与える。本学での4年間をどのように生きるのか、学生一人ひとりが責任を持って、社会人として成長するための助言・指導の時間とする。また、基本的な生活習慣と学力の関係を学び、自己コントロールできる自主自律した学生の育成を目指す。さらに、読むこと、書くこと、聞くこと、伝えることの4スキルの獲得も同時に行う。

#### <授業の到達目標>

本授業は、大学生として読解力、傾聴力、プレゼンテーション力を身につけること、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけること等を目標とする。

#### <授業の方法>

初回授業時に通知する。各回の講義はテキストを用いたワークが中心で、キャンパスライフデザインや就職業界研究などの回では小グループごとのディスカッションが行われる。また、講義の後半ではワークの成果を必ずプレゼンテーションする。授業の開始時にはその日の講義内容に関するアンケートや意識調査、講義中にも質問やクイズなどをLMS上で実施し、学生には各自の情報端末から参加してもらい、それら集計結果はその場で全員で確認する。なお、授業内容について、スケジュール変更が生じた場合には、随時履修者に連絡する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講したテーマ・内容に即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各授業で指示。毎回、次の授業までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

豊かな人間性・幅広い教養に基づく課題提案力、異文化理解に基づくコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、国際人としての自覚とアイデンティティーの涵養に基づく実践力と生涯学習力、経営に対する総合的な学習経験に基づく知識の習得とそれらを活かす実践力を身につける科目である。特に、総合的な学習経験に基づき、社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ガイダンス、自己紹介
2	大学生活について	大学の授業・プロジェクトについて理解する
3	学長講話（1）	大学生の学びについて理解する
4	メンター講話	自己学習時の注意点について学ぶ
5	リスニングスキル	「聞く・話す」スキルを身につける
6	理事長講話（1）	大学理念について学ぶ
7	スピーチスキル（1）	スピーチの基本的なスキルを学ぶ
8	2年生プロジェクトにむけて	2年生でおこなうプロジェクトを理解し、計画を立てる
9	スピーチスキル（2）	相手に伝えるスピーチを学ぶ
10	ライティングスキル	「書く・伝える」スキルをつける
11	スピーチコンテスト（1）	学科代表のスピーチコンテスト
12	スピーチコンテスト（2）	学年代表のスピーチコンテスト
13	人権教育	人権問題について考える
14	理事長講話（2）	非認知能力について学ぶ
15	学長講話（2）	新2年生に向けて、学ぶことや目標を考える

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	國枝 陽輔				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。大学で学ぶためには様々な能力が必要とされるが、中でも「書く」能力は非常に重要であり、レポートや論文を書くことは、大学での学問の根幹となる大事な作業である。そのため、文章を書く実践を通して「書く」ことの基本ルールとともに文章表現の技術を指導する。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立②人間性：自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感のある人間の育成③社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成④大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各授業で指示。毎回、次の授業までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

挑戦と創造の教育を建学の精神とし、①豊かな人間性と個性、②深い専門性と実践力、③コミュニケーション能力とグローバルマインドを身に付けた人材の育成を目指して科目を配置している。当該教養科目は、全学部の学生が共通に身に付ける学習内容として本科目を位置付けている。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原恵子、間瀬泰尚、富江英俊、小針誠（2017.10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版 —大学で学ぶための25のスキル— 実教出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	自己紹介大学生になるとはどういうことか
2	大学を知ろう	学部、学科を知ろう大学教員や職員の仕事を知らう
3	大学を知ろう（2）	大学設備を知ろう 緊急避難経路を確認しよう ハザードマップを確認しよう
4	PROGテストを振り返って	強みを活かしたビジネスモデルを考えよう
5	大学生活をデザインしよう	週間スケジュールから日常生活のあり方を見直そう
6	大学の授業を知ろう	講義の特徴を知ろう 予習・復習の仕方を考えよう
7	定期試験をのりきろう	高校と大学の試験の違いをしろう
8	前期まとめ	前期を振り返って 自己採点してみよう後期のスピーチコンテストに向けて
9	後期ガイダンス	後期目標設定 体育祭チームビルディング
10	スピーチコンテストクラス予選	自分のスピーチを発表しよう
11	キャリアをデザインしよう	卒業後につきたい職業・仕事について調べてみよう
12	スピーチコンテストを振り返ろう	優勝者のスピーチと自分のスピーチを比べてみよう
13	大学生活のリスクやトラブルについて考えよう	大学生活のリスクやトラブルについて知ろうリスクやトラブルの適切な対応方法について知ろう
14	1年を振り返って	1年の学びを振りかえって、自己採点してみよう
15	まとめ	春休み課題「自分の進路について」を考えよう

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ			担当者名	安藤 信二				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。大学で学ぶためには様々な能力が必要とされるが、中でも「書く」能力は非常に重要であり、レポートや論文を書くことは、大学での学問の根幹となる大事な作業である。そのため、文章を書く実践を通して「書く」ことの基本ルールとともに文章表現の技術を指導する。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立②人間性：自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感のある人間の育成③社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成④大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各授業で指示。毎回、次の授業までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

挑戦と創造の教育を建学の精神とし、①豊かな人間性と個性、②深い専門性と実践力、③コミュニケーション能力とグローバルマインドを身に付けた人材の育成を目指して科目を配置している。当該教養科目は、全学部の学生が共通に身に付ける学習内容として本科目を位置付けている。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原恵子、間瀬泰尚、富江英俊、小針誠（2017.10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版 —大学で学ぶための25のスキル— 実教出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	自己紹介大学生になるとはどういうことか
2	大学を知ろう	学部、学科を知ろう大学教員や職員の仕事を知らう
3	大学を知ろう（2）	大学設備を知ろう 緊急避難経路を確認しよう ハザードマップを確認しよう
4	PROGテストを振り返って	強みを活かしたビジネスモデルを考えよう
5	大学生活をデザインしよう	週間スケジュールから日常生活のあり方を見直そう
6	大学の授業を知ろう	講義の特徴を知ろう 予習・復習の仕方を考えよう
7	定期試験をのりきろう	高校と大学の試験の違いをしろう
8	前期まとめ	前期を振り返って 自己採点してみよう後期のスピーチコンテストに向けて
9	後期ガイダンス	後期目標設定 体育祭チームビルディング
10	スピーチコンテストクラス予選	自分のスピーチを発表しよう
11	キャリアをデザインしよう	卒業後につきたい職業・仕事について調べてみよう
12	スピーチコンテストを振り返ろう	優勝者のスピーチと自分のスピーチを比べてみよう
13	大学生活のリスクやトラブルについて考えよう	大学生活のリスクやトラブルについて知ろうリスクやトラブルの適切な対応方法について知ろう
14	1年を振り返って	1年の学びを振りかえって、自己採点してみよう
15	まとめ	春休み課題「自分の進路について」を考えよう



科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	本村 大輔				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。大学で学ぶためには様々な能力が必要とされるが、中でも「書く」能力は非常に重要であり、レポートや論文を書くことは、大学での学問の根幹となる大事な作業である。そのため、文章を書く実践を通して「書く」ことの基本ルールとともに文章表現の技術を指導する。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立②人間性：自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感のある人間の育成③社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成④大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各授業で指示。毎回、次の授業までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

挑戦と創造の教育を建学の精神とし、①豊かな人間性と個性、②深い専門性と実践力、③コミュニケーション能力とグローバルマインドを身に付けた人材の育成を目指して科目を配置している。当該教養科目は、全学部の学生が共通に身に付ける学習内容として本科目を位置付けている。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原恵子、間瀬泰尚、富江英俊、小針誠（2017.10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版 —大学で学ぶための25のスキル— 実教出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	自己紹介大学生になるとはどういうことか
2	大学を知ろう	学部、学科を知ろう大学教員や職員の仕事を知らう
3	大学を知ろう（2）	大学設備を知ろう 緊急避難経路を確認しよう ハザードマップを確認しよう
4	PROGテストを振り返って	強みを活かしたビジネスモデルを考えよう
5	大学生活をデザインしよう	週間スケジュールから日常生活のあり方を見直そう
6	大学の授業を知ろう	講義の特徴を知ろう 予習・復習の仕方を考えよう
7	定期試験をのりきろう	高校と大学の試験の違いをしろう
8	前期まとめ	前期を振り返って 自己採点してみよう後期のスピーチコンテストに向けて
9	後期ガイダンス	後期目標設定 体育祭チームビルディング
10	スピーチコンテストクラス予選	自分のスピーチを発表しよう
11	キャリアをデザインしよう	卒業後につきたい職業・仕事について調べてみよう
12	スピーチコンテストを振り返ろう	優勝者のスピーチと自分のスピーチを比べてみよう
13	大学生活のリスクやトラブルについて考えよう	大学生活のリスクやトラブルについて知ろうリスクやトラブルの適切な対応方法について知ろう
14	1年を振り返って	1年の学びを振りかえって、自己採点してみよう
15	まとめ	春休み課題「自分の進路について」を考えよう

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	塩盛 俊明				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。大学で学ぶためには様々な能力が必要とされるが、中でも「書く」能力は非常に重要であり、レポートや論文を書くことは、大学での学問の根幹となる大事な作業である。そのため、文章を書く実践を通して「書く」ことの基本ルールとともに文章表現の技術を指導する。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立②人間性：自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感のある人間の育成③社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成④大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各授業で指示。毎回、次の授業までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

挑戦と創造の教育を建学の精神とし、①豊かな人間性と個性、②深い専門性と実践力、③コミュニケーション能力とグローバルマインドを身に付けた人材の育成を目指して科目を配置している。当該教養科目は、全学部の学生が共通に身に付ける学習内容として本科目を位置付けている。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原恵子、間瀬泰尚、富江英俊、小針誠（2017.10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版 —大学で学ぶための25のスキル— 実教出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	自己紹介大学生になるとはどういうことか
2	大学を知ろう	学部、学科を知ろう大学教員や職員の仕事を知らう
3	大学を知ろう（2）	大学設備を知ろう 緊急避難経路を確認しよう ハザードマップを確認しよう
4	PROGテストを振り返って	強みを活かしたビジネスモデルを考えよう
5	大学生活をデザインしよう	週間スケジュールから日常生活のあり方を見直そう
6	大学の授業を知ろう	講義の特徴を知ろう 予習・復習の仕方を考えよう
7	定期試験をのりきろう	高校と大学の試験の違いをしろう
8	前期まとめ	前期を振り返って 自己採点してみよう後期のスピーチコンテストに向けて
9	後期ガイダンス	後期目標設定 体育祭チームビルディング
10	スピーチコンテストクラス予選	自分のスピーチを発表しよう
11	キャリアをデザインしよう	卒業後につきたい職業・仕事について調べてみよう
12	スピーチコンテストを振り返ろう	優勝者のスピーチと自分のスピーチを比べてみよう
13	大学生活のリスクやトラブルについて考えよう	大学生活のリスクやトラブルについて知ろうリスクやトラブルの適切な対応方法について知ろう
14	1年を振り返って	1年の学びを振りかえって、自己採点してみよう
15	まとめ	春休み課題「自分の進路について」を考えよう

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ			担当者名	三垣 雅美				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。大学で学ぶためには様々な能力が必要とされるが、中でも「書く」能力は非常に重要であり、レポートや論文を書くことは、大学での学問の根幹となる大事な作業である。そのため、文章を書く実践を通して「書く」ことの基本ルールとともに文章表現の技術を指導する。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立②人間性：自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感のある人間の育成③社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成④大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各授業で指示。毎回、次の授業までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

挑戦と創造の教育を建学の精神とし、①豊かな人間性と個性、②深い専門性と実践力、③コミュニケーション能力とグローバルマインドを身に付けた人材の育成を目指して科目を配置している。当該教養科目は、全学部の学生が共通に身に付ける学習内容として本科目を位置付けている。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原恵子、間瀬泰尚、富江英俊、小針誠（2017.10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版 —大学で学ぶための25のスキル— 実教出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	自己紹介大学生になるとはどういうことか
2	大学を知ろう	学部、学科を知ろう大学教員や職員の仕事を知らう
3	大学を知ろう（2）	大学設備を知ろう 緊急避難経路を確認しよう ハザードマップを確認しよう
4	PROGテストを振り返って	強みを活かしたビジネスモデルを考えよう
5	大学生活をデザインしよう	週間スケジュールから日常生活のあり方を見直そう
6	大学の授業を知ろう	講義の特徴を知ろう 予習・復習の仕方を考えよう
7	定期試験をのりきろう	高校と大学の試験の違いをしろう
8	前期まとめ	前期を振り返って 自己採点してみよう後期のスピーチコンテストに向けて
9	後期ガイダンス	後期目標設定 体育祭チームビルディング
10	スピーチコンテストクラス予選	自分のスピーチを発表しよう
11	キャリアをデザインしよう	卒業後につきたい職業・仕事について調べてみよう
12	スピーチコンテストを振り返ろう	優勝者のスピーチと自分のスピーチを比べてみよう
13	大学生活のリスクやトラブルについて考えよう	大学生活のリスクやトラブルについて知ろうリスクやトラブルの適切な対応方法について知ろう
14	1年を振り返って	1年の学びを振りかえって、自己採点してみよう
15	まとめ	春休み課題「自分の進路について」を考えよう

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	手嶋 竜二				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。大学で学ぶためには様々な能力が必要とされるが、中でも「書く」能力は非常に重要であり、レポートや論文を書くことは、大学での学問の根幹となる大事な作業である。そのため、文章を書く実践を通して「書く」ことの基本ルールとともに文章表現の技術を指導する。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立②人間性：自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感のある人間の育成③社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成④大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各授業で指示。毎回、次の授業までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

挑戦と創造の教育を建学の精神とし、①豊かな人間性と個性、②深い専門性と実践力、③コミュニケーション能力とグローバルマインドを身に付けた人材の育成を目指して科目を配置している。当該教養科目は、全学部の学生が共通に身に付ける学習内容として本科目を位置付けている。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原恵子、間瀬泰尚、富江英俊、小針誠（2017.10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版 —大学で学ぶための25のスキル— 実教出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	自己紹介大学生になるとはどういうことか
2	大学を知ろう	学部、学科を知ろう大学教員や職員の仕事を知らう
3	大学を知ろう（2）	大学設備を知ろう 緊急避難経路を確認しよう ハザードマップを確認しよう
4	PROGテストを振り返って	強みを活かしたビジネスモデルを考えよう
5	大学生活をデザインしよう	週間スケジュールから日常生活のあり方を見直そう
6	大学の授業を知ろう	講義の特徴を知ろう 予習・復習の仕方を考えよう
7	定期試験をのりきろう	高校と大学の試験の違いをしろう
8	前期まとめ	前期を振り返って 自己採点してみよう後期のスピーチコンテストに向けて
9	後期ガイダンス	後期目標設定 体育祭チームビルディング
10	スピーチコンテストクラス予選	自分のスピーチを発表しよう
11	キャリアをデザインしよう	卒業後につきたい職業・仕事について調べてみよう
12	スピーチコンテストを振り返ろう	優勝者のスピーチと自分のスピーチを比べてみよう
13	大学生活のリスクやトラブルについて考えよう	大学生活のリスクやトラブルについて知ろうリスクやトラブルの適切な対応方法について知ろう
14	1年を振り返って	1年の学びを振りかえって、自己採点してみよう
15	まとめ	春休み課題「自分の進路について」を考えよう

科目コード	11404				区分	教養科目			
授業科目名	表現活動による人間力養成 I				担当者名	Naris Manorohtkul			
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

By using music as a basis for resilience and creating a safe environment for students to explore expression students will develop a sense of self. Using singing to explore various vocal expression styles and dancing to experiment with different physical p

<授業の到達目標>

Students will have explored various forms of expression using music in singing and dancing, this will create a foundation in which they can begin to express themselves more comfortably in everyday situations. 音楽・歌・ダンスを用い多様な表現技法を探求していく中で、自分らしく表現することが出来る基礎

<授業の方法>

This is an attendance based class, where most of the work is done in class. We will do corresponding activities based on the theme of each class. Students will also take part in a 3 day workshop with The Young Americans. このクラスでは授業に出席することを前提とし、授業内での活動が主となる

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：自身の学習過程をワークブック (Googleクラスルーム) にまとめ、振り付けや歌詞の復習を行う。 ※1時間程度

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教養科目のディプロマポリシー④(コミュニケーション能力等の汎用的技能)と②(専門分野に関する知識・理解)を関連付けられている。この授業では主にコミュニケーションと教授法に焦点を置き、様々なスタイルの音楽を通し、自身のコミュニケーションスタイルや教授法を確立していく。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、ワークブックの取り組み 35%、面接 25%、期末レポート 10%

<教科書>

授業にてワークブックを配布

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の説明、アイスブレイキング、BIG/ LITTLE制度
2	音楽を用いた声の表現	発声法、音域のテクニック等声を使った表現技法
3	ダンスを用いた身体の表現 (1)	身体の動きと音楽を通して身体表現
4	ダンスを用いた身体の表現 (2)	身体の動きと音楽を通して身体表現
5	チーム形成と上級生とのグループワーク (1)	2年目クラスよりチーム形成、グループワーク、演目の割り振りについて学ぶ
6	チーム形成と上級生とのグループワーク (2)	2年目クラスよりチームビルディング、グループワークを学ぶ
7	チーム形成と上級生とのグループワーク (3)	2年目クラスよりチームビルディング、グループワークを学ぶ
8	まとめ	これまでに学習した歌とダンスのまとめ
9	実践と評価	これまでに学習した内容のまとめ、振り返り
10	まとめ2	これまでに学習した歌とダンスのまとめ
11	上級生によるコミュニケーションと教授法	2年目クラスより明確かつユニークなコミュニケーションスキルを学ぶ
12	空間認識とプレゼンテーションテクニック	様々なプレゼンテーションのスタイルと技法
13	ダンスと音楽を用いた自己表現(1)	身体、声の表現技法
14	ダンスと音楽を用いた自己表現(2)	身体、声の表現技法
15	実践と評価2	これまでに学習した歌とダンスのまとめ

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	浦部 隼希				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

#### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	スポーツ科学センター	スポーツを科学する
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座	伝わる内容を考える
7	学長講話	前期を振り返って
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
12	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
13	IPU学	非認知スキル
14	スポーツの価値を考える⑤	大学生活について考える
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	梶谷 亮輔				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

#### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	スポーツ科学センター	スポーツを科学する
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座	伝わる内容を考える
7	学長講話	前期を振り返って
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
12	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
13	IPU学	非認知スキル
14	スポーツの価値を考える⑤	大学生活について考える
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13100				区分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

#### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	スポーツ科学センター	スポーツを科学する
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座	伝わる内容を考える
7	学長講話	前期を振り返って
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
12	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
13	IPU学	非認知スキル
14	スポーツの価値を考える⑤	大学生活について考える
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。



科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	佐々木 史之				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

#### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	スポーツ科学センター	スポーツを科学する
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座	伝わる内容を考える
7	学長講話	前期を振り返って
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
12	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
13	IPU学	非認知スキル
14	スポーツの価値を考える⑤	大学生活について考える
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	高山 慎				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

#### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	スポーツ科学センター	スポーツを科学する
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座	伝わる内容を考える
7	学長講話	前期を振り返って
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
12	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
13	IPU学	非認知スキル
14	スポーツの価値を考える⑤	大学生活について考える
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	江波戸 智希				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

#### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	スポーツ科学センター	スポーツを科学する
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座	伝わる内容を考える
7	学長講話	前期を振り返って
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
12	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
13	IPU学	非認知スキル
14	スポーツの価値を考える⑤	大学生活について考える
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	田中 耕作				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

#### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	スポーツ科学センター	スポーツを科学する
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座	伝わる内容を考える
7	学長講話	前期を振り返って
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
12	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
13	IPU学	非認知スキル
14	スポーツの価値を考える⑤	大学生活について考える
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	山本 清人				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

#### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	スポーツ科学センター	スポーツを科学する
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座	伝わる内容を考える
7	学長講話	前期を振り返って
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
12	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
13	IPU学	非認知スキル
14	スポーツの価値を考える⑤	大学生活について考える
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	小村 淳				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

#### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	スポーツ科学センター	スポーツを科学する
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座	伝わる内容を考える
7	学長講話	前期を振り返って
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
12	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
13	IPU学	非認知スキル
14	スポーツの価値を考える⑤	大学生活について考える
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	森 億				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

#### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	スポーツ科学センター	スポーツを科学する
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座	伝わる内容を考える
7	学長講話	前期を振り返って
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
12	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
13	IPU学	非認知スキル
14	スポーツの価値を考える⑤	大学生活について考える
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	桂 秀樹				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

#### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	スポーツ科学センター	スポーツを科学する
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座	伝わる内容を考える
7	学長講話	前期を振り返って
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
12	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
13	IPU学	非認知スキル
14	スポーツの価値を考える⑤	大学生活について考える
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。



科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	豊里 健				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

#### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	スポーツ科学センター	スポーツを科学する
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座	伝わる内容を考える
7	学長講話	前期を振り返って
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
12	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
13	IPU学	非認知スキル
14	スポーツの価値を考える⑤	大学生活について考える
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	降屋 丞				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

#### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	スポーツ科学センター	スポーツを科学する
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座	伝わる内容を考える
7	学長講話	前期を振り返って
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
12	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
13	IPU学	非認知スキル
14	スポーツの価値を考える⑤	大学生活について考える
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13100				区分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	中川 和之			
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

#### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	スポーツ科学センター	スポーツを科学する
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座	伝わる内容を考える
7	学長講話	前期を振り返って
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
12	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
13	IPU学	非認知スキル
14	スポーツの価値を考える⑤	大学生活について考える
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	原田 悠平				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

#### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	スポーツ科学センター	スポーツを科学する
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座	伝わる内容を考える
7	学長講話	前期を振り返って
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
12	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
13	IPU学	非認知スキル
14	スポーツの価値を考える⑤	大学生活について考える
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	坂手 雅斗				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

#### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	スポーツ科学センター	スポーツを科学する
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座	伝わる内容を考える
7	学長講話	前期を振り返って
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
12	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
13	IPU学	非認知スキル
14	スポーツの価値を考える⑤	大学生活について考える
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	永野 毬奈				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

#### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	スポーツ科学センター	スポーツを科学する
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座	伝わる内容を考える
7	学長講話	前期を振り返って
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
12	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
13	IPU学	非認知スキル
14	スポーツの価値を考える⑤	大学生活について考える
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	吉岡 利貢				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

#### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。また全15回分のレポート課題提出を成績認定の必須条件とする（公欠及び欠席した回についてもレポート課題の提出を求めます）。

#### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU学	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	スポーツ科学センター	スポーツを科学する
3	PROG解説	PROGの結果から、自身の強み・弱みを知る
4	IPU学②	折れない・やめないIPUとは
5	スポーツの価値を考える	体育人について考える
6	スピーチスキルアップ講座	伝わる内容を考える
7	学長講話	前期を振り返って
8	スピーチスキル・アップ講座②	スピーチ原稿ブラッシュアップ
9	スポーツの価値を考える②	スポーツを仕事にするとは
10	スポーツの価値を考える③	社会とスポーツのつながりについて考える
11	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き、評価を行う
12	スポーツの価値を考える④	これから求められるスポーツについて考える
13	IPU学	非認知スキル
14	スポーツの価値を考える⑤	大学生活について考える
15	2年生に向けて	1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	浦部 隼希				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。



科目コード	14100				区分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	梶谷 亮輔			
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	矢野 智彦				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	佐々木 史之				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	高山 慎				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	江波戸 智希				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	田中 耕作				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	山本 清人				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	小村 淳				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。



科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	森 億				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	桂 秀樹				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	豊里 健				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	降屋 丞				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	中川 和之				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	原田 悠平				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	坂手 雅斗				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	永野 毬奈				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。



科目コード	14100				区分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	10204			区分	教養科目				
授業科目名	コンピュータリテラシー I			担当者名	薦田 勇智				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必須

### <授業の概要>

AI時代においてコンピュータ利活用は必須のスキルである。本科目では、まずコンピュータ操作スキルを習熟するため、WordやPowerPointといった必須アプリケーションを駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。さらに、WordやPowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータスキル・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。

### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等(90分)程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまった日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2(専門分野に関する知識・理解)及び、ディプロマポリシー5(情報活用、論理、問題解決力等に関する汎)

### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集(2021年1月29日) パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	PCメールの活用、LMSとクラウドの活用
2	PCとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
3	クラウドとグループワーク環境	インターネット活用とネットモラル
4	Wordビジネス文書(1) 文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書(2) 画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書(3) 図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート(1) スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート(2) 参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート(3) 表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定(PDF化)、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習

科目コード	10204			区分	教養科目				
授業科目名	コンピュータリテラシー I			担当者名	西山 ちとせ				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必須

### <授業の概要>

AI時代においてコンピュータ利活用は必須のスキルである。本科目では、まずコンピュータ操作スキルを習熟するため、WordやPowerPointといった必須アプリケーションを駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。さらに、WordやPowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータスキル・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等(90分)程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2(専門分野に関する知識・理解)及び、ディプロマポリシー5(情報活用、論理、問題解決力等に関する汎)

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集(2021年1月29日) パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	PCメールの活用、LMSとクラウドの活用
2	PCとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
3	クラウドとグループワーク環境	インターネット活用とネットモラル
4	Wordビジネス文書(1)文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書(2)画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書(3)図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート(1)スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート(2)参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート(3)表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定(PDF化)、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習

科目コード	10204			区分	教養科目				
授業科目名	コンピュータリテラシー I			担当者名	小寺 雄太				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必須

### <授業の概要>

AI時代においてコンピュータ利活用は必須のスキルである。本科目では、まずコンピュータ操作スキルを習熟するため、WordやPowerPointといった必須アプリケーションを駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。さらに、WordやPowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータスキル・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等(90分)程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまった日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2(専門分野に関する知識・理解)及び、ディプロマポリシー5(情報活用、論理、問題解決力等に関する汎)

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集(2021年1月29日) パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	PCメールの活用、LMSとクラウドの活用
2	PCとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
3	クラウドとグループワーク環境	インターネット活用とネットモラル
4	Wordビジネス文書(1)文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書(2)画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書(3)図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート(1)スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート(2)参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート(3)表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定(PDF化)、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習

科目コード	10204			区分	教養科目				
授業科目名	コンピュータリテラシー I			担当者名	本庄 慶樹				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必須

### <授業の概要>

AI時代においてコンピュータ利活用は必須のスキルである。本科目では、まずコンピュータ操作スキルを習熟するため、WordやPowerPointといった必須アプリケーションを駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。さらに、WordやPowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータスキル・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。

### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等(90分)程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2(専門分野に関する知識・理解)及び、ディプロマポリシー5(情報活用、論理、問題解決力等に関する汎)

### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集(2021年1月29日) パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	PCメールの活用、LMSとクラウドの活用
2	PCとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
3	クラウドとグループワーク環境	インターネット活用とネットモラル
4	Wordビジネス文書(1) 文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書(2) 画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書(3) 図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート(1) スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート(2) 参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート(3) 表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定(PDF化)、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習

科目コード	10105			区分	教養科目				
授業科目名	体育実技			担当者名	高山 慎				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく、体力測定から得られた客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

#### <授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

#### <授業の方法>

グループ活動を中心とし、体力測定データや運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）に関連している。初年次生に対し、様々なスポーツ種目に触れさせ、多種多様なニーズに応える事が出来る実技能力及び指導能力を身につけることを目的としている。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、レポート課題40%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動①	集団行動の概要、起立、気をつけ
3	集団行動②	礼の姿勢、挨拶、集合・整列、横隊での整列
4	体力測定①	スポーツ科学センターでの身体・体力測定
5	体力測定②	走・投・跳能力の測定
6	体力測定③	柔軟性、筋力、有酸素能力の測定
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション（ドッジビー、ユニホック）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ（ボッチャ）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る

科目コード	10105			区分	教養科目				
授業科目名	体育実技			担当者名	平塚 卓也				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく、体力測定から得られた客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

### <授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

### <授業の方法>

グループ活動を中心とし、体力測定データや運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）に関連している。初年次生に対し、様々なスポーツ種目に触れさせ、多種多様なニーズに応える事が出来る実技能力及び指導能力を身につけることを目的としている。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、レポート課題40%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動①	集団行動の概要、起立、気をつけ
3	集団行動②	礼の姿勢、挨拶、集合・整列、横隊での整列
4	体力測定①	スポーツ科学センターでの身体・体力測定
5	体力測定②	走・投・跳能力の測定
6	体力測定③	柔軟性、筋力、有酸素能力の測定
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション（ドッジビー、ユニホック）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ（ボッチャ）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る

科目コード	10105			区分	教養科目				
授業科目名	体育実技			担当者名	江波戸 智希				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく、体力測定から得られた客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

### <授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

### <授業の方法>

グループ活動を中心とし、体力測定データや運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）に関連している。初年次生に対し、様々なスポーツ種目に触れさせ、多種多様なニーズに応える事が出来る実技能力及び指導能力を身につけることを目的としている。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、レポート課題40%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動①	集団行動の概要、起立、気をつけ
3	集団行動②	礼の姿勢、挨拶、集合・整列、横隊での整列
4	体力測定①	スポーツ科学センターでの身体・体力測定
5	体力測定②	走・投・跳能力の測定
6	体力測定③	柔軟性、筋力、有酸素能力の測定
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション（ドッジビー、ユニホック）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ（ボッチャ）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る



科目コード	10105			区分	教養科目				
授業科目名	体育実技			担当者名	仙波 慎平				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく、体力測定から得られた客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

#### <授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

#### <授業の方法>

グループ活動を中心とし、体力測定データや運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）に関連している。初年次生に対し、様々なスポーツ種目に触れさせ、多種多様なニーズに応える事が出来る実技能力及び指導能力を身につけることを目的としている。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、レポート課題40%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動①	集団行動の概要、起立、気をつけ
3	集団行動②	礼の姿勢、挨拶、集合・整列、横隊での整列
4	体力測定①	スポーツ科学センターでの身体・体力測定
5	体力測定②	走・投・跳能力の測定
6	体力測定③	柔軟性、筋力、有酸素能力の測定
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用方法
9	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション（ドッジビー、ユニホック）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ（ボッチャ）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る

科目コード	14205			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)			担当者名	中原 朋生				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、非認知能力育成専用学舎であるDiscoveryの主要な教室5ヶ所に対応する5つのリテラシーを学習する。その際には、学習するリテラシーに応じた単元（A～E）を作成し、3コマ完結の授業を展開する。各単元には専属教員が配置され一貫した授業内容を展開する。

### <授業の到達目標>

本授業は、認知能力育成学舎Discoveryの主要教室に対応するリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。そのため、5つの単元を巡ることで以下のスキルを身に付けることを到達目標とする。単元A「調べぬく力」（対応教室：ラーニングコモンズ）：情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」（対応教室：インタラクティブラボ）：情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを

### <授業の方法>

複数教員がローテーションで担当する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。なお、本授業全体の説明と3Rsとの関係についての動画を配信する予定である。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の指導者が課す予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。さらに1つの単元（3コマ）が終了するごとに「自己評価シート」（90分程度）を提出する。以上のように、合計30時間程度の予習と復習が必要となる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の教養ディプロマポリシーのDP4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向）に対応している。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、単元終了後の振り返りレポート（20%×5）によって行う。その際の評価基準としては、授業中の活動の振り返り、授業によって新たに獲得したスキル、レポート全体の構成を重視する。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専門家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用

科目コード	14205			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)			担当者名	中原 朋生				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、非認知能力育成専用学舎であるDiscoveryの主要な教室5ヶ所に対応する5つのリテラシーを学習する。その際には、学習するリテラシーに応じた単元（A～E）を作成し、3コマ完結の授業を展開する。各単元には専属教員が配置され一貫した授業内容を展開する。

### <授業の到達目標>

本授業は、認知能力育成学舎Discoveryの主要教室に対応するリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。そのため、5つの単元を巡ることで以下のスキルを身に付けることを到達目標とする。単元A「調べぬく力」（対応教室：ラーニングコモンズ）：情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」（対応教室：インタラクティブラボ）：情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを

### <授業の方法>

複数教員がローテーションで担当する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。なお、本授業全体の説明と3Rsとの関係についての動画を配信する予定である。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の指導者が課す予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。さらに1つの単元（3コマ）が終了するごとに「自己評価シート」（90分程度）を提出する。以上のように、合計30時間程度の予習と復習が必要となる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の教養ディプロマポリシーのDP4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向）に対応している。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、単元終了後の振り返りレポート（20%×5）によって行う。その際の評価基準としては、授業中の活動の振り返り、授業によって新たに獲得したスキル、レポート全体の構成を重視する。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専門家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用

科目コード	14205			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)			担当者名	中原 朋生				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、非認知能力育成専用学舎であるDiscoveryの主要な教室5ヶ所に対応する5つのリテラシーを学習する。その際には、学習するリテラシーに応じた単元（A～E）を作成し、3コマ完結の授業を展開する。各単元には専属教員が配置され一貫した授業内容を展開する。

#### <授業の到達目標>

本授業は、認知能力育成学舎Discoveryの主要教室に対応するリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。そのため、5つの単元を巡ることで以下のスキルを身に付けることを到達目標とする。単元A「調べぬく力」（対応教室：ラーニングコモンズ）：情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」（対応教室：インタラクティブラボ）：情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを

#### <授業の方法>

複数教員がローテーションで担当する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。なお、本授業全体の説明と3Rsとの関係についての動画を配信する予定である。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の指導者が課す予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。さらに1つの単元（3コマ）が終了するごとに「自己評価シート」（90分程度）を提出する。以上のように、合計30時間程度の予習と復習が必要となる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の教養ディプロマポリシーのDP4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向）に対応している。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、単元終了後の振り返りレポート（20%×5）によって行う。その際の評価基準としては、授業中の活動の振り返り、授業によって新たに獲得したスキル、レポート全体の構成を重視する。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専門家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用

科目コード	14205			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)			担当者名	中原 朋生				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、非認知能力育成専用学舎であるDiscoveryの主要な教室5ヶ所に対応する5つのリテラシーを学習する。その際には、学習するリテラシーに応じた単元（A～E）を作成し、3コマ完結の授業を展開する。各単元には専属教員が配置され一貫した授業内容を展開する。

#### <授業の到達目標>

本授業は、認知能力育成学舎Discoveryの主要教室に対応するリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。そのため、5つの単元を巡ることで以下のスキルを身に付けることを到達目標とする。単元A「調べぬく力」（対応教室：ラーニングコモンズ）：情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」（対応教室：インタラクティブラボ）：情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを

#### <授業の方法>

複数教員がローテーションで担当する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。なお、本授業全体の説明と3Rsとの関係についての動画を配信する予定である。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の指導者が課す予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。さらに1つの単元（3コマ）が終了するごとに「自己評価シート」（90分程度）を提出する。以上のように、合計30時間程度の予習と復習が必要となる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の教養ディプロマポリシーのDP4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向）に対応している。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、単元終了後の振り返りレポート（20%×5）によって行う。その際の評価基準としては、授業中の活動の振り返り、授業によって新たに獲得したスキル、レポート全体の構成を重視する。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専門家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用

科目コード	10204			区分	教養科目				
授業科目名	コンピュータリテラシー I			担当者名	薦田 勇智				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必須

### <授業の概要>

AI時代においてコンピュータ利活用は必須のスキルである。本科目では、まずコンピュータ操作スキルを習熟するため、WordやPowerPointといった必須アプリケーションを駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。さらに、WordやPowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータスキル・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。

### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等(90分)程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2(専門分野に関する知識・理解)及び、ディプロマポリシー5(情報活用、論理、問題解決力等に関する汎)

### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集(2021年1月29日) パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	PCメールの活用、LMSとクラウドの活用
2	PCとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
3	クラウドとグループワーク環境	インターネット活用とネットモラル
4	Wordビジネス文書(1) 文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書(2) 画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書(3) 図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート(1) スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート(2) 参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート(3) 表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定(PDF化)、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習

科目コード	10204			区分	教養科目				
授業科目名	コンピュータリテラシー I			担当者名	西山 ちとせ				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必須

### <授業の概要>

AI時代においてコンピュータ利活用は必須のスキルである。本科目では、まずコンピュータ操作スキルを習熟するため、WordやPowerPointといった必須アプリケーションを駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。さらに、WordやPowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータスキル・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等(90分)程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2(専門分野に関する知識・理解)及び、ディプロマポリシー5(情報活用、論理、問題解決力等に関する汎)

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集(2021年1月29日) パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	PCメールの活用、LMSとクラウドの活用
2	PCとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
3	クラウドとグループワーク環境	インターネット活用とネットモラル
4	Wordビジネス文書(1) 文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書(2) 画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書(3) 図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート(1) スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート(2) 参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート(3) 表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定(PDF化)、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習

科目コード	10204			区分	教養科目				
授業科目名	コンピュータリテラシー I			担当者名	小寺 雄太				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必須

### <授業の概要>

AI時代においてコンピュータ利活用は必須のスキルである。本科目では、まずコンピュータ操作スキルを習熟するため、WordやPowerPointといった必須アプリケーションを駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。さらに、WordやPowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータスキル・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。

### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等(90分)程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまった日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2(専門分野に関する知識・理解)及び、ディプロマポリシー5(情報活用、論理、問題解決力等に関する汎)

### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集(2021年1月29日) パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	PCメールの活用、LMSとクラウドの活用
2	PCとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
3	クラウドとグループワーク環境	インターネット活用とネットモラル
4	Wordビジネス文書(1) 文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書(2) 画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書(3) 図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート(1) スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート(2) 参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート(3) 表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定(PDF化)、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習



科目コード	10204			区分	教養科目				
授業科目名	コンピュータリテラシー I			担当者名	本庄 慶樹				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必須

### <授業の概要>

AI時代においてコンピュータ利活用は必須のスキルである。本科目では、まずコンピュータ操作スキルを習熟するため、WordやPowerPointといった必須アプリケーションを駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。さらに、WordやPowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータスキル・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	PCメールの活用、LMSとクラウドの活用
2	PCとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
3	クラウドとグループワーク環境	インターネット活用とネットモラル
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習

科目コード	10105			区分	教養科目				
授業科目名	体育実技			担当者名	高山 慎				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく、体力測定から得られた客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

#### <授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

#### <授業の方法>

グループ活動を中心とし、体力測定データや運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）に関連している。初年次生に対し、様々なスポーツ種目に触れさせ、多種多様なニーズに応える事が出来る実技能力及び指導能力を身につけることを目的としている。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、レポート課題40%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動①	集団行動の概要、起立、気をつけ
3	集団行動②	礼の姿勢、挨拶、集合・整列、横隊での整列
4	体力測定①	スポーツ科学センターでの身体・体力測定
5	体力測定②	走・投・跳能力の測定
6	体力測定③	柔軟性、筋力、有酸素能力の測定
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション（ドッジビー、ユニホック）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ（ボッチャ）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る

科目コード	10105			区分	教養科目				
授業科目名	体育実技			担当者名	平塚 卓也				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく、体力測定から得られた客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

#### <授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

#### <授業の方法>

グループ活動を中心とし、体力測定データや運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）に関連している。初年次生に対し、様々なスポーツ種目に触れさせ、多種多様なニーズに応える事が出来る実技能力及び指導能力を身につけることを目的としている。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、レポート課題40%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動①	集団行動の概要、起立、気をつけ
3	集団行動②	礼の姿勢、挨拶、集合・整列、横隊での整列
4	体力測定①	スポーツ科学センターでの身体・体力測定
5	体力測定②	走・投・跳能力の測定
6	体力測定③	柔軟性、筋力、有酸素能力の測定
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション（ドッジビー、ユニホック）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ（ボッチャ）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る

科目コード	10105			区分	教養科目				
授業科目名	体育実技			担当者名	江波戸 智希				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく、体力測定から得られた客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

#### <授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

#### <授業の方法>

グループ活動を中心とし、体力測定データや運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）に関連している。初年次生に対し、様々なスポーツ種目に触れさせ、多種多様なニーズに応える事が出来る実技能力及び指導能力を身につけることを目的としている。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、レポート課題40%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動①	集団行動の概要、起立、気をつけ
3	集団行動②	礼の姿勢、挨拶、集合・整列、横隊での整列
4	体力測定①	スポーツ科学センターでの身体・体力測定
5	体力測定②	走・投・跳能力の測定
6	体力測定③	柔軟性、筋力、有酸素能力の測定
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション（ドッジビー、ユニホック）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ（ボッチャ）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る

科目コード	10105			区分	教養科目				
授業科目名	体育実技			担当者名	仙波 慎平				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく、体力測定から得られた客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

#### <授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

#### <授業の方法>

グループ活動を中心とし、体力測定データや運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）に関連している。初年次生に対し、様々なスポーツ種目に触れさせ、多種多様なニーズに応える事が出来る実技能力及び指導能力を身につけることを目的としている。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、レポート課題40%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動①	集団行動の概要、起立、気をつけ
3	集団行動②	礼の姿勢、挨拶、集合・整列、横隊での整列
4	体力測定①	スポーツ科学センターでの身体・体力測定
5	体力測定②	走・投・跳能力の測定
6	体力測定③	柔軟性、筋力、有酸素能力の測定
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション（ドッジビー、ユニホック）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ（ボッチャ）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る

科目コード	14205			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)			担当者名	中原 朋生				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、非認知能力育成専用学舎であるDiscoveryの主要な教室5ヶ所に対応する5つのリテラシーを学習する。その際には、学習するリテラシーに応じた単元（A～E）を作成し、3コマ完結の授業を展開する。各単元には専属教員が配置され一貫した授業内容を展開する。

#### <授業の到達目標>

本授業は、認知能力育成学舎Discoveryの主要教室に対応するリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。そのため、5つの単元を巡ることで以下のスキルを身に付けることを到達目標とする。単元A「調べぬく力」（対応教室：ラーニングコモンズ）：情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」（対応教室：インタラクティブラボ）：情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを

#### <授業の方法>

複数教員がローテーションで担当する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。なお、本授業全体の説明と3Rsとの関係についての動画を配信する予定である。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の指導者が課す予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。さらに1つの単元（3コマ）が終了するごとに「自己評価シート」（90分程度）を提出する。以上のように、合計30時間程度の予習と復習が必要となる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の教養ディプロマポリシーのDP4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向）に対応している。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、単元終了後の振り返りレポート（20%×5）によって行う。その際の評価基準としては、授業中の活動の振り返り、授業によって新たに獲得したスキル、レポート全体の構成を重視する。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専門家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用

科目コード	14205			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)			担当者名	中原 朋生				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、非認知能力育成専用学舎であるDiscoveryの主要な教室5ヶ所に対応する5つのリテラシーを学習する。その際には、学習するリテラシーに応じた単元（A～E）を作成し、3コマ完結の授業を展開する。各単元には専属教員が配置され一貫した授業内容を展開する。

#### <授業の到達目標>

本授業は、認知能力育成学舎Discoveryの主要教室に対応するリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。そのため、5つの単元を巡ることで以下のスキルを身に付けることを到達目標とする。単元A「調べぬく力」（対応教室：ラーニングコモンズ）：情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」（対応教室：インタラクティブラボ）：情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを

#### <授業の方法>

複数教員がローテーションで担当する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。なお、本授業全体の説明と3Rsとの関係についての動画を配信する予定である。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の指導者が課す予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。さらに1つの単元（3コマ）が終了するごとに「自己評価シート」（90分程度）を提出する。以上のように、合計30時間程度の予習と復習が必要となる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の教養ディプロマポリシーのDP4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向）に対応している。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、単元終了後の振り返りレポート（20%×5）によって行う。その際の評価基準としては、授業中の活動の振り返り、授業によって新たに獲得したスキル、レポート全体の構成を重視する。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専門家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用

科目コード	14205			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)			担当者名	中原 朋生				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、非認知能力育成専用学舎であるDiscoveryの主要な教室5ヶ所に対応する5つのリテラシーを学習する。その際には、学習するリテラシーに応じた単元（A～E）を作成し、3コマ完結の授業を展開する。各単元には専属教員が配置され一貫した授業内容を展開する。

#### <授業の到達目標>

本授業は、認知能力育成学舎Discoveryの主要教室に対応するリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。そのため、5つの単元を巡ることで以下のスキルを身に付けることを到達目標とする。単元A「調べぬく力」（対応教室：ラーニングコモンズ）：情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」（対応教室：インタラクティブラボ）：情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを

#### <授業の方法>

複数教員がローテーションで担当する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。なお、本授業全体の説明と3Rsとの関係についての動画を配信する予定である。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の指導者が課す予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。さらに1つの単元（3コマ）が終了するごとに「自己評価シート」（90分程度）を提出する。以上のように、合計30時間程度の予習と復習が必要となる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の教養ディプロマポリシーのDP4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向）に対応している。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、単元終了後の振り返りレポート（20%×5）によって行う。その際の評価基準としては、授業中の活動の振り返り、授業によって新たに獲得したスキル、レポート全体の構成を重視する。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専門家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用



科目コード	14205			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)			担当者名	中原 朋生				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、非認知能力育成専用学舎であるDiscoveryの主要な教室5ヶ所に対応する5つのリテラシーを学習する。その際には、学習するリテラシーに応じた単元（A～E）を作成し、3コマ完結の授業を展開する。各単元には専属教員が配置され一貫した授業内容を展開する。

### <授業の到達目標>

本授業は、認知能力育成学舎Discoveryの主要教室に対応するリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。そのため、5つの単元を巡ることで以下のスキルを身に付けることを到達目標とする。単元A「調べぬく力」（対応教室：ラーニングコモンズ）：情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」（対応教室：インタラクティブラボ）：情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを

### <授業の方法>

複数教員がローテーションで担当する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。なお、本授業全体の説明と3Rsとの関係についての動画を配信する予定である。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の指導者が課す予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。さらに1つの単元（3コマ）が終了するごとに「自己評価シート」（90分程度）を提出する。以上のように、合計30時間程度の予習と復習が必要となる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の教養ディプロマポリシーのDP4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向）に対応している。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、単元終了後の振り返りレポート（20%×5）によって行う。その際の評価基準としては、授業中の活動の振り返り、授業によって新たに獲得したスキル、レポート全体の構成を重視する。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専門家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	高崎 展好				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する。②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる。③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる。

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）40%、スピーチ20%、課題 40%

### <教科書>

吉原恵子/馬淵泰尚/富江英俊/小針誠（2018年5月1日） スタディスキルズ・トレーニング改訂版 実教出版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の授業計画・授業の到達目標と注意事項、成績評価などを確認する。クラス目標の設定、クラス内の相互理解（自己紹介）
2	FSの振り返り、防災教育①	IPU学①についての振り返りを行う。学力・進路・主副免許取得・生活面について目標を設定する。大学内のハザードマップについて考える。保育体験のための事前学習
3	大学とはどのようなところだろう	大学内の部署・施設、場所・開閉時間・役割をまとめ大学生活に役立てる
4	大学・学部・学科について知ろう	大学の歴史や理念、学部・学科のディプロマポリシーについて理解を深める
5	FSの振り返り大学生としての心構え	これからの大学生活を考える
6	チームビルディング	学部、学科、クラスのチームビルディング。帰属意識について考えよう。
7	FSの振り返りスピーチ原稿作成	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。伝わるスピーチ原稿を作成する。
8	FSの振り返りプレ・スピーチコンテスト（テーマ：私という存在）	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマFSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマに基づいて自分自身について1分間でスピーチしたことを基に意見交換をする。
9	後期目標設定・体育祭説明・体育祭種目決め	後期目標設定。体育祭参加に向け、クラス内のチームビルディング。
10	スピーチスキル・アップ①クラス予選	スピーチコンテストに向けてクラス内予選を行う。
11	スピーチスキル・アップ②学科予選	スピーチコンテスト学科予選クラス代表のスピーチを聴いて評価する。
12	スピーチコンテストの振り返り学科の学びと進路①	スピーチコンテストの感想を伝え合い、考えを共有する。保育教育という仕事について意見を出し合い、進路決定の参考にする。
13	FSの振り返り学科の学びと進路②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。保育士採用試験の問題を実際に解いてみる。
14	FSの振り返り学科の学びと進路③	学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。学科教育と進路のつながりについて考える。進路決定した4年生に聴いてみたいこと（グループワーク）
15	2年生に向けたロードマップ作成	1年間を振り返り、2年生の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	赤松 久美子				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要になる。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指す。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣を確立する。②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる。③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる。

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びを深めるため、フレッシュマンセミナーでまとめたレポート等をGoogle classroom上で交流し、その内容をもとにしてグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられている。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指す。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等） 40%、スピーチ 20%、課題 40%

### <教科書>

吉原恵子他（2017） 「スタディスキルズ・トレーニング改訂版：大学で学ぶための25のスキル」 実教出版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	クラス運営・履修内容の確認と学部・学科への理解	自己紹介。履修内容をチェックするとともに、授業計画、授業の到達目標と注意事項、成績評価法などを確認する。
2	IPU学①の振り返り、大学・学部・学科への理解、防災教育①	IPU学①についての振り返りを行う。学力・進路・英検取得状況・生活面について目標を設定する。大学内のハザードマップについて考える。
3	FSの振り返り・防災教育②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。ハザードマップについて発表する。
4	FSの振り返り、テキストの確認	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テキストの課題内容をお互いに確認する。
5	IPU学②の振り返り、クラス経営①	IPU学②での学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。クラス経営のためのグループワークを体験する。
6	FSの振り返り、クラス経営②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。クラス経営のためのグループワークを体験する。
7	FSの振り返り、スピーチ原稿作成	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。伝わるスピーチ原稿を作成する。
8	FSの振り返り、プレ・スピーチコンテスト（テーマ：私という存在）	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマに基づいて自分自身について1分間でスピーチしたことを基に、意見交換をする。
9	FS振り返り、後期目標設定・体育祭説明・体育祭種目決め	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。後期の目標を設定し、見直しをもつ。体育祭について出場種目や役割分担を決める。
10	FS振り返り、スピーチコンテストクラス予選	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。スピーチ大会に向けてクラス内で予選を行う。
11	スピーチコンテスト学科予選	学科代表のスピーチを聴き評価する。
12	学科の学びと進路①	スピーチコンテストの感想を伝え合い、考えを共有する。教職という仕事について意見を出し合い、進路決定の参考にする。
13	FS振り返り、学科の学びと進路②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。教員採用試験の問題を実際に解いてみる。
14	IPU学③の振り返り、学科の学びと進路③	IPU学③での学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。教員採用試験に合格した4年生に対して質問したいことについて意見を出し合う。
15	ロードマップ作成【2年生に向けて】春休休業中の課題について	1年間を振り返り、2年生の大学生活を具体的に計画する。春休休業中の課題を知り、見直しをもつ。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ			担当者名	未定				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。大学で学ぶためには様々な能力が必要とされるが、中でも「書く」能力は非常に重要であり、レポートや論文を書くことは、大学での学問の根幹となる大事な作業である。そのため、文章を書く実践を通して「書く」ことの基本ルールとともに文章表現の技術を指導する。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立②人間性：自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感のある人間の育成③社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成④大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各授業で指示。毎回、次の授業までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

挑戦と創造の教育を建学の精神とし、①豊かな人間性と個性、②深い専門性と実践力、③コミュニケーション能力とグローバルマインドを身に付けた人材の育成を目指して科目を配置している。当該教養科目は、全学部の学生が共通に身に付ける学習内容として本科目を位置付けている。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原恵子、間瀬泰尚、富江英俊、小針誠（2017.10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版 —大学で学ぶための25のスキル— 実教出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	自己紹介大学生になるとはどういうことか
2	大学を知ろう	学部、学科を知ろう大学教員や職員の仕事を知らう
3	大学を知ろう（2）	大学設備を知ろう 緊急避難経路を確認しよう ハザードマップを確認しよう
4	PROGテストを振り返って	強みを活かしたビジネスモデルを考えよう
5	大学生活をデザインしよう	週間スケジュールから日常生活のあり方を見直そう
6	大学の授業を知ろう	講義の特徴を知ろう 予習・復習の仕方を考えよう
7	定期試験をのりきろう	高校と大学の試験の違いをしろう
8	前期まとめ	前期を振り返って 自己採点してみよう後期のスピーチコンテストに向けて
9	後期ガイダンス	後期目標設定 体育祭チームビルディング
10	スピーチコンテストクラス予選	自分のスピーチを発表しよう
11	キャリアをデザインしよう	卒業後につきたい職業・仕事について調べてみよう
12	スピーチコンテストを振り返ろう	優勝者のスピーチと自分のスピーチを比べてみよう
13	大学生活のリスクやトラブルについて考えよう	大学生活のリスクやトラブルについて知ろうリスクやトラブルの適切な対応方法について知ろう
14	1年を振り返って	1年の学びを振りかえって、自己採点してみよう
15	まとめ	春休み課題「自分の進路について」を考えよう

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	浦部 隼希				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原 恵子 スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版；改訂版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	河野 儀久				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）40%、スピーチ20%、課題 40%

### <教科書>

特に指定なし

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	森下 裕三				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。||また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	Jason Witthaus				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。||また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English



科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	三垣 雅美				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	高森 ねね				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	11101			区分	教養科目				
授業科目名	心理学			担当者名	藤田 依久子				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本講座は、人が他者との関係の中で、どう考えたり感じたり振る舞ったりするのか、また、人の思考・感情・行動が他者によってどう影響されるのか、を科学的に明らかにしていく。つまり、社会的生物としての人間について総合的な理解を目指す。まず、人と人との間で交わされる対人コミュニケーションについて解説し、情報を伝達する為のコミュニケーション、ラポール形成のためのコミュニケーション、人を説得する為のコミュニケーション等様々な種類のコミュニケーションに関して概説し、対人関係についてコミュニケーションの側面から考える。

### <授業の到達目標>

(1) 心理学で議論されているさまざまなテーマについて検討し、自身のもつ課題や生活の中の身の回りの事例とともに考察できるようにする。(2) 対人コミュニケーションに関わる理論や概念を理解する。(3) 講義で論じられる個々の知見を断片的に理解するだけでなく、人間行動に対する社会心理学的アプローチの本質を感じ取れるよう実践知の習得を目指す。

### <授業の方法>

講義が中心であるが、適宜事例検討やレポートの提出を求める。

### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習は、授業テーマに関連した社会・時事問題の情報を収集しておくこと(1時間)。復習は、授業内容や資料を整理し要点を再確認すること(30分)。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

教養科目のディプロマ・ポリシー(DP)のうち、DP6(自立や社会性等に関する態度・指向性)とDP4(コミュニケーション能力等の汎用的技能)の修得に深く関連する。

### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度(意欲、発言内容等)20%、クラス内課題40パーセント、レポート・小テスト40パーセント。クラス内課題については、内容の良いレポートについて、そのポイントを紹介し、共有できる体制をとる。提出期限を設けた際には、提出期限を過ぎた場合は受け付けない。課題未提出による期限後の提出は受け付けないので、十分に注意していただきたい。指定された教科書購入が履修条件の一つとなる。

### <教科書>

藤田依久子(2009) 対人コミュニケーション入門上第2版 ナカニシヤ出版

### <参考書>

池上知子・遠藤由美(2011)

グラフィック社会心理学第2版サイエンス社池田謙一他(2019)社会心理学補訂版有斐閣古見文一他(2019)はじめての心理学概論ナカニシヤ出版

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の目的・概要・進め方、成績評価方法について説明する 対人コミュニケーションについて概観する
2	コミュニケーションとは何か	コミュニケーションの目的・目標・分類・意味、コミュニケーションモデルを概説する
3	知覚プロセス	注意(選択的知覚等)、協同、解釈(解釈の基準と準拠)について学ぶ
4	自己と他者	主體的自己と客體的自己、準拠集団、他者の存在のコミュニケーションに与える影響等について検討する
5	対人魅力と印象形成	対人認知、対人不安、対人魅力、第一印象、印象形成等について概説する
6	ステレオタイプと返報性	偏見、共感、先入観、ステレオタイプ、好意の返報性について事例を用いて検討する
7	オーラルコミュニケーション	リスニングプロセス、選択エラーと解釈エラー、スピーキングエラーについて概説する
8	ノンバーバルコミュニケーション① 分類と用途	ノンバーバルコミュニケーションの分類特に、バラ言語や人工品について学び、用途について概説する
9	ノンバーバルコミュニケーション② 動作学と近接学	親和葛藤理論、アイコンタクトの機能、パーソナルスペースについて、またコミュニケーションスタイルと文化について学ぶ
10	自己開示と自己呈示	ジョハリの窓、譲歩の返報性、対人関係影響力と共感喚起影響力等を学ぶ
11	態度変容の理論① 態度と心理的リアクタンス	態度の定義、構造について、またカッツ(1960)による態度の機能について検討する
12	態度変容の理論② POX理論と認知的不況和理論	態度変容の理論について概観し、二者事態・三者事態による均衡・不均衡状態以外の要因について検討し、タレント効果について事例を用いて説明する
13	交流分析① 人の性格の特徴や傾向	エゴグラムチェック及び各自我状態の言語・非言語的コミュニケーションにおける特徴を概説する
14	交流分析② 交流の分類	実際のコミュニケーション場面を想定し、補完的交流・交叉的交流・潜在的交流の例を検討する
15	交流分析③ ゲームの分析 総括	交流分析の「ゲーム」についてやめられない理由を、自身の生活の身の回りの事例と共に検討する

科目コード	11101			区分	教養科目				
授業科目名	心理学			担当者名	藤田 依久子				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本講座は、人が他者との関係の中で、どう考えたり感じたり振る舞ったりするのか、また、人の思考・感情・行動が他者によってどう影響されるのか、を科学的に明らかにしていく。つまり、社会的生物としての人間について総合的な理解を目指す。まず、人と人との間で交わされる対人コミュニケーションについて解説し、情報を伝達する為のコミュニケーション、ラポール形成のためのコミュニケーション、人を説得する為のコミュニケーション等様々な種類のコミュニケーションに関して概説し、対人関係についてコミュニケーションの側面から考える。

### <授業の到達目標>

(1) 心理学で議論されているさまざまなテーマについて検討し、自身のもつ課題や生活の中の身の回りの事例とともに考察できるようにする。(2) 対人コミュニケーションに関わる理論や概念を理解する。(3) 講義で論じられる個々の知見を断片的に理解するだけでなく、人間行動に対する社会心理学的アプローチの本質を感じ取れるよう実践知の習得を目指す。

### <授業の方法>

講義が中心であるが、適宜事例検討やレポートの提出を求める。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習は、授業テーマに関連した社会・時事問題の情報を収集しておくこと(1時間)。復習は、授業内容や資料を整理し要点を再確認すること(30分)。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

教養科目のディプロマ・ポリシー(DP)のうち、DP6(自立や社会性等に関する態度・指向性)とDP4(コミュニケーション能力等の汎用的技能)の修得に深く関連する。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度(意欲、発言内容等)20%、クラス内課題40パーセント、レポート・小テスト40パーセント。クラス内課題については、内容の良いレポートについて、そのポイントを紹介し、共有できる体制をとる。提出期限を設けた際には、提出期限を過ぎた場合は受け付けない。課題未提出による期限後の提出は受け付けないので、十分に注意していただきたい。指定された教科書購入が履修条件の一つとなる。

### <教科書>

藤田依久子(2009) 対人コミュニケーション入門上第2版 ナカニシヤ出版

### <参考書>

池上知子・遠藤由美(2011)

グラフィック社会心理学第2版サイエンス社池田謙一他(2019)社会心理学補訂版有斐閣古見文一他(2019)はじめての心理学概論ナカニシヤ出版

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の目的・概要・進め方、成績評価方法について説明する 対人コミュニケーションについて概観する
2	コミュニケーションとは何か	コミュニケーションの目的・目標・分類・意味、コミュニケーションモデルを概説する
3	知覚プロセス	注意(選択的知覚等)、協同、解釈(解釈の基準と準拠)について学ぶ
4	自己と他者	主體的自己と客體的自己、準拠集団、他者の存在のコミュニケーションに与える影響等について検討する
5	対人魅力と印象形成	対人認知、対人不安、対人魅力、第一印象、印象形成等について概説する
6	ステレオタイプと返報性	偏見、共感、先入観、ステレオタイプ、好意の返報性について事例を用いて検討する
7	オーラルコミュニケーション	リスニングプロセス、選択エラーと解釈エラー、スピーキングエラーについて概説する
8	ノンバーバルコミュニケーション① 分類と用途	ノンバーバルコミュニケーションの分類特に、バラ言語や人工品について学び、用途について概説する
9	ノンバーバルコミュニケーション② 動作学と近接学	親和葛藤理論、アイコンタクトの機能、パーソナルスペースについて、またコミュニケーションスタイルと文化について学ぶ
10	自己開示と自己呈示	ジョハリの窓、譲歩の返報性、対人関係影響力と共感喚起影響力等を学ぶ
11	態度変容の理論① 態度と心理的リアクタンス	態度の定義、構造について、またカッツ(1960)による態度の機能について検討する
12	態度変容の理論② POX理論と認知的不況和理論	態度変容の理論について概観し、二者事態・三者事態による均衡・不均衡状態以外の要因について検討し、タレント効果について事例を用いて説明する
13	交流分析① 人の性格の特徴や傾向	エゴグラムチェック及び各自我状態の言語・非言語的コミュニケーションにおける特徴を概説する
14	交流分析② 交流の分類	実際のコミュニケーション場面を想定し、補完的交流・交叉的交流・潜在的交流の例を検討する
15	交流分析③ ゲームの分析 総括	交流分析の「ゲーム」についてやめられない理由を、自身の生活の身の回りの事例と共に検討する

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	Jason Witthaus				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	三垣 雅美				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	10204			区分	教養科目				
授業科目名	コンピュータリテラシー I			担当者名	薦田 勇智				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必須

### <授業の概要>

AI時代においてコンピュータ利活用は必須のスキルである。本科目では、まずコンピュータ操作スキルを習熟するため、WordやPowerPointといった必須アプリケーションを駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。さらに、WordやPowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータスキル・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。

### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等(90分)程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまった日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2(専門分野に関する知識・理解)及び、ディプロマポリシー5(情報活用、論理、問題解決力等に関する汎)

### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集(2021年1月29日) パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	PCメールの活用、LMSとクラウドの活用
2	PCとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
3	クラウドとグループワーク環境	インターネット活用とネットモラル
4	Wordビジネス文書(1) 文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書(2) 画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書(3) 図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート(1) スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート(2) 参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート(3) 表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定(PDF化)、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習

科目コード	10204			区分	教養科目				
授業科目名	コンピュータリテラシー I			担当者名	倉田 知秋				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必須

### <授業の概要>

AI時代においてコンピュータ利活用は必須のスキルである。本科目では、まずコンピュータ操作スキルを習熟するため、WordやPowerPointといった必須アプリケーションを駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。さらに、WordやPowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータスキル・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。

### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等(90分)程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2(専門分野に関する知識・理解)及び、ディプロマポリシー5(情報活用、論理、問題解決力等に関する汎)

### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集(2021年1月29日) パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	PCメールの活用、LMSとクラウドの活用
2	PCとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
3	クラウドとグループワーク環境	インターネット活用とネットモラル
4	Wordビジネス文書(1) 文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書(2) 画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書(3) 図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート(1) スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート(2) 参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート(3) 表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定(PDF化)、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習



科目コード	10204			区分	教養科目				
授業科目名	コンピュータリテラシー I			担当者名	本庄 慶樹				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必須

### <授業の概要>

AI時代においてコンピュータ利活用は必須のスキルである。本科目では、まずコンピュータ操作スキルを習熟するため、WordやPowerPointといった必須アプリケーションを駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。さらに、WordやPowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータスキル・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等(90分)程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2(専門分野に関する知識・理解)及び、ディプロマポリシー5(情報活用、論理、問題解決力等に関する汎)

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集(2021年1月29日) パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	PCメールの活用、LMSとクラウドの活用
2	PCとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
3	クラウドとグループワーク環境	インターネット活用とネットモラル
4	Wordビジネス文書(1)文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書(2)画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書(3)図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート(1)スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート(2)参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート(3)表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定(PDF化)、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習

科目コード	10204			区分	教養科目				
授業科目名	コンピュータリテラシー I			担当者名	木戸 和彦				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必須

### <授業の概要>

AI時代においてコンピュータ利活用は必須のスキルである。本科目では、まずコンピュータ操作スキルを習熟するため、WordやPowerPointといった必須アプリケーションを駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。さらに、WordやPowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータスキル・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。

### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等(90分)程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまった日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2(専門分野に関する知識・理解)及び、ディプロマポリシー5(情報活用、論理、問題解決力等に関する汎)

### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集(2021年1月29日) パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	PCメールの活用、LMSとクラウドの活用
2	PCとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
3	クラウドとグループワーク環境	インターネット活用とネットモラル
4	Wordビジネス文書(1) 文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書(2) 画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書(3) 図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート(1) スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート(2) 参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート(3) 表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定(PDF化)、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習

科目コード	10105			区分	教養科目				
授業科目名	体育実技			担当者名	高山 慎				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく、体力測定から得られた客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

#### <授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

#### <授業の方法>

グループ活動を中心とし、体力測定データや運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）に関連している。初年次生に対し、様々なスポーツ種目に触れさせ、多種多様なニーズに応える事が出来る実技能力及び指導能力を身につけることを目的としている。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、レポート課題40%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動①	集団行動の概要、起立、気をつけ
3	集団行動②	礼の姿勢、挨拶、集合・整列、横隊での整列
4	体力測定①	スポーツ科学センターでの身体・体力測定
5	体力測定②	走・投・跳能力の測定
6	体力測定③	柔軟性、筋力、有酸素能力の測定
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション（ドッジビー、ユニホック）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ（ボッチャ）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る

科目コード	10105			区分	教養科目				
授業科目名	体育実技			担当者名	浦部 隼希				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく、体力測定から得られた客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

#### <授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

#### <授業の方法>

グループ活動を中心とし、体力測定データや運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）に関連している。初年次生に対し、様々なスポーツ種目に触れさせ、多種多様なニーズに応える事が出来る実技能力及び指導能力を身につけることを目的としている。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、レポート課題40%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動①	集団行動の概要、起立、気をつけ
3	集団行動②	礼の姿勢、挨拶、集合・整列、横隊での整列
4	体力測定①	スポーツ科学センターでの身体・体力測定
5	体力測定②	走・投・跳能力の測定
6	体力測定③	柔軟性、筋力、有酸素能力の測定
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション（ドッジビー、ユニホック）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ（ボッチャ）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る

科目コード	10105			区分	教養科目				
授業科目名	体育実技			担当者名	趙 秋華				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく、体力測定から得られた客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

#### <授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

#### <授業の方法>

グループ活動を中心とし、体力測定データや運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）に関連している。初年次生に対し、様々なスポーツ種目に触れさせ、多種多様なニーズに応える事が出来る実技能力及び指導能力を身につけることを目的としている。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、レポート課題40%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動①	集団行動の概要、起立、気をつけ
3	集団行動②	礼の姿勢、挨拶、集合・整列、横隊での整列
4	体力測定①	スポーツ科学センターでの身体・体力測定
5	体力測定②	走・投・跳能力の測定
6	体力測定③	柔軟性、筋力、有酸素能力の測定
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション（ドッジビー、ユニホック）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ（ポッチャ）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る

科目コード	10105			区分	教養科目				
授業科目名	体育実技			担当者名	仙波 慎平				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく、体力測定から得られた客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

#### <授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

#### <授業の方法>

グループ活動を中心とし、体力測定データや運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）に関連している。初年次生に対し、様々なスポーツ種目に触れさせ、多種多様なニーズに応える事が出来る実技能力及び指導能力を身につけることを目的としている。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、レポート課題40%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動①	集団行動の概要、起立、気をつけ
3	集団行動②	礼の姿勢、挨拶、集合・整列、横隊での整列
4	体力測定①	スポーツ科学センターでの身体・体力測定
5	体力測定②	走・投・跳能力の測定
6	体力測定③	柔軟性、筋力、有酸素能力の測定
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション（ドッジビー、ユニホック）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ（ボッチャ）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る

科目コード	14205			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)			担当者名	中原 朋生				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、非認知能力育成専用学舎であるDiscoveryの主要な教室5ヶ所に対応する5つのリテラシーを学習する。その際には、学習するリテラシーに応じた単元（A～E）を作成し、3コマ完結の授業を展開する。各単元には専属教員が配置され一貫した授業内容を展開する。

#### <授業の到達目標>

本授業は、認知能力育成学舎Discoveryの主要教室に対応するリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。そのため、5つの単元を巡ることで以下のスキルを身に付けることを到達目標とする。単元A「調べぬく力」（対応教室：ラーニングコモンズ）：情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」（対応教室：インタラクティブラボ）：情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを

#### <授業の方法>

複数教員がローテーションで担当する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。なお、本授業全体の説明と3Rsとの関係についての動画を配信する予定である。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の指導者が課す予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。さらに1つの単元（3コマ）が終了するごとに「自己評価シート」（90分程度）を提出する。以上のように、合計30時間程度の予習と復習が必要となる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の教養ディプロマポリシーのDP4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向）に対応している。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、単元終了後の振り返りレポート（20%×5）によって行う。その際の評価基準としては、授業中の活動の振り返り、授業によって新たに獲得したスキル、レポート全体の構成を重視する。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専門家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用

科目コード	14205			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)			担当者名	中原 朋生				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、非認知能力育成専用学舎であるDiscoveryの主要な教室5ヶ所に対応する5つのリテラシーを学習する。その際には、学習するリテラシーに応じた単元（A～E）を作成し、3コマ完結の授業を展開する。各単元には専属教員が配置され一貫した授業内容を展開する。

#### <授業の到達目標>

本授業は、認知能力育成学舎Discoveryの主要教室に対応するリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。そのため、5つの単元を巡ることで以下のスキルを身に付けることを到達目標とする。単元A「調べぬく力」（対応教室：ラーニングコモンズ）：情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」（対応教室：インタラクティブラボ）：情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを

#### <授業の方法>

複数教員がローテーションで担当する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。なお、本授業全体の説明と3Rsとの関係についての動画を配信する予定である。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の指導者が課す予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。さらに1つの単元（3コマ）が終了するごとに「自己評価シート」（90分程度）を提出する。以上のように、合計30時間程度の予習と復習が必要となる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の教養ディプロマポリシーのDP4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向）に対応している。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、単元終了後の振り返りレポート（20%×5）によって行う。その際の評価基準としては、授業中の活動の振り返り、授業によって新たに獲得したスキル、レポート全体の構成を重視する。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専門家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用



科目コード	14205			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)			担当者名	中原 朋生				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、非認知能力育成専用学舎であるDiscoveryの主要な教室5ヶ所に対応する5つのリテラシーを学習する。その際には、学習するリテラシーに応じた単元（A～E）を作成し、3コマ完結の授業を展開する。各単元には専属教員が配置され一貫した授業内容を展開する。

### <授業の到達目標>

本授業は、認知能力育成学舎Discoveryの主要教室に対応するリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。そのため、5つの単元を巡ることで以下のスキルを身に付けることを到達目標とする。単元A「調べぬく力」（対応教室：ラーニングコモンズ）：情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」（対応教室：インタラクティブラボ）：情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを

### <授業の方法>

複数教員がローテーションで担当する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。なお、本授業全体の説明と3Rsとの関係についての動画を配信する予定である。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の指導者が課す予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。さらに1つの単元（3コマ）が終了するごとに「自己評価シート」（90分程度）を提出する。以上のように、合計30時間程度の予習と復習が必要となる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の教養ディプロマポリシーのDP4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向）に対応している。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、単元終了後の振り返りレポート（20%×5）によって行う。その際の評価基準としては、授業中の活動の振り返り、授業によって新たに獲得したスキル、レポート全体の構成を重視する。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専門家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用

科目コード	14205			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)			担当者名	中原 朋生				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、非認知能力育成専用学舎であるDiscoveryの主要な教室5ヶ所に対応する5つのリテラシーを学習する。その際には、学習するリテラシーに応じた単元（A～E）を作成し、3コマ完結の授業を展開する。各単元には専属教員が配置され一貫した授業内容を展開する。

#### <授業の到達目標>

本授業は、認知能力育成学舎Discoveryの主要教室に対応するリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。そのため、5つの単元を巡ることで以下のスキルを身に付けることを到達目標とする。単元A「調べぬく力」（対応教室：ラーニングコモンズ）：情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」（対応教室：インタラクティブラボ）：情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを

#### <授業の方法>

複数教員がローテーションで担当する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。なお、本授業全体の説明と3Rsとの関係についての動画を配信する予定である。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の指導者が課す予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。さらに1つの単元（3コマ）が終了するごとに「自己評価シート」（90分程度）を提出する。以上のように、合計30時間程度の予習と復習が必要となる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の教養ディプロマポリシーのDP4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向）に対応している。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、単元終了後の振り返りレポート（20%×5）によって行う。その際の評価基準としては、授業中の活動の振り返り、授業によって新たに獲得したスキル、レポート全体の構成を重視する。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専門家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用

科目コード	10204			区分	教養科目				
授業科目名	コンピュータリテラシー I			担当者名	薦田 勇智				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必須

### <授業の概要>

AI時代においてコンピュータ利活用は必須のスキルである。本科目では、まずコンピュータ操作スキルを習熟するため、WordやPowerPointといった必須アプリケーションを駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。さらに、WordやPowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータスキル・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。

### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等(90分)程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2(専門分野に関する知識・理解)及び、ディプロマポリシー5(情報活用、論理、問題解決力等に関する汎)

### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集(2021年1月29日) パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	PCメールの活用、LMSとクラウドの活用
2	PCとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
3	クラウドとグループワーク環境	インターネット活用とネットモラル
4	Wordビジネス文書(1) 文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書(2) 画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書(3) 図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート(1) スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート(2) 参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート(3) 表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定(PDF化)、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習

科目コード	10204			区分	教養科目				
授業科目名	コンピュータリテラシー I			担当者名	倉田 知秋				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必須

### <授業の概要>

AI時代においてコンピュータ利活用は必須のスキルである。本科目では、まずコンピュータ操作スキルを習熟するため、WordやPowerPointといった必須アプリケーションを駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。さらに、WordやPowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータスキル・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等(90分)程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまった日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2(専門分野に関する知識・理解)及び、ディプロマポリシー5(情報活用、論理、問題解決力等に関する汎)

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集(2021年1月29日) パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	PCメールの活用、LMSとクラウドの活用
2	PCとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
3	クラウドとグループワーク環境	インターネット活用とネットモラル
4	Wordビジネス文書(1)文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書(2)画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書(3)図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート(1)スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート(2)参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート(3)表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定(PDF化)、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習

科目コード	10204			区分	教養科目				
授業科目名	コンピュータリテラシー I			担当者名	本庄 慶樹				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必須

### <授業の概要>

AI時代においてコンピュータ利活用は必須のスキルである。本科目では、まずコンピュータ操作スキルを習熟するため、WordやPowerPointといった必須アプリケーションを駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。さらに、WordやPowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータスキル・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。

### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等(90分)程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2(専門分野に関する知識・理解)及び、ディプロマポリシー5(情報活用、論理、問題解決力等に関する汎)

### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集(2021年1月29日) パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	PCメールの活用、LMSとクラウドの活用
2	PCとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
3	クラウドとグループワーク環境	インターネット活用とネットモラル
4	Wordビジネス文書(1) 文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書(2) 画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書(3) 図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート(1) スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート(2) 参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート(3) 表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定(PDF化)、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習

科目コード	10204			区分	教養科目				
授業科目名	コンピュータリテラシー I			担当者名	木戸 和彦				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必須

### <授業の概要>

AI時代においてコンピュータ利活用は必須のスキルである。本科目では、まずコンピュータ操作スキルを習熟するため、WordやPowerPointといった必須アプリケーションを駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。さらに、WordやPowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータスキル・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。

### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等(90分)程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2(専門分野に関する知識・理解)及び、ディプロマポリシー5(情報活用、論理、問題解決力等に関する汎)

### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集(2021年1月29日) パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	PCメールの活用、LMSとクラウドの活用
2	PCとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
3	クラウドとグループワーク環境	インターネット活用とネットモラル
4	Wordビジネス文書(1) 文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書(2) 画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書(3) 図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート(1) スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート(2) 参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート(3) 表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定(PDF化)、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習

科目コード	10105			区分	教養科目				
授業科目名	体育実技			担当者名	國友 亮佑				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく、体力測定から得られた客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

### <授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

### <授業の方法>

グループ活動を中心とし、体力測定データや運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）に関連している。初年次生に対し、様々なスポーツ種目に触れさせ、多種多様なニーズに応える事が出来る実技能力及び指導能力を身につけることを目的としている。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、レポート課題40%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動①	集団行動の概要、起立、気をつけ
3	集団行動②	礼の姿勢、挨拶、集合・整列、横隊での整列
4	体力測定①	スポーツ科学センターでの身体・体力測定
5	体力測定②	走・投・跳能力の測定
6	体力測定③	柔軟性、筋力、有酸素能力の測定
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用方法
9	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション（ドッジビー、ユニホック）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ（ポッチャ）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る

科目コード	10105			区分	教養科目				
授業科目名	体育実技			担当者名	佐々木 史之				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく、体力測定から得られた客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

#### <授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

#### <授業の方法>

グループ活動を中心とし、体力測定データや運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）に関連している。初年次生に対し、様々なスポーツ種目に触れさせ、多種多様なニーズに応える事が出来る実技能力及び指導能力を身につけることを目的としている。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、レポート課題40%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動①	集団行動の概要、起立、気をつけ
3	集団行動②	礼の姿勢、挨拶、集合・整列、横隊での整列
4	体力測定①	スポーツ科学センターでの身体・体力測定
5	体力測定②	走・投・跳能力の測定
6	体力測定③	柔軟性、筋力、有酸素能力の測定
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用方法
9	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション（ドッジビー、ユニホック）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ（ボッチャ）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る



科目コード	10105			区分	教養科目				
授業科目名	体育実技			担当者名	趙 秋華				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく、体力測定から得られた客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

#### <授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

#### <授業の方法>

グループ活動を中心とし、体力測定データや運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）に関連している。初年次生に対し、様々なスポーツ種目に触れさせ、多種多様なニーズに応える事が出来る実技能力及び指導能力を身につけることを目的としている。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、レポート課題40%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動①	集団行動の概要、起立、気をつけ
3	集団行動②	礼の姿勢、挨拶、集合・整列、横隊での整列
4	体力測定①	スポーツ科学センターでの身体・体力測定
5	体力測定②	走・投・跳能力の測定
6	体力測定③	柔軟性、筋力、有酸素能力の測定
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション（ドッジビー、ユニホック）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ（ボッチャ）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る

科目コード	10105			区分	教養科目				
授業科目名	体育実技			担当者名	仙波 慎平				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく、体力測定から得られた客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

#### <授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

#### <授業の方法>

グループ活動を中心とし、体力測定データや運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）に関連している。初年次生に対し、様々なスポーツ種目に触れさせ、多種多様なニーズに応える事が出来る実技能力及び指導能力を身につけることを目的としている。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、 レポート課題40%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動①	集団行動の概要、起立、気をつけ
3	集団行動②	礼の姿勢、挨拶、集合・整列、横隊での整列
4	体力測定①	スポーツ科学センターでの身体・体力測定
5	体力測定②	走・投・跳能力の測定
6	体力測定③	柔軟性、筋力、有酸素能力の測定
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション（ドッジビー、ユニホック）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ（ボッチャ）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る

科目コード	14205			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)			担当者名	中原 朋生				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、非認知能力育成専用学舎であるDiscoveryの主要な教室5ヶ所に対応する5つのリテラシーを学習する。その際には、学習するリテラシーに応じた単元（A～E）を作成し、3コマ完結の授業を展開する。各単元には専属教員が配置され一貫した授業内容を展開する。

#### <授業の到達目標>

本授業は、認知能力育成学舎Discoveryの主要教室に対応するリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。そのため、5つの単元を巡ることで以下のスキルを身に付けることを到達目標とする。単元A「調べぬく力」（対応教室：ラーニングコモンズ）：情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」（対応教室：インタラクティブラボ）：情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを

#### <授業の方法>

複数教員がローテーションで担当する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。なお、本授業全体の説明と3Rsとの関係についての動画を配信する予定である。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の指導者が課す予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。さらに1つの単元（3コマ）が終了するごとに「自己評価シート」（90分程度）を提出する。以上のように、合計30時間程度の予習と復習が必要となる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の教養ディプロマポリシーのDP4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向）に対応している。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、単元終了後の振り返りレポート（20%×5）によって行う。その際の評価基準としては、授業中の活動の振り返り、授業によって新たに獲得したスキル、レポート全体の構成を重視する。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専門家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用

科目コード	14205			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)			担当者名	中原 朋生				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、非認知能力育成専用学舎であるDiscoveryの主要な教室5ヶ所に対応する5つのリテラシーを学習する。その際には、学習するリテラシーに応じた単元（A～E）を作成し、3コマ完結の授業を展開する。各単元には専属教員が配置され一貫した授業内容を展開する。

#### <授業の到達目標>

本授業は、認知能力育成学舎Discoveryの主要教室に対応するリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。そのため、5つの単元を巡ることで以下のスキルを身に付けることを到達目標とする。単元A「調べぬく力」（対応教室：ラーニングコモンズ）：情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」（対応教室：インタラクティブラボ）：情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを

#### <授業の方法>

複数教員がローテーションで担当する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。なお、本授業全体の説明と3Rsとの関係についての動画を配信する予定である。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の指導者が課す予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。さらに1つの単元（3コマ）が終了するごとに「自己評価シート」（90分程度）を提出する。以上のように、合計30時間程度の予習と復習が必要となる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の教養ディプロマポリシーのDP4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向）に対応している。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、単元終了後の振り返りレポート（20%×5）によって行う。その際の評価基準としては、授業中の活動の振り返り、授業によって新たに獲得したスキル、レポート全体の構成を重視する。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専門家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用

科目コード	14205			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)			担当者名	中原 朋生				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、非認知能力育成専用学舎であるDiscoveryの主要な教室5ヶ所に対応する5つのリテラシーを学習する。その際には、学習するリテラシーに応じた単元（A～E）を作成し、3コマ完結の授業を展開する。各単元には専属教員が配置され一貫した授業内容を展開する。

### <授業の到達目標>

本授業は、認知能力育成学舎Discoveryの主要教室に対応するリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。そのため、5つの単元を巡ることで以下のスキルを身に付けることを到達目標とする。単元A「調べぬく力」（対応教室：ラーニングコモンズ）：情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」（対応教室：インタラクティブラボ）：情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを

### <授業の方法>

複数教員がローテーションで担当する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。なお、本授業全体の説明と3Rsとの関係についての動画を配信する予定である。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の指導者が課す予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。さらに1つの単元（3コマ）が終了するごとに「自己評価シート」（90分程度）を提出する。以上のように、合計30時間程度の予習と復習が必要となる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の教養ディプロマポリシーのDP4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向）に対応している。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、単元終了後の振り返りレポート（20%×5）によって行う。その際の評価基準としては、授業中の活動の振り返り、授業によって新たに獲得したスキル、レポート全体の構成を重視する。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専門家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用

科目コード	14205			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)			担当者名	中原 朋生				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、非認知能力育成専用学舎であるDiscoveryの主要な教室5ヶ所に対応する5つのリテラシーを学習する。その際には、学習するリテラシーに応じた単元（A～E）を作成し、3コマ完結の授業を展開する。各単元には専属教員が配置され一貫した授業内容を展開する。

### <授業の到達目標>

本授業は、認知能力育成学舎Discoveryの主要教室に対応するリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。そのため、5つの単元を巡ることで以下のスキルを身に付けることを到達目標とする。単元A「調べぬく力」（対応教室：ラーニングコモンズ）：情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」（対応教室：インタラクティブラボ）：情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを

### <授業の方法>

複数教員がローテーションで担当する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。なお、本授業全体の説明と3Rsとの関係についての動画を配信する予定である。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の指導者が課す予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。さらに1つの単元（3コマ）が終了するごとに「自己評価シート」（90分程度）を提出する。以上のように、合計30時間程度の予習と復習が必要となる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の教養ディプロマポリシーのDP4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向）に対応している。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、単元終了後の振り返りレポート（20%×5）によって行う。その際の評価基準としては、授業中の活動の振り返り、授業によって新たに獲得したスキル、レポート全体の構成を重視する。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専門家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	三垣 雅美				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	森下 裕三				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English



科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	Jason Witthaus				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	三垣 雅美				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	10105			区分	教養科目				
授業科目名	体育実技			担当者名	仙波 慎平				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく、体力測定から得られた客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

#### <授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

#### <授業の方法>

グループ活動を中心とし、体力測定データや運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）に関連している。初年次生に対し、様々なスポーツ種目に触れさせ、多種多様なニーズに応える事が出来る実技能力及び指導能力を身につけることを目的としている。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、レポート課題40%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動①	集団行動の概要、起立、気をつけ
3	集団行動②	礼の姿勢、挨拶、集合・整列、横隊での整列
4	体力測定①	スポーツ科学センターでの身体・体力測定
5	体力測定②	走・投・跳能力の測定
6	体力測定③	柔軟性、筋力、有酸素能力の測定
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用法
9	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション（ドッジビー、ユニホック）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ（ボッチャ）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る

科目コード	10105			区分	教養科目				
授業科目名	体育実技			担当者名	高山 慎				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業では、様々な球技およびラケットスポーツ、レクリエーションスポーツ、有酸素運動や筋力トレーニングを実践するだけでなく、体力測定から得られた客観的データをもとに自身の体力や運動技能について分析し、改善方法や指導方法を考える。これらを通じて、生涯に渡る健康的なライフスタイルを形成するための、体調管理や体力向上、スポーツの楽しむ方法を学ぶことを目標とする。また、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「集団行動」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニケーション能力などの社会性も養う。

#### <授業の到達目標>

本科目における学習では、体育を通して大学生・社会人として求められる知識、技能、能力や態度を学んでいく。到達目標は、①自分や仲間の体力や運動技能を把握し、体調管理や体力向上に向けた取り組みや指導が出来るようになる ②球技、ラケット、レクリエーションスポーツを楽しむための方法を知る③他者との協調性、自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力を高める。

#### <授業の方法>

グループ活動を中心とし、体力測定データや運動経験からグループ内の体力や運動技能を分析する。そして、体力や運動技能が向上していくための方法についてディスカッションしグループで最善の方法を考える。また、実技のフォームや動作、競技中のグループの戦略などをタブレットで撮影し、それらに関する問題点や改善方法を考える。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に配信されたスポーツやトレーニングに関する動画からポイントをまとめ、技術や体力を向上させる練習方法やトレーニング方法を考える。（30分）復習：実技内容について課題の改善方法をレポートにまとめる。（30分）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）に関連している。初年次生に対し、様々なスポーツ種目に触れさせ、多種多様なニーズに応える事が出来る実技能力及び指導能力を身につけることを目的としている。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度60%、レポート課題40%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	集団行動①	集団行動の概要、起立、気をつけ
3	集団行動②	礼の姿勢、挨拶、集合・整列、横隊での整列
4	体力測定①	スポーツ科学センターでの身体・体力測定
5	体力測定②	走・投・跳能力の測定
6	体力測定③	柔軟性、筋力、有酸素能力の測定
7	実技：持久力・筋力トレーニング	効果的な有酸素運動の実践方法
8	実技：持久力・筋力トレーニング	筋力トレーニング種目の実践と器具の使用方法
9	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
10	実技：球技スポーツ（バスケットボールなど）	ルールの解説、基本技術の習得、ミニゲーム
11	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
12	実技：ラケットスポーツ（バドミントンなど）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
13	実技：レクリエーション（ドッジビー、ユニホック）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
14	実技：アダブテッドスポーツ（ボッチャ）	ルール・種目の解説、ミニゲーム
15	まとめ	実技内容を通じた自身の体力や運動技能の変化について振り返る

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	Jason Witthaus				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	三垣 雅美				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	14206			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)			担当者名	歌代 哲也				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

経営学や経済学の分野で求められるアカデミックスキルを扱い、その基礎的知識および技能の習得を行う。文献や資料の読み方、レポートの書き方、グループワークの手法、プレゼンテーションの手法等についての理解を深めていく。これらを通して、専門研究の基礎となる部分を強化し、大学での学びに主体的に取り組む姿勢を身につける。教員のファシリテーションのもと、文章作成、PPT資料の作成、グループ学習も取り入れる。

#### <授業の到達目標>

・グループ活動に必要なスキルを学び、他者とコミュニケーションできる|・文献や資料を読み、その要旨を文章にして読み手に伝えることができる|・要旨に自分の見解を根拠とともに付加し、まとめることができる|・グループ学習を通して、意見の表出と集約をすることができる。

#### <授業の方法>

担当教員のファシリテーションにより、アクティブラーニングの要素を加えた授業(グループワーク・ディスカッション・プレゼン)授業を展開する。一方的に教員の話聞くのではなく、積極的な発言や報告が求められ、また課題の提出も求められる。

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 指定された日経ビジネスの記事を読み、レポートを作成する(60分程度)。|2 次回に向けての課題を教員が指定する。効率よくかつ深い学びをするために、事前学習を行う。(30分程度)|3 授業の振り返りレポートを作成する(30分程度)

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー4(コミュニケーション能力等の汎用的技能)5(情報活用・論理・問題解決力等に関する汎用的技能)と関連付けられている。単に知識を習得するだけでなく、文献・資料を読み込み、要約したうえで、自身の見解を文章としてまとめ、発表する力を培う。また、グループワークを通じて、コミュニケーション能力の習得をめざす。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 20%、グループワークへの貢献・発表 40%、レポート 40%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義全体の説明・自己紹介・班分け等
2	ライティングの手法?	論文・レポート作成のルール
3	ライティングの手法?	論文レポートの構成
4	コミュニケーションの手法①	対話型のコミュニケーション
5	コミュニケーションの手法②	討論型のコミュニケーション
6	コミュニケーションの手法③	ITツールを利用したコミュニケーション(1)
7	コミュニケーションの手法④	ITツールを利用したコミュニケーション(2)
8	プレゼンテーションの手法?	PPTを利用したプレゼンテーション(1)
9	プレゼンテーションの手法②	PPTを利用したプレゼンテーション(2)
10	ビジネスプランの作成?	ビジネスプランの構想(1)
11	ビジネスプランの作成②	ビジネスプランの構想(2)
12	ビジネスプランの作成③	ビジネスプラン中間発表
13	ビジネスプランの作成④	ビジネスプランの最終とりまとめ
14	ビジネスプランの作成⑤	ビジネスプランのプレゼン発表
15	まとめ	ビジネスプランの振り返り。講義のまとめ。

科目コード	14206			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)			担当者名	倉田 知秋				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

経営学や経済学の分野で求められるアカデミックスキルを扱い、その基礎的知識および技能の習得を行う。文献や資料の読み方、レポートの書き方、グループワークの手法、プレゼンテーションの手法等についての理解を深めていく。これらを通して、専門研究の基礎となる部分を強化し、大学での学びに主体的に取り組む姿勢を身につける。教員のファシリテーションのもと、文章作成、PPT資料の作成、グループ学習も取り入れる。

#### <授業の到達目標>

・グループ活動に必要なスキルを学び、他者とコミュニケーションできる。|・文献や資料を読み、その要旨を文章にして読み手に伝えることができる。|・要旨に自分の見解を根拠とともに付加し、まとめることができる。|・グループ学習を通して、意見の表出と集約をすることができる。

#### <授業の方法>

担当教員のファシリテーションにより、アクティブラーニングの要素を加えた授業(グループワーク・ディスカッション・プレゼン)授業を展開する。一方的に教員の話聞くのではなく、積極的な発言や報告が求められ、また課題の提出も求められる。

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 指定された日経ビジネスの記事を読み、レポートを作成する(60分程度)。|2 次回に向けての課題を教員が指定する。効率よくかつ深い学びをするために、事前学習を行う。(30分程度)|3 授業の振り返りレポートを作成する(30分程度)

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー4(コミュニケーション能力等の汎用的技能)5(情報活用・論理・問題解決力等に関する汎用的技能)と関連付けられている。単に知識を習得するだけでなく、文献・資料を読み込み、要約したうえで、自身の見解を文章としてまとめ、発表する力を培う。また、グループワークを通じて、コミュニケーション能力の習得をめざす。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 20%、グループワークへの貢献・発表 40%、レポート 40%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義全体の説明・自己紹介・班分け等
2	ライティングの手法?	論文・レポート作成のルール
3	ライティングの手法?	論文レポートの構成
4	コミュニケーションの手法①	対話型のコミュニケーション
5	コミュニケーションの手法②	討論型のコミュニケーション
6	コミュニケーションの手法③	ITツールを利用したコミュニケーション(1)
7	コミュニケーションの手法④	ITツールを利用したコミュニケーション(2)
8	プレゼンテーションの手法?	PPTを利用したプレゼンテーション(1)
9	プレゼンテーションの手法②	PPTを利用したプレゼンテーション(2)
10	ビジネスプランの作成?	ビジネスプランの構想(1)
11	ビジネスプランの作成②	ビジネスプランの構想(2)
12	ビジネスプランの作成③	ビジネスプラン中間発表
13	ビジネスプランの作成④	ビジネスプランの最終とりまとめ
14	ビジネスプランの作成⑤	ビジネスプランのプレゼン発表
15	まとめ	ビジネスプランの振り返り。講義のまとめ



科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ				担当者名	西山 ちとせ			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得した技能をもとにさらに高度な操作スキルを身につけることを目指す。表計算アプリケーションであるExcelを中心にグラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につける。またこれに並行して、情報の扱い方を中心にセキュリティ、情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得することを第一の目標とする。さらに、Excelといった必須アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索からのキューレーションやネット社会におけるモラル・セキュリティを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算（Excel）について	入力と四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数、フィル
3	データ処理（1）	並べ替え、フィルター機能と、テーブルとして書式設定（並べ替え、フィルター、スライサー）
4	データ処理（2）	条件付き書式、合計、平均、最大値、最小値絶対番地指定と、名前の定義
5	グラフ作成（1）	グラフ作成
6	グラフ作成（2）	グラフ作成、描画、Office連携
7	Excel関数確認	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MIN, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
8	Excel中間課題	Excel関数確認試験
9	文字列関数	CONCATENATE, LEN, RIGHT, LEFT, MID
10	データ抽出（1）条件によって処理を分ける	IF, AND, OR
11	データ抽出（2）別表からデータを取り出す	VLOOKUP, IF, IFERROR
12	データ配布とセキュリティ	入力規制、セルやブックの保護
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel総合課題	プロパティ、印刷設定（PDF化）を含む最終課題

科目コード	14206			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)			担当者名	歌代 哲也				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

経営学や経済学の分野で求められるアカデミックスキルを扱い、その基礎的知識および技能の習得を行う。文献や資料の読み方、レポートの書き方、グループワークの手法、プレゼンテーションの手法等についての理解を深めていく。これらを通して、専門研究の基礎となる部分を強化し、大学での学びに主体的に取り組む姿勢を身につける。教員のファシリテーションのもと、文章作成、PPT資料の作成、グループ学習も取り入れる。

#### <授業の到達目標>

・グループ活動に必要なスキルを学び、他者とコミュニケーションできる | ・文献や資料を読み、その要旨を文章にして読み手に伝えることができる | ・要旨に自分の見解を根拠とともに付加し、まとめることができる | ・グループ学習を通して、意見の表出と集約をすることができる。

#### <授業の方法>

担当教員のファシリテーションにより、アクティブラーニングの要素を加えた授業(グループワーク・ディスカッション・プレゼン)授業を展開する。一方的に教員の話聞くのではなく、積極的な発言や報告が求められ、また課題の提出も求められる。

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 指定された日経ビジネスの記事を読み、レポートを作成する(60分程度)。| 2 次回に向けての課題を教員が指定する。効率よくかつ深い学びをするために、事前学習を行う。(30分程度) | 3 授業の振り返りレポートを作成する(30分程度)

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー4(コミュニケーション能力等の汎用的技能)5(情報活用・論理・問題解決力等に関する汎用的技能)と関連付けられている。単に知識を習得するだけでなく、文献・資料を読み込み、要約したうえで、自身の見解を文章としてまとめ、発表する力を培う。また、グループワークを通じて、コミュニケーション能力の習得をめざす。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 20%、グループワークへの貢献・発表 40%、レポート 40%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義全体の説明・自己紹介・班分け等
2	ライティングの手法?	論文・レポート作成のルール
3	ライティングの手法?	論文レポートの構成
4	コミュニケーションの手法①	対話型のコミュニケーション
5	コミュニケーションの手法②	討論型のコミュニケーション
6	コミュニケーションの手法③	ITツールを利用したコミュニケーション(1)
7	コミュニケーションの手法④	ITツールを利用したコミュニケーション(2)
8	プレゼンテーションの手法?	PPTを利用したプレゼンテーション(1)
9	プレゼンテーションの手法②	PPTを利用したプレゼンテーション(2)
10	ビジネスプランの作成?	ビジネスプランの構想(1)
11	ビジネスプランの作成②	ビジネスプランの構想(2)
12	ビジネスプランの作成③	ビジネスプラン中間発表
13	ビジネスプランの作成④	ビジネスプランの最終とりまとめ
14	ビジネスプランの作成⑤	ビジネスプランのプレゼン発表
15	まとめ	ビジネスプランの振り返り。講義のまとめ。

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ				担当者名	倉田 知秋			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得した技能をもとにさらに高度な操作スキルを身につけることを目指す。表計算アプリケーションであるExcelを中心にグラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につける。またこれに並行して、情報の扱い方を中心にセキュリティ、情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得することを第一の目標とする。さらに、Excelといった必須アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索からのキューレーションやネット社会におけるモラル・セキュリティを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算（Excel）について	入力と四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数、フィル
3	データ処理（1）	並べ替え、フィルター機能と、テーブルとして書式設定（並べ替え、フィルター、スライサー）
4	データ処理（2）	条件付き書式、合計、平均、最大値、最小値絶対番地指定と、名前の定義
5	グラフ作成（1）	グラフ作成
6	グラフ作成（2）	グラフ作成、描画、Office連携
7	Excel関数確認	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MIN, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
8	Excel中間課題	Excel関数確認試験
9	文字列関数	CONCATENATE, LEN, RIGHT, LEFT, MID
10	データ抽出（1）条件によって処理を分ける	IF, AND, OR
11	データ抽出（2）別表からデータを取り出す	VLOOKUP, IF, IFERROR
12	データ配布とセキュリティ	入力規制、セルやブックの保護
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel総合課題	プロパティ、印刷設定（PDF化）を含む最終課題

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ				担当者名	西山 ちとせ			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得した技能をもとにさらに高度な操作スキルを身につけることを目指す。表計算アプリケーションであるExcelを中心にグラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につける。またこれに並行して、情報の扱い方を中心にセキュリティ、情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得することを第一の目標とする。さらに、Excelといった必須アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索からのキューレーションやネット社会におけるモラル・セキュリティを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算（Excel）について	入力と四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数、フィル
3	データ処理（1）	並べ替え、フィルター機能と、テーブルとして書式設定（並べ替え、フィルター、スライサー）
4	データ処理（2）	条件付き書式、合計、平均、最大値、最小値絶対番地指定と、名前の定義
5	グラフ作成（1）	グラフ作成
6	グラフ作成（2）	グラフ作成、描画、Office連携
7	Excel関数確認	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MIN, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
8	Excel中間課題	Excel関数確認試験
9	文字列関数	CONCATENATE, LEN, RIGHT, LEFT, MID
10	データ抽出（1）条件によって処理を分ける	IF, AND, OR
11	データ抽出（2）別表からデータを取り出す	VLOOKUP, IF, IFERROR
12	データ配布とセキュリティ	入力規制、セルやブックの保護
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel総合課題	プロパティ、印刷設定（PDF化）を含む最終課題

科目コード	14206				区分	教養			
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)				担当者名	趙 秋華			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

現代は、論理的思考力と科学的思考力の必要性が常に叫ばれる時代である。しかしこの両者の内実は同義ではない。論理的思考力は科学的思考力の基礎を提供し、科学的思考力は論理的思考力を具体的に応用したものである。したがって、われわれは論理的思考力をまず身に付け、その後、科学的思考力を養っていくという学習プロセスを経る必要がある。本授業では、論理的思考力の中でも特に批判的思考力に着目し、それと科学的思考力を順に学んでいく。その際、植原亮『思考力改善ドリル—批判的思考から科学的思考へ』（勁草書房、2020年）を教科

### <授業の到達目標>

・論理的（批判的）に思考することができるようになる。・科学的に思考することができるようになる。

### <授業の方法>

反転授業形式を採用する。予習として教科書の指定された部分を読み、そこに含まれる練習問題を解く。授業ではこの予習を踏まえ、教科書の当該部分を教員が簡単に解説したうえで、そこで登場した練習問題に類似した別の問題をグループごとに作成する。そして、この授業中に作成された他グループの問題を自分たちで解き（これが復習に該当する）、その解き方などを次回授業時に発表する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習60分：指定された教科書の部分を読み、ドリル（問題部分）を解く復習60分：別のグループ作成の問題を解き、根拠を伴い説明できるようにしておく（次回授業時に発表を課す）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）およびディプロマポリシー5（情報活用・論理・問題解決力等に関する汎用的技能）と関連づけられている。子どもや保育者・教育関係者との円滑な人間関係形成のために必要な論理的思考力、適切な情報を選択・使用するために必要な科学的思考力を養う。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内評価（60%）、試験（40%）

### <教科書>

植原亮（2020年10月） 思考力改善ドリル—批判的思考から科学的思考へ 勁草書房

### <参考書>

伊勢田哲治（2005年7月）

哲学思考トレーニング筑摩書房門倉貴史（2006年10月）統計数字を疑う—なぜ実感とズレるのか？光文社松永和紀（2007年4月）メディア・バイアス—あやしい健康情報とニセ科学光文社

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション、スキーマとその呪縛	本授業全体の説明、成績評価の基準、教科書の内容紹介。教科書学習内容（第1章）
2	主張や言動の一貫性、二重プロセス理論	教科書学習内容（第2-3章）
3	人物像—代表性バイアス、計算にまつわる直観と熟慮	教科書学習内容（第4-5章）
4	ニュース性と利用可能性バイアス、メディアと情報	教科書学習内容（第6-7章）
5	因果関係の基本、因果関係を正しく把握する（1）—別の原因	教科書学習内容（第8-9章）
6	因果関係を正しく把握する（2）—原因と結果が逆、因果関係を正しく把握する（3）—単なる相関関係との混同	教科書学習内容（第10-11章）
7	因果関係—まとめの問題、対照実験—条件をそろえる	教科書学習内容（第12-13章）
8	対照実験の構造、プラシーボ効果	教科書学習内容（第14-15章）
9	サンプルの偏りとランダム化対照実験、基礎比率を無視するな	教科書学習内容（第16-17章）
10	対照実験とその周辺—まとめの問題、演繹	教科書学習内容（第18-19章）
11	帰納、仮説演繹法	教科書学習内容（第20-21章）
12	科学と反証可能性、非科学・疑似科学（1）—予言	教科書学習内容（第22-23章）
13	非科学・疑似科学（2）—反証逃れの構造、非科学・疑似科学（3）—態度の問題	教科書学習内容（第24-25章）
14	共同事業としての科学、総合的・応用的な問題	教科書学習内容（第26-27章）
15	まとめ	これまで学んできたことの復習、最終試験の説明

科目コード	14206				区分	教養			
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)				担当者名	酒井 健太郎			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

現代は、論理的思考力と科学的思考力の必要性が常に叫ばれる時代である。しかしこの両者の内実は同義ではない。論理的思考力は科学的思考力の基礎を提供し、科学的思考力は論理的思考力を具体的に応用したものである。したがって、われわれは論理的思考力をまず身に付け、その後、科学的思考力を養っていくという学習プロセスを経る必要がある。本授業では、論理的思考力の中でも特に批判的思考力に着目し、それと科学的思考力を順に学んでいく。その際、植原亮『思考力改善ドリル—批判的思考から科学的思考へ』（勁草書房、2020年）を教科

### <授業の到達目標>

・論理的（批判的）に思考することができるようになる。・科学的に思考することができるようになる。

### <授業の方法>

反転授業形式を採用する。予習として教科書の指定された部分を読み、そこに含まれる練習問題を解く。授業ではこの予習を踏まえ、教科書の当該部分を教員が簡単に解説したうえで、そこで登場した練習問題に類似した別の問題をグループごとに作成する。そして、この授業中に作成された他グループの問題を自分たちで解き（これが復習に該当する）、その解き方などを次回授業時に発表する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習60分：指定された教科書の部分を読み、ドリル（問題部分）を解く復習60分：別のグループ作成の問題を解き、根拠を伴い説明できるようにしておく（次回授業時に発表を課す）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）およびディプロマポリシー5（情報活用・論理・問題解決力等に関する汎用的技能）と関連づけられている。子どもや保育者・教育関係者との円滑な人間関係形成のために必要な論理的思考力、適切な情報を選択・使用するために必要な科学的思考力を養う。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内評価（60%）、試験（40%）

### <教科書>

植原亮（2020年10月） 思考力改善ドリル—批判的思考から科学的思考へ 勁草書房

### <参考書>

伊勢田哲治（2005年7月）

哲学思考トレーニング筑摩書房門倉貴史（2006年10月）統計数字を疑う—なぜ実感とズレるのか？光文社松永和紀（2007年4月）メディア・バイアス—あやしい健康情報とニセ科学光文社

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション、スキーマとその呪縛	本授業全体の説明、成績評価の基準、教科書の内容紹介。教科書学習内容（第1章）
2	主張や言動の一貫性、二重プロセス理論	教科書学習内容（第2-3章）
3	人物像—代表性バイアス、計算にまつわる直観と熟慮	教科書学習内容（第4-5章）
4	ニュース性と利用可能性バイアス、メディアと情報	教科書学習内容（第6-7章）
5	因果関係の基本、因果関係を正しく把握する（1）—別の原因	教科書学習内容（第8-9章）
6	因果関係を正しく把握する（2）—原因と結果が逆、因果関係を正しく把握する（3）—単なる相関関係との混同	教科書学習内容（第10-11章）
7	因果関係—まとめの問題、対照実験—条件をそろえる	教科書学習内容（第12-13章）
8	対照実験の構造、プラシーボ効果	教科書学習内容（第14-15章）
9	サンプルの偏りとランダム化対照実験、基礎比率を無視するな	教科書学習内容（第16-17章）
10	対照実験とその周辺—まとめの問題、演繹	教科書学習内容（第18-19章）
11	帰納、仮説演繹法	教科書学習内容（第20-21章）
12	科学と反証可能性、非科学・疑似科学（1）—予言	教科書学習内容（第22-23章）
13	非科学・疑似科学（2）—反証逃れの構造、非科学・疑似科学（3）—態度の問題	教科書学習内容（第24-25章）
14	共同事業としての科学、総合的・応用的な問題	教科書学習内容（第26-27章）
15	まとめ	これまで学んできたことの復習、最終試験の説明

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	Jason Witthaus				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	三垣 雅美				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English



科目コード	14206			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)			担当者名	木戸 和彦				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

文献や資料をどう読むのか、レポートなどの文章をどう書くのか、自らの成果をどう発表し、どう議論するのかをより深めていく。これらを通して、卒業に向けて明確な目的を持ちつつ、大学での勉学により主体的に取り組む姿勢を身につける。教員のファシリテーションのもと、文章の読解、要約、作成に関する解説に加え、グループ学習も取り入れる。また、テキストに基づき、語彙や表現の確認テストを毎回実施する。

### <授業の到達目標>

・グループ活動を通して、グループでの活動に必要な姿勢やスキルを学び、コミュニケーション能力を身につける  
 ・文献を読み、その要旨を文章にして読み手に伝えることができる  
 ・要旨に自分の見解を根拠とともに付加し、書評としてまとめることができる  
 ・グループ学習やピアレビューを通して、他者の文章を論評すると同時に、他者からの批評を受けて自分の文章を改善する方法を学び、それを実践することができる

### <授業の方法>

担当者のファシリテートのもと、アクティブラーニングの要素を加えた授業(グループワーク・ディスカッション・スピーチ)授業を展開する。一方的に教員の話聞くのではなく、積極的な発言や報告が求められ、また課題の提出も求められる。レポート提出の際には、GoogleClassroomを活用し、ディスカッションでは、Googleスプレッドシート・Jamboardなどを活用する。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 テキストにもとづいて毎回実施する語彙や表現について的小テストに備える。(30分程度) 2 次回に向けての課題を教員が指定する。効率よくかつ深い学びをするために、事前学習を行う。(1時間程度) 3 授業の振り返りレポート(30分程度)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー4(コミュニケーション能力等の汎用的技能)5(情報活用・論理・問題解決力等に関する汎用的技能)と関連付けられている。単に知識を習得するだけでなく、文献・資料を読み込み、要約したうえで、自身の見解を文章としてまとめ、発表する力を培う。また、グループワークを通じて、コミュニケーション能力の習得をめざす。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席意欲・授業態度 20%、授業プリント 40% 小テスト 20%、期末課題 20% 課題レポート・発表については、テーマごとに自己評価・相互評価も行う。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に影響を与える。

### <教科書>

杉本福二・杉本典子他(2012) 国語必携 パーフェクト演習<三訂版> 尚文出版  
 石塚修他(2017)

日本語表現&コミュニケーション:社会を生きるための21のワーク実教出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義全体の説明・自己紹介・班分け等
2	相手にわかりやすく、正確に伝わる文章を書く①	日本語の文字や言葉についての基本的な知識を整理する。
3	相手にわかりやすく、正確に伝わる文章を書く②	書いた文章を見直し、推敲の習慣を身につける。
4	相手にわかりやすく、正確に伝わる文章を書く③	書き言葉の特徴を理解し、適切な言葉遣いで表現できる。
5	円滑にコミュニケーションをとる方法を学ぶ①	改まった話し方でコミュニケーションできる。
6	円滑にコミュニケーションをとる方法を学ぶ②	書き言葉・話し言葉に特有の敬語を理解し、使うことができる。
7	相手に説明したり、説得したりする方法を学ぶ①	相手の話を正確に聴き、自分の主張を分かりやすく伝える。
8	相手に説明したり、説得したりする方法を学ぶ②	キーワードとなる言葉の意味を定義し、説明できる。
9	相手に説明したり、説得したりする方法を学ぶ③	相手を説得するために、根拠を示したり、表やグラフを示したりすることができる。
10	意見文	新聞などの書評を読んだ感想を書いて、グループで交換し合う。
11	小論文①	「事実」と「意見」の区別を考え、小論文の構成を考えて書く。
12	小論文②	資料を読み取って情報を整理する。ディベート活動。
13	小論文③	構想をまとめ小論文の中に反論を組み入れる。
14	総復習と省察	基本的な文章作成のまとめ。総復習と振り返り。
15	期末課題	テーマに沿って小論文を作成する。

科目コード	14206				区分	教養科目			
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)				担当者名	赤松 久美子			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

文献や資料をどう読むのか、レポートなどの文章をどう書くのか、自らの成果をどう発表し、どう議論するのかをより深めていく。これらを通して、卒業に向けて明確な目的を持ちつつ、大学での勉学により主体的に取り組む姿勢を身につける。教員のファシリテーションのもと、文章の読解、要約、作成に関する解説に加え、グループ学習も取り入れる。また、テキストに基づき、語彙や表現の確認テストを毎回実施する。

### <授業の到達目標>

・グループ活動を通して、グループでの活動に必要な姿勢やスキルを学び、コミュニケーション能力を身につける  
 ・文献を読み、その要旨を文章にして読み手に伝えることができる  
 ・要旨に自分の見解を根拠とともに付加し、書評としてまとめることができる  
 ・グループ学習やピアレビューを通して、他者の文章を論評すると同時に、他者からの批評を受けて自分の文章を改善する方法を学び、それを実践することができる

### <授業の方法>

担当者のファシリテートのもと、アクティブラーニングの要素を加えた授業(グループワーク・ディスカッション・スピーチ)授業を展開する。一方的に教員の話聞くのではなく、積極的な発言や報告が求められ、また課題の提出も求められる。レポート提出の際には、GoogleClassroomを活用し、ディスカッションでは、Googleスプレッドシート・Jamboardなどを活用する。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 テキストにもとづいて毎回実施する語彙や表現について的小テストに備える。(30分程度) 2 次回に向けての課題を教員が指定する。効率よくかつ深い学びをするために、事前学習を行う。(1時間程度) 3 授業の振り返りレポート(30分程度)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー4(コミュニケーション能力等の汎用的技能)5(情報活用・論理・問題解決力等に関する汎用的技能)と関連付けられている。単に知識を習得するだけでなく、文献・資料を読み込み、要約したうえで、自身の見解を文章としてまとめ、発表する力を培う。また、グループワークを通じて、コミュニケーション能力の習得をめざす。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席意欲・授業態度 20%、授業プリント 40% 小テスト 20%、期末課題 20% 課題レポート・発表については、テーマごとに自己評価・相互評価も行う。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に影響を与える。

### <教科書>

杉本福二・杉本典子他(2012) 国語必携 パーフェクト演習<三訂版> 尚文出版

石塚修他(2017)

日本語表現&コミュニケーション:社会を生きるための21のワーク実教出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義全体の説明・自己紹介・班分け等
2	相手にわかりやすく、正確に伝わる文章を書く①	日本語の文字や言葉についての基本的な知識を整理する。
3	相手にわかりやすく、正確に伝わる文章を書く②	書いた文章を見直し、推敲の習慣を身につける。
4	相手にわかりやすく、正確に伝わる文章を書く③	書き言葉の特徴を理解し、適切な言葉遣いで表現できる。
5	円滑にコミュニケーションをとる方法を学ぶ①	改まった話し方でコミュニケーションできる。
6	円滑にコミュニケーションをとる方法を学ぶ②	書き言葉・話し言葉に特有の敬語を理解し、使うことができる。
7	相手に説明したり、説得したりする方法を学ぶ①	相手の話を正確に聴き、自分の主張を分かりやすく伝える。
8	相手に説明したり、説得したりする方法を学ぶ②	キーワードとなる言葉の意味を定義し、説明できる。
9	相手に説明したり、説得したりする方法を学ぶ③	相手を説得するために、根拠を示したり、表やグラフを示したりすることができる。
10	意見文	新聞などの書評を読んだ感想を書いて、グループで交換し合う。
11	小論文①	「事実」と「意見」の区別を考え、小論文の構成を考えて書く。
12	小論文②	資料を読み取って情報を整理する。ディベート活動。
13	小論文③	構想をまとめ小論文の中に反論を組み入れる。
14	総復習と省察	基本的な文章作成のまとめ。総復習と振り返り。
15	期末課題	テーマに沿って小論文を作成する。

科目コード	14206				区分	教養科目			
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)				担当者名	高橋 純一			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

文献や資料をどう読むのか、レポートなどの文章をどう書くのか、自らの成果をどう発表し、どう議論するのかをより深めていく。これらを通して、卒業に向けて明確な目的を持ちつつ、大学での勉学により主体的に取り組む姿勢を身につける。教員のファシリテーションのもと、文章の読解、要約、作成に関する解説に加え、グループ学習も取り入れる。また、テキストに基づき、語彙や表現の確認テストを毎回実施する。

### <授業の到達目標>

・グループ活動を通して、グループでの活動に必要な姿勢やスキルを学び、コミュニケーション能力を身につける  
 ・文献を読み、その要旨を文章にして読み手に伝えることができる  
 ・要旨に自分の見解を根拠とともに付加し、書評としてまとめることができる  
 ・グループ学習やピアレビューを通して、他者の文章を論評すると同時に、他者からの批評を受けて自分の文章を改善する方法を学び、それを実践することができる

### <授業の方法>

担当者のファシリテートのもと、アクティブラーニングの要素を加えた授業(グループワーク・ディスカッション・スピーチ)授業を展開する。一方的に教員の話聞くのではなく、積極的な発言や報告が求められ、また課題の提出も求められる。レポート提出の際には、GoogleClassroomを活用し、ディスカッションでは、Googleスプレッドシート・Jamboardなどを活用する。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 テキストにもとづいて毎回実施する語彙や表現について的小テストに備える。(30分程度) 2 次回に向けての課題を教員が指定する。効率よくかつ深い学びをするために、事前学習を行う。(1時間程度) 3 授業の振り返りレポート(30分程度)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー4(コミュニケーション能力等の汎用的技能)5(情報活用・論理・問題解決力等に関する汎用的技能)と関連付けられている。単に知識を習得するだけでなく、文献・資料を読み込み、要約したうえで、自身の見解を文章としてまとめ、発表する力を培う。また、グループワークを通じて、コミュニケーション能力の習得をめざす。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席意欲・授業態度 20%、授業プリント 40% 小テスト 20%、期末課題 20% 課題レポート・発表については、テーマごとに自己評価・相互評価も行う。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に影響を与える。

### <教科書>

杉本福二・杉本典子他(2012) 国語必携 パーフェクト演習<三訂版> 尚文出版

石塚修他(2017)

日本語表現&コミュニケーション:社会を生きるための21のワーク実教出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義全体の説明・自己紹介・班分け等
2	相手にわかりやすく、正確に伝わる文章を書く①	日本語の文字や言葉についての基本的な知識を整理する。
3	相手にわかりやすく、正確に伝わる文章を書く②	書いた文章を見直し、推敲の習慣を身につける。
4	相手にわかりやすく、正確に伝わる文章を書く③	書き言葉の特徴を理解し、適切な言葉遣いで表現できる。
5	円滑にコミュニケーションをとる方法を学ぶ①	改まった話し方でコミュニケーションできる。
6	円滑にコミュニケーションをとる方法を学ぶ②	書き言葉・話し言葉に特有の敬語を理解し、使うことができる。
7	相手に説明したり、説得したりする方法を学ぶ①	相手の話を正確に聴き、自分の主張を分かりやすく伝える。
8	相手に説明したり、説得したりする方法を学ぶ②	キーワードとなる言葉の意味を定義し、説明できる。
9	相手に説明したり、説得したりする方法を学ぶ③	相手を説得するために、根拠を示したり、表やグラフを示したりすることができる。
10	意見文	新聞などの書評を読んだ感想を書いて、グループで交換し合う。
11	小論文①	「事実」と「意見」の区別を考え、小論文の構成を考えて書く。
12	小論文②	資料を読み取って情報を整理する。ディベート活動。
13	小論文③	構想をまとめ小論文の中に反論を組み入れる。
14	総復習と省察	基本的な文章作成のまとめ。総復習と振り返り。
15	期末課題	テーマに沿って小論文を作成する。

科目コード	14206			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)			担当者名	伊藤 宏				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

文献や資料をどう読むのか、レポートなどの文章をどう書くのか、自らの成果をどう発表し、どう議論するのかをより深めていく。これらを通して、卒業に向けて明確な目的を持ちつつ、大学での勉学により主体的に取り組む姿勢を身につける。教員のファシリテーションのもと、文章の読解、要約、作成に関する解説に加え、グループ学習も取り入れる。また、テキストに基づき、語彙や表現の確認テストを毎回実施する。

### <授業の到達目標>

・グループ活動を通して、グループでの活動に必要な姿勢やスキルを学び、コミュニケーション能力を身につける  
 ・文献を読み、その要旨を文章にして読み手に伝えることができる  
 ・要旨に自分の見解を根拠とともに付加し、書評としてまとめることができる  
 ・グループ学習やピアレビューを通して、他者の文章を論評すると同時に、他者からの批評を受けて自分の文章を改善する方法を学び、それを実践することができる

### <授業の方法>

担当者のファシリテートのもと、アクティブラーニングの要素を加えた授業(グループワーク・ディスカッション・スピーチ)授業を展開する。一方的に教員の話聞くのではなく、積極的な発言や報告が求められ、また課題の提出も求められる。レポート提出の際には、GoogleClassroomを活用し、ディスカッションでは、Googleスプレッドシート・Jamboardなどを活用する。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 テキストにもとづいて毎回実施する語彙や表現について的小テストに備える。(30分程度) 2 次回に向けての課題を教員が指定する。効率よくかつ深い学びをするために、事前学習を行う。(1時間程度) 3 授業の振り返りレポート(30分程度)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー4(コミュニケーション能力等の汎用的技能)5(情報活用・論理・問題解決力等に関する汎用的技能)と関連付けられている。単に知識を習得するだけでなく、文献・資料を読み込み、要約したうえで、自身の見解を文章としてまとめ、発表する力を培う。また、グループワークを通じて、コミュニケーション能力の習得をめざす。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席意欲・授業態度 20%、授業プリント 40% 小テスト 20%、期末課題 20% 課題レポート・発表については、テーマごとに自己評価・相互評価も行う。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に影響を与える。

### <教科書>

杉本福二・杉本典子他(2012) 国語必携 パーフェクト演習<三訂版> 尚文出版  
 石塚修他(2017)

日本語表現&コミュニケーション:社会を生きるための21のワーク実教出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義全体の説明・自己紹介・班分け等
2	相手にわかりやすく、正確に伝わる文章を書く①	日本語の文字や言葉についての基本的な知識を整理する。
3	相手にわかりやすく、正確に伝わる文章を書く②	書いた文章を見直し、推敲の習慣を身につける。
4	相手にわかりやすく、正確に伝わる文章を書く③	書き言葉の特徴を理解し、適切な言葉遣いで表現できる。
5	円滑にコミュニケーションをとる方法を学ぶ①	改まった話し方でコミュニケーションできる。
6	円滑にコミュニケーションをとる方法を学ぶ②	書き言葉・話し言葉に特有の敬語を理解し、使うことができる。
7	相手に説明したり、説得したりする方法を学ぶ①	相手の話を正確に聴き、自分の主張を分かりやすく伝える。
8	相手に説明したり、説得したりする方法を学ぶ②	キーワードとなる言葉の意味を定義し、説明できる。
9	相手に説明したり、説得したりする方法を学ぶ③	相手を説得するために、根拠を示したり、表やグラフを示したりすることができる。
10	意見文	新聞などの書評を読んだ感想を書いて、グループで交換し合う。
11	小論文①	「事実」と「意見」の区別を考え、小論文の構成を考えて書く。
12	小論文②	資料を読み取って情報を整理する。ディベート活動。
13	小論文③	構想をまとめ小論文の中に反論を組み入れる。
14	総復習と省察	基本的な文章作成のまとめ。総復習と振り返り。
15	期末課題	テーマに沿って小論文を作成する。

科目コード	14206				区分	教養科目			
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)				担当者名	細井 健			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

文献や資料をどう読むのか、レポートなどの文章をどう書くのか、自らの成果をどう発表し、どう議論するのかをより深めていく。これらを通して、卒業に向けて明確な目的を持ちつつ、大学での勉学により主体的に取り組む姿勢を身につける。教員のファシリテーションのもと、文章の読解、要約、作成に関する解説に加え、グループ学習も取り入れる。また、テキストに基づき、語彙や表現の確認テストを毎回実施する。

### <授業の到達目標>

・グループ活動を通して、グループでの活動に必要な姿勢やスキルを学び、コミュニケーション能力を身につける  
 ・文献を読み、その要旨を文章にして読み手に伝えることができる  
 ・要旨に自分の見解を根拠とともに付加し、書評としてまとめることができる  
 ・グループ学習やピアレビューを通して、他者の文章を論評すると同時に、他者からの批評を受けて自分の文章を改善する方法を学び、それを実践することができる

### <授業の方法>

担当者のファシリテートのもと、アクティブラーニングの要素を加えた授業(グループワーク・ディスカッション・スピーチ)授業を展開する。一方的に教員の話聞くのではなく、積極的な発言や報告が求められ、また課題の提出も求められる。レポート提出の際には、GoogleClassroomを活用し、ディスカッションでは、Googleスプレッドシート・Jamboardなどを活用する。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 テキストにもとづいて毎回実施する語彙や表現について的小テストに備える。(30分程度) 2 次回に向けての課題を教員が指定する。効率よくかつ深い学びをするために、事前学習を行う。(1時間程度) 3 授業の振り返りレポート(30分程度)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー4(コミュニケーション能力等の汎用的技能)5(情報活用・論理・問題解決力等に関する汎用的技能)と関連付けられている。単に知識を習得するだけでなく、文献・資料を読み込み、要約したうえで、自身の見解を文章としてまとめ、発表する力を培う。また、グループワークを通じて、コミュニケーション能力の習得をめざす。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席意欲・授業態度 20%、授業プリント 40% 小テスト 20%、期末課題 20% 課題レポート・発表については、テーマごとに自己評価・相互評価も行う。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に影響を与える。

### <教科書>

杉本福二・杉本典子他(2012) 国語必携 パーフェクト演習<三訂版> 尚文出版  
 石塚修他(2017)

日本語表現&コミュニケーション:社会を生きるための21のワーク実教出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義全体の説明・自己紹介・班分け等
2	相手にわかりやすく、正確に伝わる文章を書く①	日本語の文字や言葉についての基本的な知識を整理する。
3	相手にわかりやすく、正確に伝わる文章を書く②	書いた文章を見直し、推敲の習慣を身につける。
4	相手にわかりやすく、正確に伝わる文章を書く③	書き言葉の特徴を理解し、適切な言葉遣いで表現できる。
5	円滑にコミュニケーションをとる方法を学ぶ①	改まった話し方でコミュニケーションできる。
6	円滑にコミュニケーションをとる方法を学ぶ②	書き言葉・話し言葉に特有の敬語を理解し、使うことができる。
7	相手に説明したり、説得したりする方法を学ぶ①	相手の話を正確に聴き、自分の主張を分かりやすく伝える。
8	相手に説明したり、説得したりする方法を学ぶ②	キーワードとなる言葉の意味を定義し、説明できる。
9	相手に説明したり、説得したりする方法を学ぶ③	相手を説得するために、根拠を示したり、表やグラフを示したりすることができる。
10	意見文	新聞などの書評を読んだ感想を書いて、グループで交換し合う。
11	小論文①	「事実」と「意見」の区別を考え、小論文の構成を考えて書く。
12	小論文②	資料を読み取って情報を整理する。ディベート活動。
13	小論文③	構想をまとめ小論文の中に反論を組み入れる。
14	総復習と省察	基本的な文章作成のまとめ。総復習と振り返り。
15	期末課題	テーマに沿って小論文を作成する。

科目コード	14206				区分	教養科目			
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)				担当者名	楠本 信治			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

文献や資料をどう読むのか、レポートなどの文章をどう書くのか、自らの成果をどう発表し、どう議論するのかをより深めていく。これらを通して、卒業に向けて明確な目的を持ちつつ、大学での勉学により主体的に取り組む姿勢を身につける。教員のファシリテーションのもと、文章の読解、要約、作成に関する解説に加え、グループ学習も取り入れる。また、テキストに基づき、語彙や表現の確認テストを毎回実施する。

### <授業の到達目標>

・グループ活動を通して、グループでの活動に必要な姿勢やスキルを学び、コミュニケーション能力を身につける  
 ・文献を読み、その要旨を文章にして読み手に伝えることができる  
 ・要旨に自分の見解を根拠とともに付加し、書評としてまとめることができる  
 ・グループ学習やピアレビューを通して、他者の文章を論評すると同時に、他者からの批評を受けて自分の文章を改善する方法を学び、それを実践することができる

### <授業の方法>

担当者のファシリテートのもと、アクティブラーニングの要素を加えた授業(グループワーク・ディスカッション・スピーチ)授業を展開する。一方的に教員の話聞くのではなく、積極的な発言や報告が求められ、また課題の提出も求められる。レポート提出の際には、GoogleClassroomを活用し、ディスカッションでは、Googleスプレッドシート・Jamboardなどを活用する。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 テキストにもとづいて毎回実施する語彙や表現についての小テストに備える。(30分程度) 2 次回に向けての課題を教員が指定する。効率よくかつ深い学びをするために、事前学習を行う。(1時間程度) 3 授業の振り返りレポート(30分程度)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー4(コミュニケーション能力等の汎用的技能)5(情報活用・論理・問題解決力等に関する汎用的技能)と関連付けられている。単に知識を習得するだけでなく、文献・資料を読み込み、要約したうえで、自身の見解を文章としてまとめ、発表する力を培う。また、グループワークを通じて、コミュニケーション能力の習得をめざす。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席意欲・授業態度 20%、授業プリント 40% 小テスト 20%、期末課題 20% 課題レポート・発表については、テーマごとに自己評価・相互評価も行う。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に影響を与える。

### <教科書>

杉本福二・杉本典子他(2012) 国語必携 パーフェクト演習<三訂版> 尚文出版  
 石塚修他(2017)

日本語表現&コミュニケーション:社会を生きるための21のワーク実教出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義全体の説明・自己紹介・班分け等
2	相手にわかりやすく、正確に伝わる文章を書く①	日本語の文字や言葉についての基本的な知識を整理する。
3	相手にわかりやすく、正確に伝わる文章を書く②	書いた文章を見直し、推敲の習慣を身につける。
4	相手にわかりやすく、正確に伝わる文章を書く③	書き言葉の特徴を理解し、適切な言葉遣いで表現できる。
5	円滑にコミュニケーションをとる方法を学ぶ①	改まった話し方でコミュニケーションできる。
6	円滑にコミュニケーションをとる方法を学ぶ②	書き言葉・話し言葉に特有の敬語を理解し、使うことができる。
7	相手に説明したり、説得したりする方法を学ぶ①	相手の話を正確に聴き、自分の主張を分かりやすく伝える。
8	相手に説明したり、説得したりする方法を学ぶ②	キーワードとなる言葉の意味を定義し、説明できる。
9	相手に説明したり、説得したりする方法を学ぶ③	相手を説得するために、根拠を示したり、表やグラフを示したりすることができる。
10	意見文	新聞などの書評を読んだ感想を書いて、グループで交換し合う。
11	小論文①	「事実」と「意見」の区別を考え、小論文の構成を考えて書く。
12	小論文②	資料を読み取って情報を整理する。ディベート活動。
13	小論文③	構想をまとめ小論文の中に反論を組み入れる。
14	総復習と省察	基本的な文章作成のまとめ。総復習と振り返り。
15	期末課題	テーマに沿って小論文を作成する。

科目コード	14206				区分	教養科目			
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)				担当者名	中西 紘士			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

文献や資料をどう読むのか、レポートなどの文章をどう書くのか、自らの成果をどう発表し、どう議論するのかをより深めていく。これらを通して、卒業に向けて明確な目的を持ちつつ、大学での勉学により主体的に取り組む姿勢を身につける。教員のファシリテーションのもと、文章の読解、要約、作成に関する解説に加え、グループ学習も取り入れる。また、テキストに基づき、語彙や表現の確認テストを毎回実施する。

### <授業の到達目標>

・グループ活動を通して、グループでの活動に必要な姿勢やスキルを学び、コミュニケーション能力を身につける  
 ・文献を読み、その要旨を文章にして読み手に伝えることができる  
 ・要旨に自分の見解を根拠とともに付加し、書評としてまとめることができる  
 ・グループ学習やピアレビューを通して、他者の文章を論評すると同時に、他者からの批評を受けて自分の文章を改善する方法を学び、それを実践することができる

### <授業の方法>

担当者のファシリテートのもと、アクティブラーニングの要素を加えた授業(グループワーク・ディスカッション・スピーチ)授業を展開する。一方的に教員の話聞くのではなく、積極的な発言や報告が求められ、また課題の提出も求められる。レポート提出の際には、GoogleClassroomを活用し、ディスカッションでは、Googleスプレッドシート・Jamboardなどを活用する。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 テキストにもとづいて毎回実施する語彙や表現について的小テストに備える。(30分程度) 2 次回に向けての課題を教員が指定する。効率よくかつ深い学びをするために、事前学習を行う。(1時間程度) 3 授業の振り返りレポート(30分程度)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー4(コミュニケーション能力等の汎用的技能)5(情報活用・論理・問題解決力等に関する汎用的技能)と関連付けられている。単に知識を習得するだけでなく、文献・資料を読み込み、要約したうえで、自身の見解を文章としてまとめ、発表する力を培う。また、グループワークを通じて、コミュニケーション能力の習得をめざす。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席意欲・授業態度 20%、授業プリント 40% 小テスト 20%、期末課題 20% 課題レポート・発表については、テーマごとに自己評価・相互評価も行う。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に影響を与える。

### <教科書>

杉本福二・杉本典子他(2012) 国語必携 パーフェクト演習<三訂版> 尚文出版

石塚修他(2017)

日本語表現&コミュニケーション:社会を生きるための21のワーク実教出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	講義全体の説明・自己紹介・班分け等
2	相手にわかりやすく、正確に伝わる文章を書く①	日本語の文字や言葉についての基本的な知識を整理する。
3	相手にわかりやすく、正確に伝わる文章を書く②	書いた文章を見直し、推敲の習慣を身につける。
4	相手にわかりやすく、正確に伝わる文章を書く③	書き言葉の特徴を理解し、適切な言葉遣いで表現できる。
5	円滑にコミュニケーションをとる方法を学ぶ①	改まった話し方でコミュニケーションできる。
6	円滑にコミュニケーションをとる方法を学ぶ②	書き言葉・話し言葉に特有の敬語を理解し、使うことができる。
7	相手に説明したり、説得したりする方法を学ぶ①	相手の話を正確に聴き、自分の主張を分かりやすく伝える。
8	相手に説明したり、説得したりする方法を学ぶ②	キーワードとなる言葉の意味を定義し、説明できる。
9	相手に説明したり、説得したりする方法を学ぶ③	相手を説得するために、根拠を示したり、表やグラフを示したりすることができる。
10	意見文	新聞などの書評を読んだ感想を書いて、グループで交換し合う。
11	小論文①	「事実」と「意見」の区別を考え、小論文の構成を考えて書く。
12	小論文②	資料を読み取って情報を整理する。ディベート活動。
13	小論文③	構想をまとめ小論文の中に反論を組み入れる。
14	総復習と省察	基本的な文章作成のまとめ。総復習と振り返り。
15	期末課題	テーマに沿って小論文を作成する。

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	Jason Witthaus				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English



科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	三垣 雅美				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	10104			区分	教養科目				
授業科目名	体育理論			担当者名	梶谷 亮輔				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本講義では、体育の理論を学ぶことにより、健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的な運動実践が必要であることを明らかにする。理論では、メンタルヘルス及び生活習慣病予防や心身相関について理解をし運動や健康の維持、増進のために必要な体力などに関する講義を行う。

#### <授業の到達目標>

体育の理論を学ぶことにより、自分自身の健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的な運動実践ができるようになることを目標とする。

#### <授業の方法>

必要に応じて資料を配布し、体育理論の解説・講義を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

適宜紹介及び配布したテキストの熟読並びに理解を促す。授業には、各先生の専門学問についての内容を理解してから、授業に参加すること（1時間程度の予習）が求められる。さらには、当該授業から引き出された課題について、図書館およびインターネットなどから多くの専門的情報を収集する（2時間程度の復習）が求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

体育・スポーツの基本理念を学ぶことにより、一般教養科目のディプロマポリシー②専門分野に関する知識・理解能力を身に付けることができる。また、生涯にわたって体育・スポーツの能力を養うことで⑥自律や社会性等に関する態度・指向性を身に付けることもできる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（積極性・相互促進性等）を50%、出席レポート、テストを50%で評価する。

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	考えてみよう私たちと運動	自己の健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的に運動を実践できることを学ぶ。
2	身につけよう運動	体育理論の実践と方法として様々な観点から身体に及ぼす効果について学習する。
3	学校における体育の役割	身体活動が児童の発達や望ましい社会生活に貢献しうる能力を持たせる重要な役割であることを学ぶ。
4	見つめよう心と体	学校教育における体育の実践と方法を学ぶ。心と体の相関関係、欲求やストレスの対処法を学び、体ほぐし運動を解明する。
5	運動と栄養	運動、栄養は栄養管理することを大前提として、パフォーマンスを上げる「運動と栄養の4つの基本」を学ぶ。
6	生活習慣病の種類とその予防	日本の三大死因である癌・脳卒中・心臓病の原因となる高血圧、高脂血症、糖尿病の要因について学び、食生活、運動不足、飲酒、喫煙の重要性および、その予防について学ぶ。
7	脳と身体つながり	脳と身体の関係性について学び、頭を使えば身体もよくなり、身体を鍛えれば脳も発達していくことを学ぶ。
8	生涯スポーツの意義	今あらためてスポーツとは何なのか、なぜ人はスポーツを続けていくのか？私たちにとってスポーツとは？を学び、テストを実施する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目コード	10104			区分	教養科目				
授業科目名	体育理論			担当者名	和所 泰史				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本講義では、体育の理論を学ぶことにより、健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的な運動実践が必要であることを明らかにする。理論では、メンタルヘルス及び生活習慣病予防や心身相関について理解をし運動や健康の維持、増進のために必要な体力などに関する講義を行う。

#### <授業の到達目標>

体育の理論を学ぶことにより、自分自身の健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的な運動実践ができるようになることを目標とする。

#### <授業の方法>

必要に応じて資料を配布し、体育理論の解説・講義を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

適宜紹介及び配布したテキストの熟読並びに理解を促す。授業には、各先生の専門学問についての内容を理解してから、授業に参加すること（1時間程度の予習）が求められる。さらには、当該授業から引き出された課題について、図書館およびインターネットなどから多くの専門的情報を収集する（2時間程度の復習）が求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

体育・スポーツの基本理念を学ぶことにより、一般教養科目のディプロマポリシー②専門分野に関する知識・理解能力を身に付けることができる。また、生涯にわたって体育・スポーツの能力を養うことで⑥自律や社会性等に関する態度・指向性を身に付けることもできる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（積極性・相互促進性等）を50%、出席レポート、テストを50%で評価する。

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	考えてみよう私たちと運動	自己の健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的に運動を実践できることを学ぶ。
2	身につけよう運動	体育理論の実践と方法として様々な観点から身体に及ぼす効果について学習する。
3	学校における体育の役割	身体活動が児童の発達や望ましい社会生活に貢献しうる能力を持たせる重要な役割であることを学ぶ。
4	見つめよう心と体	学校教育における体育の実践と方法を学ぶ。心と体の相関関係、欲求やストレスの対処法を学び、体ほぐし運動を解明する。
5	運動と栄養	運動、栄養は栄養管理することを大前提として、パフォーマンスを上げる「運動と栄養の4つの基本」を学ぶ。
6	生活習慣病の種類とその予防	日本の三大死因である癌・脳卒中・心臓病の原因となる高血圧、高脂血症、糖尿病の要因について学び、食生活、運動不足、飲酒、喫煙の重要性および、その予防について学ぶ。
7	脳と身体つながり	脳と身体の関係性について学び、頭を使えば身体もよくなり、身体を鍛えれば脳も発達していくことを学ぶ。
8	生涯スポーツの意義	今あらためてスポーツとは何なのか、なぜ人はスポーツを続けていくのか？私たちにとってスポーツとは？を学び、テストを実施する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目コード	11402				区分	教養			
授業科目名	倫理学（宗教を含む）				担当者名	酒井 健太郎			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

違法ダウンロードや企業の不正、デザイナーベイビーについての賛否など、現代社会は様々な問題にあふれている。法律のみでは太刀打ちできないこれらの問題の内実を明確化し、解決策について議論するのが「応用倫理学」という学問である。本講義は、情報倫理、企業倫理、生命倫理、そして動物倫理といった様々な観点から、応用倫理学全体を俯瞰することを目的とする。また、倫理的問題を考察するには、その背後にある宗教的議論を理解しておくことも必要不可欠である。いわゆる「無宗教」を標榜する現代の日本人の大多数がクリスマスやお盆を代表とす

### <授業の到達目標>

(1) 現実社会における様々な倫理的問題について理解し説明することができる。(2) 自身で倫理的問題を発見し、それを解決しようという態度を持つことができる。

### <授業の方法>

講義を中心に行う。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：その授業回で扱うトピックについて調べ自分なりの考えを持っておく。(1時間) 復習：授業内で提示された参考文献を熟読することで当該トピックについての理解を深める。(1時間)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教養科目ディプロマポリシー②(専門分野に関する知識・理解)と⑥(自律や社会性に関する態度・指向性)に関連付けられています。教養ある人に必須の倫理学という学問を専門的に学び、それを応用倫理学として展開することで社会に潜む倫理的問題を発見・解決する態度・指向性を身につけていきます。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業内評価30%、期末試験70%

### <教科書>

### <参考書>

児玉聡(2020年2月)

実践・倫理学——現代の問題を考えるために勁草書房品川哲彦(2020年7月) 倫理学入門——アリストテレスから生殖技術、AIまで中央公論新社伊勢田哲治(2008年11月) 動物からの倫理学入門名古屋大学出版会

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	本講義全体の流れと「応用倫理学」という学問についての概説を行う
2	宗教I	世界四大宗教について理解する。
3	宗教II	世界四大宗教について理解する。
4	情報倫理I	プライバシー概念とそれに関わる問題を理解する。
5	情報倫理II	知的所有権とそれに関わる問題を理解する。
6	情報倫理III	メディアリテラシーとそれに関わる問題を理解する。
7	企業倫理I	企業の社会的責任について考察する。
8	企業倫理II	企業における雇用と差別の問題について考察する。
9	インターバル	講義前半部の復習を行い、レポートの書き方を理解する。
10	生命倫理I	移植医療とそれに関わる問題を理解する。
11	生命倫理II	人工妊娠中絶とそれに関わる問題を理解する。
12	生命倫理III	遺伝子診断とそれに関わる問題を理解する。
13	動物倫理I	ペットや動物園の存在を手掛かりに、人と動物の関係について考察する。
14	動物倫理II	肉食問題と菜食主義について考察する。
15	コンクルージョン	講義全体の復習を行い、「応用倫理学」という学問について再考する。

科目コード	10116			区分	教養科目				
授業科目名	英語 I			担当者名	Jason Witthaus				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

初級～中レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。身近な話題について標準的な話し方であれば、その要点が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 2 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting to know you	Talking about favorite places and colors; describing personalities; discussing and using icebreakers
3	Unit 2: Making a good impression	Talking about first impressions; role-playing meeting new people and phone conversations; giving and taking messages
4	Unit 3: Food and cooking	Discussing foods and cooking techniques; talking about restaurant meals; role-playing restaurant conversations
5	Unit 4: Weather	Talking about weather and seasons; describing extreme weather experiences; giving advice about extreme weather
6	Unit 5: Working for a living	Talking about job likes and dislikes; describing job experiences; talking about what's important in a job
7	Unit 6: Leisure time	Describing hobbies and interests; discussing chores; talking about typical activities; making weekend plans
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Sports and games	Talking about participation in sports; conducting interviews about sports; discussing and playing games
10	Unit 8: Transportation and travel	Discussing traffic and transportation problems; talking about different ways to travel; planning a trip
11	Unit 9: Vacation time	Talking about past vacations; describing perfect vacations; discussing tourist attractions
12	Unit 10: Inventions and gadgets	Describing gadgets and their uses; discussing product features; explaining a new invention
13	Unit 11: The environment	Talking about animals and plants; discussing environmental problems and solutions
14	Unit 12: News and current events	Talking about news stories and sources; telling a story; discussing a current-events survey
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	10116			区分	教養科目				
授業科目名	英語 I			担当者名	三垣 雅美				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

初級～中レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。身近な話題について標準的な話し方であれば、その要点が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 2 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting to know you	Talking about favorite places and colors; describing personalities; discussing and using icebreakers
3	Unit 2: Making a good impression	Talking about first impressions; role-playing meeting new people and phone conversations; giving and taking messages
4	Unit 3: Food and cooking	Discussing foods and cooking techniques; talking about restaurant meals; role-playing restaurant conversations
5	Unit 4: Weather	Talking about weather and seasons; describing extreme weather experiences; giving advice about extreme weather
6	Unit 5: Working for a living	Talking about job likes and dislikes; describing job experiences; talking about what's important in a job
7	Unit 6: Leisure time	Describing hobbies and interests; discussing chores; talking about typical activities; making weekend plans
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Sports and games	Talking about participation in sports; conducting interviews about sports; discussing and playing games
10	Unit 8: Transportation and travel	Discussing traffic and transportation problems; talking about different ways to travel; planning a trip
11	Unit 9: Vacation time	Talking about past vacations; describing perfect vacations; discussing tourist attractions
12	Unit 10: Inventions and gadgets	Describing gadgets and their uses; discussing product features; explaining a new invention
13	Unit 11: The environment	Talking about animals and plants; discussing environmental problems and solutions
14	Unit 12: News and current events	Talking about news stories and sources; telling a story; discussing a current-events survey
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	Jason Witthaus				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	三垣 雅美				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English



科目コード	13103				区分	教養科目			
授業科目名	日本の伝統文化				担当者名	藤原 章楷			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

日本の伝統文化は幅広く、伝統行事や伝統芸能の分野も包含される中で、その歴史、現状と課題、将来展望等について、体験を交えながら精神構造も含めて考察し、理解を深める。

#### <授業の到達目標>

次のことを通じて、日本の伝統文化の幅広さを理解し、その一端を具体的に話すことができる。ア 全国各地の特色ある伝統文化について視野を広くする イ「備前焼」や「後楽園」など、岡山の様々な伝統文化についても知識を深める。ウ「書道」の用具の重要性を学び、毛筆を用いて「半紙」に表現する

#### <授業の方法>

講義形式であるが、日本の伝統文化を深く理解するために、体験活動等も取り入れる。資料については適宜配布する。

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各テーマの理解を深めるために、書籍、あるいはインターネットなどを活用して、事前学習をする。また、振り返りレポートを提出する(1時間程度)。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

国際社会に生きる社会人として必要な自国文化への理解、とりわけ日本の伝統文化について理解する。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義後の課題レポート提出：講義1～4、8～14回で各5点、講義(5・6・7)書道作品提出25点(5・6は各5点、7は15点)、講義最終15回目の期末試験20点

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	日本の伝統文化概論(1)	芸道、芸能、衣食住、伝統行事等の「日本の伝統文化」の概括説明
2	日本の伝統文化概論(2)	伝統文化とスポーツ。剣道、弓道、相撲、水泳と素材(木・竹など)
3	岡山県の陶芸	備前焼の歴史と特徴
4	書道(1)	書道概論、文房四宝などの用具・用材の説明
5	書道(2)	毛筆による体験(半紙にひらがな、カタカナを書く)
6	書道(3)	毛筆による体験(半紙に漢字を書く、楷書・行書)
7	書道(4)	毛筆による体験(半紙に創作表現)
8	後楽園	回遊式庭園美、構造物(延養亭、茶室、能舞台)、茶園、鶴、馬場
9	伝統工芸	着物、人形、陶芸・工芸(金工、木工)など。民芸
10	祭り(1)	雛祭り、花見、端午の節句、七夕、夏祭り、盆踊り、花火
11	祭り(2)	出初、節分、西大寺会陽、「誕生寺」練供養、神楽、山車、民謡、下津井節
12	食	稲作と伝統行事、赤飯、日本酒。発酵食品、和食、箸(マイ箸)
13	正月関連の伝統行事	正月準備、餅つき、年越しそばと雑煮。門松、凧、独楽、羽子板
14	伝統文学	年賀状、書初め、俳句(芭蕉・蕪村・一茶)、川柳
15	伝統文化の将来展望、期末試験	花鳥風月、首里城、素材と後継者。食文化、国際化、百年樹人、期末試験

科目コード	13202			区分	教養				
授業科目名	政治・経済学			担当者名	藤田 依久子				
配当年次	0	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では、私たちと政治や経済との関わり合いについて理解することを目的とする。私たちの暮らす社会はどのような方向に向かっているのか、今の社会でいったい何が起きているのか、現在起きている出来事から政治と経済のしくみについて紐解き、解説していく。私たちの生活に影響を与える政治や経済の政策は、どのような仕組みで決まっているのか、現代政治や経済を理解するための基本的な考え方や概念を整理する。我が国の政治や経済について、様々な側面から検討することによって、学生は現代の政治・経済の基本的な仕組みを理解し考察できる

### <授業の到達目標>

基礎的なことからの修得を中心としているが、同時に歴史的な背景を学ぶことによって、奥行きのある理解を目指す。政治や経済についての基本的な考え方や事実について学ぶことを通じて、学生は政治や経済についての根幹の知識と教養を身につけ、さらに発展的な学習を進めるための基礎を習得できる。現在起きている様々な政治や経済の事象を読み解く視座を涵養するとともに、国際社会から見た日本について考える視点の習得を目指す。

### <授業の方法>

講義を基本とする。受講者の人数によっては、グループワークを取り入れることとする。また、毎回、レポート課題を課すこととする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各講義のテーマに対し提示される内容をもとに、前の回の授業で提示した課題や資料を調べ、ポイントをまとめ、何を考えたのかを整理しておくこと（各回1時間）。講義後には、講義内容や課題内容、教科書の内容から自分で考えたことを整理し、理解の深化に努めること。また、学習の深化のための課題についても各自で調べること（各回1時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、政治経済学に関する「専門分野に関する知識・理解」（DP2）を習得し、実社会における様々な問題を自分事の問題として生活の中の身近な具体例と共に説明できるようトレーニングを繰り返すことで、「統合的な学習経験と創造的思考力」（DP8）を育成し、それらを深めることに力点を置く。現在、日本でだけでなく、世界はきわめて流動的な状況にあり、諸問題を解決する正解は存在しない。そこで、常に変化し続ける政治と経済のいまを理解することで、21世紀の行く先を展望し、将来にわたって学習し続けることの意義を検討していくこと

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 40%、授業内課題40%、最終課題20%により評価する。授業内課題については、内容の良いレポートについては、そのポイントを紹介し、共有できる体制をとる。提出期限を過ぎた場合は受け付けないので、十分に注意していただきたい。教科書購入が履修条件の一つとなる。

### <教科書>

池上彰（2019/2/21） 新版 政治と経済のしくみがわかるおとな事典 講談社

### <参考書>

川出良枝・谷口将紀（2012）

政治学東京大学出版会北山俊哉ほか（2009）はじめて出会う政治学—構造改革の向こうに有斐閣アルマStephen Wendel著、武山政直監修（2020）行動を変えるデザイナー—心理学と行動経済学をプロダクトデザインに活用するオライリージャパン

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	授業ガイダンス ?政治、経済を読み解く視点
2	政治1	2院制と政党政治
3	政治2	選挙区制度の歴史とねらい
4	政治3	与党と野党の役割
5	政治4	大阪”都”構想に見る行政制度（統治機構）
6	政治5	少子高齢化の進展と政治
7	政治6	選挙活動とSNS
8	政治7	日本の政治が抱える課題
9	経済1	インフレとデフレ
10	経済2	円安と円高の仕組みと影響
11	経済3	金融緩和から見る日銀の役割
12	経済4	税の役割と影響
13	経済5	GDPと貿易
14	経済6	新型コロナ下における経済活動①
15	経済7	新型コロナ下における経済活動②

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得した技能をもとにさらに高度な操作スキルを身につけることを目指す。表計算アプリケーションであるExcelを中心にグラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につける。またこれに並行して、情報の扱い方を中心にセキュリティ、情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得することを第一の目標とする。さらに、Excelといった必須アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索からのキューレーションやネット社会におけるモラル・セキュリティを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算（Excel）について	入力と四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数、フィル
3	データ処理（1）	並べ替え、フィルター機能と、テーブルとして書式設定（並べ替え、フィルター、スライサー）
4	データ処理（2）	条件付き書式、合計、平均、最大値、最小値絶対番地指定と、名前の定義
5	グラフ作成（1）	グラフ作成
6	グラフ作成（2）	グラフ作成、描画、Office連携
7	Excel関数確認	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MIN, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
8	Excel中間課題	Excel関数確認試験
9	文字列関数	CONCATENATE, LEN, RIGHT, LEFT, MID
10	データ抽出（1）条件によって処理を分ける	IF, AND, OR
11	データ抽出（2）別表からデータを取り出す	VLOOKUP, IF, IFERROR
12	データ配布とセキュリティ	入力規制、セルやブックの保護
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel総合課題	プロパティ、印刷設定（PDF化）を含む最終課題

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ				担当者名	未定			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得した技能をもとにさらに高度な操作スキルを身につけることを目指す。表計算アプリケーションであるExcelを中心にグラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につける。またこれに並行して、情報の扱い方を中心にセキュリティ、情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得することを第一の目標とする。さらに、Excelといった必須アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索からのキューレーションやネット社会におけるモラル・セキュリティを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまった日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算（Excel）について	入力と四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数、フィル
3	データ処理（1）	並べ替え、フィルター機能と、テーブルとして書式設定（並べ替え、フィルター、スライサー）
4	データ処理（2）	条件付き書式、合計、平均、最大値、最小値絶対番地指定と、名前の定義
5	グラフ作成（1）	グラフ作成
6	グラフ作成（2）	グラフ作成、描画、Office連携
7	Excel関数確認	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MIN, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
8	Excel中間課題	Excel関数確認試験
9	文字列関数	CONCATENATE, LEN, RIGHT, LEFT, MID
10	データ抽出（1）条件によって処理を分ける	IF, AND, OR
11	データ抽出（2）別表からデータを取り出す	VLOOKUP, IF, IFERROR
12	データ配布とセキュリティ	入力規制、セルやブックの保護
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel総合課題	プロパティ、印刷設定（PDF化）を含む最終課題

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ				担当者名	薦田 勇智			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得した技能をもとにさらに高度な操作スキルを身につけることを目指す。表計算アプリケーションであるExcelを中心にグラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につける。またこれに並行して、情報の扱い方を中心にセキュリティ、情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得することを第一の目標とする。さらに、Excelといった必須アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索からのキューレーションやネット社会におけるモラル・セキュリティを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算（Excel）について	入力と四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数、フィル
3	データ処理（1）	並べ替え、フィルター機能と、テーブルとして書式設定（並べ替え、フィルター、スライサー）
4	データ処理（2）	条件付き書式、合計、平均、最大値、最小値絶対番地指定と、名前の定義
5	グラフ作成（1）	グラフ作成
6	グラフ作成（2）	グラフ作成、描画、Office連携
7	Excel関数確認	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MIN, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
8	Excel中間課題	Excel関数確認試験
9	文字列関数	CONCATENATE, LEN, RIGHT, LEFT, MID
10	データ抽出（1）条件によって処理を分ける	IF, AND, OR
11	データ抽出（2）別表からデータを取り出す	VLOOKUP, IF, IFERROR
12	データ配布とセキュリティ	入力規制、セルやブックの保護
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel総合課題	プロパティ、印刷設定（PDF化）を含む最終課題

科目コード	13103				区分	教養科目			
授業科目名	日本の伝統文化				担当者名	藤原 章楷			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

日本の伝統文化は幅広く、伝統行事や伝統芸能の分野も包含される中で、その歴史、現状と課題、将来展望等について、体験を交えながら精神構造も含めて考察し、理解を深める。

#### <授業の到達目標>

次のことを通じて、日本の伝統文化の幅広さを理解し、その一端を具体的に話すことができる。ア 全国各地の特色ある伝統文化について視野を広くする イ「備前焼」や「後楽園」など、岡山の様々な伝統文化についても知識を深める。ウ「書道」の用具の重要性を学び、毛筆を用いて「半紙」に表現する

#### <授業の方法>

講義形式であるが、日本の伝統文化を深く理解するために、体験活動等も取り入れる。資料については適宜配布する。

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各テーマの理解を深めるために、書籍、あるいはインターネットなどを活用して、事前学習をする。また、振り返りレポートを提出する(1時間程度)。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

国際社会に生きる社会人として必要な自国文化への理解、とりわけ日本の伝統文化について理解する。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義後の課題レポート提出：講義1～4、8～14回で各5点、講義(5・6・7)書道作品提出25点(5・6は各5点、7は15点)、講義最終15回目の期末試験20点

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	日本の伝統文化概論(1)	芸道、芸能、衣食住、伝統行事等の「日本の伝統文化」の概括説明
2	日本の伝統文化概論(2)	伝統文化とスポーツ。剣道、弓道、相撲、水泳と素材(木・竹など)
3	岡山県の陶芸	備前焼の歴史と特徴
4	書道(1)	書道概論、文房四宝などの用具・用材の説明
5	書道(2)	毛筆による体験(半紙にひらがな、カタカナを書く)
6	書道(3)	毛筆による体験(半紙に漢字を書く、楷書・行書)
7	書道(4)	毛筆による体験(半紙に創作表現)
8	後楽園	回遊式庭園美、構造物(延養亭、茶室、能舞台)、茶園、鶴、馬場
9	伝統工芸	着物、人形、陶芸・工芸(金工、木工)など。民芸
10	祭り(1)	雛祭り、花見、端午の節句、七夕、夏祭り、盆踊り、花火
11	祭り(2)	出初、節分、西大寺会陽、「誕生寺」練供養、神楽、山車、民謡、下津井節
12	食	稲作と伝統行事、赤飯、日本酒。発酵食品、和食、箸(マイ箸)
13	正月関連の伝統行事	正月準備、餅つき、年越しそばと雑煮。門松、凧、独楽、羽子板
14	伝統文学	年賀状、書初め、俳句(芭蕉・蕪村・一茶)、川柳
15	伝統文化の将来展望、期末試験	花鳥風月、首里城、素材と後継者。食文化、国際化、百年樹人、期末試験

科目コード	10104			区分	教養科目				
授業科目名	体育理論			担当者名	石村 和博				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本講義では、体育の理論を学ぶことにより、健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的な運動実践が必要であることを明らかにする。理論では、メンタルヘルス及び生活習慣病予防や心身相関について理解をし運動や健康の維持、増進のために必要な体力などに関する講義を行う。

#### <授業の到達目標>

体育の理論を学ぶことにより、自分自身の健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的な運動実践ができるようになることを目標とする。

#### <授業の方法>

必要に応じて資料を配布し、体育理論の解説・講義を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

適宜紹介及び配布したテキストの熟読並びに理解を促す。授業には、各先生の専門学問についての内容を理解してから、授業に参加すること（1時間程度の予習）が求められる。さらには、当該授業から引き出された課題について、図書館およびインターネットなどから多くの専門的情報を収集する（2時間程度の復習）が求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

体育・スポーツの基本理念を学ぶことにより、一般教養科目のディプロマポリシー②専門分野に関する知識・理解能力を身に付けることができる。また、生涯にわたって体育・スポーツの能力を養うことで⑥自律や社会性等に関する態度・指向性を身に付けることもできる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（積極性・相互促進性等）を50%、出席レポート、テストを50%で評価する。

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	考えてみよう私たちと運動	<p>自己の健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的に運動を実践できることを学ぶ。</p> <p>体育理論の実践と方法として様々な観点から身体に及ぼす効果について学習する。</p> <p>身体活動が児童の発達や望ましい社会生活に貢献しうる能力を持たせる重要な役割であることを学ぶ。</p> <p>学校教育における体育の実践と方法を学ぶ。心と体の相関関係、欲求やストレスの対処法を学び、体ほぐし運動を解明する。</p> <p>運動、栄養は栄養管理することを大前提として、パフォーマンスを上げる「運動と栄養の4つの基本」を学ぶ。</p> <p>日本の三大死因である癌・脳卒中・心臓病の原因となる高血圧、高脂血症、糖尿病の要因について学び、食生活、運動不足、飲酒、喫煙の重要性および、その予防について学ぶ。</p> <p>脳と身体の関係性について学び、頭を使えば身体もよくなり、身体を鍛えれば脳も発達していくことを学ぶ。</p> <p>今あらためてスポーツとは何なのか、なぜ人はスポーツを続けていくのか？私たちににとってスポーツとは？を学び、テストを実施する。</p>
2	身につけよう運動	
3	学校における体育の役割	
4	見つめよう心と体	
5	運動と栄養	
6	生活習慣病の種類とその予防	
7	脳と身体つながり	
8	生涯スポーツの意義	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ				担当者名	田中 耕作			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得した技能をもとにさらに高度な操作スキルを身につけることを目指す。表計算アプリケーションであるExcelを中心にグラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につける。またこれに並行して、情報の扱い方を中心にセキュリティ、情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得することを第一の目標とする。さらに、Excelといった必須アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索からのキューレーションやネット社会におけるモラル・セキュリティを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算（Excel）について	入力と四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数、フィル
3	データ処理（1）	並べ替え、フィルター機能と、テーブルとして書式設定（並べ替え、フィルター、スライサー）
4	データ処理（2）	条件付き書式、合計、平均、最大値、最小値絶対番地指定と、名前の定義
5	グラフ作成（1）	グラフ作成
6	グラフ作成（2）	グラフ作成、描画、Office連携
7	Excel関数確認	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MIN, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
8	Excel中間課題	Excel関数確認試験
9	文字列関数	CONCATENATE, LEN, RIGHT, LEFT, MID
10	データ抽出（1）条件によって処理を分ける	IF, AND, OR
11	データ抽出（2）別表からデータを取り出す	VLOOKUP, IF, IFERROR
12	データ配布とセキュリティ	入力規制、セルやブックの保護
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel総合課題	プロパティ、印刷設定（PDF化）を含む最終課題



科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ				担当者名	未定			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得した技能をもとにさらに高度な操作スキルを身につけることを目指す。表計算アプリケーションであるExcelを中心にグラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につける。またこれに並行して、情報の扱い方を中心にセキュリティ、情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得することを第一の目標とする。さらに、Excelといった必須アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索からのキューレーションやネット社会におけるモラル・セキュリティを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算（Excel）について	入力と四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数、フィル
3	データ処理（1）	並べ替え、フィルター機能と、テーブルとして書式設定（並べ替え、フィルター、スライサー）
4	データ処理（2）	条件付き書式、合計、平均、最大値、最小値絶対番地指定と、名前の定義
5	グラフ作成（1）	グラフ作成
6	グラフ作成（2）	グラフ作成、描画、Office連携
7	Excel関数確認	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MIN, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
8	Excel中間課題	Excel関数確認試験
9	文字列関数	CONCATENATE, LEN, RIGHT, LEFT, MID
10	データ抽出（1）条件によって処理を分ける	IF, AND, OR
11	データ抽出（2）別表からデータを取り出す	VLOOKUP, IF, IFERROR
12	データ配布とセキュリティ	入力規制、セルやブックの保護
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel総合課題	プロパティ、印刷設定（PDF化）を含む最終課題

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得した技能をもとにさらに高度な操作スキルを身につけることを目指す。表計算アプリケーションであるExcelを中心にグラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につける。またこれに並行して、情報の扱い方を中心にセキュリティ、情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得することを第一の目標とする。さらに、Excelといった必須アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索からのキューレーションやネット社会におけるモラル・セキュリティを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算（Excel）について	入力と四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数、フィル
3	データ処理（1）	並べ替え、フィルター機能と、テーブルとして書式設定（並べ替え、フィルター、スライサー）
4	データ処理（2）	条件付き書式、合計、平均、最大値、最小値絶対番地指定と、名前の定義
5	グラフ作成（1）	グラフ作成
6	グラフ作成（2）	グラフ作成、描画、Office連携
7	Excel関数確認	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MIN, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
8	Excel中間課題	Excel関数確認試験
9	文字列関数	CONCATENATE, LEN, RIGHT, LEFT, MID
10	データ抽出（1）条件によって処理を分ける	IF, AND, OR
11	データ抽出（2）別表からデータを取り出す	VLOOKUP, IF, IFERROR
12	データ配布とセキュリティ	入力規制、セルやブックの保護
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel総合課題	プロパティ、印刷設定（PDF化）を含む最終課題

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ				担当者名	薦田 勇智			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得した技能をもとにさらに高度な操作スキルを身につけることを目指す。表計算アプリケーションであるExcelを中心にグラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につける。またこれに並行して、情報の扱い方を中心にセキュリティ、情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得することを第一の目標とする。さらに、Excelといった必須アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索からのキューレーションやネット社会におけるモラル・セキュリティを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算（Excel）について	入力と四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数、フィル
3	データ処理（1）	並べ替え、フィルター機能と、テーブルとして書式設定（並べ替え、フィルター、スライサー）
4	データ処理（2）	条件付き書式、合計、平均、最大値、最小値絶対番地指定と、名前の定義
5	グラフ作成（1）	グラフ作成
6	グラフ作成（2）	グラフ作成、描画、Office連携
7	Excel関数確認	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MIN, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
8	Excel中間課題	Excel関数確認試験
9	文字列関数	CONCATENATE, LEN, RIGHT, LEFT, MID
10	データ抽出（1）条件によって処理を分ける	IF, AND, OR
11	データ抽出（2）別表からデータを取り出す	VLOOKUP, IF, IFERROR
12	データ配布とセキュリティ	入力規制、セルやブックの保護
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel総合課題	プロパティ、印刷設定（PDF化）を含む最終課題

科目コード	10116			区分	教養科目				
授業科目名	英語 I			担当者名	高森 ねね				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

初級～中レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。身近な話題について標準的な話し方であれば、その要点が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 2 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting to know you	Talking about favorite places and colors; describing personalities; discussing and using icebreakers
3	Unit 2: Making a good impression	Talking about first impressions; role-playing meeting new people and phone conversations; giving and taking messages
4	Unit 3: Food and cooking	Discussing foods and cooking techniques; talking about restaurant meals; role-playing restaurant conversations
5	Unit 4: Weather	Talking about weather and seasons; describing extreme weather experiences; giving advice about extreme weather
6	Unit 5: Working for a living	Talking about job likes and dislikes; describing job experiences; talking about what's important in a job
7	Unit 6: Leisure time	Describing hobbies and interests; discussing chores; talking about typical activities; making weekend plans
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Sports and games	Talking about participation in sports; conducting interviews about sports; discussing and playing games
10	Unit 8: Transportation and travel	Discussing traffic and transportation problems; talking about different ways to travel; planning a trip
11	Unit 9: Vacation time	Talking about past vacations; describing perfect vacations; discussing tourist attractions
12	Unit 10: Inventions and gadgets	Describing gadgets and their uses; discussing product features; explaining a new invention
13	Unit 11: The environment	Talking about animals and plants; discussing environmental problems and solutions
14	Unit 12: News and current events	Talking about news stories and sources; telling a story; discussing a current-events survey
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	10116			区分	教養科目				
授業科目名	英語 I			担当者名	未定				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

初級～中レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。身近な話題について標準的な話し方であれば、その要点が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 2 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting to know you	Talking about favorite places and colors; describing personalities; discussing and using icebreakers
3	Unit 2: Making a good impression	Talking about first impressions; role-playing meeting new people and phone conversations; giving and taking messages
4	Unit 3: Food and cooking	Discussing foods and cooking techniques; talking about restaurant meals; role-playing restaurant conversations
5	Unit 4: Weather	Talking about weather and seasons; describing extreme weather experiences; giving advice about extreme weather
6	Unit 5: Working for a living	Talking about job likes and dislikes; describing job experiences; talking about what's important in a job
7	Unit 6: Leisure time	Describing hobbies and interests; discussing chores; talking about typical activities; making weekend plans
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Sports and games	Talking about participation in sports; conducting interviews about sports; discussing and playing games
10	Unit 8: Transportation and travel	Discussing traffic and transportation problems; talking about different ways to travel; planning a trip
11	Unit 9: Vacation time	Talking about past vacations; describing perfect vacations; discussing tourist attractions
12	Unit 10: Inventions and gadgets	Describing gadgets and their uses; discussing product features; explaining a new invention
13	Unit 11: The environment	Talking about animals and plants; discussing environmental problems and solutions
14	Unit 12: News and current events	Talking about news stories and sources; telling a story; discussing a current-events survey
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得した技能をもとにさらに高度な操作スキルを身につけることを目指す。表計算アプリケーションであるExcelを中心にグラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につける。またこれに並行して、情報の扱い方を中心にセキュリティ、情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得することを第一の目標とする。さらに、Excelといった必須アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索からのキューレーションやネット社会におけるモラル・セキュリティを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまった日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算（Excel）について	入力と四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数、フィル
3	データ処理（1）	並べ替え、フィルター機能と、テーブルとして書式設定（並べ替え、フィルター、スライサー）
4	データ処理（2）	条件付き書式、合計、平均、最大値、最小値絶対番地指定と、名前の定義
5	グラフ作成（1）	グラフ作成
6	グラフ作成（2）	グラフ作成、描画、Office連携
7	Excel関数確認	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MIN, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
8	Excel中間課題	Excel関数確認試験
9	文字列関数	CONCATENATE, LEN, RIGHT, LEFT, MID
10	データ抽出（1）条件によって処理を分ける	IF, AND, OR
11	データ抽出（2）別表からデータを取り出す	VLOOKUP, IF, IFERROR
12	データ配布とセキュリティ	入力規制、セルやブックの保護
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel総合課題	プロパティ、印刷設定（PDF化）を含む最終課題

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ				担当者名	未定			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得した技能をもとにさらに高度な操作スキルを身につけることを目指す。表計算アプリケーションであるExcelを中心にグラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につける。またこれに並行して、情報の扱い方を中心にセキュリティ、情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得することを第一の目標とする。さらに、Excelといった必須アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索からのキューレーションやネット社会におけるモラル・セキュリティを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算（Excel）について	入力と四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数、フィル
3	データ処理（1）	並べ替え、フィルター機能と、テーブルとして書式設定（並べ替え、フィルター、スライサー）
4	データ処理（2）	条件付き書式、合計、平均、最大値、最小値絶対番地指定と、名前の定義
5	グラフ作成（1）	グラフ作成
6	グラフ作成（2）	グラフ作成、描画、Office連携
7	Excel関数確認	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MIN, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
8	Excel中間課題	Excel関数確認試験
9	文字列関数	CONCATENATE, LEN, RIGHT, LEFT, MID
10	データ抽出（1）条件によって処理を分ける	IF, AND, OR
11	データ抽出（2）別表からデータを取り出す	VLOOKUP, IF, IFERROR
12	データ配布とセキュリティ	入力規制、セルやブックの保護
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel総合課題	プロパティ、印刷設定（PDF化）を含む最終課題

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得した技能をもとにさらに高度な操作スキルを身につけることを目指す。表計算アプリケーションであるExcelを中心にグラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につける。またこれに並行して、情報の扱い方を中心にセキュリティ、情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得することを第一の目標とする。さらに、Excelといった必須アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索からのキューレーションやネット社会におけるモラル・セキュリティを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算（Excel）について	入力と四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数、フィル
3	データ処理（1）	並べ替え、フィルター機能と、テーブルとして書式設定（並べ替え、フィルター、スライサー）
4	データ処理（2）	条件付き書式、合計、平均、最大値、最小値絶対番地指定と、名前の定義
5	グラフ作成（1）	グラフ作成
6	グラフ作成（2）	グラフ作成、描画、Office連携
7	Excel関数確認	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MIN, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
8	Excel中間課題	Excel関数確認試験
9	文字列関数	CONCATENATE, LEN, RIGHT, LEFT, MID
10	データ抽出（1）条件によって処理を分ける	IF, AND, OR
11	データ抽出（2）別表からデータを取り出す	VLOOKUP, IF, IFERROR
12	データ配布とセキュリティ	入力規制、セルやブックの保護
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel総合課題	プロパティ、印刷設定（PDF化）を含む最終課題



科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ				担当者名	薦田 勇智			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得した技能をもとにさらに高度な操作スキルを身につけることを目指す。表計算アプリケーションであるExcelを中心にグラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につける。またこれに並行して、情報の扱い方を中心にセキュリティ、情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得することを第一の目標とする。さらに、Excelといった必須アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索からのキューレーションやネット社会におけるモラル・セキュリティを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算（Excel）について	入力と四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数、フィル
3	データ処理（1）	並べ替え、フィルター機能と、テーブルとして書式設定（並べ替え、フィルター、スライサー）
4	データ処理（2）	条件付き書式、合計、平均、最大値、最小値絶対番地指定と、名前の定義
5	グラフ作成（1）	グラフ作成
6	グラフ作成（2）	グラフ作成、描画、Office連携
7	Excel関数確認	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MIN, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
8	Excel中間課題	Excel関数確認試験
9	文字列関数	CONCATENATE, LEN, RIGHT, LEFT, MID
10	データ抽出（1）条件によって処理を分ける	IF, AND, OR
11	データ抽出（2）別表からデータを取り出す	VLOOKUP, IF, IFERROR
12	データ配布とセキュリティ	入力規制、セルやブックの保護
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel総合課題	プロパティ、印刷設定（PDF化）を含む最終課題

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ				担当者名	薦田 勇智			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得した技能をもとにさらに高度な操作スキルを身につけることを目指す。表計算アプリケーションであるExcelを中心にグラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につける。またこれに並行して、情報の扱い方を中心にセキュリティ、情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得することを第一の目標とする。さらに、Excelといった必須アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索からのキューレーションやネット社会におけるモラル・セキュリティを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算（Excel）について	入力と四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数、フィル
3	データ処理（1）	並べ替え、フィルター機能と、テーブルとして書式設定（並べ替え、フィルター、スライサー）
4	データ処理（2）	条件付き書式、合計、平均、最大値、最小値絶対番地指定と、名前の定義
5	グラフ作成（1）	グラフ作成
6	グラフ作成（2）	グラフ作成、描画、Office連携
7	Excel関数確認	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MIN, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
8	Excel中間課題	Excel関数確認試験
9	文字列関数	CONCATENATE, LEN, RIGHT, LEFT, MID
10	データ抽出（1）条件によって処理を分ける	IF, AND, OR
11	データ抽出（2）別表からデータを取り出す	VLOOKUP, IF, IFERROR
12	データ配布とセキュリティ	入力規制、セルやブックの保護
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel総合課題	プロパティ、印刷設定（PDF化）を含む最終課題

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得した技能をもとにさらに高度な操作スキルを身につけることを目指す。表計算アプリケーションであるExcelを中心にグラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につける。またこれに並行して、情報の扱い方を中心にセキュリティ、情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得することを第一の目標とする。さらに、Excelといった必須アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索からのキューレーションやネット社会におけるモラル・セキュリティを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算（Excel）について	入力と四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数、フィル
3	データ処理（1）	並べ替え、フィルター機能と、テーブルとして書式設定（並べ替え、フィルター、スライサー）
4	データ処理（2）	条件付き書式、合計、平均、最大値、最小値絶対番地指定と、名前の定義
5	グラフ作成（1）	グラフ作成
6	グラフ作成（2）	グラフ作成、描画、Office連携
7	Excel関数確認	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MIN, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
8	Excel中間課題	Excel関数確認試験
9	文字列関数	CONCATENATE, LEN, RIGHT, LEFT, MID
10	データ抽出（1）条件によって処理を分ける	IF, AND, OR
11	データ抽出（2）別表からデータを取り出す	VLOOKUP, IF, IFERROR
12	データ配布とセキュリティ	入力規制、セルやブックの保護
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel総合課題	プロパティ、印刷設定（PDF化）を含む最終課題

科目コード	14206			区分	教養				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)			担当者名	梶谷 亮輔				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

IPUジェネリックスキルズⅡのテーマは「読む」「書く」「発表する」です。体育学科では、4年次の卒業研究を見越して、文献や論文を読み要約する、自身で取ったデータを読み、考察し、発表するという活動を行います。IPUジェネリックスキルズⅠで培ったスキルを使い、文献や資料をどう読むのか、レポートなどの文章をどう書くのか、自らの成果をどう発表し、どう議論するのかをより深めていきます。これらを通して、卒業に向けて明確な目的を持ちつつ、大学での勉学により主体的に取り組む姿勢を身につけていきます。

#### <授業の到達目標>

IPUジェネリックスキルズⅠで培った学習スキルや学習方法を実践できる ・グループ活動を通して、グループでの活動に必要な姿勢やスキルを学び、コミュニケーション能力を身に付ける ・文献を読み、その要旨を文章にして読み手に伝えることができる ・要旨に自分の見解を根拠とともに付加し、書評としてまとめることができる ・グループ学習やピアレビューを通して、他者の文章を論評すると同時に、他者からの批評を受けて自分の文章を改善する方法を学び、それを実践することができる

#### <授業の方法>

文献やインターネットから必要な情報を取り入れ、それを元に話し合いやプレゼンテーションの作成・発表を行う。

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

文献やインターネットから必要な情報を入手し、要約する。また、アンケート調査や動画の撮影、データの処理など、自身が選択した調査方法を実践する。予準備学習の時間数は毎時間約30分

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）5（情報活用・論理・問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられている。単に知識を習得するだけでなく、文献・資料を読み込み、要約したうえで、自身の見解を文章としてまとめ、発表する力を培う。また、グループワークを通じて、コミュニケーション能力の習得をめざす。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席・態度30点、研究方法①②③のプレゼンテーション出来栄え30点満点、最終プレゼンテーション出来栄え40点満点

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の流れを説明する、体育学科で取得できる資格と就職にどう役立つかを考える。
2	体育・スポーツ分野での学びについて	体育・スポーツ分野で学べることについて考える
3	卒業研究とは	卒業研究でやれること、身に付く力などを考える
4	研究方法① アンケート	アンケート内容を考え、google formでアンケートを作成
5	アンケート結果発表	15名以上にアンケートを回答してもらい、結果を元に考察した内容をグループ内で発表
6	研究方法②動作分析	6回目までに習熟者と未習熟者の動画を撮影し、持参持参した動画から連続写真を作成する。
7	研究方法②動作分析	作成した連続写真を使い、習熟者と未習熟者の動作の違いをプレゼンテーションにまとめる。
8	動作分析結果発表	プレゼンテーションをグループ内で発表。
9	研究方法③体力測定	全身反応時間、リバウンドジャンプ、ステップング測定
10	測定結果を用いてグラフ作成	Excelを用いてグラフ作成
11	最終発表資料づくり(背景、目的、方法、先行研究)	11回目までに研究方法とデータ取り(動作分析は4名以上、アンケートは30名以上)
12	最終発表資料づくり(結果、考察)	結果と考察を記述する
13	最終発表資料づくり(結論、仕上げ)	プレゼンテーションを仕上げる
14	グループ内発表	グループ内で発表する
15	全体発表・まとめ	グループの代表者が全体の前で発表する

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	Jason Witthaus				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	三垣 雅美				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ				担当者名	薦田 勇智			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得した技能をもとにさらに高度な操作スキルを身につけることを目指す。表計算アプリケーションであるExcelを中心にグラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につける。またこれに並行して、情報の扱い方を中心にセキュリティ、情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得することを第一の目標とする。さらに、Excelといった必須アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索からのキューレーションやネット社会におけるモラル・セキュリティを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまった日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算（Excel）について	入力と四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数、フィル
3	データ処理（1）	並べ替え、フィルター機能と、テーブルとして書式設定（並べ替え、フィルター、スライサー）
4	データ処理（2）	条件付き書式、合計、平均、最大値、最小値絶対番地指定と、名前の定義
5	グラフ作成（1）	グラフ作成
6	グラフ作成（2）	グラフ作成、描画、Office連携
7	Excel関数確認	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MIN, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
8	Excel中間課題	Excel関数確認試験
9	文字列関数	CONCATENATE, LEN, RIGHT, LEFT, MID
10	データ抽出（1）条件によって処理を分ける	IF, AND, OR
11	データ抽出（2）別表からデータを取り出す	VLOOKUP, IF, IFERROR
12	データ配布とセキュリティ	入力規制、セルやブックの保護
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel総合課題	プロパティ、印刷設定（PDF化）を含む最終課題

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得した技能をもとにさらに高度な操作スキルを身につけることを目指す。表計算アプリケーションであるExcelを中心にグラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につける。またこれに並行して、情報の扱い方を中心にセキュリティ、情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得することを第一の目標とする。さらに、Excelといった必須アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索からのキューレーションやネット社会におけるモラル・セキュリティを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまった日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算（Excel）について	入力と四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数、フィル
3	データ処理（1）	並べ替え、フィルター機能と、テーブルとして書式設定（並べ替え、フィルター、スライサー）
4	データ処理（2）	条件付き書式、合計、平均、最大値、最小値絶対番地指定と、名前の定義
5	グラフ作成（1）	グラフ作成
6	グラフ作成（2）	グラフ作成、描画、Office連携
7	Excel関数確認	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MIN, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
8	Excel中間課題	Excel関数確認試験
9	文字列関数	CONCATENATE, LEN, RIGHT, LEFT, MID
10	データ抽出（1）条件によって処理を分ける	IF, AND, OR
11	データ抽出（2）別表からデータを取り出す	VLOOKUP, IF, IFERROR
12	データ配布とセキュリティ	入力規制、セルやブックの保護
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel総合課題	プロパティ、印刷設定（PDF化）を含む最終課題



科目コード	14206				区分	教養			
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)				担当者名	梶谷 亮輔			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

IPUジェネリックスキルズⅡのテーマは「読む」「書く」「発表する」です。体育学科では、4年次の卒業研究を見越して、文献や論文を読み要約する、自身で取ったデータを読み、考察し、発表するという活動を行います。IPUジェネリックスキルズⅠで培ったスキルを使い、文献や資料をどう読むのか、レポートなどの文章をどう書くのか、自らの成果をどう発表し、どう議論するのかをより深めていきます。これらを通して、卒業に向けて明確な目的を持ちつつ、大学での勉学により主体的に取り組む姿勢を身につけていきます。

#### <授業の到達目標>

IPUジェネリックスキルズⅠで培った学習スキルや学習方法を実践できる  
 ・グループ活動を通して、グループでの活動に必要な姿勢やスキルを学び、コミュニケーション能力を身に付ける  
 ・文献を読み、その要旨を文章にして読み手に伝えることができる  
 ・要旨に自分の見解を根拠とともに付加し、書評としてまとめることができる  
 ・グループ学習やピアレビューを通して、他者の文章を論評すると同時に、他者からの批評を受けて自分の文章を改善する方法を学び、それを実践することができる

#### <授業の方法>

文献やインターネットから必要な情報を取り入れ、それを元に話し合いやプレゼンテーションの作成・発表を行う。

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

文献やインターネットから必要な情報を入手し、要約する。また、アンケート調査や動画の撮影、データの処理など、自身が選択した調査方法を実践する。予準備学習の時間数は毎時間約30分

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）5（情報活用・論理・問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられている。単に知識を習得するだけでなく、文献・資料を読み込み、要約したうえで、自身の見解を文章としてまとめ、発表する力を培う。また、グループワークを通じて、コミュニケーション能力の習得をめざす。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席・態度30点、研究方法①②③のプレゼンテーション出来栄え30点満点、最終プレゼンテーション出来栄え40点満点

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の流れを説明する、体育学科で取得できる資格と就職にどう役立つかを考える。
2	体育・スポーツ分野での学びについて	体育・スポーツ分野で学べることについて考える
3	卒業研究とは	卒業研究でやれること、身に付く力などを考える
4	研究方法① アンケート	アンケート内容を考え、google formでアンケートを作成
5	アンケート結果発表	15名以上にアンケートを回答してもらい、結果を元に考察した内容をグループ内で発表
6	研究方法②動作分析	6回目までに習熟者と未習熟者の動画を撮影し、持参持参した動画から連続写真を作成する。
7	研究方法②動作分析	作成した連続写真を使い、習熟者と未習熟者の動作の違いをプレゼンテーションにまとめる。
8	動作分析結果発表	プレゼンテーションをグループ内で発表。
9	研究方法③体力測定	全身反応時間、リバウンドジャンプ、ステップング測定
10	測定結果を用いてグラフ作成	Excelを用いてグラフ作成
11	最終発表資料づくり(背景、目的、方法、先行研究)	11回目までに研究方法とデータ取り(動作分析は4名以上、アンケートは30名以上)
12	最終発表資料づくり(結果、考察)	結果と考察を記述する
13	最終発表資料づくり(結論、仕上げ)	プレゼンテーションを仕上げる
14	グループ内発表	グループ内で発表する
15	全体発表・まとめ	グループの代表者が全体の前で発表する

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	Jason Witthaus				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	三垣 雅美				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	13101			区分	教養科目				
授業科目名	日本国憲法			担当者名	本村 大輔				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科?の授業は、最?裁判例・学界通説を前提とした?本の現?憲法（?本国憲法）の解釈論を中?に?います。また、学術的に重要な論点のみならず、各種公務員試験に臨むにあたって最低限必要となる本科?に関する知識や、中?の教員が備えるべき素養としての本科?に関する知識にも配慮した講義を?うつもりです。|また、今年度は、Ⅰ憲法総論、Ⅱ基本権論、Ⅲ統治機構論の順序で講義を?う予定です。統治機構論においては法制度・政治制度についての知識の整理が中?となる??で、基本権論においては抽象的な理論の分析が中?となるので、各?

### <授業の到達目標>

①授業で扱った主要なテーマについて、重要な憲法学的知?（基本概念、条?・判例・学説など）を論述することができる。|②各種公務員試験等の本格的対策をするに際して学習を進めやすい素養を獲得している。

### <授業の方法>

講義形式で進行する。教科書のテーマに沿いつつ、レジュメも配布します。学生は、毎回教科書の指定範囲をあらかじめ通読し、わからない法律用語等については事前に調べておくこと。|また、小テストやリアクションペーパーの提出を求めることがあるので、履修者はクラスルームにアクセスでき、使用できる状態を整えてください。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回事前に指定された教科書の該当範囲を通読しておく（60分）|復習：教科書の該当箇所を熟読し、レジュメを参照しノートをまとめておくこと（60分）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

日本国憲法の学びを通して、特に社会に関連した学際的な知識を身につける（DP4）。また、現代社会における人権問題や統治に関する問題を通じて、新たな課題に対応できる社会人力を身につける（DP8）

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験80%、毎回の小テスト10%、受講態度（授業への取り組み）10%により授業の到達目標①および②を測定する。

### <教科書>

片桐直人、井上武史、大林啓吾（2016年12月） 一歩先への憲法入門 有斐閣

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義概要および教材説明
2	憲法学の体系と?法	憲法とはなにか、憲法学問題のアプローチ法
3	法学??	法概念；法分類；制定法の段階秩序など
4	憲法総論 1	憲法の意味と分類；欧?国制史・憲法史①
5	憲法総論 2	欧?国制史・憲法史②；?本憲法史
6	基本権[?権]総論 1	基本権カタログの概観
7	基本権[?権]総論 2	基本権の享有主体性
8	基本権[?権]総論 3	?由権領域の基本権論
9	基本権[?権]総論 4	社会権領域の基本権論
10	基本権[?権]総論 5	包括的基本権論
11	統治機構論 1	統治機構の全体像と権?の分?
12	統治機構論 2	国会一院制：国会の種類：選挙制度など 内閣一行政権の観念：議院内閣制など
13	統治機構論 3	裁判所一裁判・裁判所の種類・三審制など
14	全体総括	これまでの授業内容の要点およびまとめ
15	試験および講評	これまでの理解度を評価するために試験を行い、出題意図などについて講評を行います。

科目コード	14206			区分	教養				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)			担当者名	嘉門 良亮				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

IPUジェネリックスキルズⅡのテーマは「読む」「書く」「発表する」です。体育学科では、4年次の卒業研究を見越して、文献や論文を読み要約する、自身で取ったデータを読み、考察し、発表するという活動を行います。IPUジェネリックスキルズⅠで培ったスキルを使い、文献や資料をどう読むのか、レポートなどの文章をどう書くのか、自らの成果をどう発表し、どう議論するのかをより深めていきます。これらを通して、卒業に向けて明確な目的を持ちつつ、大学での勉学により主体的に取り組む姿勢を身につけていきます。

#### <授業の到達目標>

IPUジェネリックスキルズⅠで培った学習スキルや学習方法を実践できる ・グループ活動を通して、グループでの活動に必要な姿勢やスキルを学び、コミュニケーション能力を身に付ける ・文献を読み、その要旨を文章にして読み手に伝えることができる ・要旨に自分の見解を根拠とともに付加し、書評としてまとめることができる ・グループ学習やピアレビューを通して、他者の文章を論評すると同時に、他者からの批評を受けて自分の文章を改善する方法を学び、それを実践することができる

#### <授業の方法>

文献やインターネットから必要な情報を取り入れ、それを元に話し合いやプレゼンテーションの作成・発表を行う。

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

文献やインターネットから必要な情報を入手し、要約する。また、アンケート調査や動画の撮影、データの処理など、自身が選択した調査方法を実践する。予準備学習の時間数は毎時間約30分

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）5（情報活用・論理・問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられている。単に知識を習得するだけでなく、文献・資料を読み込み、要約したうえで、自身の見解を文章としてまとめ、発表する力を培う。また、グループワークを通じて、コミュニケーション能力の習得をめざす。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席・態度30点、研究方法①②③のプレゼンテーション出来栄え30点満点、最終プレゼンテーション出来栄え40点満点

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の流れを説明する、体育学科で取得できる資格と就職にどう役立つかを考える。
2	体育・スポーツ分野での学びについて	体育・スポーツ分野で学べることについて考える
3	卒業研究とは	卒業研究でやれること、身に付く力などを考える
4	研究方法① アンケート	アンケート内容を考え、google formでアンケートを作成
5	アンケート結果発表	15名以上にアンケートを回答してもらい、結果を元に考察した内容をグループ内で発表
6	研究方法②動作分析	6回目までに習熟者と未習熟者の動画を撮影し、持参持参した動画から連続写真を作成する。
7	研究方法②動作分析	作成した連続写真を使い、習熟者と未習熟者の動作の違いをプレゼンテーションにまとめる。
8	動作分析結果発表	プレゼンテーションをグループ内で発表。
9	研究方法③体力測定	全身反応時間、リバウンドジャンプ、ステップング測定
10	測定結果を用いてグラフ作成	Excelを用いてグラフ作成
11	最終発表資料づくり(背景、目的、方法、先行研究)	11回目までに研究方法とデータ取り(動作分析は4名以上、アンケートは30名以上)
12	最終発表資料づくり(結果、考察)	結果と考察を記述する
13	最終発表資料づくり(結論、仕上げ)	プレゼンテーションを仕上げる
14	グループ内発表	グループ内で発表する
15	全体発表・まとめ	グループの代表者が全体の前で発表する

科目コード	14206			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)			担当者名	宮本 彩				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

大学新入生にとって、これから4年間、大学で学ぶ上で必要な基礎的な知識や技能を身につけることを目的とする。授業にどのような態度でぞめばよいのか、予習復習やレポート作成などに必要な情報をどう入手するのか、文献や資料をどう読むのか、レポートなどの文章をどう書くのか、自らの成果をどう発表し、どう議論するのか、大学における勉学の基礎を修得する。これらを通して、4年後の卒業に向けて、明確な目的をもちつつ、大学での勉学に主体的に取り組む姿勢を身につける。

### <授業の到達目標>

大学4年間における勉学の基礎的能力(アカデミックスキルズ)を涵養することを目指し、具体的には、次の5点を到達目標とする。  
 ①図書館やインターネットを利用した情報を検索収集することができる②収集した本・論文・資料・ネット上の各種情報に関して、所定の一般的ルール・手法に従って、整理要約分析し、活用することができる。③集めた情報をもとに、客観性と論理性を有する成果物(レポート、論文、および対外説明用資料等)の作成ができる④レポート等の口頭での解説報告、発表、およびその後の議論・意見交換を適切に行い、内容の見直し改

### <授業の方法>

基礎知識(3回)、事例演習(12回)の2つの部分から構成する。各々の具体的な授業方法は、下記を想定している。①基礎知識等：解説を中心とした講義を行う。②事例演習：スポーツ、健康、介護、医療分野の最新トピックスを演習課題として設定する。修得した基礎知識を活用して、各自で関連情報の収集、整理分析を行うとともに、必要に応じてグループ討議や作業を課し、レポート提出・発表・意見交換などを実施する。設定する課題に応じて、グループディスカッション、グループワーク、プレゼン発表などを実施する。設定する課題に応じて、Go

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

①基礎知識：講義に関する予習、復習のほか、別途指示または配布する講義資料等の事前学習や復習が必要である。(予習1時間)。授業中に前回授業内容の理解度確認のための質問等を行うので、対応できるよう復習が必要となる。(復習0.5時間)②事例演習：授業時間以外における情報収集、整理要約、レポートや発表資料の作成、発表練習などの準備作業が必要であり(1~2時間)、授業後の振り返りや資料等の再整理の作業が必要である(1時間)。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー4(コミュニケーション能力等の汎用的技能)5(情報活用・論理・問題解決力等に関する汎用的技能)と関連付けられている。単に知識を習得するだけでなく、文献・資料を読み込み、要約したうえで、自身の見解を文章としてまとめ、発表する力を培う。また、グループワークを通じて、コミュニケーション能力の習得をめざす。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

①受講態度・取り組み姿勢 20%②各回課題発表・内容 60%③最終レポート 20%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の趣旨、目的、方法、成績評価等の説明ジェネリックスキルズの全体像の説明
2	基礎知識①	図書館やインターネット等を通じた情報検索、収集方法、整理要約、分析方法の紹介
3	基礎知識②	レポート、論文および各種説明・発表用資料等の特徴とポイント
4	基礎知識③	口頭での発表、発表後の議論・意見交換の基本
5	事例演習1	グループワークに向けた課題テーマと作業方法の説明
6	事例演習2	関連情報の収集と分析整理
7	事例演習3	グループによるプレゼンテーション準備
8	事例演習4	プレゼンテーション(中間発表)質疑応答と講評等
9	事例演習5	グループワーク・中間発表での質疑応答ならびに講評を踏まえ、関連情報の追加的収集と分析整理
10	事例演習6	グループによるプレゼンテーション準備
11	事例演習7	プレゼンテーションの予行練習
12	事例演習8	最終プレゼンテーション①
13	事例演習9	最終プレゼンテーション②
14	事例演習10	事例演習の経験を踏まえ、課題テーマに対する最終レポートの作成
15	まとめ	最終レポートの相互評価

科目コード	13101				区分	教養科目			
授業科目名	日本国憲法				担当者名	塩盛 俊明			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

私たちが生きる現代の日本は、歴史的に見ても、またグローバルな観点から見ても、恐怖と欠乏から免れた最も自由な社会の一つといえる。では、人々はそのような自由や幸福をどのようにして実現することができるのだろうか。グローバル化が進展し、さらなる変化を遂げようとしている現代社会において、私たち自身の現在と未来、そして将来の世代の自由をも守っていくことにも繋がるこの問いについて、日本国憲法の基礎的知識を身につけた上で、憲法学的視点から自ら考える力を養うことを目的とする。

### <授業の到達目標>

①日本国憲法における基本的人権の保障や日本の統治機構を学び、理解できる。②現代国家を形成し、それを守る一定のルールとメカニズムを理解できる。③憲法の条文を解釈しつつ、それらと現実社会との関係を自ら考え、理解できる。

### <授業の方法>

講義形式で進行する。教科書のテーマに沿いつつ、レジュメも配布するが、板書もするのでノートを準備されたい。学生は、毎回教科書の指定範囲をあらかじめ熟読し、指定された予習課題について自分なりの回答を考えておく。Universal Passportを使用した小テストを行う。

### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回事前に指定された教科書の該当範囲を熟読しておく。(60分) 復習：レジュメや板書ノートをまとめなおす(60分)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

日本国憲法の学びを通して、特に社会に関連した学際的な知識を身につける(DP4)。また、現代社会における人権問題や統治に関する問題を通じて、新たな課題に対応できる社会人力を身につける(DP8)

### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

定期試験60%、毎回の小テスト30%、受講態度(授業への取り組み)10%により授業の到達目標①～③を測定する。

### <教科書>

井上典之(2016年12月) 憲法の時間 有斐閣

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	人権保障の総論(1)	教科書p6～p15 憲法の基本原理～基本的人権の尊重
2	人権保障の総論(2)	教科書p16～p20、p31～p35 公共の福祉、国家と人権
3	人権規定(1)	教科書p41～p51 個人の尊重、幸福追求権
4	人権規定(2)	教科書p52～p57、p64～p69 法の下での平等、両性の本質的平等
5	人権享有主体性	教科書p36～p40、p21～p25 外国人の人権、子どもの人権
6	人権として保障されているもの(1)	教科書p77～p86 刑罰と死刑
7	人権として保障されているもの(2)	教科書p87～p91、p97～p102 思想・良心の自由、信教の自由と政教分離
8	人権として保障されているもの(3)	教科書p103～p114 表現の自由
9	人権として保障されているもの(4)	教科書p131～p135、p141～p146 教育を受ける権利、職業選択の自由
10	人権として保障されているもの(5)	教科書p159～p168 生存権、勤労の権利と労働基本権
11	国民主権と政治のしくみ	教科書p170～p175、p194～p198 国会と内閣
12	権利や自由を守るしくみ	教科書p206～p220 司法権の役割と違憲審査制
13	憲法とはどのような法?(1)	教科書p228～p239 国家の成り立ちと三権分立
14	憲法とはどのような法?(2)	教科書p246～p256 憲法改正
15	まとめ	日本国憲法の俯瞰

科目コード	10104			区分	教養科目				
授業科目名	体育理論			担当者名	和所 泰史				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本講義では、体育の理論を学ぶことにより、健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的な運動実践が必要であることを明らかにする。理論では、メンタルヘルス及び生活習慣病予防や心身相関について理解をし運動や健康の維持、増進のために必要な体力などに関する講義を行う。

#### <授業の到達目標>

体育の理論を学ぶことにより、自分自身の健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的な運動実践ができるようになることを目標とする。

#### <授業の方法>

必要に応じて資料を配布し、体育理論の解説・講義を行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

適宜紹介及び配布したテキストの熟読並びに理解を促す。授業には、各先生の専門学問についての内容を理解してから、授業に参加すること（1時間程度の予習）が求められる。さらには、当該授業から引き出された課題について、図書館およびインターネットなどから多くの専門的情報を収集する（2時間程度の復習）が求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

体育・スポーツの基本理念を学ぶことにより、一般教養科目のディプロマポリシー②専門分野に関する知識・理解能力を身に付けることができる。また、生涯にわたって体育・スポーツの能力を養うことで⑥自律や社会性等に関する態度・指向性を身に付けることもできる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（積極性・相互促進性等）を50%、出席レポート、テストを50%で評価する。

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	考えてみよう私たちと運動	自己の健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的に運動を実践できることを学ぶ。
2	身につけよう運動	体育理論の実践と方法として様々な観点から身体に及ぼす効果について学習する。
3	学校における体育の役割	身体活動が児童の発達や望ましい社会生活に貢献しうる能力を持たせる重要な役割であることを学ぶ。
4	見つめよう心と体	学校教育における体育の実践と方法を学ぶ。心と体の相関関係、欲求やストレスの対処法を学び、体ほぐし運動を解明する。
5	運動と栄養	運動、栄養は栄養管理することを大前提として、パフォーマンスを上げる「運動と栄養の4つの基本」を学ぶ。
6	生活習慣病の種類とその予防	日本の三大死因である癌・脳卒中・心臓病の原因となる高血圧、高脂血症、糖尿病の要因について学び、食生活、運動不足、飲酒、喫煙の重要性および、その予防について学ぶ。
7	脳と身体つながり	脳と身体の関係性について学び、頭を使えば身体もよくなり、身体を鍛えれば脳も発達していくことを学ぶ。
8	生涯スポーツの意義	今あらためてスポーツとは何なのか、なぜ人はスポーツを続けていくのか？私たちにとってスポーツとは？を学び、テストを実施する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		



科目コード	13101				区分	教養科目			
授業科目名	日本国憲法				担当者名	塩盛 俊明			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

私たちが生きる現代の日本は、歴史的に見ても、またグローバルな観点から見ても、恐怖と欠乏から免れた最も自由な社会の一つといえる。では、人々はそのような自由や幸福をどのようにして実現することができるのだろうか。グローバル化が進展し、さらなる変化を遂げようとしている現代社会において、私たち自身の現在と未来、そして将来の世代の自由をも守っていくことにも繋がるこの問いについて、日本国憲法の基礎的知識を身につけた上で、憲法学的視点から自ら考える力を養うことを目的とする。

### <授業の到達目標>

①日本国憲法における基本的人権の保障や日本の統治機構を学び、理解できる。②現代国家を形成し、それを守る一定のルールとメカニズムを理解できる。③憲法の条文を解釈しつつ、それらと現実社会との関係を自ら考え、理解できる。

### <授業の方法>

講義形式で進行する。教科書のテーマに沿いつつ、レジュメも配布するが、板書もするのでノートを準備されたい。学生は、毎回教科書の指定範囲をあらかじめ熟読し、指定された予習課題について自分なりの回答を考えておく。Universal Passportを使用した小テストを行う。

### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回事前に指定された教科書の該当範囲を熟読しておく。(60分) 復習：レジュメや板書ノートをまとめなおす(60分)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

日本国憲法の学びを通して、特に社会に関連した学際的な知識を身につける(DP4)。また、現代社会における人権問題や統治に関する問題を通じて、新たな課題に対応できる社会人力を身につける(DP8)

### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

定期試験60%、毎回の小テスト30%、受講態度(授業への取り組み)10%により授業の到達目標①～③を測定する。

### <教科書>

井上典之(2016年12月) 憲法の時間 有斐閣

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	人権保障の総論(1)	教科書p6～p15 憲法の基本原理～基本的人権の尊重
2	人権保障の総論(2)	教科書p16～p20、p31～p35 公共の福祉、国家と人権
3	人権規定(1)	教科書p41～p51 個人の尊重、幸福追求権
4	人権規定(2)	教科書p52～p57、p64～p69 法の下での平等、両性の本質的平等
5	人権享有主体性	教科書p36～p40、p21～p25 外国人の人権、子どもの人権
6	人権として保障されているもの(1)	教科書p77～p86 刑罰と死刑
7	人権として保障されているもの(2)	教科書p87～p91、p97～p102 思想・良心の自由、信教の自由と政教分離
8	人権として保障されているもの(3)	教科書p103～p114 表現の自由
9	人権として保障されているもの(4)	教科書p131～p135、p141～p146 教育を受ける権利、職業選択の自由
10	人権として保障されているもの(5)	教科書p159～p168 生存権、勤労の権利と労働基本権
11	国民主権と政治のしくみ	教科書p170～p175、p194～p198 国会と内閣
12	権利や自由を守るしくみ	教科書p206～p220 司法権の役割と違憲審査制
13	憲法とはどのような法?(1)	教科書p228～p239 国家の成り立ちと三権分立
14	憲法とはどのような法?(2)	教科書p246～p256 憲法改正
15	まとめ	日本国憲法の俯瞰

科目コード	13101			区分	教養				
授業科目名	日本国憲法			担当者名	宮園 司史				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

現行の憲法制定後、我が国をめぐる環境は国内外ともに大きく変化した。このような時代の中で、我が国の政治、行政、外交等の骨格をなし、また、日々の国民生活にも直接的に影響を有する「憲法」の意義・重要性について、改めて学び直すことを通じて、これからの我が国の在り方や進むべき方向性等について、ともに考えていくこととしたい。

#### <授業の到達目標>

現行の憲法では、すべての公務員が憲法を尊重し、擁護する義務を定めているが、まず、その意味を十分に理解する必要がある。次に、人権および国の統治機構の項目のうち、重要なものについて、テキストを併用しながら、基礎的な知識の習得を目指すこととする。

#### <授業の方法>

教科書の内容に沿って、様々な設問を取り入れつつ、Q&A方式で授業を進めることとする。また、授業の節目節目でレポートの作成・提出を求める。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の授業では、教科書の内容等に関し、様々な設問を出すので、事前に教科書の該当部分を熟読して、内容を把握し、設問に答えられるように準備すること。また、授業後は、講義内容を必ず復習し、内容を正しく理解した上で、次回の授業に臨むこと。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

挑戦と創造の教育を建学の精神とし、①豊かな人間性と個性、②深い専門性と実践力、③コミュニケーション能力とグローバルマインドを身に付けた人材の育成を目指して科目を配置している。当該教養科目は、全学部の学生が共通に身に付ける学習内容として本科目を位置付けられ、教養科目のディプロマポリシー2「専門分野に関する知識」およびディプロマポリシー7「生涯にわたり学び続ける態度・指向性」に関連付けられている。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加状況・態度 25%、授業内レポート25%、定期試験 50%により、総合的に評価する（特に、受講態度については厳正にチェックする）。なお、規定以上の欠席回数がある場合および代筆レポートの提出その他受講態度に問題がある場合には、一切、単位を認めないので、注意すること。

#### <教科書>

東裕 憲法学事始（第2版） 一学舎

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	憲法の意義等	オリエンテーション、憲法の制定過程等
2	国民主権と平和主義	憲法の基本原理、天皇の地位等
3	包括的基本権等	包括的基本権、法の下での平等の意義等
4	精神的自由権Ⅰ	思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由等
5	精神的自由権Ⅱ	表現の自由をめぐる諸問題
6	経済的自由権	職業選択の自由、居住・移転の自由、財産権等
7	身体的自由権	人身の自由、刑事被告人・被疑者の権利保障等
8	参政権・国務請求権	参政権、裁判を受ける権利等
9	社会権	社会権、生存権、教育を受ける権利等
10	国会	国会の地位、組織、権能等
11	内閣	内閣の組織、権限等
12	裁判所	司法権、裁判所の組織・権能等
13	財政・地方自治	財政の基本原則、地方自治の本旨等
14	憲法保障	憲法改正手続、違憲審査権等
15	総括	我が国における憲法の在り方等

科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	川瀬 雅				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	保育・幼児教育のプロをめざすために（グループワーク）
5	プロジェクト学習②	保育・幼児教育の「今」（現職の先生より）
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	保育者に求められる「人権感覚」とは
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	マナーとルールについて考えよう
10	プロジェクト学習⑤	社会に貢献する人材とは
11	プロジェクト学習⑥	これからの保育はどうなる？（現職先生のお話）
12	プロジェクト学習⑦	保育者を目指すために（先輩の経験を聞く）
13	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表しよう
14	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知ろう
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	平松 美由紀				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	保育・幼児教育のプロをめざすために（グループワーク）
5	プロジェクト学習②	保育・幼児教育の「今」（現職の先生より）
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	保育者に求められる「人権感覚」とは
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	マナーとルールについて考えよう
10	プロジェクト学習⑤	社会に貢献する人材とは
11	プロジェクト学習⑥	これからの保育はどうなる？（現職先生のお話）
12	プロジェクト学習⑦	保育者を目指すために（先輩の経験を聞く）
13	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表しよう
14	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知ろう
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	酒井 健太郎				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	保育・幼児教育のプロをめざすために（グループワーク）
5	プロジェクト学習②	保育・幼児教育の「今」（現職の先生より）
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	保育者に求められる「人権感覚」とは
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	マナーとルールについて考えよう
10	プロジェクト学習⑤	社会に貢献する人材とは
11	プロジェクト学習⑥	これからの保育はどうなる？（現職先生のお話）
12	プロジェクト学習⑦	保育者を目指すために（先輩の経験を聞く）
13	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表しよう
14	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知ろう
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	坪田 章彦				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	保育・幼児教育のプロをめざすために（グループワーク）
5	プロジェクト学習②	保育・幼児教育の「今」（現職の先生より）
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	保育者に求められる「人権感覚」とは
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	マナーとルールについて考えよう
10	プロジェクト学習⑤	社会に貢献する人材とは
11	プロジェクト学習⑥	これからの保育はどうなる？（現職先生のお話）
12	プロジェクト学習⑦	保育者を目指すために（先輩の経験を聞く）
13	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表しよう
14	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知ろう
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	中井 和弥				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	保育・幼児教育のプロをめざすために（グループワーク）
5	プロジェクト学習②	保育・幼児教育の「今」（現職の先生より）
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	保育者に求められる「人権感覚」とは
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	マナーとルールについて考えよう
10	プロジェクト学習⑤	社会に貢献する人材とは
11	プロジェクト学習⑥	これからの保育はどうなる？（現職先生のお話）
12	プロジェクト学習⑦	保育者を目指すために（先輩の経験を聞く）
13	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表しよう
14	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知ろう
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200				区分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	森下 裕三			
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）  
なお、授業ではプラットフォームである Google Classroom を活用し、課題や資料の配布および課題の提出などには Google ドキュメントや Google スプレッドシートなどを利用する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題等 60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	学校の先生を目指すために
5	プロジェクト学習②	小学校・中学校の「今」
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	学校の先生に求められる「資質」とは
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	働くことの意義を考えよう
10	プロジェクト学習⑤	社会に貢献する人材とは
11	プロジェクト学習⑥	これからの教育はどうなる？
12	プロジェクト学習⑦	学校の先生を目指すために今の自分にできること
13	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表しよう
14	私の目指す道（My Dream）②	それぞれが目指す専門職の将来像を知ろう
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」



科目コード	13200				区分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	伊住 継行			
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）  
なお、授業ではプラットフォームである Google Classroom を活用し、課題や資料の配布および課題の提出などには Google ドキュメントや Google スプレッドシートなどを利用する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題等 60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	学校の先生を目指すために
5	プロジェクト学習②	小学校・中学校の「今」
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	学校の先生に求められる「資質」とは
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	働くことの意義を考えよう
10	プロジェクト学習⑤	社会に貢献する人材とは
11	プロジェクト学習⑥	これからの教育はどうなる？
12	プロジェクト学習⑦	学校の先生を目指すために今の自分にできること
13	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表しよう
14	私の目指す道（My Dream）②	それぞれが目指す専門職の将来像を知ろう
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200				区分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	福政 武彦			
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）  
なお、授業ではプラットフォームである Google Classroom を活用し、課題や資料の配布および課題の提出などには Google ドキュメントや Google スプレッドシートなどを利用する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題等 60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	学校の先生を目指すために
5	プロジェクト学習②	小学校・中学校の「今」
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	学校の先生に求められる「資質」とは
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	働くことの意義を考えよう
10	プロジェクト学習⑤	社会に貢献する人材とは
11	プロジェクト学習⑥	これからの教育はどうなる？
12	プロジェクト学習⑦	学校の先生を目指すために今の自分にできること
13	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表しよう
14	私の目指す道（My Dream）②	それぞれが目指す専門職の将来像を知ろう
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200				区分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	高橋 直樹			
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）  
なお、授業ではプラットフォームである Google Classroom を活用し、課題や資料の配布および課題の提出などには Google ドキュメントや Google スプレッドシートなどを利用する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題等 60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	学校の先生を目指すために
5	プロジェクト学習②	小学校・中学校の「今」
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	学校の先生に求められる「資質」とは
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	働くことの意義を考えよう
10	プロジェクト学習⑤	社会に貢献する人材とは
11	プロジェクト学習⑥	これからの教育はどうなる？
12	プロジェクト学習⑦	学校の先生を目指すために今の自分にできること
13	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表しよう
14	私の目指す道（My Dream）②	それぞれが目指す専門職の将来像を知ろう
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	中家 淳悟				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）  
なお、授業ではプラットフォームである Google Classroom を活用し、課題や資料の配布および課題の提出などには Google ドキュメントや Google スプレッドシートなどを利用する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題等 60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	学校の先生を目指すために
5	プロジェクト学習②	小学校・中学校の「今」
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	学校の先生に求められる「資質」とは
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	働くことの意義を考えよう
10	プロジェクト学習⑤	社会に貢献する人材とは
11	プロジェクト学習⑥	これからの教育はどうなる？
12	プロジェクト学習⑦	学校の先生を目指すために今の自分にできること
13	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表しよう
14	私の目指す道（My Dream）②	それぞれが目指す専門職の将来像を知ろう
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200				区分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	三堀 仁			
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）  
なお、授業ではプラットフォームである Google Classroom を活用し、課題や資料の配布および課題の提出などには Google ドキュメントや Google スプレッドシートなどを利用する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題等 60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	学校の先生を目指すために
5	プロジェクト学習②	小学校・中学校の「今」
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	学校の先生に求められる「資質」とは
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	働くことの意義を考えよう
10	プロジェクト学習⑤	社会に貢献する人材とは
11	プロジェクト学習⑥	これからの教育はどうなる？
12	プロジェクト学習⑦	学校の先生を目指すために今の自分にできること
13	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表しよう
14	私の目指す道（My Dream）②	それぞれが目指す専門職の将来像を知ろう
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200				区分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	松尾 健太郎			
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）  
なお、授業ではプラットフォームである Google Classroom を活用し、課題や資料の配布および課題の提出などには Google ドキュメントや Google スプレッドシートなどを利用する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題等 60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	学校の先生を目指すために
5	プロジェクト学習②	小学校・中学校の「今」
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	学校の先生に求められる「資質」とは
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	働くことの意義を考えよう
10	プロジェクト学習⑤	社会に貢献する人材とは
11	プロジェクト学習⑥	これからの教育はどうなる？
12	プロジェクト学習⑦	学校の先生を目指すために今の自分にできること
13	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表しよう
14	私の目指す道（My Dream）②	それぞれが目指す専門職の将来像を知ろう
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	川瀬 雅				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

#### <授業の到達目標>

- ①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

#### <授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(キャリアディベロップメントの内容に関する議論) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表)

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見直しを持つ。(毎回30分程度)

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は一般教養科目のディプロマポリシー6(自律や社会性等に関する態度・指向性)と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題(40%) プレゼンテーション・レポート(40%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(20%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	自己理解と2年次の目標設定	1年次の学びを振り返り、2年次の目標を設定する。
2	プロジェクト学習①	私たちが担う「次世代の教育における課題」とは何かを考える
3	プロジェクト学習②	「知と心の豊かさ」から教育者としての資質について考える
4	プロジェクト学習③	「プロフェッショナル」とは何かを考える
5	プロジェクト学習④	「幼児教育」が抱える教育的・社会的課題について調査する
6	プロジェクト学習⑤	様々な定義がなされている「非認知能力」について自身の考えを示す
7	プロジェクト学習⑥	現代で求められる「人権感覚」について考える
8	半期の振り返りと評価	活動を振り返り、半期のまとめをする。後期の見直しを立てる。
9	チームビルディングの取り組み	チームビルディングへの検討・取組み(体育祭準備)
10	プレゼンテーションコンテスト①	事前課題として作成したプレゼンテーションの発表を行い、意見交換を行う。
11	プレゼンテーションコンテスト②	クラス予選を行い、各クラスの代表者を選出する。
12	プレゼンテーションコンテスト③	プレゼンテーションコンテストの経験を活かして1年生のスピーチコンテストの共同作業を行う。
13	プロジェクト学習⑦	プロジェクト学習①～⑥の内容をまとめる
14	プロジェクト学習⑧	自分の1年の学びを振り返るプレゼン作成と発表
15	1年間の振り返りと評価	自身の1年間の学びを振り返るプレゼンテーションを行う。また、自身の成長を客観的に評価し、3年次の目標発表を行う。

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	平松 美由紀				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

#### <授業の到達目標>

- ①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

#### <授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(キャリアディベロップメントの内容に関する議論) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表)

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見直しを持つ。(毎回30分程度)

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は一般教養科目のディプロマポリシー6(自律や社会性等に関する態度・指向性)と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題(40%) プレゼンテーション・レポート(40%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(20%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	自己理解と2年次の目標設定	1年次の学びを振り返り、2年次の目標を設定する。
2	プロジェクト学習①	私たちが担う「次世代の教育における課題」とは何かを考える
3	プロジェクト学習②	「知と心の豊かさ」から教育者としての資質について考える
4	プロジェクト学習③	「プロフェッショナル」とは何かを考える
5	プロジェクト学習④	「幼児教育」が抱える教育的・社会的課題について調査する
6	プロジェクト学習⑤	様々な定義がなされている「非認知能力」について自身の考えを示す
7	プロジェクト学習⑥	現代で求められる「人権感覚」について考える
8	半期の振り返りと評価	活動を振り返り、半期のまとめをする。後期の見直しを立てる。
9	チームビルディングの取り組み	チームビルディングへの検討・取組み(体育祭準備)
10	プレゼンテーションコンテスト①	事前課題として作成したプレゼンテーションの発表を行い、意見交換を行う。
11	プレゼンテーションコンテスト②	クラス予選を行い、各クラスの代表者を選出する。
12	プレゼンテーションコンテスト③	プレゼンテーションコンテストの経験を活かして1年生のスピーチコンテストの共同作業を行う。
13	プロジェクト学習⑦	プロジェクト学習①～⑥の内容をまとめる
14	プロジェクト学習⑧	自分の1年の学びを振り返るプレゼン作成と発表
15	1年間の振り返りと評価	自身の1年間の学びを振り返るプレゼンテーションを行う。また、自身の成長を客観的に評価し、3年次の目標発表を行う。



科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	酒井 健太郎				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

- ①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(キャリアディベロップメントの内容に関する議論) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表)

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見直しを持つ。(毎回30分程度)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は一般教養科目のディプロマポリシー6(自律や社会性等に関する態度・指向性)と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題(40%) プレゼンテーション・レポート(40%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(20%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	自己理解と2年次の目標設定	1年次の学びを振り返り、2年次の目標を設定する。
2	プロジェクト学習①	私たちが担う「次世代の教育における課題」とは何かを考える
3	プロジェクト学習②	「知と心の豊かさ」から教育者としての資質について考える
4	プロジェクト学習③	「プロフェSSIONAL」とは何かを考える
5	プロジェクト学習④	「幼児教育」が抱える教育的・社会的課題について調査する
6	プロジェクト学習⑤	様々な定義がなされている「非認知能力」について自身の考えを示す
7	プロジェクト学習⑥	現代で求められる「人権感覚」について考える
8	半期の振り返りと評価	活動を振り返り、半期のまとめをする。後期の見直しを立てる。
9	チームビルディングの取り組み	チームビルディングへの検討・取組み(体育祭準備)
10	プレゼンテーションコンテスト①	事前課題として作成したプレゼンテーションの発表を行い、意見交換を行う。
11	プレゼンテーションコンテスト②	クラス予選を行い、各クラスの代表者を選出する。
12	プレゼンテーションコンテスト③	プレゼンテーションコンテストの経験を活かして1年生のスピーチコンテストの共同作業を行う。
13	プロジェクト学習⑦	プロジェクト学習①～⑥の内容をまとめる
14	プロジェクト学習⑧	自分の1年の学びを振り返るプレゼン作成と発表
15	1年間の振り返りと評価	自身の1年間の学びを振り返るプレゼンテーションを行う。また、自身の成長を客観的に評価し、3年次の目標発表を行う。

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	坪田 章彦				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

#### <授業の到達目標>

- ①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

#### <授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(キャリアディベロップメントの内容に関する議論) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表)

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見直しを持つ。(毎回30分程度)

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は一般教養科目のディプロマポリシー6(自律や社会性等に関する態度・指向性)と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題(40%) プレゼンテーション・レポート(40%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(20%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	自己理解と2年次の目標設定	1年次の学びを振り返り、2年次の目標を設定する。
2	プロジェクト学習①	私たちが担う「次世代の教育における課題」とは何かを考える
3	プロジェクト学習②	「知と心の豊かさ」から教育者としての資質について考える
4	プロジェクト学習③	「プロフェッショナル」とは何かを考える
5	プロジェクト学習④	「幼児教育」が抱える教育的・社会的課題について調査する
6	プロジェクト学習⑤	様々な定義がなされている「非認知能力」について自身の考えを示す
7	プロジェクト学習⑥	現代で求められる「人権感覚」について考える
8	半期の振り返りと評価	活動を振り返り、半期のまとめをする。後期の見直しを立てる。
9	チームビルディングの取り組み	チームビルディングへの検討・取組み(体育祭準備)
10	プレゼンテーションコンテスト①	事前課題として作成したプレゼンテーションの発表を行い、意見交換を行う。
11	プレゼンテーションコンテスト②	クラス予選を行い、各クラスの代表者を選出する。
12	プレゼンテーションコンテスト③	プレゼンテーションコンテストの経験を活かして1年生のスピーチコンテストの共同作業を行う。
13	プロジェクト学習⑦	プロジェクト学習①～⑥の内容をまとめる
14	プロジェクト学習⑧	自分の1年の学びを振り返るプレゼン作成と発表
15	1年間の振り返りと評価	自身の1年間の学びを振り返るプレゼンテーションを行う。また、自身の成長を客観的に評価し、3年次の目標発表を行う。

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	中井 和弥				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

- ①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(キャリアディベロップメントの内容に関する議論) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表)

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見直しを持つ。(毎回30分程度)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は一般教養科目のディプロマポリシー6(自律や社会性等に関する態度・指向性)と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題(40%) プレゼンテーション・レポート(40%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(20%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	自己理解と2年次の目標設定	1年次の学びを振り返り、2年次の目標を設定する。
2	プロジェクト学習①	私たちが担う「次世代の教育における課題」とは何かを考える
3	プロジェクト学習②	「知と心の豊かさ」から教育者としての資質について考える
4	プロジェクト学習③	「プロフェッショナル」とは何かを考える
5	プロジェクト学習④	「幼児教育」が抱える教育的・社会的課題について調査する
6	プロジェクト学習⑤	様々な定義がなされている「非認知能力」について自身の考えを示す
7	プロジェクト学習⑥	現代で求められる「人権感覚」について考える
8	半期の振り返りと評価	活動を振り返り、半期のまとめをする。後期の見直しを立てる。
9	チームビルディングの取り組み	チームビルディングへの検討・取組み(体育祭準備)
10	プレゼンテーションコンテスト①	事前課題として作成したプレゼンテーションの発表を行い、意見交換を行う。
11	プレゼンテーションコンテスト②	クラス予選を行い、各クラスの代表者を選出する。
12	プレゼンテーションコンテスト③	プレゼンテーションコンテストの経験を活かして1年生のスピーチコンテストの共同作業を行う。
13	プロジェクト学習⑦	プロジェクト学習①～⑥の内容をまとめる
14	プロジェクト学習⑧	自分の1年の学びを振り返るプレゼン作成と発表
15	1年間の振り返りと評価	自身の1年間の学びを振り返るプレゼンテーションを行う。また、自身の成長を客観的に評価し、3年次の目標発表を行う。

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	森下 裕三				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につける。

#### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を身につける。②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身につける。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身につける。④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身につける。

#### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）なお、授業ではプラットフォームである Google クラウドルームを活用し、課題や資料の配布および課題の提出などには Google ドキュメントや Google スプレッドシートなどを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む（毎回1時間程度） テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見直しを持つ（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組む姿勢と受講態度・意欲 20%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	クラス内の相互理解を図り、授業計画、授業の到達目標と注意事項、成績評価法を確認する。
2	大学生活を考える	設定した目標設定と具体的な自己管理を結びつける
3	グループ・テーマを決める	グループワークの方法を知り、テーマを設定する
4	学科教育①	学校現場の課題を知る
5	学科教育②	必要な情報やデータを収集する
6	学科教育③	発表のためのアウトラインを作成する
7	学科教育④	グループプロジェクト発表に向けての準備
8	前期中間目標の振り返り	グループプロジェクト発表
9	クラスづくり	後期目標設定
10	プレゼンコンテストの準備	プレゼンコンテストに向けた原稿の作成と修正
11	プレゼンコンテスト・クラス予選	各自の将来像についてプレゼンテーションをおこなう
12	1年生との共同授業	1年生のスピーチコンテストへのフィードバック
13	学科教育⑤	4年生による模擬授業を体験する
14	学科教育⑥	教員採用試験などの希望進路について、プレゼンテーションを作成する
15	1年間のまとめ	1年間を振り返り、残り2年間の大学生活を具体的に計画した上で将来像についてプレゼンテーションをする

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	伊住 継行				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につける。

#### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を身につける。②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身につける。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身につける。④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身につける。

#### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）なお、授業ではプラットフォームである Google クラウドルームを活用し、課題や資料の配布および課題の提出などには Google ドキュメントや Google スプレッドシートなどを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む（毎回1時間程度） テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見直しを持つ（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組む姿勢と受講態度・意欲 20%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	クラス内の相互理解を図り、授業計画、授業の到達目標と注意事項、成績評価法を確認する。
2	大学生活を考える	設定した目標設定と具体的な自己管理を結びつける
3	グループ・テーマを決める	グループワークの方法を知り、テーマを設定する
4	学科教育①	学校現場の課題を知る
5	学科教育②	必要な情報やデータを収集する
6	学科教育③	発表のためのアウトラインを作成する
7	学科教育④	グループプロジェクト発表に向けての準備
8	前期中間目標の振り返り	グループプロジェクト発表
9	クラスづくり	後期目標設定
10	プレゼンコンテストの準備	プレゼンコンテストに向けた原稿の作成と修正
11	プレゼンコンテスト・クラス予選	各自の将来像についてプレゼンテーションをおこなう
12	1年生との共同授業	1年生のスピーチコンテストへのフィードバック
13	学科教育⑤	4年生による模擬授業を体験する
14	学科教育⑥	教員採用試験などの希望進路について、プレゼンテーションを作成する
15	1年間のまとめ	1年間を振り返り、残り2年間の大学生活を具体的に計画した上で将来像についてプレゼンテーションをする

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	福政 武彦				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につける。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を身につける。②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身につける。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身につける。④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身につける。

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）なお、授業ではプラットフォームである Google クラウドルームを活用し、課題や資料の配布および課題の提出などには Google ドキュメントや Google スプレッドシートなどを利用する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む（毎回1時間程度） テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見直しを持つ（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組む姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	クラス内の相互理解を図り、授業計画、授業の到達目標と注意事項、成績評価法を確認する。
2	大学生活を考える	設定した目標設定と具体的な自己管理を結びつける
3	グループ・テーマを決める	グループワークの方法を知り、テーマを設定する
4	学科教育①	学校現場の課題を知る
5	学科教育②	必要な情報やデータを収集する
6	学科教育③	発表のためのアウトラインを作成する
7	学科教育④	グループプロジェクト発表に向けての準備
8	前期中間目標の振り返り	グループプロジェクト発表
9	クラスづくり	後期目標設定
10	プレゼンコンテストの準備	プレゼンコンテストに向けた原稿の作成と修正
11	プレゼンコンテスト・クラス予選	各自の将来像についてプレゼンテーションをおこなう
12	1年生との共同授業	1年生のスピーチコンテストへのフィードバック
13	学科教育⑤	4年生による模擬授業を体験する
14	学科教育⑥	教員採用試験などの希望進路について、プレゼンテーションを作成する
15	1年間のまとめ	1年間を振り返り、残り2年間の大学生活を具体的に計画した上で将来像についてプレゼンテーションをする

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	高橋 直樹				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につける。

#### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を身につける。②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身につける。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身につける。④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身につける。

#### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）なお、授業ではプラットフォームである Google クラウドルームを活用し、課題や資料の配布および課題の提出などには Google ドキュメントや Google スプレッドシートなどを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む（毎回1時間程度） テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見直しを持つ（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組む姿勢と受講態度・意欲 20%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	クラス内の相互理解を図り、授業計画、授業の到達目標と注意事項、成績評価法を確認する。
2	大学生活を考える	設定した目標設定と具体的な自己管理を結びつける
3	グループ・テーマを決める	グループワークの方法を知り、テーマを設定する
4	学科教育①	学校現場の課題を知る
5	学科教育②	必要な情報やデータを収集する
6	学科教育③	発表のためのアウトラインを作成する
7	学科教育④	グループプロジェクト発表に向けての準備
8	前期中間目標の振り返り	グループプロジェクト発表
9	クラスづくり	後期目標設定
10	プレゼンコンテストの準備	プレゼンコンテストに向けた原稿の作成と修正
11	プレゼンコンテスト・クラス予選	各自の将来像についてプレゼンテーションをおこなう
12	1年生との共同授業	1年生のスピーチコンテストへのフィードバック
13	学科教育⑤	4年生による模擬授業を体験する
14	学科教育⑥	教員採用試験などの希望進路について、プレゼンテーションを作成する
15	1年間のまとめ	1年間を振り返り、残り2年間の大学生活を具体的に計画した上で将来像についてプレゼンテーションをする

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	中家 淳悟				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につける。

#### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を身につける。②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身につける。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身につける。④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身につける。

#### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）なお、授業ではプラットフォームである Google クラウドルームを活用し、課題や資料の配布および課題の提出などには Google ドキュメントや Google スプレッドシートなどを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む（毎回1時間程度） テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見直しを持つ（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組む姿勢と受講態度・意欲 20%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	クラス内の相互理解を図り、授業計画、授業の到達目標と注意事項、成績評価法を確認する。
2	大学生活を考える	設定した目標設定と具体的な自己管理を結びつける
3	グループ・テーマを決める	グループワークの方法を知り、テーマを設定する
4	学科教育①	学校現場の課題を知る
5	学科教育②	必要な情報やデータを収集する
6	学科教育③	発表のためのアウトラインを作成する
7	学科教育④	グループプロジェクト発表に向けての準備
8	前期中間目標の振り返り	グループプロジェクト発表
9	クラスづくり	後期目標設定
10	プレゼンコンテストの準備	プレゼンコンテストに向けた原稿の作成と修正
11	プレゼンコンテスト・クラス予選	各自の将来像についてプレゼンテーションをおこなう
12	1年生との共同授業	1年生のスピーチコンテストへのフィードバック
13	学科教育⑤	4年生による模擬授業を体験する
14	学科教育⑥	教員採用試験などの希望進路について、プレゼンテーションを作成する
15	1年間のまとめ	1年間を振り返り、残り2年間の大学生活を具体的に計画した上で将来像についてプレゼンテーションをする



科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	小澤 尚子				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につける。

#### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を身につける。②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身につける。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身につける。④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身につける。

#### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）なお、授業ではプラットフォームである Google クラウドルームを活用し、課題や資料の配布および課題の提出などには Google ドキュメントや Google スプレッドシートなどを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む（毎回1時間程度） テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組む姿勢と受講態度・意欲 20%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	クラス内の相互理解を図り、授業計画、授業の到達目標と注意事項、成績評価法を確認する。
2	大学生活を考える	設定した目標設定と具体的な自己管理を結びつける
3	グループ・テーマを決める	グループワークの方法を知り、テーマを設定する
4	学科教育①	学校現場の課題を知る
5	学科教育②	必要な情報やデータを収集する
6	学科教育③	発表のためのアウトラインを作成する
7	学科教育④	グループプロジェクト発表に向けての準備
8	前期中間目標の振り返り	グループプロジェクト発表
9	クラスづくり	後期目標設定
10	プレゼンコンテストの準備	プレゼンコンテストに向けた原稿の作成と修正
11	プレゼンコンテスト・クラス予選	各自の将来像についてプレゼンテーションをおこなう
12	1年生との共同授業	1年生のスピーチコンテストへのフィードバック
13	学科教育⑤	4年生による模擬授業を体験する
14	学科教育⑥	教員採用試験などの希望進路について、プレゼンテーションを作成する
15	1年間のまとめ	1年間を振り返り、残り2年間の大学生活を具体的に計画した上で将来像についてプレゼンテーションをする

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	三堀 仁				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につける。

#### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を身につける。②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身につける。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身につける。④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身につける。

#### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）なお、授業ではプラットフォームである Google クラウドルームを活用し、課題や資料の配布および課題の提出などには Google ドキュメントや Google スプレッドシートなどを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む（毎回1時間程度） テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見直しを持つ（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組む姿勢と受講態度・意欲 20%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	クラス内の相互理解を図り、授業計画、授業の到達目標と注意事項、成績評価法を確認する。
2	大学生活を考える	設定した目標設定と具体的な自己管理を結びつける
3	グループ・テーマを決める	グループワークの方法を知り、テーマを設定する
4	学科教育①	学校現場の課題を知る
5	学科教育②	必要な情報やデータを収集する
6	学科教育③	発表のためのアウトラインを作成する
7	学科教育④	グループプロジェクト発表に向けての準備
8	前期中間目標の振り返り	グループプロジェクト発表
9	クラスづくり	後期目標設定
10	プレゼンコンテストの準備	プレゼンコンテストに向けた原稿の作成と修正
11	プレゼンコンテスト・クラス予選	各自の将来像についてプレゼンテーションをおこなう
12	1年生との共同授業	1年生のスピーチコンテストへのフィードバック
13	学科教育⑤	4年生による模擬授業を体験する
14	学科教育⑥	教員採用試験などの希望進路について、プレゼンテーションを作成する
15	1年間のまとめ	1年間を振り返り、残り2年間の大学生活を具体的に計画した上で将来像についてプレゼンテーションをする

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	松尾 健太郎				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につける。

#### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を身につける。②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身につける。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身につける。④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身につける。

#### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）なお、授業ではプラットフォームである Google クラウドルームを活用し、課題や資料の配布および課題の提出などには Google ドキュメントや Google スプレッドシートなどを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む（毎回1時間程度） テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見直しを持つ（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組む姿勢と受講態度・意欲 20%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	クラス内の相互理解を図り、授業計画、授業の到達目標と注意事項、成績評価法を確認する。
2	大学生活を考える	設定した目標設定と具体的な自己管理を結びつける
3	グループ・テーマを決める	グループワークの方法を知り、テーマを設定する
4	学科教育①	学校現場の課題を知る
5	学科教育②	必要な情報やデータを収集する
6	学科教育③	発表のためのアウトラインを作成する
7	学科教育④	グループプロジェクト発表に向けての準備
8	前期中間目標の振り返り	グループプロジェクト発表
9	クラスづくり	後期目標設定
10	プレゼンコンテストの準備	プレゼンコンテストに向けた原稿の作成と修正
11	プレゼンコンテスト・クラス予選	各自の将来像についてプレゼンテーションをおこなう
12	1年生との共同授業	1年生のスピーチコンテストへのフィードバック
13	学科教育⑤	4年生による模擬授業を体験する
14	学科教育⑥	教員採用試験などの希望進路について、プレゼンテーションを作成する
15	1年間のまとめ	1年間を振り返り、残り2年間の大学生活を具体的に計画した上で将来像についてプレゼンテーションをする

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	古山 喜一				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

#### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

#### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度） テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見直しを持つ。（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

#### <教科書>

必要に合わせて

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	プレゼンテーションの作成	PCを持参し、プレゼン資料を作成する
5	プレゼンテーションコンテスト（1）	クラス予選（3分間程度）
6	自己分析結果の分析	自己分析、適職分析を踏まえた振り返り
7	自己分析結果の報告	自己分析・適職分析を踏まえたスピーチ、最優秀プレゼンの視聴
8	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
9	ディスカッション&スピーチ（1）	「競技経験をどう活かすか」についてのディスカッションおよびスピーチ
10	ディスカッション&スピーチ（2）	「理想の体育教師・コーチとは」についてのディスカッションおよびスピーチ
11	ディスカッション&スピーチ（3）	「様々な立場から考える専門性」についてのディスカッションおよびスピーチ
12	卒業研究に向けて（1）	前年度卒業研究からのゼミ選択
13	卒業研究に向けて（2）	履修済み授業を参考にしたゼミ選択
14	希望進路の実現に向けて（1）	希望進路に関するプレゼンテーションの作成
15	希望進路に関するプレゼンテーションの作成	希望進路に関する志望理由をプレゼンテーション発表

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	小玉 京士朗				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

#### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

#### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度） テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見直しを持つ。（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

#### <教科書>

必要に合わせて

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	プレゼンテーションの作成	PCを持参し、プレゼン資料を作成する
5	プレゼンテーションコンテスト（1）	クラス予選（3分間程度）
6	自己分析結果の分析	自己分析、適職分析を踏まえた振り返り
7	自己分析結果の報告	自己分析・適職分析を踏まえたスピーチ、最優秀プレゼンの視聴
8	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
9	ディスカッション&スピーチ（1）	「競技経験をどう活かすか」についてのディスカッションおよびスピーチ
10	ディスカッション&スピーチ（2）	「理想の体育教師・コーチとは」についてのディスカッションおよびスピーチ
11	ディスカッション&スピーチ（3）	「様々な立場から考える専門性」についてのディスカッションおよびスピーチ
12	卒業研究に向けて（1）	前年度卒業研究からのゼミ選択
13	卒業研究に向けて（2）	履修済み授業を参考にしたゼミ選択
14	希望進路の実現に向けて（1）	希望進路に関するプレゼンテーションの作成
15	希望進路に関するプレゼンテーションの作成	希望進路に関する志望理由をプレゼンテーション発表

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	飯出 一秀				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度） テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

必要に合わせて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	プレゼンテーションの作成	PCを持参し、プレゼン資料を作成する
5	プレゼンテーションコンテスト（1）	クラス予選（3分間程度）
6	自己分析結果の分析	自己分析、適職分析を踏まえた振り返り
7	自己分析結果の報告	自己分析・適職分析を踏まえたスピーチ、最優秀プレゼンの視聴
8	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
9	ディスカッション&スピーチ（1）	「競技経験をどう活かすか」についてのディスカッションおよびスピーチ
10	ディスカッション&スピーチ（2）	「理想の体育教師・コーチとは」についてのディスカッションおよびスピーチ
11	ディスカッション&スピーチ（3）	「様々な立場から考える専門性」についてのディスカッションおよびスピーチ
12	卒業研究に向けて（1）	前年度卒業研究からのゼミ選択
13	卒業研究に向けて（2）	履修済み授業を参考にしたゼミ選択
14	希望進路の実現に向けて（1）	希望進路に関するプレゼンテーションの作成
15	希望進路に関するプレゼンテーションの作成	希望進路に関する志望理由をプレゼンテーション発表

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	河野 儀久				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

#### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

#### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度） テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見直しを持つ。（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

#### <教科書>

必要に合わせて

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	プレゼンテーションの作成	PCを持参し、プレゼン資料を作成する
5	プレゼンテーションコンテスト（1）	クラス予選（3分間程度）
6	自己分析結果の分析	自己分析、適職分析を踏まえた振り返り
7	自己分析結果の報告	自己分析・適職分析を踏まえたスピーチ、最優秀プレゼンの視聴
8	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
9	ディスカッション&スピーチ（1）	「競技経験をどう活かすか」についてのディスカッションおよびスピーチ
10	ディスカッション&スピーチ（2）	「理想の体育教師・コーチとは」についてのディスカッションおよびスピーチ
11	ディスカッション&スピーチ（3）	「様々な立場から考える専門性」についてのディスカッションおよびスピーチ
12	卒業研究に向けて（1）	前年度卒業研究からのゼミ選択
13	卒業研究に向けて（2）	履修済み授業を参考にしたゼミ選択
14	希望進路の実現に向けて（1）	希望進路に関するプレゼンテーションの作成
15	希望進路に関するプレゼンテーションの作成	希望進路に関する志望理由をプレゼンテーション発表

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	畑島 紀昭				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

#### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

#### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度） テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

#### <教科書>

必要に合わせて

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	プレゼンテーションの作成	PCを持参し、プレゼン資料を作成する
5	プレゼンテーションコンテスト（1）	クラス予選（3分間程度）
6	自己分析結果の分析	自己分析、適職分析を踏まえた振り返り
7	自己分析結果の報告	自己分析・適職分析を踏まえたスピーチ、最優秀プレゼンの視聴
8	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
9	ディスカッション&スピーチ（1）	「競技経験をどう活かすか」についてのディスカッションおよびスピーチ
10	ディスカッション&スピーチ（2）	「理想の体育教師・コーチとは」についてのディスカッションおよびスピーチ
11	ディスカッション&スピーチ（3）	「様々な立場から考える専門性」についてのディスカッションおよびスピーチ
12	卒業研究に向けて（1）	前年度卒業研究からのゼミ選択
13	卒業研究に向けて（2）	履修済み授業を参考にしたゼミ選択
14	希望進路の実現に向けて（1）	希望進路に関するプレゼンテーションの作成
15	希望進路に関するプレゼンテーションの作成	希望進路に関する志望理由をプレゼンテーション発表



科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	宮本 彩				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度） テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

必要に合わせて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	プレゼンテーションの作成	PCを持参し、プレゼン資料を作成する
5	プレゼンテーションコンテスト（1）	クラス予選（3分間程度）
6	自己分析結果の分析	自己分析、適職分析を踏まえた振り返り
7	自己分析結果の報告	自己分析・適職分析を踏まえたスピーチ、最優秀プレゼンの視聴
8	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
9	ディスカッション&スピーチ（1）	「競技経験をどう活かすか」についてのディスカッションおよびスピーチ
10	ディスカッション&スピーチ（2）	「理想の体育教師・コーチとは」についてのディスカッションおよびスピーチ
11	ディスカッション&スピーチ（3）	「様々な立場から考える専門性」についてのディスカッションおよびスピーチ
12	卒業研究に向けて（1）	前年度卒業研究からのゼミ選択
13	卒業研究に向けて（2）	履修済み授業を参考にしたゼミ選択
14	希望進路の実現に向けて（1）	希望進路に関するプレゼンテーションの作成
15	希望進路に関するプレゼンテーションの作成	希望進路に関する志望理由をプレゼンテーション発表

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	坂本 賢広				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

#### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

#### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度） テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

#### <教科書>

必要に合わせて

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	プレゼンテーションの作成	PCを持参し、プレゼン資料を作成する
5	プレゼンテーションコンテスト（1）	クラス予選（3分間程度）
6	自己分析結果の分析	自己分析、適職分析を踏まえた振り返り
7	自己分析結果の報告	自己分析・適職分析を踏まえたスピーチ、最優秀プレゼンの視聴
8	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
9	ディスカッション&スピーチ（1）	「競技経験をどう活かすか」についてのディスカッションおよびスピーチ
10	ディスカッション&スピーチ（2）	「理想の体育教師・コーチとは」についてのディスカッションおよびスピーチ
11	ディスカッション&スピーチ（3）	「様々な立場から考える専門性」についてのディスカッションおよびスピーチ
12	卒業研究に向けて（1）	前年度卒業研究からのゼミ選択
13	卒業研究に向けて（2）	履修済み授業を参考にしたゼミ選択
14	希望進路の実現に向けて（1）	希望進路に関するプレゼンテーションの作成
15	希望進路に関するプレゼンテーションの作成	希望進路に関する志望理由をプレゼンテーション発表

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	簗戸 崇史				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

#### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

#### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度） テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見直しを持つ。（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

#### <教科書>

必要に合わせて

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	プレゼンテーションの作成	PCを持参し、プレゼン資料を作成する
5	プレゼンテーションコンテスト（1）	クラス予選（3分間程度）
6	自己分析結果の分析	自己分析、適職分析を踏まえた振り返り
7	自己分析結果の報告	自己分析・適職分析を踏まえたスピーチ、最優秀プレゼンの視聴
8	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
9	ディスカッション&スピーチ（1）	「競技経験をどう活かすか」についてのディスカッションおよびスピーチ
10	ディスカッション&スピーチ（2）	「理想の体育教師・コーチとは」についてのディスカッションおよびスピーチ
11	ディスカッション&スピーチ（3）	「様々な立場から考える専門性」についてのディスカッションおよびスピーチ
12	卒業研究に向けて（1）	前年度卒業研究からのゼミ選択
13	卒業研究に向けて（2）	履修済み授業を参考にしたゼミ選択
14	希望進路の実現に向けて（1）	希望進路に関するプレゼンテーションの作成
15	希望進路に関するプレゼンテーションの作成	希望進路に関する志望理由をプレゼンテーション発表

科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	畑島 紀昭				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	保育・幼児教育のプロをめざすために（グループワーク）
5	プロジェクト学習②	保育・幼児教育の「今」（現職の先生より）
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	保育者に求められる「人権感覚」とは
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	マナーとルールについて考えよう
10	プロジェクト学習⑤	社会に貢献する人材とは
11	プロジェクト学習⑥	これからの保育はどうなる？（現職先生のお話）
12	プロジェクト学習⑦	保育者を目指すために（先輩の経験を聞く）
13	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表しよう
14	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知ろう
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200				区分	教養			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	宮本 彩			
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	保育・幼児教育のプロをめざすために（グループワーク）
5	プロジェクト学習②	保育・幼児教育の「今」（現職の先生より）
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	保育者に求められる「人権感覚」とは
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	マナーとルールについて考えよう
10	プロジェクト学習⑤	社会に貢献する人材とは
11	プロジェクト学習⑥	これからの保育はどうなる？（現職先生のお話）
12	プロジェクト学習⑦	保育者を目指すために（先輩の経験を聞く）
13	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表しよう
14	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知ろう
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	坂本 賢広				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	保育・幼児教育のプロをめざすために（グループワーク）
5	プロジェクト学習②	保育・幼児教育の「今」（現職の先生より）
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	保育者に求められる「人権感覚」とは
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	マナーとルールについて考えよう
10	プロジェクト学習⑤	社会に貢献する人材とは
11	プロジェクト学習⑥	これからの保育はどうなる？（現職先生のお話）
12	プロジェクト学習⑦	保育者を目指すために（先輩の経験を聞く）
13	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表しよう
14	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知ろう
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	箕戸 崇史				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	保育・幼児教育のプロをめざすために（グループワーク）
5	プロジェクト学習②	保育・幼児教育の「今」（現職の先生より）
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	保育者に求められる「人権感覚」とは
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	マナーとルールについて考えよう
10	プロジェクト学習⑤	社会に貢献する人材とは
11	プロジェクト学習⑥	これからの保育はどうなる？（現職先生のお話）
12	プロジェクト学習⑦	保育者を目指すために（先輩の経験を聞く）
13	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表しよう
14	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知ろう
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	歌代 哲也				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

#### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	ベンチャーミーティング
5	プロジェクト学習②	租税教室
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	日経ビジネス「キャリア」を考える
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	インターンシップについて
10	プロジェクト学習⑤	日経ビジネスで学ぶ就活、仕事のための教養
11	プロジェクト学習⑥	社会に必要とされる企業とは
12	プロジェクト学習⑦	就職活動を知る
13	私の目指す道（My Dream）①	プレゼンテーション能力を高める①
14	私の目指す道（My Dream）②	プレゼンテーション能力を高める②
15	1年間のまとめ、「3年生に向けて」	学長講話「3年生に向けて」



科目コード	13200			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	富川 昂				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

#### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	ベンチャーミーティング
5	プロジェクト学習②	租税教室
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	日経ビジネス「キャリア」を考える
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	インターンシップについて
10	プロジェクト学習⑤	日経ビジネスで学ぶ就活、仕事のための教養
11	プロジェクト学習⑥	社会に必要とされる企業とは
12	プロジェクト学習⑦	就職活動を知る
13	私の目指す道（My Dream）①	プレゼンテーション能力を高める①
14	私の目指す道（My Dream）②	プレゼンテーション能力を高める②
15	1年間のまとめ、「3年生に向けて」	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200				区分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	清水 健太			
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

#### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	ベンチャーミーティング
5	プロジェクト学習②	租税教室
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	日経ビジネス「キャリア」を考える
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	インターンシップについて
10	プロジェクト学習⑤	日経ビジネスで学ぶ就活、仕事のための教養
11	プロジェクト学習⑥	社会に必要とされる企業とは
12	プロジェクト学習⑦	就職活動を知る
13	私の目指す道（My Dream）①	プレゼンテーション能力を高める①
14	私の目指す道（My Dream）②	プレゼンテーション能力を高める②
15	1年間のまとめ、「3年生に向けて」	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	齊藤 慎弥				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

#### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	ベンチャーミーティング
5	プロジェクト学習②	租税教室
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	日経ビジネス「キャリア」を考える
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	インターンシップについて
10	プロジェクト学習⑤	日経ビジネスで学ぶ就活、仕事のための教養
11	プロジェクト学習⑥	社会に必要とされる企業とは
12	プロジェクト学習⑦	就職活動を知る
13	私の目指す道（My Dream）①	プレゼンテーション能力を高める①
14	私の目指す道（My Dream）②	プレゼンテーション能力を高める②
15	1年間のまとめ、「3年生に向けて」	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200				区分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	白取 耕一郎			
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	ベンチャーミーティング
5	プロジェクト学習②	租税教室
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	日経ビジネス「キャリア」を考える
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	インターンシップについて
10	プロジェクト学習⑤	日経ビジネスで学ぶ就活、仕事のための教養
11	プロジェクト学習⑥	社会に必要とされる企業とは
12	プロジェクト学習⑦	就職活動を知る
13	私の目指す道（My Dream）①	プレゼンテーション能力を高める①
14	私の目指す道（My Dream）②	プレゼンテーション能力を高める②
15	1年間のまとめ、「3年生に向けて」	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	中西 敏之				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	ベンチャーミーティング
5	プロジェクト学習②	租税教室
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	日経ビジネス「キャリア」を考える
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	インターンシップについて
10	プロジェクト学習⑤	日経ビジネスで学ぶ就活、仕事のための教養
11	プロジェクト学習⑥	社会に必要とされる企業とは
12	プロジェクト学習⑦	就職活動を知る
13	私の目指す道（My Dream）①	プレゼンテーション能力を高める①
14	私の目指す道（My Dream）②	プレゼンテーション能力を高める②
15	1年間のまとめ、「3年生に向けて」	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	歌代 哲也				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を身に付ける。②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身に付ける。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身に付ける。④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身に付ける。

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・グループワークのまとめ・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

銅直信子・坂東実子（2013） 大学生のための文章表現&口頭発表練習帳 国書刊行会

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の内容と方法の理解、1年間の目標設定
2	自己分析・適職発見	2年目の大学生活の自己点検。就職について考える。
3	私のキャリアデザイン①	1年間のテーマと目指すゴールを考える
4	プレゼンテーションの作成①	ブレインストーミング、構成を考える
5	プレゼンテーションの作成②	表現技法
6	プレゼンテーションの作成③	学科予選（7分間）向けの資料作成
7	自己分析結果の報告	自己分析、適職分析を踏まえた振り返り
8	前期のまとめ	グループプロジェクト発表、前期中間目標振り返り
9	後期オリエンテーション	後期の目標設定・プレゼンテーションの作成に向けて
10	私のキャリアデザイン②	自分の将来像についてプレゼンテーションしよう
11	私のキャリアデザイン③	自分の将来像についてクラスで発表し合う（プレゼンテーション）
12	私のキャリアデザイン④	自分の経験を後輩に伝えよう！
13	文章表現の基本①	賛成・反対の意見文
14	文章表現の基本②	対立項と時間軸のある文章
15	文章表現の基本③ /1年間のまとめ	2年生の目標達成について振り返ろう。3年生に向けての課題と目標を考えよう

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	富川 昂				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を身に付ける。②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身に付ける。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身に付ける。④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身に付ける。

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話） 2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論） 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・グループワークのまとめ・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

銅直信子・坂東実子（2013） 大学生のための文章表現&口頭発表練習帳 国書刊行会

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の内容と方法の理解、1年間の目標設定
2	自己分析・適職発見	2年目の大学生活の自己点検。就職について考える。
3	私のキャリアデザイン①	1年間のテーマと目指すゴールを考える
4	プレゼンテーションの作成①	ブレインストーミング、構成を考える
5	プレゼンテーションの作成②	表現技法
6	プレゼンテーションの作成③	学科予選（7分間）向けの資料作成
7	自己分析結果の報告	自己分析、適職分析を踏まえた振り返り
8	前期のまとめ	グループプロジェクト発表、前期中間目標振り返り
9	後期オリエンテーション	後期の目標設定・プレゼンテーションの作成に向けて
10	私のキャリアデザイン②	自分の将来像についてプレゼンテーションしよう
11	私のキャリアデザイン③	自分の将来像についてクラスで発表し合う（プレゼンテーション）
12	私のキャリアデザイン④	自分の経験を後輩に伝えよう！
13	文章表現の基本①	賛成・反対の意見文
14	文章表現の基本②	対立項と時間軸のある文章
15	文章表現の基本③ /1年間のまとめ	2年生の目標達成について振り返ろう。3年生に向けての課題と目標を考えよう

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	清水 健太				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を身に付ける。②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身に付ける。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身に付ける。④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身に付ける。

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話） 2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論） 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・グループワークのまとめ・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

銅直信子・坂東実子（2013） 大学生のための文章表現&口頭発表練習帳 国書刊行会

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の内容と方法の理解、1年間の目標設定
2	自己分析・適職発見	2年目の大学生活の自己点検。就職について考える。
3	私のキャリアデザイン①	1年間のテーマと目指すゴールを考える
4	プレゼンテーションの作成①	ブレインストーミング、構成を考える
5	プレゼンテーションの作成②	表現技法
6	プレゼンテーションの作成③	学科予選（7分間）向けの資料作成
7	自己分析結果の報告	自己分析、適職分析を踏まえた振り返り
8	前期のまとめ	グループプロジェクト発表、前期中間目標振り返り
9	後期オリエンテーション	後期の目標設定・プレゼンテーションの作成に向けて
10	私のキャリアデザイン②	自分の将来像についてプレゼンテーションしよう
11	私のキャリアデザイン③	自分の将来像についてクラスで発表し合う（プレゼンテーション）
12	私のキャリアデザイン④	自分の経験を後輩に伝えよう！
13	文章表現の基本①	賛成・反対の意見文
14	文章表現の基本②	対立項と時間軸のある文章
15	文章表現の基本③ /1年間のまとめ	2年生の目標達成について振り返ろう。3年生に向けての課題と目標を考えよう



科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	齊藤 慎弥				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を身に付ける。②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身に付ける。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身に付ける。④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身に付ける。

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話） 2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論） 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・グループワークのまとめ・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

銅直信子・坂東実子（2013） 大学生のための文章表現&口頭発表練習帳 国書刊行会

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の内容と方法の理解、1年間の目標設定
2	自己分析・適職発見	2年目の大学生活の自己点検。就職について考える。
3	私のキャリアデザイン①	1年間のテーマと目指すゴールを考える
4	プレゼンテーションの作成①	ブレインストーミング、構成を考える
5	プレゼンテーションの作成②	表現技法
6	プレゼンテーションの作成③	学科予選（7分間）向けの資料作成
7	自己分析結果の報告	自己分析、適職分析を踏まえた振り返り
8	前期のまとめ	グループプロジェクト発表、前期中間目標振り返り
9	後期オリエンテーション	後期の目標設定・プレゼンテーションの作成に向けて
10	私のキャリアデザイン②	自分の将来像についてプレゼンテーションしよう
11	私のキャリアデザイン③	自分の将来像についてクラスで発表し合う（プレゼンテーション）
12	私のキャリアデザイン④	自分の経験を後輩に伝えよう！
13	文章表現の基本①	賛成・反対の意見文
14	文章表現の基本②	対立項と時間軸のある文章
15	文章表現の基本③ /1年間のまとめ	2年生の目標達成について振り返ろう。3年生に向けての課題と目標を考えよう

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	白取 耕一郎				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を身に付ける。②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身に付ける。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身に付ける。④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身に付ける。

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・グループワークのまとめ・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

銅直信子・坂東実子（2013） 大学生のための文章表現&口頭発表練習帳 国書刊行会

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の内容と方法の理解、1年間の目標設定
2	自己分析・適職発見	2年目の大学生活の自己点検。就職について考える。
3	私のキャリアデザイン①	1年間のテーマと目指すゴールを考える
4	プレゼンテーションの作成①	ブレインストーミング、構成を考える
5	プレゼンテーションの作成②	表現技法
6	プレゼンテーションの作成③	学科予選（7分間）向けの資料作成
7	自己分析結果の報告	自己分析、適職分析を踏まえた振り返り
8	前期のまとめ	グループプロジェクト発表、前期中間目標振り返り
9	後期オリエンテーション	後期の目標設定・プレゼンテーションの作成に向けて
10	私のキャリアデザイン②	自分の将来像についてプレゼンテーションしよう
11	私のキャリアデザイン③	自分の将来像についてクラスで発表し合う（プレゼンテーション）
12	私のキャリアデザイン④	自分の経験を後輩に伝えよう！
13	文章表現の基本①	賛成・反対の意見文
14	文章表現の基本②	対立項と時間軸のある文章
15	文章表現の基本③ /1年間のまとめ	2年生の目標達成について振り返ろう。3年生に向けての課題と目標を考えよう

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	中西 敏之				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を身に付ける。②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身に付ける。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身に付ける。④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身に付ける。

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話） 2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論） 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・グループワークのまとめ・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

銅直信子・坂東実子（2013） 大学生のための文章表現&口頭発表練習帳 国書刊行会

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の内容と方法の理解、1年間の目標設定
2	自己分析・適職発見	2年目の大学生活の自己点検。就職について考える。
3	私のキャリアデザイン①	1年間のテーマと目指すゴールを考える
4	プレゼンテーションの作成①	ブレインストーミング、構成を考える
5	プレゼンテーションの作成②	表現技法
6	プレゼンテーションの作成③	学科予選（7分間）向けの資料作成
7	自己分析結果の報告	自己分析、適職分析を踏まえた振り返り
8	前期のまとめ	グループプロジェクト発表、前期中間目標振り返り
9	後期オリエンテーション	後期の目標設定・プレゼンテーションの作成に向けて
10	私のキャリアデザイン②	自分の将来像についてプレゼンテーションしよう
11	私のキャリアデザイン③	自分の将来像についてクラスで発表し合う（プレゼンテーション）
12	私のキャリアデザイン④	自分の経験を後輩に伝えよう！
13	文章表現の基本①	賛成・反対の意見文
14	文章表現の基本②	対立項と時間軸のある文章
15	文章表現の基本③ /1年間のまとめ	2年生の目標達成について振り返ろう。3年生に向けての課題と目標を考えよう

科目コード	11405			区分	教養科目				
授業科目名	表現活動による人間力養成Ⅱ			担当者名	増岡 希望				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

In an active learning environment, students will use music as a foundation for creating situations in which they need to work with students from other departments as well as across different years in order to effectively communicate and build functioning

### <授業の到達目標>

Students will experiment with various communication and expression styles to find a method that is comfortable for them in front of a large group or on a one-on-one basis. They will also be able to handle situations where they have to actively problem sol

### <授業の方法>

This is an attendance based class, where most of the work is done in class. We will do corresponding activities based on the theme of each class. このクラスでは授業に出席することを前提とし、授業内での活動が主となる。それぞれのテーマに沿って理論と実技を並行して行う。またアクティブラーニングの一貫として、ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーションを取り入

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：自身の学習過程をワークブック（Googleクラスルーム）にまとめ、振り付けや歌詞の復習を行う。※1時間程度

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教養科目のディプロマポリシー④（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と⑥（自律や社会性等に関する態度・指向性）を関連付けられている。この授業では主にコミュニケーションと教授法に焦点を置き、様々なスタイルの音楽を通し、自身のコミュニケーションスタイルや教授法を確立していく。また学期末のアウトリーチ実習での指導を一つの目標とし、自身の課題を見つけ、知識と共に実践力も高めていく。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、ワークブックの取り組み 25%、面接 25%、期末レポート 10%、アウトリーチ実習への取り組み 10%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の説明、アイスブレイキング、BIG/ LITTLEプログラム
2	音楽を用いた声の表現	発声法、声量、音域のテクニック通して声を使った表現技法を学ぶ
3	ダンスを用いた身体の表現	身体の動きと音楽を通して身体表現を学ぶ
4	教授法と実践(1)	指導の評価を元に歌やダンスの演目を改良、指導内容の復習をする。また学生同士で指導が効果的であったか、コミュニケーション方法について協議する
5	教授法と実践(2)	指導の評価を元に歌やダンスの演目を改良、指導内容の復習をする。また学生同士で指導が効果的であったか、コミュニケーション方法について協議する
6	教授法と実践(3)	指導の評価を元に歌やダンスの演目を改良、指導内容の復習をする。また学生同士で指導が効果的であったか、コミュニケーション方法について協議する
7	実践的なスキルの学習、グループコミュニケーション（テクニカル）	実践演習とチーム形成スキルを能動的な学習環境の中で学ぶことで、より多方面の場で自身の力を貢献出来る力をつける
8	即興演劇と教授法	即興演劇の基礎と、即興演劇が日々の多様な状況に有益であることを様々な活動を通して学ぶ
9	即興演劇の実践	前週に学習した内容を元に、課題解決能力が試される活動に取り組む
10	教授法の実践(1)	これまでに学習した教授法を用いて、学生間での成果発表をする
11	教授法の実践(2)	これまでに学習した教授法を用いて、学生間での成果発表をする
12	指導評価と学生間の相互評価	学生間や1年目クラスと共に前向きな批評方法を学習し、他人のアドバイスをどう自身の成長に繋げるかを学ぶ
13	まとめ (2)	これまでに学習した歌とダンスのまとめ
14	まとめ (2)	これまでに学習した歌とダンスのまとめ
15	アウトリーチ実習（実践指導）	今年度この授業で学習した内容を用いて、新たな環境での実践演習を行う

科目コード	13200				区分	教養			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	齋藤 祐一			
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは①	メンターリレー講話：アスリート編
4	プロフェッショナルとは②	メンターリレー講話：教員編
5	プロフェッショナルとは③	メンターリレー講話：アスリートサポート編
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	先輩の就活体験談	その道を選んだ理由やターニングポイントについての実体験を聞く
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	R-Capの解説	統計的なデータから自身のキャリア形成を考える
10	体育・スポーツの世界で生き抜く力とは	高嶋教授講話
11	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表する
12	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知る
13	自らの知的関心の探索①	各ゼミの先輩との座談会
14	自らの知的関心の探索②	ゼミ指導教員との座談会
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	十河 直太				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは①	メンターリレー講話：アスリート編
4	プロフェッショナルとは②	メンターリレー講話：教員編
5	プロフェッショナルとは③	メンターリレー講話：アスリートサポート編
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	先輩の就活体験談	その道を選んだ理由やターニングポイントについての実体験を聞く
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	R-Capの解説	統計的なデータから自身のキャリア形成を考える
10	体育・スポーツの世界で生き抜く力とは	高嶋教授講話
11	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表する
12	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知る
13	自らの知的関心の探索①	各ゼミの先輩との座談会
14	自らの知的関心の探索②	ゼミ指導教員との座談会
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200				区分	教養			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	石村 和博			
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは①	メンターリレー講話：アスリート編
4	プロフェッショナルとは②	メンターリレー講話：教員編
5	プロフェッショナルとは③	メンターリレー講話：アスリートサポート編
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	先輩の就活体験談	その道を選んだ理由やターニングポイントについての実体験を聞く
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	R-Capの解説	統計的なデータから自身のキャリア形成を考える
10	体育・スポーツの世界で生き抜く力とは	高嶋教授講話
11	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表する
12	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知る
13	自らの知的関心の探索①	各ゼミの先輩との座談会
14	自らの知的関心の探索②	ゼミ指導教員との座談会
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200				区分	教養			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	品田 直宏			
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは①	メンターリレー講話：アスリート編
4	プロフェッショナルとは②	メンターリレー講話：教員編
5	プロフェッショナルとは③	メンターリレー講話：アスリートサポート編
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	先輩の就活体験談	その道を選んだ理由やターニングポイントについての実体験を聞く
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	R-Capの解説	統計的なデータから自身のキャリア形成を考える
10	体育・スポーツの世界で生き抜く力とは	高嶋教授講話
11	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表する
12	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知る
13	自らの知的関心の探索①	各ゼミの先輩との座談会
14	自らの知的関心の探索②	ゼミ指導教員との座談会
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」



科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	片桐 夏海				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは①	メンターリレー講話：アスリート編
4	プロフェッショナルとは②	メンターリレー講話：教員編
5	プロフェッショナルとは③	メンターリレー講話：アスリートサポート編
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	先輩の就活体験談	その道を選んだ理由やターニングポイントについての実体験を聞く
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	R-Capの解説	統計的なデータから自身のキャリア形成を考える
10	体育・スポーツの世界で生き抜く力とは	高嶋教授講話
11	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表する
12	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知る
13	自らの知的関心の探索①	各ゼミの先輩との座談会
14	自らの知的関心の探索②	ゼミ指導教員との座談会
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	平田 佳弘				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは①	メンターリレー講話：アスリート編
4	プロフェッショナルとは②	メンターリレー講話：教員編
5	プロフェッショナルとは③	メンターリレー講話：アスリートサポート編
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	先輩の就活体験談	その道を選んだ理由やターニングポイントについての実体験を聞く
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	R-Capの解説	統計的なデータから自身のキャリア形成を考える
10	体育・スポーツの世界で生き抜く力とは	高嶋教授講話
11	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表する
12	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知る
13	自らの知的関心の探索①	各ゼミの先輩との座談会
14	自らの知的関心の探索②	ゼミ指導教員との座談会
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	崔 回淑				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは①	メンターリレー講話：アスリート編
4	プロフェッショナルとは②	メンターリレー講話：教員編
5	プロフェッショナルとは③	メンターリレー講話：アスリートサポート編
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	先輩の就活体験談	その道を選んだ理由やターニングポイントについての実体験を聞く
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	R-Capの解説	統計的なデータから自身のキャリア形成を考える
10	体育・スポーツの世界で生き抜く力とは	高嶋教授講話
11	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表する
12	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知る
13	自らの知的関心の探索①	各ゼミの先輩との座談会
14	自らの知的関心の探索②	ゼミ指導教員との座談会
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	廣重 陽介				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは①	メンターリレー講話：アスリート編
4	プロフェッショナルとは②	メンターリレー講話：教員編
5	プロフェッショナルとは③	メンターリレー講話：アスリートサポート編
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	先輩の就活体験談	その道を選んだ理由やターニングポイントについての実体験を聞く
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	R-Capの解説	統計的なデータから自身のキャリア形成を考える
10	体育・スポーツの世界で生き抜く力とは	高嶋教授講話
11	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表する
12	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知る
13	自らの知的関心の探索①	各ゼミの先輩との座談会
14	自らの知的関心の探索②	ゼミ指導教員との座談会
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	和所 泰史				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは①	メンターリレー講話：アスリート編
4	プロフェッショナルとは②	メンターリレー講話：教員編
5	プロフェッショナルとは③	メンターリレー講話：アスリートサポート編
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	先輩の就活体験談	その道を選んだ理由やターニングポイントについての実体験を聞く
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	R-Capの解説	統計的なデータから自身のキャリア形成を考える
10	体育・スポーツの世界で生き抜く力とは	高嶋教授講話
11	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表する
12	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知る
13	自らの知的関心の探索①	各ゼミの先輩との座談会
14	自らの知的関心の探索②	ゼミ指導教員との座談会
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	保科 圭汰				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは①	メンターリレー講話：アスリート編
4	プロフェッショナルとは②	メンターリレー講話：教員編
5	プロフェッショナルとは③	メンターリレー講話：アスリートサポート編
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	先輩の就活体験談	その道を選んだ理由やターニングポイントについての実体験を聞く
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	R-Capの解説	統計的なデータから自身のキャリア形成を考える
10	体育・スポーツの世界で生き抜く力とは	高嶋教授講話
11	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表する
12	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知る
13	自らの知的関心の探索①	各ゼミの先輩との座談会
14	自らの知的関心の探索②	ゼミ指導教員との座談会
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	嘉門 良亮				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは①	メンターリレー講話：アスリート編
4	プロフェッショナルとは②	メンターリレー講話：教員編
5	プロフェッショナルとは③	メンターリレー講話：アスリートサポート編
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	先輩の就活体験談	その道を選んだ理由やターニングポイントについての実体験を聞く
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	R-Capの解説	統計的なデータから自身のキャリア形成を考える
10	体育・スポーツの世界で生き抜く力とは	高嶋教授講話
11	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表する
12	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知る
13	自らの知的関心の探索①	各ゼミの先輩との座談会
14	自らの知的関心の探索②	ゼミ指導教員との座談会
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	白石 翔				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは①	メンターリレー講話：アスリート編
4	プロフェッショナルとは②	メンターリレー講話：教員編
5	プロフェッショナルとは③	メンターリレー講話：アスリートサポート編
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	先輩の就活体験談	その道を選んだ理由やターニングポイントについての実体験を聞く
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	R-Capの解説	統計的なデータから自身のキャリア形成を考える
10	体育・スポーツの世界で生き抜く力とは	高嶋教授講話
11	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表する
12	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知る
13	自らの知的関心の探索①	各ゼミの先輩との座談会
14	自らの知的関心の探索②	ゼミ指導教員との座談会
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」



科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	明石 啓太				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕

#### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

#### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは①	メンターリレー講話：アスリート編
4	プロフェッショナルとは②	メンターリレー講話：教員編
5	プロフェッショナルとは③	メンターリレー講話：アスリートサポート編
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	先輩の就活体験談	その道を選んだ理由やターニングポイントについての実体験を聞く
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	R-Capの解説	統計的なデータから自身のキャリア形成を考える
10	体育・スポーツの世界で生き抜く力とは	高嶋教授講話
11	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表する
12	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知る
13	自らの知的関心の探索①	各ゼミの先輩との座談会
14	自らの知的関心の探索②	ゼミ指導教員との座談会
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	仙波 慎平				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは①	メンターリレー講話：アスリート編
4	プロフェッショナルとは②	メンターリレー講話：教員編
5	プロフェッショナルとは③	メンターリレー講話：アスリートサポート編
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	先輩の就活体験談	その道を選んだ理由やターニングポイントについての実体験を聞く
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	R-Capの解説	統計的なデータから自身のキャリア形成を考える
10	体育・スポーツの世界で生き抜く力とは	高嶋教授講話
11	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表する
12	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知る
13	自らの知的関心の探索①	各ゼミの先輩との座談会
14	自らの知的関心の探索②	ゼミ指導教員との座談会
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	平塚 卓也				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは①	メンターリレー講話：アスリート編
4	プロフェッショナルとは②	メンターリレー講話：教員編
5	プロフェッショナルとは③	メンターリレー講話：アスリートサポート編
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	先輩の就活体験談	その道を選んだ理由やターニングポイントについての実体験を聞く
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	R-Capの解説	統計的なデータから自身のキャリア形成を考える
10	体育・スポーツの世界で生き抜く力とは	高嶋教授講話
11	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表する
12	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知る
13	自らの知的関心の探索①	各ゼミの先輩との座談会
14	自らの知的関心の探索②	ゼミ指導教員との座談会
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	前川 真姫				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは①	メンターリレー講話：アスリート編
4	プロフェッショナルとは②	メンターリレー講話：教員編
5	プロフェッショナルとは③	メンターリレー講話：アスリートサポート編
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	先輩の就活体験談	その道を選んだ理由やターニングポイントについての実体験を聞く
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	R-Capの解説	統計的なデータから自身のキャリア形成を考える
10	体育・スポーツの世界で生き抜く力とは	高嶋教授講話
11	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表する
12	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知る
13	自らの知的関心の探索①	各ゼミの先輩との座談会
14	自らの知的関心の探索②	ゼミ指導教員との座談会
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	木下 祥一				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは①	メンターリレー講話：アスリート編
4	プロフェッショナルとは②	メンターリレー講話：教員編
5	プロフェッショナルとは③	メンターリレー講話：アスリートサポート編
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	先輩の就活体験談	その道を選んだ理由やターニングポイントについての実体験を聞く
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	R-Capの解説	統計的なデータから自身のキャリア形成を考える
10	体育・スポーツの世界で生き抜く力とは	高嶋教授講話
11	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表する
12	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知る
13	自らの知的関心の探索①	各ゼミの先輩との座談会
14	自らの知的関心の探索②	ゼミ指導教員との座談会
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	國友 亮佑				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは①	メンターリレー講話：アスリート編
4	プロフェッショナルとは②	メンターリレー講話：教員編
5	プロフェッショナルとは③	メンターリレー講話：アスリートサポート編
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	先輩の就活体験談	その道を選んだ理由やターニングポイントについての実体験を聞く
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	R-Capの解説	統計的なデータから自身のキャリア形成を考える
10	体育・スポーツの世界で生き抜く力とは	高嶋教授講話
11	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表する
12	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知る
13	自らの知的関心の探索①	各ゼミの先輩との座談会
14	自らの知的関心の探索②	ゼミ指導教員との座談会
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	齋藤 祐一				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	プロジェクト型学習の進め方	プロジェクト型学習の目的および方法の理解、グループづくり
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：アスリート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
5	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：教員編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
6	ディスカッション&スピーチ (3)	CD講話「メンターが語る：アスリートサポート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
7	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
8	ディスカッション&スピーチ (4)	CD講話「先輩による就活体験談」における登壇者のターニングポイントについて議論する
9	本科目前半の成果と課題の振り返り	希望する進路に向けての学習状況の把握と改善案の作成、履修カルテへの記入
10	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
11	プレゼンクラス予選	CDにおいて実施される「プレゼンコンテスト」に向けて、一人あたり3分でプレゼンテーションを行い、クラス代表者を選出する
12	卒業研究に向けて (1)	卒業論文中間発表会への参加
13	卒業研究に向けて (2)	研究領域の理解、自らの学問的関心を探る
14	希望進路の実現に向けて (1)	ゼミ生との座談会を振り返り、研究したい内容を絞り込む
15	希望進路の実現に向けて (2)	自身の学問的関心に基づくゼミの選択

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	十河 直太				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見直しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	プロジェクト型学習の進め方	プロジェクト型学習の目的および方法の理解、グループづくり
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：アスリート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
5	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：教員編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
6	ディスカッション&スピーチ (3)	CD講話「メンターが語る：アスリートサポート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
7	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
8	ディスカッション&スピーチ (4)	CD講話「先輩による就活体験談」における登壇者のターニングポイントについて議論する
9	本科目前半の成果と課題の振り返り	希望する進路に向けての学習状況の把握と改善案の作成、履修カルテへの記入
10	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
11	プレゼンクラス予選	CDにおいて実施される「プレゼンコンテスト」に向けて、一人あたり3分でプレゼンテーションを行い、クラス代表者を選出する
12	卒業研究に向けて (1)	卒業論文中間発表会への参加
13	卒業研究に向けて (2)	研究領域の理解、自らの学問的関心を探る
14	希望進路の実現に向けて (1)	ゼミ生との座談会を振り返り、研究したい内容を絞り込む
15	希望進路の実現に向けて (2)	自身の学問的関心に基づくゼミの選択



科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	石村 和博				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	プロジェクト型学習の進め方	プロジェクト型学習の目的および方法の理解、グループづくり
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：アスリート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
5	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：教員編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
6	ディスカッション&スピーチ (3)	CD講話「メンターが語る：アスリートサポート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
7	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
8	ディスカッション&スピーチ (4)	CD講話「先輩による就活体験談」における登壇者のターニングポイントについて議論する
9	本科目前半の成果と課題の振り返り	希望する進路に向けての学習状況の把握と改善案の作成、履修カルテへの記入
10	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
11	プレゼンクラス予選	CDにおいて実施される「プレゼンコンテスト」に向けて、一人あたり3分でプレゼンテーションを行い、クラス代表者を選出する
12	卒業研究に向けて (1)	卒業論文中間発表会への参加
13	卒業研究に向けて (2)	研究領域の理解、自らの学問的関心を探る
14	希望進路の実現に向けて (1)	ゼミ生との座談会を振り返り、研究したい内容を絞り込む
15	希望進路の実現に向けて (2)	自身の学問的関心に基づくゼミの選択

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	品田 直宏				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見直しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	プロジェクト型学習の進め方	プロジェクト型学習の目的および方法の理解、グループづくり
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：アスリート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
5	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：教員編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
6	ディスカッション&スピーチ (3)	CD講話「メンターが語る：アスリートサポート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
7	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
8	ディスカッション&スピーチ (4)	CD講話「先輩による就活体験談」における登壇者のターニングポイントについて議論する
9	本科目前半の成果と課題の振り返り	希望する進路に向けての学習状況の把握と改善案の作成、履修カルテへの記入
10	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
11	プレゼンクラス予選	CDにおいて実施される「プレゼンコンテスト」に向けて、一人あたり3分でプレゼンテーションを行い、クラス代表者を選出する
12	卒業研究に向けて (1)	卒業論文中間発表会への参加
13	卒業研究に向けて (2)	研究領域の理解、自らの学問的関心を探る
14	希望進路の実現に向けて (1)	ゼミ生との座談会を振り返り、研究したい内容を絞り込む
15	希望進路の実現に向けて (2)	自身の学問的関心に基づくゼミの選択

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	片桐 夏海				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	プロジェクト型学習の進め方	プロジェクト型学習の目的および方法の理解、グループづくり
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：アスリート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
5	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：教員編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
6	ディスカッション&スピーチ (3)	CD講話「メンターが語る：アスリートサポート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
7	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
8	ディスカッション&スピーチ (4)	CD講話「先輩による就活体験談」における登壇者のターニングポイントについて議論する
9	本科目前半の成果と課題の振り返り	希望する進路に向けての学習状況の把握と改善案の作成、履修カルテへの記入
10	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
11	プレゼンクラス予選	CDにおいて実施される「プレゼンコンテスト」に向けて、一人あたり3分でプレゼンテーションを行い、クラス代表者を選出する
12	卒業研究に向けて (1)	卒業論文中間発表会への参加
13	卒業研究に向けて (2)	研究領域の理解、自らの学問的関心を探る
14	希望進路の実現に向けて (1)	ゼミ生との座談会を振り返り、研究したい内容を絞り込む
15	希望進路の実現に向けて (2)	自身の学問的関心に基づくゼミの選択

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	平田 佳弘				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	プロジェクト型学習の進め方	プロジェクト型学習の目的および方法の理解、グループづくり
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：アスリート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
5	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：教員編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
6	ディスカッション&スピーチ (3)	CD講話「メンターが語る：アスリートサポート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
7	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
8	ディスカッション&スピーチ (4)	CD講話「先輩による就活体験談」における登壇者のターニングポイントについて議論する
9	本科目前半の成果と課題の振り返り	希望する進路に向けての学習状況の把握と改善案の作成、履修カルテへの記入
10	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
11	プレゼンクラス予選	CDにおいて実施される「プレゼンコンテスト」に向けて、一人あたり3分でプレゼンテーションを行い、クラス代表者を選出する
12	卒業研究に向けて (1)	卒業論文中間発表会への参加
13	卒業研究に向けて (2)	研究領域の理解、自らの学問的関心を探る
14	希望進路の実現に向けて (1)	ゼミ生との座談会を振り返り、研究したい内容を絞り込む
15	希望進路の実現に向けて (2)	自身の学問的関心に基づくゼミの選択

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	崔 回淑				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	プロジェクト型学習の進め方	プロジェクト型学習の目的および方法の理解、グループづくり
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：アスリート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
5	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：教員編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
6	ディスカッション&スピーチ (3)	CD講話「メンターが語る：アスリートサポート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
7	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
8	ディスカッション&スピーチ (4)	CD講話「先輩による就活体験談」における登壇者のターニングポイントについて議論する
9	本科目前半の成果と課題の振り返り	希望する進路に向けての学習状況の把握と改善案の作成、履修カルテへの記入
10	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
11	プレゼンクラス予選	CDにおいて実施される「プレゼンコンテスト」に向けて、一人あたり3分でプレゼンテーションを行い、クラス代表者を選出する
12	卒業研究に向けて (1)	卒業論文中間発表会への参加
13	卒業研究に向けて (2)	研究領域の理解、自らの学問的関心を探る
14	希望進路の実現に向けて (1)	ゼミ生との座談会を振り返り、研究したい内容を絞り込む
15	希望進路の実現に向けて (2)	自身の学問的関心に基づくゼミの選択

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	廣重 陽介				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	プロジェクト型学習の進め方	プロジェクト型学習の目的および方法の理解、グループづくり
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：アスリート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
5	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：教員編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
6	ディスカッション&スピーチ (3)	CD講話「メンターが語る：アスリートサポート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
7	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
8	ディスカッション&スピーチ (4)	CD講話「先輩による就活体験談」における登壇者のターニングポイントについて議論する
9	本科目前半の成果と課題の振り返り	希望する進路に向けての学習状況の把握と改善案の作成、履修カルテへの記入
10	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
11	プレゼンクラス予選	CDにおいて実施される「プレゼンコンテスト」に向けて、一人あたり3分でプレゼンテーションを行い、クラス代表者を選出する
12	卒業研究に向けて (1)	卒業論文中間発表会への参加
13	卒業研究に向けて (2)	研究領域の理解、自らの学問的関心を探る
14	希望進路の実現に向けて (1)	ゼミ生との座談会を振り返り、研究したい内容を絞り込む
15	希望進路の実現に向けて (2)	自身の学問的関心に基づくゼミの選択

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	和所 泰史				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	プロジェクト型学習の進め方	プロジェクト型学習の目的および方法の理解、グループづくり
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：アスリート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
5	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：教員編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
6	ディスカッション&スピーチ (3)	CD講話「メンターが語る：アスリートサポート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
7	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
8	ディスカッション&スピーチ (4)	CD講話「先輩による就活体験談」における登壇者のターニングポイントについて議論する
9	本科目前半の成果と課題の振り返り	希望する進路に向けての学習状況の把握と改善案の作成、履修カルテへの記入
10	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
11	プレゼンクラス予選	CDにおいて実施される「プレゼンコンテスト」に向けて、一人あたり3分でプレゼンテーションを行い、クラス代表者を選出する
12	卒業研究に向けて (1)	卒業論文中間発表会への参加
13	卒業研究に向けて (2)	研究領域の理解、自らの学問的関心を探る
14	希望進路の実現に向けて (1)	ゼミ生との座談会を振り返り、研究したい内容を絞り込む
15	希望進路の実現に向けて (2)	自身の学問的関心に基づくゼミの選択

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	保科 圭汰				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	プロジェクト型学習の進め方	プロジェクト型学習の目的および方法の理解、グループづくり
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：アスリート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
5	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：教員編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
6	ディスカッション&スピーチ (3)	CD講話「メンターが語る：アスリートサポート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
7	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
8	ディスカッション&スピーチ (4)	CD講話「先輩による就活体験談」における登壇者のターニングポイントについて議論する
9	本科目前半の成果と課題の振り返り	希望する進路に向けての学習状況の把握と改善案の作成、履修カルテへの記入
10	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
11	プレゼンクラス予選	CDにおいて実施される「プレゼンコンテスト」に向けて、一人あたり3分でプレゼンテーションを行い、クラス代表者を選出する
12	卒業研究に向けて (1)	卒業論文中間発表会への参加
13	卒業研究に向けて (2)	研究領域の理解、自らの学問的関心を探る
14	希望進路の実現に向けて (1)	ゼミ生との座談会を振り返り、研究したい内容を絞り込む
15	希望進路の実現に向けて (2)	自身の学問的関心に基づくゼミの選択



科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	嘉門 良亮				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見直しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	プロジェクト型学習の進め方	プロジェクト型学習の目的および方法の理解、グループづくり
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：アスリート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
5	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：教員編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
6	ディスカッション&スピーチ (3)	CD講話「メンターが語る：アスリートサポート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
7	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
8	ディスカッション&スピーチ (4)	CD講話「先輩による就活体験談」における登壇者のターニングポイントについて議論する
9	本科目前半の成果と課題の振り返り	希望する進路に向けての学習状況の把握と改善案の作成、履修カルテへの記入
10	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
11	プレゼンクラス予選	CDにおいて実施される「プレゼンコンテスト」に向けて、一人あたり3分でプレゼンテーションを行い、クラス代表者を選出する
12	卒業研究に向けて (1)	卒業論文中間発表会への参加
13	卒業研究に向けて (2)	研究領域の理解、自らの学問的関心を探る
14	希望進路の実現に向けて (1)	ゼミ生との座談会を振り返り、研究したい内容を絞り込む
15	希望進路の実現に向けて (2)	自身の学問的関心に基づくゼミの選択

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	白石 翔				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	プロジェクト型学習の進め方	プロジェクト型学習の目的および方法の理解、グループづくり
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：アスリート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
5	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：教員編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
6	ディスカッション&スピーチ (3)	CD講話「メンターが語る：アスリートサポート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
7	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
8	ディスカッション&スピーチ (4)	CD講話「先輩による就活体験談」における登壇者のターニングポイントについて議論する
9	本科目前半の成果と課題の振り返り	希望する進路に向けての学習状況の把握と改善案の作成、履修カルテへの記入
10	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
11	プレゼンクラス予選	CDにおいて実施される「プレゼンコンテスト」に向けて、一人あたり3分でプレゼンテーションを行い、クラス代表者を選出する
12	卒業研究に向けて (1)	卒業論文中間発表会への参加
13	卒業研究に向けて (2)	研究領域の理解、自らの学問的関心を探る
14	希望進路の実現に向けて (1)	ゼミ生との座談会を振り返り、研究したい内容を絞り込む
15	希望進路の実現に向けて (2)	自身の学問的関心に基づくゼミの選択

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	明石 啓太				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	プロジェクト型学習の進め方	プロジェクト型学習の目的および方法の理解、グループづくり
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：アスリート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
5	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：教員編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
6	ディスカッション&スピーチ (3)	CD講話「メンターが語る：アスリートサポート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
7	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
8	ディスカッション&スピーチ (4)	CD講話「先輩による就活体験談」における登壇者のターニングポイントについて議論する
9	本科目前半の成果と課題の振り返り	希望する進路に向けての学習状況の把握と改善案の作成、履修カルテへの記入
10	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
11	プレゼンクラス予選	CDにおいて実施される「プレゼンコンテスト」に向けて、一人あたり3分でプレゼンテーションを行い、クラス代表者を選出する
12	卒業研究に向けて (1)	卒業論文中間発表会への参加
13	卒業研究に向けて (2)	研究領域の理解、自らの学問的関心を探る
14	希望進路の実現に向けて (1)	ゼミ生との座談会を振り返り、研究したい内容を絞り込む
15	希望進路の実現に向けて (2)	自身の学問的関心に基づくゼミの選択

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	仙波 慎平				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	プロジェクト型学習の進め方	プロジェクト型学習の目的および方法の理解、グループづくり
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：アスリート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
5	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：教員編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
6	ディスカッション&スピーチ (3)	CD講話「メンターが語る：アスリートサポート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
7	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
8	ディスカッション&スピーチ (4)	CD講話「先輩による就活体験談」における登壇者のターニングポイントについて議論する
9	本科目前半の成果と課題の振り返り	希望する進路に向けての学習状況の把握と改善案の作成、履修カルテへの記入
10	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
11	プレゼンクラス予選	CDにおいて実施される「プレゼンコンテスト」に向けて、一人あたり3分でプレゼンテーションを行い、クラス代表者を選出する
12	卒業研究に向けて (1)	卒業論文中間発表会への参加
13	卒業研究に向けて (2)	研究領域の理解、自らの学問的関心を探る
14	希望進路の実現に向けて (1)	ゼミ生との座談会を振り返り、研究したい内容を絞り込む
15	希望進路の実現に向けて (2)	自身の学問的関心に基づくゼミの選択

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	平塚 卓也				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	プロジェクト型学習の進め方	プロジェクト型学習の目的および方法の理解、グループづくり
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：アスリート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
5	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：教員編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
6	ディスカッション&スピーチ (3)	CD講話「メンターが語る：アスリートサポート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
7	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
8	ディスカッション&スピーチ (4)	CD講話「先輩による就活体験談」における登壇者のターニングポイントについて議論する
9	本科前半の成果と課題の振り返り	希望する進路に向けての学習状況の把握と改善案の作成、履修カルテへの記入
10	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
11	プレゼンクラス予選	CDにおいて実施される「プレゼンコンテスト」に向けて、一人あたり3分でプレゼンテーションを行い、クラス代表者を選出する
12	卒業研究に向けて (1)	卒業論文中間発表会への参加
13	卒業研究に向けて (2)	研究領域の理解、自らの学問的関心を探る
14	希望進路の実現に向けて (1)	ゼミ生との座談会を振り返り、研究したい内容を絞り込む
15	希望進路の実現に向けて (2)	自身の学問的関心に基づくゼミの選択

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	前川 真姫				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	プロジェクト型学習の進め方	プロジェクト型学習の目的および方法の理解、グループづくり
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：アスリート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
5	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：教員編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
6	ディスカッション&スピーチ (3)	CD講話「メンターが語る：アスリートサポート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
7	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
8	ディスカッション&スピーチ (4)	CD講話「先輩による就活体験談」における登壇者のターニングポイントについて議論する
9	本科目前半の成果と課題の振り返り	希望する進路に向けての学習状況の把握と改善案の作成、履修カルテへの記入
10	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
11	プレゼンクラス予選	CDにおいて実施される「プレゼンコンテスト」に向けて、一人あたり3分でプレゼンテーションを行い、クラス代表者を選出する
12	卒業研究に向けて (1)	卒業論文中間発表会への参加
13	卒業研究に向けて (2)	研究領域の理解、自らの学問的関心を探る
14	希望進路の実現に向けて (1)	ゼミ生との座談会を振り返り、研究したい内容を絞り込む
15	希望進路の実現に向けて (2)	自身の学問的関心に基づくゼミの選択

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	木下 祥一				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	プロジェクト型学習の進め方	プロジェクト型学習の目的および方法の理解、グループづくり
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：アスリート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
5	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：教員編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
6	ディスカッション&スピーチ (3)	CD講話「メンターが語る：アスリートサポート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
7	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
8	ディスカッション&スピーチ (4)	CD講話「先輩による就活体験談」における登壇者のターニングポイントについて議論する
9	本科目前半の成果と課題の振り返り	希望する進路に向けての学習状況の把握と改善案の作成、履修カルテへの記入
10	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
11	プレゼンクラス予選	CDにおいて実施される「プレゼンコンテスト」に向けて、一人あたり3分でプレゼンテーションを行い、クラス代表者を選出する
12	卒業研究に向けて (1)	卒業論文中間発表会への参加
13	卒業研究に向けて (2)	研究領域の理解、自らの学問的関心を探る
14	希望進路の実現に向けて (1)	ゼミ生との座談会を振り返り、研究したい内容を絞り込む
15	希望進路の実現に向けて (2)	自身の学問的関心に基づくゼミの選択

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	國友 亮佑				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	プロジェクト型学習の進め方	プロジェクト型学習の目的および方法の理解、グループづくり
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：アスリート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
5	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：教員編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
6	ディスカッション&スピーチ (3)	CD講話「メンターが語る：アスリートサポート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
7	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
8	ディスカッション&スピーチ (4)	CD講話「先輩による就活体験談」における登壇者のターニングポイントについて議論する
9	本科目前半の成果と課題の振り返り	希望する進路に向けての学習状況の把握と改善案の作成、履修カルテへの記入
10	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
11	プレゼンクラス予選	CDにおいて実施される「プレゼンコンテスト」に向けて、一人あたり3分でプレゼンテーションを行い、クラス代表者を選出する
12	卒業研究に向けて (1)	卒業論文中間発表会への参加
13	卒業研究に向けて (2)	研究領域の理解、自らの学問的関心を探る
14	希望進路の実現に向けて (1)	ゼミ生との座談会を振り返り、研究したい内容を絞り込む
15	希望進路の実現に向けて (2)	自身の学問的関心に基づくゼミの選択



科目コード	13104			区分	教養				
授業科目名	経営学			担当者名	齊藤 慎弥				
配当年次	0	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

経営学という学問を理論と合わせてモデルなどから学ぶ。|学問領域としては、戦略論から組織論まで広く扱う。

<授業の到達目標>

企業について考える知識、思考を身につける。|学んだ内容からニュースなどを多面的にとらえる力を養う。

<授業の方法>

理論の説明の際は、板書が中心となる。|事例などで学ぶ際には、ワーク形式も取り入れる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎授業1時間程度の予習をおこなうこと。|レポートを課すため、復習にも1.5時間程度を費やすこと。|日常的に企業の関連するニュースに関心を向けること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

一般教養ディプロマポリシーのDP2（専門分野に関する知識・理解）及びDP3（知識を広めるための幅広い知識・理解）に対応。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小レポート（3回） 30%|最終レポート 50%|受講態度等 20%

<教科書>

<参考書>

講義内で紹介。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義概要説明
2	企業を取り巻く環境	ステークホルダー
3	企業と取引	系列取引とコストの概念
4	企業の国際化	多国籍企業、グローバル化
5	経営資源	RBVと戦略
6	イノベーション	イノベーションのジレンマ、イノベーション事例
7	ネットワーク	紐帯の概念、構造的空隙
8	産業クラスター	産業の発生、成長、発展
9	多様化する企業の目的	CSR、コンプライアンスなど
10	中間まとめ	9回目までの内容を確認、復習
11	失敗事例から学ぶ①	戦略の問題で失敗した事例から学ぶ
12	失敗事例から学ぶ②	マネジメントの問題で失敗した事例から学ぶ
13	新たな競争戦略	競争しない競争戦略
14	ICT(AI)と今後のビジネス	機械化やAIに伴う変化
15	最終まとめ	全体の復習と最終課題の確認

科目コード	10203			区分	教養科目				
授業科目名	英語Ⅱ			担当者名	三垣 雅美				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

中級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。仕事、学校、娯楽などで出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば要点が理解できる。さまざまな事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 3 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting acquainted	Greetings; describing successful conversations; solving problems; discussing attitudes toward problem solving
3	Unit 2: Expressing yourself	Role-playing giving advice; describing feelings; discussing meanings of gestures; reacting to and discussing accents
4	Unit 3: Crime and punishment	Discussing crimes; punishments, and attitudes toward crime; discussing crime movies; speculating about a possible crime
5	Unit 4: Surprises and superstitions	Discussing strange pictures; creating and telling stories; talking about superstitions
6	Unit 5: Education and leaning	Talking about kinds of classes; recalling the first day of school and more recent details; discussing study techniques
7	Unit 6: Fame and fortune	Talking about successful and famous people; discussing sayings about money; discussing the importance of money
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Around the world	Talking about languages and language problems; discussing behavior in various situations; discussing customs
10	Unit 8: Technology	Discussing everyday products; talking about inventions; explaining how to make things
11	Unit 9: Mind and body	Talking about healthy and unhealthy situations; giving advice; explaining exercises; discussing stress and how to reduce it.
12	Unit 10: Spending money	Describing impressions of ads; discussing company slogans and brands; talking about advertising and types of shoppers
13	Unit 11: The news	Telling stories; talking about news stories; reacting to headlines; role-playing an interview
14	Unit 12: Relationships	Describing qualities of friendship; talking about friendship; describing a perfect partner; talking about marriage
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	12205			区分	教養科目				
授業科目名	数学基礎			担当者名	松尾 健太郎				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

数学の楽しみとは、すでに持っている知識から新たな知識を探索していくことにある。どんなにすごいことに気付いても、その基礎となる計算ができなければ意味がない。本講義は、数学の基本を理解し、必要に応じて使いこなせるようにすること、さらに数学を通して論理的思考力を身に付けていくことを目的とする。また、グループワークを通して、理解したことを説明する能力を身に付ける。

#### <授業の到達目標>

数学の「数と式」や「関数」の内容について幅広い知識を学ぶ。具体的には、3つ以上の数のGCDとCMの計算方法やその活用方法、1次関数、2次方程式、速さの問題（速さの基本、旅人算、通過算、流水算）、割合の問題（濃度、売買算）などを扱う。これらを通して、数学の基礎知識を深めることを到達目標とする。

#### <授業の方法>

1. (個人)問題を解く。 2. 解説を行う。 3. グループで、理解を深める。 4. (個人)確認テストを行う。グループワークでは、その後に行う確認テストで「全員満点」となるよう、理解を共有する。授業で扱った資料は、復習に使えるよう、classroomに掲載する。

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 当該時間の内容の復習(1時間)、2. 前回の確認テストの直し(0.5時間)

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

2年次生対象の科目であり、教養科目のディプロマポリシー5「情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能」に関連付けられる。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

確認テスト 70%、レポート 30%とする。確認テストの採点により、フィードバックを行う。

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

特に指定なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	基礎テスト
2	整数(1)	連続する3つの数/2桁の整数
3	整数(2)	剰余
4	整数(3)	$x^2+y^2$ の値
5	整数(4)	最大公約数・最小公倍数
6	割合(1)	速さの基礎問題
7	割合(2)	速さの応用問題
8	割合(3)	濃度
9	関数(1)	一次関数
10	関数(2)	二次関数
11	関数(3)	関数の応用
12	時計算	時計算
13	日暦算	日暦算
14	仕事算	仕事算
15	まとめ	まとめ

科目コード	10204			区分	教養科目				
授業科目名	コンピュータリテラシー I			担当者名	岡田 俊一				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必須

### <授業の概要>

AI時代においてコンピュータ利活用は必須のスキルである。本科目では、まずコンピュータ操作スキルを習熟するため、WordやPowerPointといった必須アプリケーションを駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメント作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータルの理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。さらに、WordやPowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータスキル・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。

### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等(90分)程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2(専門分野に関する知識・理解)及び、ディプロマポリシー5(情報活用、論理、問題解決力等に関する汎)

### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集 すぐつかえる Windows10&Office活用読本

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	PCメールの活用、LMSとクラウドの活用
2	PCとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
3	クラウドとグループワーク環境	インターネット活用とネットモラル
4	Wordビジネス文書(1) 文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書(2) 画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書(3) 図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート(1) スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート(2) 参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート(3) 表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定(PDF化)、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	藤田 依久子				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	11301			区分	教養科目				
授業科目名	人権と教育			担当者名	塩盛 俊明				
配当年次	0	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

教育の現場で求められる人権意識を涵養することを目的として、日本国憲法の人権保障に関する知識を身につけた上で、具体的にどのような人権問題が生じているのかについて、過去の事件・裁判などを題材として学ぶ。

#### <授業の到達目標>

①日本国憲法の人権保障に関する知識を身につけ、②現代社会において具体的にそれらがどのような形で侵害されるのかについて知り、③それらがど解消されるべきかについて判断することができる。

#### <授業の方法>

講義形式で進行する。教科書を用いず、毎回配布するレジュメに沿って進行する。板書もするのでノート等を準備されたい。Universal Passportを使用した小テストを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回事前に予習内容を指定する（初回を除く）ので、それに従い事前学習を行う（60分）。授業後はUNIPA上で課される小テストを通して復習を行う（60分）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

人権に関する学びを通して、特に社会に関連した学際的な知識を身につける（DP4）。また、現代社会における人権問題に関わる問題を通じて、新たな課題に対応できる社会人を身につける（DP8）

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験60%、毎回の小テスト30%、受講態度（授業への取り組み）10%により授業の到達目標①～③を測定する。

#### <教科書>

#### <参考書>

横藤田誠、中坂恵美子（2017年3月）

人権入門法律文化社

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	人権総論(1)	人権とは何か・日本国憲法
2	人権総論(2)	自由権(1)
3	人権総論(3)	自由権(2)
4	人権総論(4)	生存権
5	人権総論(5)	教育を受ける権利
6	人権総論(6)	自己決定権
7	人権と教育 各論(1)	子どもの人権
8	人権と教育 各論(2)	医療と人権
9	人権と教育 各論(3)	性における人権
10	人権と教育 各論(4)	犯罪被害と人権
11	人権と教育 各論(5)	少年非行と人権
12	人権と教育 各論(6)	障害者と人権
13	人権と教育 各論(7)	ナショナリティと人権
14	人権と教育 各論(8)	移民・難民と人権
15	まとめ	人権と教育に関する学びを俯瞰する

科目コード	12205			区分	教養科目				
授業科目名	数学基礎			担当者名	松尾 健太郎				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

数学の楽しみとは、すでに持っている知識から新たな知識を探索していくことにある。どんなにすごいことに気付いても、その基礎となる計算ができなければ意味がない。本講義は、数学の基本を理解し、必要に応じて使いこなせるようにすること、さらに数学を通して論理的思考力を身に付けていくことを目的とする。また、グループワークを通して、理解したことを説明する能力を身に付ける。

#### <授業の到達目標>

数学の「数と式」や「関数」の内容について幅広い知識を学ぶ。具体的には、3つ以上の数のGCDとCMの計算方法やその活用方法、1次関数、2次方程式、速さの問題（速さの基本、旅人算、通過算、流水算）、割合の問題（濃度、売買算）などを扱う。これらを通して、数学の基礎知識を深めることを到達目標とする。

#### <授業の方法>

1. (個人) 問題を解く。 2. 解説を行う。 3. グループで、理解を深める。 4. (個人) 確認テストを行う。グループワークでは、その後に行う確認テストで「全員満点」となるよう、理解を共有する。授業で扱った資料は、復習に使えるよう、classroomに掲載する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 当該時間の内容の復習（1時間）、2. 前回の確認テストの直し（0.5時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

2年次生対象の科目であり、教養科目のディプロマポリシー5「情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能」に関連付けられる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

確認テスト 70%、レポート 30%とする。確認テストの採点により、フィードバックを行う。

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

特に指定なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	基礎テスト
2	整数(1)	連続する3つの数/2桁の整数
3	整数(2)	剰余
4	整数(3)	$x^2+y^2$ の値
5	整数(4)	最大公約数・最小公倍数
6	割合(1)	速さの基礎問題
7	割合(2)	速さの応用問題
8	割合(3)	濃度
9	関数(1)	一次関数
10	関数(2)	二次関数
11	関数(3)	関数の応用
12	時計算	時計算
13	日暦算	日暦算
14	仕事算	仕事算
15	まとめ	まとめ

科目コード	10203			区分	教養科目				
授業科目名	英語Ⅱ			担当者名	小川 正人				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

中級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。仕事、学校、娯楽などで出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば要点が理解できる。さまざまな事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 3 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting acquainted	Greetings; describing successful conversations; solving problems; discussing attitudes toward problem solving
3	Unit 2: Expressing yourself	Role-playing giving advice; describing feelings; discussing meanings of gestures; reacting to and discussing accents
4	Unit 3: Crime and punishment	Discussing crimes; punishments, and attitudes toward crime; discussing crime movies; speculating about a possible crime
5	Unit 4: Surprises and superstitions	Discussing strange pictures; creating and telling stories; talking about superstitions
6	Unit 5: Education and leaning	Talking about kinds of classes; recalling the first day of school and more recent details; discussing study techniques
7	Unit 6: Fame and fortune	Talking about successful and famous people; discussing sayings about money; discussing the importance of money
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Around the world	Talking about languages and language problems; discussing behavior in various situations; discussing customs
10	Unit 8: Technology	Discussing everyday products; talking about inventions; explaining how to make things
11	Unit 9: Mind and body	Talking about healthy and unhealthy situations; giving advice; explaining exercises; discussing stress and how to reduce it.
12	Unit 10: Spending money	Describing impressions of ads; discussing company slogans and brands; talking about advertising and types of shoppers
13	Unit 11: The news	Telling stories; talking about news stories; reacting to headlines; role-playing an interview
14	Unit 12: Relationships	Describing qualities of friendship; talking about friendship; describing a perfect partner; talking about marriage
15	Presentation (2)	Giving presentation in English



科目コード	11301			区分	教養科目				
授業科目名	人権と教育			担当者名	塩盛 俊明				
配当年次	0	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

教育の現場で求められる人権意識を涵養することを目的として、日本国憲法の人権保障に関する知識を身につけた上で、具体的にどのような人権問題が生じているのかについて、過去の事件・裁判などを題材として学ぶ。

#### <授業の到達目標>

①日本国憲法の人権保障に関する知識を身につけ、②現代社会において具体的にそれらがどのような形で侵害されうるのかについて知り、③それらがど解消されるべきかについて判断することができる。

#### <授業の方法>

講義形式で進行する。教科書を用いず、毎回配布するレジュメに沿って進行する。板書もするのでノート等を準備されたい。Universal Passportを使用した小テストを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回事前に予習内容を指定する（初回を除く）ので、それに従い事前学習を行う（60分）。授業後はUNIPA上で課される小テストを通して復習を行う（60分）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

人権に関する学びを通して、特に社会に関連した学際的な知識を身につける（DP4）。また、現代社会における人権問題に関わる問題を通じて、新たな課題に対応できる社会人を身につける（DP8）

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験60%、毎回の小テスト30%、受講態度（授業への取り組み）10%により授業の到達目標①～③を測定する。

#### <教科書>

#### <参考書>

横藤田誠、中坂恵美子（2017年3月）

人権入門法律文化社

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	人権総論(1)	人権とは何か・日本国憲法
2	人権総論(2)	自由権(1)
3	人権総論(3)	自由権(2)
4	人権総論(4)	生存権
5	人権総論(5)	教育を受ける権利
6	人権総論(6)	自己決定権
7	人権と教育 各論(1)	子どもの人権
8	人権と教育 各論(2)	医療と人権
9	人権と教育 各論(3)	性における人権
10	人権と教育 各論(4)	犯罪被害と人権
11	人権と教育 各論(5)	少年非行と人権
12	人権と教育 各論(6)	障害者と人権
13	人権と教育 各論(7)	ナショナルリティと人権
14	人権と教育 各論(8)	移民・難民と人権
15	まとめ	人権と教育に関する学びを俯瞰する

科目コード	10206				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅢ				担当者名	小野寺 剛			
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目は、コンピュータリテラシーⅠおよびⅡで習得した技能を基に、データ分析やプログラミングの手法を身につけることをめざす。データ分析において統計学は、データの特徴や規則性を数量的に見出し、要約や解釈をするための根拠を提供するだけでなく、将来の予測にも活用されている。また、プログラミングは、煩雑な作業を効率化する上で、有用である。

### <授業の到達目標>

Excel分析ツールの基本操作および調査・研究データの処理方法の習得を目標とする。Excel VBAのプログラミングを理解し、基本的な操作方法の習得を目標とする。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。|各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。|テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。| (※ 「日経パソコン

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等(90分)程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5(情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能)に関連している。専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度 20%、毎回の講義内課題提出 30%、中間課題 25% 期末レポート課題 25%で評価する。

### <教科書>

日経パソコンEdu 未来を予測するExcel分析術 日経BP社

日経パソコンEdu

60分で学ぶ Excel VBA マクロ記録編日経BP社日経パソコンEdu60分で学ぶ Excel VBA プログラミング編日経BP社

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の目的および進め方データ分析および統計の重要性
2	未来を予測する分析術1	ばらつきを把握する
3	未来を予測する分析術2	ヒストグラム、基本統計量
4	未来を予測する分析術3	変数間の関係を調べる
5	未来を予測する分析術4	数値を予測する
6	未来を予測する分析術5	複数の条件で数値を予測する
7	未来を予測する分析術6	精度の高い予測をする
8	平均値の差の検定	2群の差の検定
9	平均値の差の検定2	多群の差の検定と多重比較
10	Excel VBAでプログラミング1	Excel VBA マクロ記録編1. 記録機能でマクロを作成する
11	Excel VBAでプログラミング2	Excel VBA マクロ記録編2. 記録したマクロを活用する
12	Excel VBAでプログラミング3	Excel VBA プログラミング編1. シンプルなプログラムを作成する
13	Excel VBAでプログラミング4	Excel VBA プログラミング編2. 変数と条件分岐を利用する
14	Excel VBAでプログラミング5	Excel VBA プログラミング編3. 繰り返し処理を利用する
15	Excel VBAでプログラミング6	Excel VBAで楽しいプログラミング「独自の操作画面を持ったクイズアプリを作成」

科目コード	11301			区分	教養科目				
授業科目名	人権と教育			担当者名	塩盛 俊明				
配当年次	0	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

教育の現場で求められる人権意識を涵養することを目的として、日本国憲法の人権保障に関する知識を身につけた上で、具体的にどのような人権問題が生じているのかについて、過去の事件・裁判などを題材として学ぶ。

#### <授業の到達目標>

①日本国憲法の人権保障に関する知識を身につけ、②現代社会において具体的にそれらがどのような形で侵害されるのかについて知り、③それらがど解消されるべきかについて判断することができる。

#### <授業の方法>

講義形式で進行する。教科書を用いず、毎回配布するレジュメに沿って進行する。板書もするのでノート等を準備されたい。Universal Passportを使用した小テストを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回事前に予習内容を指定する（初回を除く）ので、それに従い事前学習を行う（60分）。授業後はUNIPA上で課される小テストを通して復習を行う（60分）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

人権に関する学びを通して、特に社会に関連した学際的な知識を身につける（DP4）。また、現代社会における人権問題に関わる問題を通じて、新たな課題に対応できる社会人を身につける（DP8）

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験60%、毎回の小テスト30%、受講態度（授業への取り組み）10%により授業の到達目標①～③を測定する。

#### <教科書>

#### <参考書>

横藤田誠、中坂恵美子（2017年3月）

人権入門法律文化社

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	人権総論(1)	人権とは何か・日本国憲法
2	人権総論(2)	自由権(1)
3	人権総論(3)	自由権(2)
4	人権総論(4)	生存権
5	人権総論(5)	教育を受ける権利
6	人権総論(6)	自己決定権
7	人権と教育 各論(1)	子どもの人権
8	人権と教育 各論(2)	医療と人権
9	人権と教育 各論(3)	性における人権
10	人権と教育 各論(4)	犯罪被害と人権
11	人権と教育 各論(5)	少年非行と人権
12	人権と教育 各論(6)	障害者と人権
13	人権と教育 各論(7)	ナショナリティと人権
14	人権と教育 各論(8)	移民・難民と人権
15	まとめ	人権と教育に関する学びを俯瞰する

科目コード	10206				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅢ				担当者名	小野寺 剛			
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目は、コンピュータリテラシーⅠおよびⅡで習得した技能を基に、データ分析やプログラミングの手法を身につけることをめざす。データ分析において統計学は、データの特徴や規則性を数量的に見出し、要約や解釈をするための根拠を提供するだけでなく、将来の予測にも活用されている。また、プログラミングは、煩雑な作業を効率化する上で、有用である。

### <授業の到達目標>

Excel分析ツールの基本操作および調査・研究データの処理方法の習得を目標とする。Excel VBAのプログラミングを理解し、基本的な操作方法の習得を目標とする。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。|各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。|テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。|（※「日経パソコン

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）に関連している。専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 20%、毎回の講義内課題提出 30%、中間課題 25% 期末レポート課題 25%で評価する。

### <教科書>

日経パソコンEdu 未来を予測するExcel分析術 日経BP社

日経パソコンEdu

60分で学ぶ Excel VBA マクロ記録編日経BP社日経パソコンEdu60分で学ぶ Excel VBA プログラミング編日経BP社

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の目的および進め方データ分析および統計の重要性
2	未来を予測する分析術1	ばらつきを把握する
3	未来を予測する分析術2	ヒストグラム、基本統計量
4	未来を予測する分析術3	変数間の関係を調べる
5	未来を予測する分析術4	数値を予測する
6	未来を予測する分析術5	複数の条件で数値を予測する
7	未来を予測する分析術6	精度の高い予測をする
8	平均値の差の検定	2群の差の検定
9	平均値の差の検定2	多群の差の検定と多重比較
10	Excel VBAでプログラミング1	Excel VBA マクロ記録編1. 記録機能でマクロを作成する
11	Excel VBAでプログラミング2	Excel VBA マクロ記録編2. 記録したマクロを活用する
12	Excel VBAでプログラミング3	Excel VBA プログラミング編1. シンプルなプログラムを作成する
13	Excel VBAでプログラミング4	Excel VBA プログラミング編2. 変数と条件分岐を利用する
14	Excel VBAでプログラミング5	Excel VBA プログラミング編3. 繰り返し処理を利用する
15	Excel VBAでプログラミング6	Excel VBAで楽しいプログラミング「独自の操作画面を持ったクイズアプリを作成」

科目コード	10206				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅢ				担当者名	宮本 彩			
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科?は、コンピュータリテラシーⅠおよびⅡで習得した技能を基に、データ分析やプログラミングの?法を?につけることをめざす。データ分析において統計学は、データの特徴や規則性を数量的に?出し、要約や解釈をするための根拠を提供するだけでなく、将来の予測にも活用されている。また、プログラミングは、煩雑な作業を効率化する上で、有用である。

### <授業の到達目標>

Excel分析ツールの基本操作および調査・研究データの処理?法の習得を?標とする。 Excel VBAのプログラミングを理解し、基本的な操作方法の習得を目標とする。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）に関連している。専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 20%、毎回の講義内課題提出 30%、中間課題 25% 期末レポート課題 25%で評価する。

### <教科書>

日経パソコンEdu 未来を予測するExcel分析術 日経BP社

日経パソコンEdu

60分で学ぶ Excel VBA マクロ記録編日経BP社日経パソコンEdu60分で学ぶ Excel VBA プログラミング編日経BP社

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の目的および進め方データ分析および統計の重要性
2	未来を予測する分析術1	ばらつきを把握する
3	未来を予測する分析術2	ヒストグラム、基本統計量
4	未来を予測する分析術3	変数間の関係を調べる
5	未来を予測する分析術4	数値を予測する
6	未来を予測する分析術5	複数の条件で数値を予測する
7	未来を予測する分析術6	精度の高い予測をする
8	平均値の差の検定	2群の差の検定
9	平均値の差の検定2	多群の差の検定と多重比較
10	Excel VBAでプログラミング1	Excel VBA マクロ記録編1. 記録機能でマクロを作成する
11	Excel VBAでプログラミング2	Excel VBA マクロ記録編2. 記録したマクロを活用する
12	Excel VBAでプログラミング3	Excel VBA プログラミング編1. シンプルなプログラムを作成する
13	Excel VBAでプログラミング4	Excel VBA プログラミング編2. 変数と条件分岐を利用する
14	Excel VBAでプログラミング5	Excel VBA プログラミング編3. 繰り返し処理を利用する
15	Excel VBAでプログラミング6	Excel VBAで楽しいプログラミング「独自の操作画面を持ったクイズアプリを作成」

科目コード	10206			区分	教養科目				
授業科目名	コンピュータリテラシーⅢ			担当者名	石村 和博				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目は、コンピュータリテラシーⅠおよびⅡで習得した技能を基に、データ分析やプログラミングの手法につけることを目指す。データ分析において統計学は、データの特徴や規則性を数量的に見出し、要約や解釈するための根拠を提供するだけでなく、将来の予測にも活用されている。また、プログラミングは、煩雑な作業を効率化する上で、有用である。

### <授業の到達目標>

Excel分析ツールの基本操作および調査・研究データの処理方法の習得を目標とする。|Excel VBAのプログラミングを理解し、基本的な操作方法の習得を目標とする。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。|各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。|テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。||※1 コンピ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまった日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は体育学科のディプロマポリシー3（幅広く深い教養を身に付け、体育・スポーツ人としての立場を歴史・社会・自然と関連付けて理解する能力を身に付けている）を養成する科目である。|専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 20%、毎回の講義内課題提出 30%、中間課題 25% 期末レポート課題 25%で評価する。

### <教科書>

日経パソコンEdu 未来を予測するExcel分析術 日経BP社

日経パソコンEdu

60分で学ぶ Excel VBA マクロ記録編日経BP社日経パソコンEdu60分で学ぶ Excel VBA プログラミング編日経BP社

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の目的および進め方データ分析および統計の重要性
2	未来を予測する分析術1	ばらつきを把握する
3	未来を予測する分析術2	ヒストグラム、基本統計量
4	未来を予測する分析術3	変数間の関係を調べる
5	未来を予測する分析術4	数値を予測する
6	未来を予測する分析術5	複数の条件で数値を予測する
7	未来を予測する分析術6	精度の高い予測をする
8	平均値の差の検定	2群の差の検定
9	平均値の差の検定2	多群の差の検定と多重比較
10	Excel VBAでプログラミング1	Excel VBA マクロ記録編1. 記録機能でマクロを作成する
11	Excel VBAでプログラミング2	Excel VBA マクロ記録編2. 記録したマクロを活用する
12	Excel VBAでプログラミング3	Excel VBA プログラミング編1. シンプルなプログラムを作成する
13	Excel VBAでプログラミング4	Excel VBA プログラミング編2. 変数と条件分岐を利用する
14	Excel VBAでプログラミング5	Excel VBA プログラミング編3. 繰り返し処理を利用する
15	Excel VBAでプログラミング6	Excel VBAで楽しいプログラミング「独自の操作画面を持ったクイズアプリを作成」

科目コード	14205			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)			担当者名	中原 朋生				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、PUジェネリックスキルズ I (非認知能力)の再履修者用クラスである。Discoveryの主要な教室を使用し非認知能力育成を進めていく。その際には、学習するリテラシーに応じた単元を作成し、3コマ完結の授業を展開する。各単元には専属教員が配置され一貫した授業内容を展開する。

### <授業の到達目標>

本授業は、認知能力育成学舎Discoveryの主要教室に対応するリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。そのため、4つの単元を巡ることで以下のスキルを身に付けることを到達目標とする。単元A「調べぬく力」：情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」：情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを統合して隠れた構造を捉え本質を見極める力）単元C「話し合う力」：課

### <授業の方法>

複数教員がローテーションで担当する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。なお、本授業全体の説明と3Rsとの関係についての動画を配信する予定である。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の指導者が課す予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。さらに1つの単元（3コマ）が終了するごとに「自己評価シート」（90分程度）を提出する。以上のように、合計30時間程度の予習と復習が必要となる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の教養ディプロマポリシーのDP4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向）に対応している。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、単元終了後の振り返りレポート（20%×4=80%）とプレゼンテーション（20%）によって行う。レポートの評価基準としては、授業中の活動の振り返り、授業によって新たに獲得したスキル、レポート全体の構成を重視する。プレゼンテーションの評価基準に関しては、この授業で獲得した4つの力と3Rへの理解を基に評価する。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	プレゼンテーション①	グループまたは個人によるプレゼンテーション
14	プレゼンテーション②	グループまたは個人によるプレゼンテーション
15	プレゼンテーション③	グループまたは個人によるプレゼンテーション

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	浅田 栄里子				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

### <授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。毎時の講話を通して、読解力や傾聴力、スピーチ力等の向上を図り、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることで学び続ける学生としての資質・能力を育む。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリア開発」の基礎科目となる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加状況・態度 40%、通常レポート 60%により、評価する。授業レポートについては、次回の授業で、内容についてのコメントを全体にフィードバックする。特に、内容の良いレポートについては、そのポイントを紹介し、共有できる体制をとることとする。また、HPや他人のレポートのコピペや受講態度が悪い学生には、単位を認めないので、注意すること。

### <教科書>

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	学長講話	学長講話を聴き、今やるべきことは何かについて、省察する。
3	マナーの意義について	マナーを学ぶ意義について、考える。
4	メンター講話?	メンターのこれまでの人生における経験に裏打ちされたアドバイスを聞き、自分のこれからの生き方について考える。
5	メンター講話?	メンターのこれまでの人生における経験に裏打ちされたアドバイスを聞き、自分のこれからの生き方について考える。
6	理事長講話	理事長講話を聴き、自分が今やるべきことを考える。
7	スピーチスキル・アップ講座?	スピーチコンテストに向け、スピーチのブラッシュアップのコツを理解する。
8	2年生プロジェクト発表	2年生のプロジェクト発表を聴講する。
9	スピーチスキル・アップ講座?	自分のスピーチのブラッシュアップについて考える。
10	メンター講話?	メンターのこれまでの人生における経験に裏打ちされたアドバイスを聞き、自分のこれからの生き方について考える。
11	スピーチコンテスト学科予選	各メンタークラス代表者スピーチを聞き、評価を行う。
12	人権講話	身近にある人権問題について、考える。
13	スピーチコンテスト	各学科代表のスピーチを聞き、評価を行う。
14	理事長講話	理事長講話を聴き、自分の生き方を考える。
15	学長講話	学長講話を聴き、この1年間を振り返る。



科目コード	14101				区分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	川瀬 雅			
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

- ①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(キャリアディベロップメントの内容に関する議論) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表)

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見直しを持つ。(毎回30分程度)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は一般教養科目のディプロマポリシー6(自律や社会性等に関する態度・指向性)と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題(40%) プレゼンテーション・レポート(40%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(20%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

### <教科書>

特になし

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	自己理解と2年次の目標設定	1年次の学びを振り返り、2年次の目標を設定する。
2	プロジェクト学習①	私たちが担う「次世代の教育における課題」とは何かを考える
3	プロジェクト学習②	「知と心の豊かさ」から教育者としての資質について考える
4	プロジェクト学習③	「プロフェSSIONAL」とは何かを考える
5	プロジェクト学習④	「幼児教育」が抱える教育的・社会的課題について調査する
6	プロジェクト学習⑤	様々な定義がなされている「非認知能力」について自身の考えを示す
7	プロジェクト学習⑥	現代で求められる「人権感覚」について考える
8	半期の振り返りと評価	活動を振り返り、半期のまとめをする。後期の見直しを立てる。
9	チームビルディングの取り組み	チームビルディングへの検討・取組み(体育祭準備)
10	プレゼンテーションコンテスト①	事前課題として作成したプレゼンテーションの発表を行い、意見交換を行う。
11	プレゼンテーションコンテスト②	クラス予選を行い、各クラスの代表者を選出する。
12	プレゼンテーションコンテスト③	プレゼンテーションコンテストの経験を活かして1年生のスピーチコンテストの共同作業を行う。
13	プロジェクト学習⑦	プロジェクト学習①～⑥の内容をまとめる
14	プロジェクト学習⑧	自分の1年の学びを振り返るプレゼン作成と発表
15	1年間の振り返りと評価	自身の1年間の学びを振り返るプレゼンテーションを行う。また、自身の成長を客観的に評価し、3年次の目標発表を行う。

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	森下 裕三				
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につける。

#### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を身につける。②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身につける。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身につける。④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身につける。

#### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）なお、授業ではプラットフォームである Google クラウドルームを活用し、課題や資料の配布および課題の提出などには Google ドキュメントや Google スプレッドシートなどを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む（毎回1時間程度） テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見直しを持つ（毎回30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組む姿勢と受講態度・意欲 20%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	クラス内の相互理解を図り、授業計画、授業の到達目標と注意事項、成績評価法を確認する。
2	大学生活を考える	設定した目標設定と具体的な自己管理を結びつける
3	グループ・テーマを決める	グループワークの方法を知り、テーマを設定する
4	学科教育①	学校現場の課題を知る
5	学科教育②	必要な情報やデータを収集する
6	学科教育③	発表のためのアウトラインを作成する
7	学科教育④	グループプロジェクト発表に向けての準備
8	前期中間目標の振り返り	グループプロジェクト発表
9	クラスづくり	後期目標設定
10	プレゼンコンテストの準備	プレゼンコンテストに向けた原稿の作成と修正
11	プレゼンコンテスト・クラス予選	各自の将来像についてプレゼンテーションをおこなう
12	1年生との共同授業	1年生のスピーチコンテストへのフィードバック
13	学科教育⑤	4年生による模擬授業を体験する
14	学科教育⑥	教員採用試験などの希望進路について、プレゼンテーションを作成する
15	1年間のまとめ	1年間を振り返り、残り2年間の大学生活を具体的に計画した上で将来像についてプレゼンテーションをする

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	齋藤 祐一				
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見直しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

必要に応じて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	プロジェクト型学習の進め方	プロジェクト型学習の目的および方法の理解、グループづくり
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：アスリート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
5	ディスカッション&スピーチ (2)	CD講話「メンターが語る：教員編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
6	ディスカッション&スピーチ (3)	CD講話「メンターが語る：アスリートサポート編」における登壇者のターニングポイントについて議論する
7	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
8	ディスカッション&スピーチ (4)	CD講話「先輩による就活体験談」における登壇者のターニングポイントについて議論する
9	本科目前半の成果と課題の振り返り	希望する進路に向けての学習状況の把握と改善案の作成、履修カルテへの記入
10	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
11	プレゼンクラス予選	CDにおいて実施される「プレゼンコンテスト」に向けて、一人あたり3分でプレゼンテーションを行い、クラス代表者を選出する
12	卒業研究に向けて (1)	卒業論文中間発表会への参加
13	卒業研究に向けて (2)	研究領域の理解、自らの学問的関心を探る
14	希望進路の実現に向けて (1)	ゼミ生との座談会を振り返り、研究したい内容を絞り込む
15	希望進路の実現に向けて (2)	自身の学問的関心に基づくゼミの選択

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	多賀 美紀				
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を身に付ける。②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身に付ける。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身に付ける。④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身に付ける。

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話） 2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論） 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・グループワークのまとめ・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

銅直信子・坂東実子（2013） 大学生のための文章表現&口頭発表練習帳 国書刊行会

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の内容と方法の理解、1年間の目標設定
2	自己分析・適職発見	2年目の大学生活の自己点検。就職について考える。
3	私のキャリアデザイン①	1年間のテーマと目指すゴールを考える
4	プレゼンテーションの作成①	ブレインストーミング、構成を考える
5	プレゼンテーションの作成②	表現技法
6	プレゼンテーションの作成③	学科予選（7分間）向けの資料作成
7	自己分析結果の報告	自己分析、適職分析を踏まえた振り返り
8	前期のまとめ	グループプロジェクト発表、前期中間目標振り返り
9	後期オリエンテーション	後期の目標設定・プレゼンテーションの作成に向けて
10	私のキャリアデザイン②	自分の将来像についてプレゼンテーションしよう
11	私のキャリアデザイン③	自分の将来像についてクラスで発表し合う（プレゼンテーション）
12	私のキャリアデザイン④	自分の経験を後輩に伝えよう！
13	文章表現の基本①	賛成・反対の意見文
14	文章表現の基本②	対立項と時間軸のある文章
15	文章表現の基本③ /1年間のまとめ	2年生の目標達成について振り返ろう。3年生に向けての課題と目標を考えよう

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	未定				
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話）2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論）3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度） テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見直しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

必要に合わせて

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学科理解・クラス運営	1年間の目標の確認
2	自己分析・適職発見	自己分析・適職発見プログラムの実施
3	プレゼンテーションについて	ブレインストーミング、構成を考える
4	プレゼンテーションの作成	PCを持参し、プレゼン資料を作成する
5	プレゼンテーションコンテスト（1）	クラス予選（3分間程度）
6	自己分析結果の分析	自己分析、適職分析を踏まえた振り返り
7	自己分析結果の報告	自己分析・適職分析を踏まえたスピーチ、最優秀プレゼンの視聴
8	チームビルディング	体育祭における役割分担とモチベーションの喚起
9	ディスカッション&スピーチ（1）	「競技経験をどう活かすか」についてのディスカッションおよびスピーチ
10	ディスカッション&スピーチ（2）	「理想の体育教師・コーチとは」についてのディスカッションおよびスピーチ
11	ディスカッション&スピーチ（3）	「様々な立場から考える専門性」についてのディスカッションおよびスピーチ
12	卒業研究に向けて（1）	前年度卒業研究からのゼミ選択
13	卒業研究に向けて（2）	履修済み授業を参考にしたゼミ選択
14	希望進路の実現に向けて（1）	希望進路に関するプレゼンテーションの作成
15	希望進路に関するプレゼンテーションの作成	希望進路に関する志望理由をプレゼンテーション発表

科目コード	13205			区分	教養科目				
授業科目名	時事教養			担当者名	簗戸 崇史				
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

SDGsを知っているだろうか？ SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称である。2015年9月に国連で開かれたサミットで策定されたSDGsは、先進国と途上国が丸となって地球が直面している課題（環境、経済、教育、社会等）の解決に向けた17の目標で構成されている。SDGsは、2020年の学習指導要領に導入されるなど、これからの時代を生きる全ての人が理解すべき目標かつ「SDGs＝地球市民の必須教養」でもある。本授業では、新聞等のメディアを活用しな

### <授業の到達目標>

本授業では、新聞等を活用し、いくつかの時事問題を取り上げ、その背景知識を学ぶとともに、現在の日本や世界の情勢について理解を深め、国際的な見方や考え方を養う。学習によって得られた知識を論理的に組み立て、SDGsの目標達成に向けた自分なりの意見が持てるようにする。

### <授業の方法>

6名の教員がオンデマンド授業をローテーションで担当する。Google Classroomで事前録画された講義を視聴し、それぞれのテーマについての課題に取り組んでいく。尚、時事が対象となるので、内容が変更になることを了承して欲しい。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

決められた課題を事前に調べ、勉強しておくこと。授業の予習・復習にはそれぞれ最低1時間は使って欲しい。授業外では国内外のニュースなどの時事問題に関心を持ち、それらのニュースがどのように伝えられているのか注視して欲しい。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

コミュニケーションの能力とグローバルマインドを身に付けた人材の育成を目標に、自分の意見を他者に伝えることができる能力と、時事教養を通じて広い視野に立った知識を身につけられるようにする。なお本授業は、教養科目ディプロマポリシーDP5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向性）に対応している。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 40%、授業内課題40%、最終課題20%課題提出期間は1週間とする。提出期限を過ぎた場合は受け付けない。課題提出をもって出席とし、課題未提出や期限後の提出は欠席となるので、十分に注意してほしい。

### <教科書>

特に指定しない

### <参考書>

特に指定しない

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の説明、時事問題とは、SDGsとは
2	政治の最新時事	政治問題をすべてのマスメディアから最新のものを紹介解説する。
3	経済の最新時事	経済問題をすべてのマスメディアから最新のものを紹介解説する。
4	外交問題の最新時事	外交問題をすべてのマスメディアから最新のものを紹介解説する。
5	ジェンダーを考える(1)：ジェンダーとは何かを理解する	自分の住む地域の身近な問題や自身が気になる時事問題を見つめ、自分事であるSDGsの17の目標への繋がりを見つける。
6	ジェンダーを考える(2)：世界各国の状況	SDGsで唱えられているジェンダーやSOGIなどについて、身近な事例からスタートし、世界各国の状況を見ながら理解を深める。
7	ジェンダーを考える(3)：先進的な取り組み	ジェンダーレスやジェンダーギャップなどをテーマに、先端的な取り組み例から、自分自身ができる解決に向けた取り組みについて検討する。
8	平等を哲学する(1)：現代の不平等や格差	可能な限り新しいニュースを媒体として、日常の中に不平等や格差の実例を発見できるようになる
9	平等を哲学する(2)：3種類の正義	平等と格差問題を考える際の基盤となる正義論を理解する
10	平等を哲学する(3)：平等主義の哲学	ロールズやネーゲルを代表とする現代哲学者の平等主義の考え方を理解し、それを自身のものとして使用できるようになる
11	貧困ってなんだろう？貧困をなくすためには？	貧困の定義を学び、最近の貧困について学びます。
12	健康ってなんだろう？すべての人が健康に暮らす為の福祉とは？	健康とは何なのか？ということについて学び、福祉の推進について時事を踏まえながら学ぶ。
13	住みやすい街づくり、住み続けられる街づくりってなんだろう？	住みやすいとはということについて考え、持続可能な都市について学ぶ。
14	SDGsを考える(1)	SDGsの17の目標のうち1つを選び解決のためのアクションプランを考える
15	SDGsを考える(2)	SDGsの17の目標のうち1つを選び解決のためのアクションプランを提出(最終課題)

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ				担当者名	岡田 俊一			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得した技能をもとにさらに高度な操作スキルを身につけることを目指す。表計算アプリケーションであるExcelを中心にグラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につける。またこれに並行して、情報の扱い方を中心にセキュリティ、情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得することを第一の目標とする。さらに、Excelといった必須アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索からのキューレーションやネット社会におけるモラル・セキュリティを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集 パソコン&オンライン授業活用読本 日経BPマーケティング

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算（Excel）について	入力と四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数、フィル
3	データ処理（1）	並べ替え、フィルター機能と、テーブルとして書式設定（並べ替え、フィルター、スライサー）
4	データ処理（2）	条件付き書式、合計、平均、最大値、最小値絶対番地指定と、名前の定義
5	グラフ作成（1）	グラフ作成
6	グラフ作成（2）	グラフ作成、描画、Office連携
7	Excel関数確認	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MIN, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
8	Excel中間課題	Excel関数確認試験
9	文字列関数	CONCATENATE, LEN, RIGHT, LEFT, MID
10	データ抽出（1）条件によって処理を分ける	IF, AND, OR
11	データ抽出（2）別表からデータを取り出す	VLOOKUP, IF, IFERROR
12	データ配布とセキュリティ	入力規制、セルやブックの保護
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel総合課題	プロパティ、印刷設定（PDF化）を含む最終課題

科目コード	14207			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅢ(シチズンシップ)			担当者名	小川 正人				
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

「シチズンシップ」は日本語では「市民」と訳される。従来「市民」とは、一定の政治共同体（典型的には国家）の正式な一員を意味したが、今日では国境を越えた「地球市民」や「世界市民」が語られる。また「市民社会」も、政治社会という「公的領域」を意味する場合と市場という「私的領域」を表す場合を含みつつ、やはり現在ではグローバルな次元で語られる。本授業では、「市民」「市民社会」が何を意味しうるのかを考え、現在そして未来における「地球市民」や「世界市民」あるいは「グローバル・シティズンシップ」の役割・活動について議論し

### <授業の到達目標>

本授業では、いくつかの国内外の問題を取り上げ、その背景知識を学ぶとともに、現在の日本や世界の情勢について理解を深め、国際的な見方や考え方を養う。学習によって得られた知識を論理的に組み立て、SDGsの目標達成に向けた自分なりの意見が持てるようにする。また個人・グループにおいて「地球市民」が幸福な生活をおくることができる「理想の世界・社会」をデザインできるようにする。

### <授業の方法>

複数の教員によるオムニバス方式の対面授業で進めていく。各回のテーマに沿った課題はGoogle Classroomに期限までに提出する。質問等がある場合は、担当教員のメールもしくはGoogle Classroomでの特定コメントを利用してほしい。コロナ感染が拡大した場合、オンラインもしくはオンデマンド授業に変更となる可能性もある。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

決められた課題を事前に調べ、勉強しておくこと。授業の予習・復習にはそれぞれ最低1時間は使って欲しい。授業外では国内外のニュースに関心を持ち、それらのニュースがどのように伝えられているのか注視して欲しい

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

コミュニケーションの能力とグローバルマインドを身に付けた市民性育成を目標としている。本授業は、教養科目ディプロマポリシーDP5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向性）に対応している。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 40%、授業内課題40%、最終課題20%課題提出期間は1週間とする。提出期限を過ぎた場合は採点の対象とならないので十分に気をつけてほしい。

### <教科書>

特に指定しない

### <参考書>

特に指定しない

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の説明、問題提起「なぜシチズンシップを取り上げるのか」
2	シチズンシップとは	「市民」「市民社会」とは
3	国境を超える市民社会	グローバルシチズンシップとSDGs
4	ジェンダーを考える(1)：ジェンダーとは何かを理解する	自分の住む地域の身近な問題や自身が気になる時事問題を見つめ、自分事であるSDGsの17の目標への繋がりを見つける。
5	ジェンダーを考える(2)：世界各国の状況	SDGsで唱えられているジェンダーやSOGIなどについて、身近な事例からスタートし、世界各国の状況を見ながら理解を深める。
6	ジェンダーを考える(3)：先進的な取り組み	ジェンダーレスやジェンダーギャップなどをテーマに、先端的な取り組み例から、自分自身ができる解決に向けた取り組みについて検討する。
7	平等を哲学する(1)：現代の不平等や格差	可能な限り新しいニュースを媒体として、日常の中に不平等や格差の実例を発見できるようになる
8	平等を哲学する(2)：3種類の正義	平等と格差問題を考える際の基盤となる正義論を理解する
9	平等を哲学する(3)：平等主義の哲学	ロールズやネーゲルを代表とする現代哲学者の平等主義の考え方を理解し、それを自身のものとして使用できるようになる
10	貧困ってなんだろう？貧困をなくすためには？	貧困の定義を学び、最近の貧困について学びます。
11	健康ってなんだろう？すべての人が健康に暮らす為の福祉とは？	健康とは何なのか？ということについて学び、福祉の推進について時事を踏まえながら学ぶ。
12	住みやすい街づくり、住み続けられる街づくりってなんだろう	住みやすいとはということについて考え、持続可能な都市について学ぶ。
13	SDGsを考える(1)	SDGsの17の目標のうち1つを選び、市民の立場から解決のためのアクションプランを考える
14	SDGsを考える(2)	SDGsの17の目標のうち1つを選び、市民の立場から解決のためのアクションプランを考える
15	プレゼンテーション	「2030年の理想の社会：市民の立場から考える」



科目コード	14207			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅢ(シチズンシップ)			担当者名	小川 正人				
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

「シチズンシップ」は日本語では「市民」と訳される。従来「市民」とは、一定の政治共同体（典型的には国家）の正式な一員を意味したが、今日では国境を越えた「地球市民」や「世界市民」が語られる。また「市民社会」も、政治社会という「公的領域」を意味する場合と市場という「私的領域」を表す場合を含みつつ、やはり現在ではグローバルな次元で語られる。本授業では、「市民」「市民社会」が何を意味しうるのかを考え、現在そして未来における「地球市民」や「世界市民」あるいは「グローバル・シティズンシップ」の役割・活動について議論し

### <授業の到達目標>

本授業では、いくつかの国内外の問題を取り上げ、その背景知識を学ぶとともに、現在の日本や世界の情勢について理解を深め、国際的な見方や考え方を養う。学習によって得られた知識を論理的に組み立て、SDGsの目標達成に向けた自分なりの意見が持てるようになる。また個人・グループにおいて「地球市民」が幸福な生活をおくることのできる「理想の世界・社会」をデザインできるようにする。

### <授業の方法>

複数の教員によるオムニバス方式の対面授業で進めていく。各回のテーマに沿った課題はGoogle Classroomに期限までに提出する。質問等がある場合は、担当教員のメールもしくはGoogle Classroomでの特定コメントを利用してほしい。コロナ感染が拡大した場合、オンラインもしくはオンデマンド授業に変更となる可能性もある。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

決められた課題を事前に調べ、勉強しておくこと。授業の予習・復習にはそれぞれ最低1時間は使って欲しい。授業外では国内外のニュースに関心を持ち、それらのニュースがどのように伝えられているのか注視して欲しい

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

コミュニケーションの能力とグローバルマインドを身に付けた市民性育成を目標としている。本授業は、教養科目ディプロマポリシーDP5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向性）に対応している。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 40%、授業内課題40%、最終課題20%課題提出期間は1週間とする。提出期限を過ぎた場合は採点の対象とならないので十分に気をつけてほしい。

### <教科書>

特に指定しない

### <参考書>

特に指定しない

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の説明、問題提起「なぜシチズンシップを取り上げるのか」
2	シチズンシップとは	「市民」「市民社会」とは
3	国境を超える市民社会	グローバルシチズンシップとSDGs
4	ジェンダーを考える(1)：ジェンダーとは何かを理解する	自分の住む地域の身近な問題や自身が気になる時事問題を見つめ、自分事でも考えるSDGsの17の目標への繋がりを見つける。
5	ジェンダーを考える(2)：世界各国の状況	SDGsで唱えられているジェンダーやSOGIなどについて、身近な事例からスタートし、世界各国の状況を見ながら理解を深める。
6	ジェンダーを考える(3)：先進的な取り組み	ジェンダーレスやジェンダーギャップなどをテーマに、先端的な取り組み例から、自分自身ができる解決に向けた取り組みについて検討する。
7	平等を哲学する(1)：現代の不平等や格差	可能な限り新しいニュースを媒体として、日常の中に不平等や格差の実例を発見できるようになる
8	平等を哲学する(2)：3種類の正義	平等と格差問題を考える際の基盤となる正義論を理解する
9	平等を哲学する(3)：平等主義の哲学	ロールズやネーゲルを代表とする現代哲学者の平等主義の考え方を理解し、それを自身のものとして使用できるようになる
10	貧困ってなんだろう？貧困をなくすためには？	貧困の定義を学び、最近の貧困について学びます。
11	健康ってなんだろう？すべての人が健康に暮らす為の福祉とは？	健康とは何なのか？ということについて学び、福祉の推進について時事を踏まえながら学ぶ。
12	住みやすい街づくり、住み続けられる街づくりってなんだろう	住みやすいとはということについて考え、持続可能な都市について学ぶ。
13	SDGsを考える(1)	SDGsの17の目標のうち1つを選び、市民の立場から解決のためのアクションプランを考える
14	SDGsを考える(2)	SDGsの17の目標のうち1つを選び、市民の立場から解決のためのアクションプランを考える
15	プレゼンテーション	「2030年の理想の社会：市民の立場から考える」

科目コード	10206				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅢ				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目は、GIGAスクール構想に対応した内容である。コンピュータリテラシーの高度な技術の解説とコーディング実習を行い、小学校教員として必要となる、ICTスキルや知識を身に付ける。具体的には、Excelの関数機能だけでなく、マクロ（VBA）が使えること、データの種類や特性を知ることによって学校のテストや成績データを正しく収集、処理し、PowerPointやExcelのグラフ機能により、外部へ正しく発信する方法などを学習する。また、プログラミングの基礎を理解し、簡単なソフトウェアを使用したプログラミング授業の組

### <授業の到達目標>

学校現場において必要となる以下のICTスキルや知識を身に付けることを目標とする。1. Excel VBAによる成績処理技術 2. Scratchによるプログラミング授業の指導力 3. 正しいデータの処理手法（収集、処理、発信） 4. 情報セキュリティの知識とその指導力

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、事前課題に関する小テストを行った後、教員がいくつかのポイントの解説をし、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ内容を用いた練習問題を行い、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業を進める。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストは、教員がデジタルにて配信するか、または、授業中に指示するWebサイトから入手する。

### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前課題を予習することを必須とする。わからない箇所は、基本的には、自力で調べる。こと。（どうしてもわからない場合、わかる人に聞いてでもできるようにしておくこと）PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまった日の内容などは、次回までにしつかりと習得して授業に臨む

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

学校現場だけではなく、社会人として必要なICTスキルと知識を習得することで、高い専門性と実行力を備えた教員としての資質が養成される。そのためにも、コーディング技術やPC操作能力などより高度なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）に対応している。

### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題・受講態度 30%、毎回の講義内課題 30%、総合課題 40%で評価する。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業ガイダンス、GIGAスクール構想	ガイダンス、PC環境の確認、GIGAスクール構想についての確認
2	情報セキュリティ	SNS、メール、ネット利用における情報セキュリティに関する問題を考える
3	プログラミング（1）	プログラミングについての解説、デジタル教材やデジタル教科書の導入についての課題について考える
4	プログラミング（2）	AI（人工知能）についての解説、教育現場におけるAI導入の課題について考える
5	プログラミング演習（1）	Excelの関数機能の復習、VBAによるデータ処理についての解説と演習
6	プログラミング演習（2）	VBAによる成績データ処理の演習
7	クラウド処理について（1）	Google Classroom、Google Formを使用した授業の組み立て
8	クラウド処理について（2）	Google Suiteの利用についての解説と演習
9	データサイエンス（1）	データ収集（データの質、種類）
10	データサイエンス（2）	データ分析とデータの読み方
11	データサイエンス（3）	PowerPointとExcelを使用したデータの発信方法について
12	プログラミング演習（3）	Scratchを利用したプログラミング授業を組み立てる①
13	プログラミング演習（4）	Scratchを利用したプログラミング授業を組み立てる②
14	総合課題（1）	グループ発表会①
15	総合課題（2）	グループ発表会②

科目コード	10206				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅢ				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目は、GIGAスクール構想に対応した内容である。コンピュータリテラシーの高度な技術の解説とコーディング実習を行い、小学校教員として必要となる、ICTスキルや知識を身に付ける。具体的には、Excelの関数機能だけでなく、マクロ（VBA）が使えること、データの種類や特性を知ることによって学校のテストや成績データを正しく収集、処理し、PowerPointやExcelのグラフ機能により、外部へ正しく発信する方法などを学習する。また、プログラミングの基礎を理解し、簡単なソフトウェアを使用したプログラミング授業の組

### <授業の到達目標>

学校現場において必要となる以下のICTスキルや知識を身に付けることを目標とする。1. Excel VBAによる成績処理技術 2. Scratchによるプログラミング授業の指導力 3. 正しいデータの処理手法（収集、処理、発信） 4. 情報セキュリティの知識とその指導力

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、事前課題に関する小テストを行った後、教員がいくつかのポイントの解説をし、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ内容を用いた練習問題を行い、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業を進める。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストは、教員がデジタルにて配信するか、または、授業中に指示するWebサイトから入手する。

### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前課題を予習することを必須とする。わからない箇所は、基本的には、自力で調べる。こと。（どうしてもわからない場合、わかる人に聞いてでもできるようにしておくこと）PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまった日の内容などは、次回までにしつかりと習得して授業に臨む

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

学校現場だけではなく、社会人として必要なICTスキルと知識を習得することで、高い専門性と実行力を備えた教員としての資質が養成される。そのためにも、コーディング技術やPC操作能力などより高度なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）に対応している。

### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題・受講態度 30%、毎回の講義内課題 30%、総合課題 40%で評価する。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業ガイダンス、GIGAスクール構想	ガイダンス、PC環境の確認、GIGAスクール構想についての確認
2	情報セキュリティ	SNS、メール、ネット利用における情報セキュリティに関する問題を考える
3	プログラミング（1）	プログラミングについての解説、デジタル教材やデジタル教科書の導入についての課題について考える
4	プログラミング（2）	AI（人工知能）についての解説、教育現場におけるAI導入の課題について考える
5	プログラミング演習（1）	Excelの関数機能の復習、VBAによるデータ処理についての解説と演習
6	プログラミング演習（2）	VBAによる成績データ処理の演習
7	クラウド処理について（1）	Google Classroom、Google Formを使用した授業の組み立て
8	クラウド処理について（2）	Google Suiteの利用についての解説と演習
9	データサイエンス（1）	データ収集（データの質、種類）
10	データサイエンス（2）	データ分析とデータの読み方
11	データサイエンス（3）	PowerPointとExcelを使用したデータの発信方法について
12	プログラミング演習（3）	Scratchを利用したプログラミング授業を組み立てる①
13	プログラミング演習（4）	Scratchを利用したプログラミング授業を組み立てる②
14	総合課題（1）	グループ発表会①
15	総合課題（2）	グループ発表会②

科目コード	14109			区分	教養科目				
授業科目名	多文化共生のための異文化理解			担当者名	小川 正人				
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

「多文化共生」は近年様々なところで主張され、また一方でその理念に対して批判もある。しかし、「多文化共生」とは何を意味し、この理念のもとでどのような社会のビジョンが生まれてきたのであろうか。移民・難民の存在が国際政治の問題となり、「分断」の時代と言われる現代において多文化共生について考えていくことは重要となっている。同時に、交流の方法やこれからの働き方など、身近な問題についても考える必要がでてくる。この授業では異なる状況・背景を持った人々どうしが「共に生きる」こととは何か、「理想の社会」とは何かを考えていく

#### <授業の到達目標>

本授業の到達目標は、「多文化共生」をキーワードにして、国内外の課題や問題を取り上げながら、将来の「理想の社会」の構築に向けて考えていくことである。多文化共生に関わる基本的な概念を実例から紹介するとともに、「多文化社会」である日本が直面している問題を、個人・グループで考え発表することで、対立・紛争などを調和・調整できる力をつけていく。また、ゲストスピーカーによる講演、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通して、批判的思考力、問題解決能力など今後の社会に必要な力をつけていく。

#### <授業の方法>

複数の教員によるオムニバス方式の対面授業で進めていく。各回のテーマに沿った課題はGoogle Classroomに期限までに提出する。質問等がある場合は、担当教員のメールもしくはGoogle Classroomでの特定コメントを利用してほしい。コロナ感染が拡大した場合、オンラインもしくはオンデマンド授業に変更となる可能性もある。

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業での討論や活動に備えて、決められた課題を事前に調べ、勉強しておくこと。授業の予習・復習にはそれぞれ最低1時間は使って欲しい。授業外では、国内外のニュースについて注視して欲しい。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は教養科目のディプロマポリシーDP1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）とディプロマポリシーDP3（知識を広げるための幅広い知識・理解）とに対応している。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業参加・態度(30%) 授業課題(30%) 最終課題・プレゼンテーション(40%) 課題については1週間程度の期間を設ける。提出期限を過ぎた場合は、採点の対象とはならないので注意してほしい。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス・イントロダクション	「多文化共生」とは何か
2	多文化共生と国籍	「移民」？「難民」？
3	多文化共生と宗教	宗教は対立の要因か？
4	多文化共生と言語	言語間の平等とは？
5	ゲストスピーカー(1)	多文化共生を考えよう(1)
6	多文化共生と人種差別	マジョリティー？マイノリティー？
7	多文化共生と性・ジェンダー	個人のアイデンティティとは？
8	ゲストスピーカー(2)	多文化共生を考えよう(2)
9	「多文化社会」日本(1)	在日コリアンの歴史を知ろう
10	「多文化社会」日本(2)	外国人労働者・技能実習生が直面している問題とは？
11	ゲストスピーカー(3)	多文化共生を考えよう(3)
12	「多文化社会」日本(3)	国際結婚・育児について考えよう
13	グループワーク(1)	それぞれの課題の現状
14	グループワーク(2)	多文化共生社会のために自分たちが出来ること
15	まとめ	グループ発表

科目コード	14207				区分	教養科目			
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅢ(シチズンシップ)				担当者名	小川 正人			
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

「シチズンシップ」は日本語では「市民」と訳される。従来「市民」とは、一定の政治共同体（典型的には国家）の正式な一員を意味したが、今日では国境を越えた「地球市民」や「世界市民」が語られる。また「市民社会」も、政治社会という「公的領域」を意味する場合と市場という「私的領域」を表す場合を含みつつ、やはり現在ではグローバルな次元で語られる。本授業では、「市民」「市民社会」が何を意味しうるのかを考え、現在そして未来における「地球市民」や「世界市民」あるいは「グローバル・シティズンシップ」の役割・活動について議論し

### <授業の到達目標>

本授業では、いくつかの国内外の問題を取り上げ、その背景知識を学ぶとともに、現在の日本や世界の情勢について理解を深め、国際的な見方や考え方を養う。学習によって得られた知識を論理的に組み立て、SDGsの目標達成に向けた自分なりの意見が持てるようにする。また個人・グループにおいて「地球市民」が幸福な生活をおくることのできる「理想の世界・社会」をデザインできるようにする。

### <授業の方法>

複数の教員によるオムニバス方式の対面授業で進めていく。各回のテーマに沿った課題はGoogle Classroomに期限までに提出する。質問等がある場合は、担当教員のメールもしくはGoogle Classroomでの特定コメントを利用してほしい。コロナ感染が拡大した場合、オンラインもしくはオンデマンド授業に変更となる可能性もある。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

決められた課題を事前に調べ、勉強しておくこと。授業の予習・復習にはそれぞれ最低1時間は使って欲しい。授業外では国内外のニュースに関心を持ち、それらのニュースがどのように伝えられているのか注視して欲しい

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

コミュニケーションの能力とグローバルマインドを身に付けた市民性育成を目標としている。本授業は、教養科目ディプロマポリシーDP5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向性）に対応している。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 40%、授業内課題40%、最終課題20%課題提出期間は1週間とする。提出期限を過ぎた場合は採点の対象とならないので十分に気をつけてほしい。

### <教科書>

特に指定しない

### <参考書>

特に指定しない

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の説明、問題提起「なぜシチズンシップを取り上げるのか」
2	シチズンシップとは	「市民」「市民社会」とは
3	国境を超える市民社会	グローバルシチズンシップとSDGs
4	ジェンダーを考える(1)：ジェンダーとは何かを理解する	自分の住む地域の身近な問題や自身が気になる時事問題を見つめ、自分事で考えるSDGsの17の目標への繋がりを見つける。
5	ジェンダーを考える(2)：世界各国の状況	SDGsで唱えられているジェンダーやSOGIなどについて、身近な事例からスタートし、世界各国の状況を見ながら理解を深める。
6	ジェンダーを考える(3)：先進的な取り組み	ジェンダーレスやジェンダーギャップなどをテーマに、先端的な取り組み例から、自分自身ができる解決に向けた取り組みについて検討する。
7	平等を哲学する(1)：現代の不平等や格差	可能な限り新しいニュースを媒体として、日常の中に不平等や格差の実例を発見できるようになる
8	平等を哲学する(2)：3種類の正義	平等と格差問題を考える際の基盤となる正義論を理解する
9	平等を哲学する(3)：平等主義の哲学	ロールズやネーゲルを代表とする現代哲学者の平等主義の考え方を理解し、それを自身のものとして使用できるようになる
10	貧困ってなんだろう？貧困をなくすためには？	貧困の定義を学び、最近の貧困について学びます。
11	健康ってなんだろう？すべての人が健康に暮らす為の福祉とは？	健康とは何なのか？ということについて学び、福祉の推進について時事を踏まえながら学ぶ。
12	住みやすい街づくり、住み続けられる街づくりってなんだろう	住みやすいとはということについて考え、持続可能な都市について学ぶ。
13	SDGsを考える(1)	SDGsの17の目標のうち1つを選び、市民の立場から解決のためのアクションプランを考える
14	SDGsを考える(2)	SDGsの17の目標のうち1つを選び、市民の立場から解決のためのアクションプランを考える
15	プレゼンテーション	「2030年の理想の社会：市民の立場から考える」

科目コード	14207			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズⅢ(シチズンシップ)			担当者名	小川 正人				
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

「シチズンシップ」は日本語では「市民」と訳される。従来「市民」とは、一定の政治共同体（典型的には国家）の正式な一員を意味したが、今日では国境を越えた「地球市民」や「世界市民」が語られる。また「市民社会」も、政治社会という「公的領域」を意味する場合と市場という「私的領域」を表す場合を含みつつ、やはり現在ではグローバルな次元で語られる。本授業では、「市民」「市民社会」が何を意味しうるのかを考え、現在そして未来における「地球市民」や「世界市民」あるいは「グローバル・シティズンシップ」の役割・活動について議論し

### <授業の到達目標>

本授業では、いくつかの国内外の問題を取り上げ、その背景知識を学ぶとともに、現在の日本や世界の情勢について理解を深め、国際的な見方や考え方を養う。学習によって得られた知識を論理的に組み立て、SDGsの目標達成に向けた自分なりの意見が持てるようにする。また個人・グループにおいて「地球市民」が幸福な生活をおくることができる「理想の世界・社会」をデザインできるようにする。

### <授業の方法>

複数の教員によるオムニバス方式の対面授業で進めていく。各回のテーマに沿った課題はGoogle Classroomに期限までに提出する。質問等がある場合は、担当教員のメールもしくはGoogle Classroomでの特定コメントを利用してほしい。コロナ感染が拡大した場合、オンラインもしくはオンデマンド授業に変更となる可能性もある。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

決められた課題を事前に調べ、勉強しておくこと。授業の予習・復習にはそれぞれ最低1時間は使って欲しい。授業外では国内外のニュースに関心を持ち、それらのニュースがどのように伝えられているのか注視して欲しい

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

コミュニケーションの能力とグローバルマインドを身に付けた市民性育成を目標としている。本授業は、教養科目ディプロマポリシーDP5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向性）に対応している。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 40%、授業内課題40%、最終課題20%課題提出期間は1週間とする。提出期限を過ぎた場合は採点の対象とならないので十分に気をつけてほしい。

### <教科書>

特に指定しない

### <参考書>

特に指定しない

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の説明、問題提起「なぜシチズンシップを取り上げるのか」
2	シチズンシップとは	「市民」「市民社会」とは
3	国境を超える市民社会	グローバルシチズンシップとSDGs
4	ジェンダーを考える(1):ジェンダーとは何かを理解する	自分の住む地域の身近な問題や自身が気になる時事問題を見つめ、自分事であるSDGsの17の目標への繋がりを見つける。
5	ジェンダーを考える(2):世界各国の状況	SDGsで唱えられているジェンダーやSOGIなどについて、身近な事例からスタートし、世界各国の状況を見ながら理解を深める。
6	ジェンダーを考える(3):先進的な取り組み	ジェンダーレスやジェンダーギャップなどをテーマに、先端的な取り組み例から、自分自身ができる解決に向けた取り組みについて検討する。
7	平等を哲学する(1):現代の不平等や格差	可能な限り新しいニュースを媒体として、日常の中に不平等や格差の実例を発見できるようになる
8	平等を哲学する(2):3種類の正義	平等と格差問題を考える際の基盤となる正義論を理解する
9	平等を哲学する(3):平等主義の哲学	ロールズやネーゲルを代表とする現代哲学者の平等主義の考え方を理解し、それを自身のものとして使用できるようになる
10	貧困ってなんだろう?貧困をなくすためには?	貧困の定義を学び、最近の貧困について学びます。
11	健康ってなんだろう?すべての人が健康に暮らす為の福祉とは?	健康とは何なのか?ということについて学び、福祉の推進について時事を踏まえながら学ぶ。
12	住みやすい街づくり、住み続けられる街づくりってなんだろう	住みやすいとはということについて考え、持続可能な都市について学ぶ。
13	SDGsを考える(1)	SDGsの17の目標のうち1つを選び、市民の立場から解決のためのアクションプランを考える
14	SDGsを考える(2)	SDGsの17の目標のうち1つを選び、市民の立場から解決のためのアクションプランを考える
15	プレゼンテーション	「2030年の理想の社会:市民の立場から考える」

科目コード	12200			区分	教養科目				
授業科目名	数学			担当者名	松尾 健太郎				
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

数学の楽しみとは、すでに持っている知識から新たな知識を探索していくことにある。どんなにすごいことに気付いても、その基礎となる計算ができなければ意味がない。本講義は、数学の基本を理解し、必要に応じて使いこなせるようにすること、さらに数学を通して論理的思考力を身に付けていくことを目的とする。また、グループワークを通して、理解したことを説明する能力を身に付ける。

#### <授業の到達目標>

前半では、数学の「図形」の分野について学ぶ。後半では、高校数学の内容の一部を紹介する。具体的には、三平方の定理とその応用、円と直線、平行四辺形、立方体の切断、表面積・体積、集合論、記数法、場合の数（順列、組合せ）、数列などを扱う。これらを通して、数学の幅広い知識を身に付けることを到達目標とする。

#### <授業の方法>

1. (個人) 問題を解く。 2. 解説を行う。 3. グループで、理解を深める。 4. (個人) 確認テストを行う。グループワークでは、その後に行う確認テストで「全員満点」となるよう、理解を共有する。授業で扱った資料は、復習に使えるよう、classroom に掲載する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 当該時間の内容の復習（1時間）、2. 前回の確認テストの直し（0.5時間）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

2年次生対象の科目であり、教養科目のディプロマポリシー5「情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能」に関連付けられる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

確認テスト 70%、レポート 30%とする。確認テストの採点により、フィードバックを行う。

#### <教科書>

指定しない

#### <参考書>

指定しない

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	基礎テスト
2	連比	連比
3	平方根	平方根
4	平面図形(1)	三平方の定理
5	平面図形(2)	円周角の定理
6	平面図形(3)	円と面積
7	空間図形(1)	表面積・体積
8	空間図形(2)	立方体の切断
9	記数法	記数法
10	場合の数(1)	順列
11	場合の数(2)	組合せ
12	確率(1)	確率の基礎問題
13	確率(2)	確率の応用問題
14	集合(1)	カルノー表
15	集合(2)	ベン図

科目コード	13200				区分	教養			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	浅田 栄里子			
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

### <教科書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	保育・幼児教育のプロをめざすために（グループワーク）
5	プロジェクト学習②	保育・幼児教育の「今」（現職の先生より）
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	保育者に求められる「人権感覚」とは
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	マナーとルールについて考えよう
10	プロジェクト学習⑤	社会に貢献する人材とは
11	プロジェクト学習⑥	これからの保育はどうなる？（現職先生のお話）
12	プロジェクト学習⑦	保育者を目指すために（先輩の経験を聞く）
13	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表しよう
14	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知ろう
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」



科目コード	10100			区分	教養科目				
授業科目名	英語 I (基礎)			担当者名	小川 正人				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

初級～中レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。身近な話題について標準的な話し方であれば、その要点が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 2 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

### <参考書>

特になし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting to know you	Talking about favorite places and colors; describing personalities; discussing and using icebreakers
3	Unit 2: Making a good impression	Talking about first impressions; role-playing meeting new people and phone conversations; giving and taking messages
4	Unit 3: Food and cooking	Discussing foods and cooking techniques; talking about restaurant meals; role-playing restaurant conversations
5	Unit 4: Weather	Talking about weather and seasons; describing extreme weather experiences; giving advice about extreme weather
6	Unit 5: Working for a living	Talking about job likes and dislikes; describing job experiences; talking about what's important in a job
7	Unit 6: Leisure time	Describing hobbies and interests; discussing chores; talking about typical activities; making weekend plans
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Sports and games	Talking about participation in sports; conducting interviews about sports; discussing and playing games
10	Unit 8: Transportation and travel	Discussing traffic and transportation problems; talking about different ways to travel; planning a trip
11	Unit 9: Vacation time	Talking about past vacations; describing perfect vacations; discussing tourist attractions
12	Unit 10: Inventions and gadgets	Describing gadgets and their uses; discussing product features; explaining a new invention
13	Unit 11: The environment	Talking about animals and plants; discussing environmental problems and solutions
14	Unit 12: News and current events	Talking about news stories and sources; telling a story; discussing a current-events survey
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	11408			区分	教養科目				
授業科目名	表現活動による人間力養成Ⅲ			担当者名	Naris Manorothkul				
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

Students will create their own unique materials to be used and be able to directly see their unique skills and abilities in practical situations. By being able to apply created materials it will be easier to understand the type and quality of impact that

### <授業の到達目標>

Students will be able to directly see their unique works and form of expression be applied and understand how these materials are interpreted by others. The materials created in this class will be used in other classes and the feedback they receive will h

### <授業の方法>

このクラスでは授業に出席することを前提とし、授業内での活動が主となる。それぞれのテーマに沿って理論と実技を並行して行う。またアクティブラーニングの一貫として、ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーションを取り入れている。小グループにて個々の意見について話し合い、学期末にはアウトリーチ実習として学外の実際の教育現場にて学習の成果を実践する。※授業で扱うパフォーマンスは、ICTを活用しデータ配信で共有する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：自身の学習過程をワークブック（Googleクラスルーム）にまとめ、振り付けや歌詞の復習を行う。※1時間程度

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教養科目のディプロマポリシー⑥（自律や社会性等に関する態度・指向性）と⑦（生涯にわたり学び続ける態度・指向性）を関連付けられている。この授業では主にコミュニケーションと教授法に焦点を置き、様々なスタイルの音楽を通し、自身のコミュニケーションスタイルや教授法を確立していく。また学期末のアウトリーチ実習での指導を一つの目標とし、自身の課題を見つけ、知識と共に実践力も高めていく。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、ワークブックの取り組み 25%、面接 25%、期末レポート 10%、アウトリーチ実習への取り組み 10%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の説明、アイスブレイキング、GRAND/ BIGプログラム
2	創作、実践演習1	下級生クラスに指導をする歌やダンスの演目の創作
3	創作、実践演習2	下級生クラスに指導をする歌やダンスの演目の創作、指導
4	創作、実践演習1	指導の評価を元に歌やダンスの演目を改良、指導内容の復習をする。学生間で指導の効果や、指導におけるコミュニケーション方法について協議をする
5	学生間の相互評価、批評1	学生間や下級生クラスと共に前向きな批評方法を学習し、他人のアドバイスを自身の成長に繋げる方法を学ぶ
6	創作、実践演習3	下級生クラスに指導をする歌やダンスの演目の創作
7	創作、実践演習4	下級生クラスに指導をする歌やダンスの演目の創作、指導
8	創作、実践演習2	指導の評価を元に歌やダンスの演目を改良、指導内容の復習をする。学生間で指導の効果や、指導におけるコミュニケーション方法について協議をする
9	題材の修正、発展 1	歌やダンスの題材の指導の評価、修正を加え、効率よく楽曲を編集する
10	題材の修正、発展 2	歌やダンスの題材の指導の評価、修正を加え、効率よく楽曲を編集する
11	実践的なスキルの学習、グループコミュニケーション（テク）（1）	実践演習とチーム形成スキルを能動的な学習環境の中で学ぶことで、より多方面の場で自身の力を貢献出来る力をつける
12	実践的なスキルの学習、グループコミュニケーション（テク）（2）	実践演習とチーム形成スキルを能動的な学習環境の中で学ぶことで、より多方面の場で自身の力を貢献出来る力をつける
13	まとめ（1）	これまでに学習した歌とダンスのまとめ
14	まとめ（2）	これまでに学習した歌とダンスのまとめ
15	アウトリーチ実習（実践指導）	今年度この授業で学習した内容を用いて、新たな環境での実践演習を行う

科目コード	55007			区分	教養科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	高崎 展好				
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する。②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる。③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる。

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）40%、スピーチ20%、課題 40%

### <教科書>

吉原恵子/馬淵泰尚/富江英俊/小針誠（2018年5月1日） スタディスキルズ・トレーニング改訂版 実教出版

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の授業計画・授業の到達目標と注意事項、成績評価などを確認する。クラス目標の設定、クラス内の相互理解（自己紹介）
2	FSの振り返り、防災教育①	IPU学①についての振り返りを行う。学力・進路・主副免許取得・生活面について目標を設定する。大学内のハザードマップについて考える。保育体験のための事前学習
3	大学とはどのようなところだろう	大学内の部署・施設、場所・開閉時間・役割をまとめ大学生活に役立てる
4	大学・学部・学科について知ろう	大学の歴史や理念、学部・学科のディプロマポリシーについて理解を深める
5	FSの振り返り大学生としての心構え	これからの大学生活を考える
6	チームビルディング	学部、学科、クラスのチームビルディング。帰属意識について考えよう。
7	FSの振り返りスピーチ原稿作成	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。伝わるスピーチ原稿を作成する。
8	FSの振り返りプレ・スピーチコンテスト（テーマ：私という存在）	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマFSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマに基づいて自分自身について1分間でスピーチしたことを基に意見交換をする。
9	後期目標設定・体育祭説明・体育祭種目決め	後期目標設定。体育祭参加に向け、クラス内のチームビルディング。
10	スピーチスキル・アップ①クラス予選	スピーチコンテストに向けてクラス内予選を行う。
11	スピーチスキル・アップ②学科予選	スピーチコンテスト学科予選クラス代表のスピーチを聴いて評価する。
12	スピーチコンテストの振り返り学科の学びと進路①	スピーチコンテストの感想を伝え合い、考えを共有する。保育教育という仕事について意見を出し合い、進路決定の参考にする。
13	FSの振り返り学科の学びと進路②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。保育士採用試験の問題を実際に解いてみる。
14	FSの振り返り学科の学びと進路③	学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。学科教育と進路のつながりについて考える。進路決定した4年生に聴いてみたいこと（グループワーク）
15	2年生に向けたロードマップ作成	1年間を振り返り、2年生の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	55007			区分	教養科目				
授業科目名	ゼミナール I (基礎)			担当者名	簗戸 崇史				
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指します。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）40%、スピーチ20%、課題40%

### <教科書>

特に指定なし

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る？	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチを試みる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	2年生に向けたロードマップ	1年間を振り返り、残り3年間の大学生活を具体的に計画する。

科目コード	14002				区分	教養			
授業科目名	キャリアデザインⅠ				担当者名	佐藤 典子			
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

「折れない、やめないIPU生」の育成を実現しながら、就職支援も強力に推し進めるために、キャリアデザインⅠでは、具体的な就活能力向上につながる授業とする。

#### <授業の到達目標>

自己分析、経験の棚卸が出来るようになり、将来のキャリアをデザインする力が付くようになる。

#### <授業の方法>

本学教員の他に外部講師を招聘しての講義や、少人数でのグループディスカッションや演習を通してアクティブに学ぶ。履修者は例年300名近いので、2つの教室に分けて内容の異なる45分授業を2回実施する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テキストを使う授業の前後では予習、復習があり、ゲストスピーカーを招聘する際には感想文（約1時間）の提出などを課す。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本学の教育目標である「豊かな人間性と個性を有した実践力のある専門的職業人材・国際人の育成」と関連している。また教養科目ディプロマポリシー⑥自立した社会性に関する態度・指向性、⑦生涯にわたり学び続ける態度・指向性と関連している。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲・態度 60% 提出物 40% フィードバックについては、提出物に記載して返却する。

#### <教科書>

山崎京子、平林正樹 2019年 未来を拓くキャリア・デザイン講座 中央経済社

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	A. 初回ガイダンスB. キャリアカウンセラーによるプレゼン	前期の授業内容の紹介ならびに、キャリア支援や就活基礎知識について
2	A. 翔志会についてB. インターンシップについて	翔志会の特徴の概略説明と就職支援の在り方、インターンシップの効果など
3	A. B. とともにナビ登録会	就職支援のナビサイトの紹介と登録
4	A. 就活最前線B. キャリアとは	就活の現状を学ぶことと、大局的に見たキャリアについて理論と実践を考える
5	A. 自己分析B. ライフプランニング	テキスト第2章を使い、各自が自己の長所や短所を分析して、自己理解を高めるとともに、人生を俯瞰して計画的に生きるためのコツを習得する
6	A. 人間関係とコミュニケーションB. ライフラインチャート	テキスト第3章を使い、人間関係を構築するためにコミュニケーション能力を高める。人生における出来事や感情をチャートに書いて振り返りを行う
7	A. 組織と仕事B. 履歴書（左半分）を書く	テキスト第4章を使って、組織と仕事について考えを深め、履歴書を初めて書いてみる
8	A. オープンESについてB. 履歴書（右半分）を書く	エントリーシートの書き方を学んだり、経験の棚卸をしたりして履歴書の右半分が書けるようになる
9	A. これからのキャリアB. マイキャリアボックス	グローバル化で働き方がどのように多様化するかを考えるとともに、マイキャリアボックスについて学ぶ
10	A. B. とともにYPYエデュケーション	企業研修で広く使われている自己分析の方法について学ぶ
11	A. 企業とのコミュニケーションB. インターンシップについて先輩に聞く	メールや電話における社会人マナーを学ぶとともに、先輩からインターンシップ経験談を聞き今後に活かす
12	A. B. とともに外部講師	グローバル企業の第一線で活躍する企業人の講演を聞き、今後各自がキャリアをデザインして行く上での参考とする
13	A. 新たな就活スタイルB. グループディスカッション	オンライン就活やエージェントとの関わりを学び、グループディスカッションのコツをつかむ
14	A. 就活体験を先輩に聞くB. 質問対策	先輩から夏休みにすべきことのアドバイスをもらうとともに、効果的な質問を体得する
15	A. B. とともに授業の総括	振り返りと夏休みの目標設定。提出物やインターンシップ申し込みの確認など

科目コード	14002			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアデザインⅠ			担当者名	檜寄 日佳				
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

このキャリアデザインは、子ども発達学科に在籍している幼稚園・保育園・こども園への就職を希望する学生対象である。このクラスでは、保育職を選択し働くことの意義や自己理解を深める中で、保育職に進むために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考えさせるとともに、保育職採用試験合格を目指して、論作文、面接、実技試験などの実際について指導を行う。

#### <授業の到達目標>

1 保育職を選択した意志を明確にし、保育職に進むために必要な資質や能力を高める。2 自己理解を深め、将来の生き方について考える。3 保育職採用試験合格を目指し、論作文、面接、実技試験などの技術を高める。

#### <授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明・課題についてのグループワーク・課題についての演習

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する関連資料や課題を読み、授業の準備をする。(30分程度)・復習：各回の講座の内容について、個人またはグループで復習をし、講義ごとのワークシートの追加記入や復習をする。(60分程度)

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は本学の教育目標「豊かな人間性と個性を有した実践力のある実践的職業人・国際人の育成」と関連している。教養科目ディプロマポリシー6(自律や社会性に関する態度・指向性)と7(生涯にわたり学び続ける態度・指向性)に対応している。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・学習態度15%、グループ貢献度15%、課題提出30%、小テスト40%・提出物は期限厳守のこと

#### <教科書>

特に指定しない

#### <参考書>

特に指定しない

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の目的・意義・概要
2	理事長講話	働くことの意義と職業選択
3	採用試験の流れと概要	採用試験までの流れ、自治体・法人等の探し方と選び方、進路調査
4	社会人のマナー(1)	立居振舞
5	社会人のマナー(2)	言葉遣い・電話のかけ方
6	社会人のマナー(3)	手紙、封筒の書き方
7	保育者・施設職員の仕事とやりがい(1)	DVD「保育所と幼稚園の一日」「児童養護施設」の視聴
8	保育者・施設職員の仕事とやりがい(2)	先輩保育士の講話(卒業生公立園先輩)
9	保育者・施設職員の仕事とやりがい(3)	先輩保育士の講話(卒業生私立園先輩)
10	保育者・施設職員の仕事とやりがい(4)	先輩保育士の講話(卒業生福祉施設の先輩)
11	保育実技(1)	手遊び・集団遊び
12	保育実技(2)	絵本の読み聞かせ
13	保育実技(3)	紙芝居、ペーパーサート
14	保育実技(4)	わらべ歌、弾き歌い
15	前期の成果と課題	前期のまとめと今後の課題

科目コード	14002			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアデザイン I			担当者名	森 利治				
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

このキャリアデザイン I（公務員）は体育学科、教育経営学科、現代経営学科に在籍している公務員就職を希望する学生対象の講義である。このクラスでは公務員就職を希望し、公僕として働くことの意義を実際に各種公務員として働くためにどんな職種の公務員があるのか、それはどのような業務をするのかを知ることになりたい職種を絞っていきます。そのためには公務員試験とはどのようなものか、どんな試験内容で構成されているのか、教養試験、適性試験、論文試験、面接試験などについて解説していく。以上のことを学んでいく中で本当に公務員試験に取

#### <授業の到達目標>

1. 公務員就職について職種や試験の知識を学び、将来目指すべき職種を見つける。2. 自己理解を深め、将来の自分の方向性について考える。

#### <授業の方法>

講義、講演会、グループワーク（模擬面接、集団討論）等の形式で実施する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：グループワークをする際に、事前に課題を与え個別に調べさせ配布用紙に記入する（1時間程度）。復習：グループワークや講演会の場合は振り返りレポートを提出させる（30分程度）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この授業は、教養科目のディプロマポリシー6（自立や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。3年次に採用試験に向けての知識と心構えを身に付け、4年次に本試験に合格できることを目的とする。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

単元別レポート70%、授業に取り組む姿勢30%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本科目の目的・意義・概要、スーツ着用にあたっての再確認事項、公務員を志望する理由、立志会の説明
2	公務員試験の概要（1）	公務員試験の種類
3	公務員試験の概要（2）	公務員の職種について①（公安職）
4	公務員試験の概要（3）	公務員試験の職種について②（公安職）
5	公務員試験の概要（4）	公務員試験の職種③（行政職）
6	公務員試験の概要（5）	公務員試験の募集要項の見方と、願書の作成体験
7	公務員試験の概要（6）	各種公務員試験の出題内容と実際の問題を見てみよう
8	講話「現場が求める人材」	大都市圏の警察官の仕事について
9	公務員試験の概要（7）	体力検査、各種適性検査について
10	公務員試験の概要（8）	各種試験の論文課題について
11	公務員試験の概要（9）	論文を実際に書いてみる
12	立志会の入会説明	全体のカリキュラムの概要、活動内容の説明、費用についての説明、4年生の先輩からの話
13	公務員試験の概要（10）	面接試験について（自分についての棚卸）
14	公務員試験の概要（11）	面接試験について（自己分析）
15	公務員試験の概要（12）	面接試験について（自己PR）

科目コード	14002			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアデザインⅠ			担当者名	太田 昌孝				
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

このキャリアデザインは、子ども発達学科、教育経営学科、体育学科に在籍している教員を希望する学生対象である。このクラスでは、教員を選択し、働くことの意義や自己理解を深める中で、教員になるために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考えさせるとともに、教員採用試験合格を目指して、必要な取組について指導を行う。学習成果については、論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

### <授業の到達目標>

1 教員を選択した意思を明確にし、その職に進むために必要な資質や能力を高めることができる。2 自己理解を深め、将来の生き方について考えることができる。3 教員採用試験合格を目指して、必要な取組を理解し、日常の実践に生かすことができる。

### <授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明。・課題についてのグループワーク。・課題についての演習。・レポートの提出。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：学習予定表に沿って、次回の内容にかかわる関連資料の収取等の事前学習をし、課題意識をもって授業に臨めるようにする。(1時間程度)・復習：各回の講座の内容について、個人またはグループでの自主学習において復習し、講義毎のワークシートの追加記入等のノート整理を進めることができるようにする。(30分から1時間程度)

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー⑥、⑦と関連付けられている。「高い専門性と実践力のある教師」を育成するための教養科目であり、教職を目指す意思を固める時期の3年生を対象として、教育公務員として勤務するにあたっての認識と社会性に関する態度(DP6)、教師としての生涯にわたって学び続ける態度(DP7)を養うための科目である。

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、講義内での課題等 30%、最終レポート 40%

### <教科書>

特に指定しない

### <参考書>

特に指定しない

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション 学校支援ボランティアの勧め	本講座の目的・意義・概要 教員を志望する理由 学校支援ボランティアの体験報告
2	理事長講話	働くことの意義と職業選択
3	立ち振る舞い 教員採用試験の概要 進路調査	教員になるための心構え 教員採用試験の時期と内容、合格までのスケジュール 進路調査
4	授業の基礎・基本	授業と板書 板書の文字
5	講話 生徒指導	生徒指導
6	教育現場の課題1	講義～グループワーク
7	教育現場の課題2	講義～グループワーク
8	教育現場の課題3	講義～グループワーク
9	教育現場の課題4	講義～グループワーク
10	教育現場の課題5	講義～グループワーク
11	講話「現場が求める人材」	学校現場の現状と期待される人材 小学校長の講話
12	教師に求められる資質や能力1	講義～グループワーク
13	教師に求められる資質や能力2	講義～グループワーク
14	教師に求められる資質や能力3	講義～グループワーク
15	教師になるための取組の成果と課題	教師になるための努力していること 後期に向けての課題 夏季休業中の過ごし方



科目コード	10301			区分	教養科目				
授業科目名	統計学			担当者名	木戸 和彦				
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

初めに、統計学の基礎となる平均・分散・標準偏差について学習する。これらの値は、与えられたデータの特徴を知るための簡単な手法としてよく知られている。ここでは、計算はもとより意味や内容を十分に理解しておくことが重要である。次に、偏差値・度数分布表・ヒストグラムなどの基本事項を確認する。更に、2つのデータ間の関係を知るために有効な、相関図・共分散・相関係数・回帰直線などを学習後、確率変数と分布について検討を行い、2項分布・ポアソン分布及び正規分布とその応用について学習する。最後に母数の推定及び検定の考え

### <授業の到達目標>

一般的によく利用される、平均値の算出から始まり、分散、標準偏差、共分散、相関係数、回帰直線、検定の内容を十分理解し、実際のデータに対して手計算で算出できることを目標とする。

### <授業の方法>

教科書代わりのプリントを配付し、それに基づいて解説する(60分程度)。また講義の理解を助けるために、講義時間内に問題演習を行う(30分程度)。

### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

シラバスを参考に、当日の授業内容を確認し、テキスト用プリントを講義前までに熟読すること(予習60分)。また、毎回の講義時に、演習問題を出題するので、次回講義開始時までに自力で解答できるようにしておくこと(復習60分)。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

統計学は、どの分野に進路をとっても必要な学問である。講義内に統計を使ったデータ処理の論理を学び、現実社会で実際に発生、使用されているデータや情報を活用し、問題解決のための方法を考え、実践する力を身に付け、どの分野でも活躍できる人材を育成する。また、講義で得た知識をより理解し、広めるための汎用的技能が得られる。なお本科目は、教養科目ディプロマポリシー3(知識を広めるための幅広い知識・理解)及び、ディプロマポリシー5(情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能)に対応している。

### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習状況・受講態度 30%、事前・事後課題 30%、期末試験 40%

### <教科書>

### <参考書>

小林敬子 著(1996)

基礎統計学学術図書出版

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	統計の基礎(統計的データ)	データの種類、 $\Sigma$ (シグマ)の意味の説明と演習
2	統計の基礎(基本用語の解説)	平均、分散、標準偏差の説明と演習
3	データの処理(計算表の利用方法)	計算表の作成とその利用方法の説明と演習
4	データの処理(基本数値の算出手法)	仮平均を用いた、平均・分散・標準偏差の算出法の説明と演習
5	データの処理(他の基本数値の算出手法)	度数表を用いた、平均・分散・標準偏差の算出法の説明と演習
6	データの処理(応用)	仮平均と度数表の両方を用いた、平均・分散・標準偏差の算出法の説明と演習
7	確率変数と確率分布(統計用語)	度数分布表、ヒストグラムの解説と演習
8	確率変数と確率分布(基本的な分布)	正規分布の解説と演習
9	確率変数と確率分布(身近な統計の数値を算出するための準備)	標準化の解説と演習
10	確率変数と確率分布(偏差値の算出)	偏差値の解説と演習
11	回帰と相関(基本用語の解説と算出手法)	相関図、共分散、相関係数の解説と演習
12	回帰と相関(回帰直線の算出)	回帰直線の解説と演習
13	確率変数と確率分布(その他の分布)	確率、二項分布、ポアソン分布の解説と演習
14	検定(仮説検定の意味)	独立性の仮説検定、T検定、F検定の演習
15	まとめ	講義のまとめ

科目コード	14002			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアデザインⅠ			担当者名	宮本 彩				
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

卒業後の進路を実りあるものにするためには、計画的にキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。進路別就職活動のスケジュールを理解するとともに、実際の現場で求められている柔道整復師のスキルやモラルを理解し、身に付けることを学修成果として求めます。

#### <授業の到達目標>

柔道整復師に求められる職業倫理及び、社会保障制度について学び、柔道整復師の役割を理解し、自身の目指すべき方向性を明確にする。柔道整復師の職務と誇りを育むとともに、ビジネスマナー、自己分析力、業界に対する知識を身に付ける。

#### <授業の方法>

必要に応じて、ゲストスピーカーをお招きして講義を進める（オンライン形式も含む）。資料の配布等はGoogle Classroomを活用する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に連絡した内容を予習して授業に臨む（毎回1時間程度）復習：講話後はレポートを提出し、柔道整復師の理解を深める。（毎回1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目はディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と7（生涯にわたり学び続ける態度・指向性）関連付けられています。単に知識を習得・活用するだけでなく、これからの社会に対して柔道整復師がどのように活躍できるか考え、学生一人一人が社会に貢献できる柔道整復師像を確立できることを目指しています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業意欲・態度：20%授業中の意見交換：30%授業課題・レポート提出：50%

#### <教科書>

なし

#### <参考書>

なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の目的、進め方についての説明就職先に関するアンケート
2	職業倫理①	業界調査（地域医療に貢献する柔道整復師の実態）
3	職業倫理②	業界調査②（効果のある施術を探る）
4	職業倫理③	OB・OG講話 柔道整復師の業務とその実際
5	職業倫理④	企業講話 柔道整復師が果たすべき役割
6	自己分析①	自己PRの仕方① 自分の強みを考える
7	自己分析②	自己PRの仕方② 自分の強みを伝える
8	自己分析③	自己PRの仕方③ 名刺の役割および作成
9	自己分析④	志望動機を考える
10	就職活動の実践①	履歴書・エントリーシートの書き方
11	就職活動の実践②	履歴書・エントリーシートの相互指導（添削）
12	就職活動の実践③	面接（オンライン及び対面）の対応
13	就職セミナー①	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、複数の企業の説明を聞く。
14	就職セミナー②	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、複数の企業との面談を体験する。
15	前期まとめ	柔道整復術の短期的視点・長期的視点夏季休暇中の企業見学について

科目コード	12100			区分	教養科目				
授業科目名	生化学			担当者名	佐藤 忠文				
配当年次	0	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

生物の体は「分子」で作られている。本授業では、生命現象を分子の反応として理解することを目標に、①自然界を構成する原子・分子についての基礎知識を整理し、②生物の体を構成し、その働きを担っている分子の特徴について学習し、③生物体の基本単位となっている細胞の構造と働き、④生物の活動に伴って起こる物質とエネルギーの変換、⑤世代から世代へと引き継がれる遺伝情報の発現と維持、⑥運動・感覚・免疫その他の生理機能について分子レベルでの理解を深める。

### <授業の到達目標>

最初に、生物体を作っている水・タンパク質・炭水化物・脂質・核酸などについて、分子としての特徴を理解する。その上で、生物体の構成単位である細胞について構造と機能の概略を分子レベルで理解する。次のステップとして、①生命活動に不可欠なエネルギーの獲得過程である呼吸・発酵・光合成、獲得されたエネルギーを消費することで進行する諸々の生理現象、②世代を通して伝達される遺伝情報の発現と維持などの仕組みについて焦点を絞って学習し、日常生活で接する生命現象に関わるいろいろな情報を生化学の立場から説明できることを到達目標とす

### <授業の方法>

教科書・プリント・視聴覚機器を使用する。最終回では、興味をもったテーマについて全員にプレゼンテーションが求められる。昨今、話題のウイルスとは？ PCRの原理は？ どうしてRNAがワクチンに？ 質問大歓迎！

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、原子や分子など、化学の初歩的な内容を把握（1時間）しておく。毎回の復習として各前回の内容に目を通しておくこと（1時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

生物学、化学はもとより、医学、農学など生命科学の分野に関する基礎知識を習得する科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験が70%、レポートおよび発表が30%のウエートにより評価する。

### <教科書>

平澤栄次 はじめての生化学（第二版）生活のなぜ？を知るための基礎知識 化学同人

### <参考書>

亀井碩哉

ひとりでマスターする生化学講談社

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	生化学への導入	生命とは何か？
2	化学の基礎知識	自然界を構成している物質と化学結合
3	生物体の化学的な構成	生体を構成している物質の特徴（生体膜を含む）
4	細胞（1）	細胞の基本的な構造
5	細胞（2）	細胞の基本的な機能
6	アミノ酸とタンパク質（1）	アミノ酸とタンパク質の一次構造
7	アミノ酸とタンパク質（2）	タンパク質の高次構造と機能発現
8	酵素反応（脂質・炭水化物）	生体反応の酵素による触媒
9	物質とエネルギーの代謝（1）	生命活動に必要なエネルギーの獲得（呼吸・発酵・光合成）
10	物質とエネルギーの代謝（2）	生命活動に伴うエネルギーの消費（物質合成・筋収縮など）
11	遺伝物質としての核酸	遺伝情報が宿る核酸の構造（DNAの構造・ゲノム解読など）
12	遺伝情報の発現とその制御	DNAの一部はRNAとして転写され、そのRNAがタンパク質を作る鋳型となる。
13	分子でみる生命現象	動的平衡、タンパク質とエネルギーの共演
14	生命の起源と進化	生命の起源と進化
15	－受講者による発表－	（質問・発表・討論）

科目コード	14203				区分	教養科目			
授業科目名	アカデミックスキルズ I				担当者名	小川 正人			
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学での学習生活で必要となる図書館やインターネットを利用した情報の集め方、本・論文・資料・ネット上の情報の読み方・使い方、集めた情報をもとにしたレポートの書き方、口頭での発表の仕方や発表後の議論の仕方を学ぶ。これらは、今後能動的に学習を進め、十分な実力をつけた上で卒業するために必要な事項である。教員の講義を聞くだけではなく、積極的に考える力を求められ、また、課題の提出も必須である。

#### <授業の到達目標>

大学で学ぶ上で必要な基礎的な知識や技能を身につけることを目的とする。授業にどのような態度でのぞめばよいのか、予習復習やレポート作成などに必要な情報をどう入手するのか、文献や資料をどう読むのか、レポートなどの文章をどう書くのか、自らの成果をどう発表し、どう議論するのか、大学における勉学の基礎を修得する。これらを通して、卒業に向けて明確な目的をもちつつ、大学での勉学に主体的に取り組む姿勢を身につける。

#### <授業の方法>

大学での学習生活における留意事項を踏まえた後に、図書館やインターネットを利用した情報の集め方、本・論文・資料・ネット上の情報の読み方・使い方、集めた情報をもとにしたレポートの書き方、口頭での発表の仕方や発表後の議論の仕方を学ぶ。これらは、今後4年間に能動的に学習を進め、十分な実力をつけた上で卒業するために必要な事項である。一方的に教員の話聞くのではなく、積極的な発言や報告が求められ、また、課題の提出も求められる。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じた事前準備学修と事後展開学修が求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の教養科目のディプロマポリシーDP4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向）に対応している。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加度40%、授業課題40%、期末課題20%本授業は対面で行う。Google Classroomで課題に取り組み、課題提出期間は1週間とする。期限後の提出は受けつけない。コロナ感染が拡大した場合、オンラインまたはオンデマンド授業に変更になる可能性があることを理解してほしい。

#### <教科書>

再履修者用クラスのため教科書は使用しない

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義全体の説明、自己紹介など
2	大学とは？	大学とはどのようなところか？
3	大学生活とは？	大学生活のデザイン／卒業までの道のり
4	大学ではどのように学ぶのか？	授業の受け方／演習・実習の参加／定期試験
5	スタディスキルズ①	テーマの決め方
6	スタディスキルズ②	資料検索の方法
7	資料の読み方・情報やデータの整理方法①	資料の読み方・情報やデータの整理方法①
8	資料の読み方・情報やデータの整理方法②	資料の読み方・情報やデータの整理方法②
9	資料の読み方・情報やデータの整理方法③	資料の読み方・情報やデータの整理方法③
10	レポートの書き方①	考え方と内容について
11	レポートの書き方②	形式とルールについて
12	レポートの書き方③	構成を考える
13	口頭発表と討議①	プレゼンテーションについて
14	口頭発表と討議②	グループ・ディスカッションについて
15	振り返り	期末課題

科目コード	10301			区分	教養科目				
授業科目名	統計学			担当者名	長畑 秀和				
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では、基本的な統計量である、平均、分散、標準偏差、偏差値等の求め方とその解釈を学習する。さらに、さまざまなグラフの作成とその見方を学ぶ。次に確率変数と確率分布について解説し、主要な確率分布である正規分布、二項分布、ポアソン分布について学習する。さらに、カイ2乗分布、t分布、F分布に関して検定・推定への適用例を示しながら、数値表の見方も説明する。最後に母数の推定及び独立性の検定の概念やその具体的手法の解説を行う。

### <授業の到達目標>

「社会調査士」の資格を取得するための必須科目（D科目）である。一般的によく利用される、平均値の算出から始まり、分散、標準偏差、共分散、相関係数、回帰直線、検定の内容を十分理解し、実際のデータに対して計算・解析し、解釈できることを目標とする。統計検定3級以上の習得を推進する。

### <授業の方法>

教科書に基づいて解説する。また講義の理解を助けるために、PCによる実習を行う。実践的な統計知識の活用のためExcel, Python(またはR)を使用した統計処理を行う回もある。従って、自分のノートPCを授業に持ってこられることが履修条件である。実際の統計分析の演習を行う。統計検定2～4級相当を修得するため練習問題への取り組みで自身の理解度をチェックしながら、復習を繰り返すことで統計知識を身に付けていく。PCの持ち込みが必須である。Classroomを活用しながら課題を提出し、教員と情報共有しながら指導を行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習のための課題（練習問題）を出すため、復習と課題を行う時間が1時間以上必要である。定期試験には、課題と同様の問題を出すため、出来なかった問題が出来るように復習する必要がある。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の一般教養ディプロマポリシーのDP4(社会や企業活動に必要な情報を収集し、課題解決のため意見を交わし、提案するコミュニケーション能力を身に付けている。)およびDP5(現実の課題に対し、経営活動での知識や情報をもとに論理的・数量的に分析する力、戦略的に問題解決に向けた意思決定をする力を身に付けている。)に対応している。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

積極的な受講態度（20%）、課題（80%）授業で習った範囲の課題（練習問題）をclassroomで提示し、提出期限内に提出してもらう。解答は次の回に行う。

### <教科書>

長畑秀和(2021年3月30日) Pythonで理解を深める統計学 共立出版, 定価2900円

### <参考書>

日本統計学会(2015年12月10日)

改訂版 日本統計学会公式認定 統計検定2級対応 統計学基礎東京図書長畑秀和(2009年5月1日) Rで学ぶ統計学共立出版篠原清夫・榎本環・大矢根淳(2010) 『社会調査の基礎—社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	統計の基礎
2	データのまとめ方1	視覚的なまとめ(ヒストグラムなど)
3	データのまとめ方2	数量的なまとめ(中心をみる量、ばらつきを見る量など)
4	確率と確率変数	事象と確率, 条件付き確率など
5	確率分布と期待値	度数分布表の作成
6	主要な分布1	代表的な連続分布(正規分布、一様分布、指数分布など)
7	主要な分布2	代表的な離散分布(二項分布、ポアソン分布など)
8	統計量と分布	主要な統計量(平均、分散など)の分布
9	推定	点推定と区間推定
10	検定	検定における仮説と有意水準
11	検定と推定の実際1	1標本における検定と推定
12	検定と推定の実際2	2標本における検定と推定
13	離散型分布における検定	比率、欠点数に関する検定・推定、分割表での独立性の検定
14	相関と回帰1	相関分析
15	相関と回帰2	単回帰分析

科目コード	11300			区分	教養科目				
授業科目名	コミュニケーションの心理学			担当者名	高橋 直樹				
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

心理学の大きなテーマとして「自己理解」と「他者理解」がある。コミュニケーションを円滑に行ううえで、この2つの理解は必要不可欠であろう。そこで、他者との相互作用を通じた自己理解をテーマに授業を進める。さらに、グループワークやプレゼンテーションを行うことで、得た知識を実際のコミュニケーション場面でどう生かすのかを考える。

#### <授業の到達目標>

1. 心理学に関連するテーマについて、基礎的な知識を習得する。2. 得た知識を他者に分かりやすく伝えるための工夫をし、実践することができる。

#### <授業の方法>

授業開始時に各自が担当するテーマを決める。決められたテーマについて、事前に調べて資料（配布資料、パワーポイント資料）を作成する。当日は、履修者全員に向けてプレゼンテーションを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

この授業では全員にプレゼンテーションを課す。そこで、各グループで発表日までにテーマについて調べ、内容を議論し、発表用の資料を作成することが求められる。（各授業1時間程度の予習を求める）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

教養科目のディプロマ・ポリシー（DP）のうち、DP6（自律や社会性等に関する態度・指向性）とDP4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）の修得に深く関連する。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各自の発表資料・発表内容 55%、振り返り課題 15%、期末レポート 30%により評価する。

#### <教科書>

遠藤健治（2013） 対人関係を通しての自己理解ワークブック ～ひとのこころとふれあう私～ 培風館

#### <参考書>

石井一成（2011）

ゼロからわかる大学生のためのレポート論文の書き方ナツメ社池上知子・遠藤由美（2008）グラフィック社会心理学 第2版サイエンス社

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の目標・方法についての説明、発表担当の決定
2	デモンストレーション	教員によるプレゼンテーションのデモンストレーション、発表準備のためのグループディスカッション
3	発表1	グループによる発表（第1グループ、第2グループ）、全体討論
4	発表2	グループによる発表（第3グループ、第4グループ）、全体討論
5	発表3	グループによる発表（第5グループ、第6グループ）、全体討論
6	発表4	グループによる発表（第7グループ、第8グループ）、全体討論
7	発表5	グループによる発表（第9グループ、第10グループ）、全体討論
8	発表6	グループによる発表（第11グループ、第12グループ）、全体討論
9	発表7	グループによる発表（第13グループ、第14グループ）、全体討論
10	発表8	グループによる発表（第15グループ、第16グループ）、全体討論
11	発表9	グループによる発表（第17グループ、第18グループ）、全体討論
12	発表10	グループによる発表（第19グループ、第20グループ）、全体討論
13	発表11	グループによる発表（第21グループ、第22グループ）、全体討論
14	発表12	グループによる発表（第23グループ、第24グループ）、全体討論
15	振り返りとまとめ	これまでの内容を振り返る

科目コード	12103			区分	教養科目				
授業科目名	食育論			担当者名	保科 圭汰				
配当年次	0	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

昨今、食環境の現状は、飽食の時代で豊かさが先行し、命を紡ぐ大切な食べ物を得ることへの感謝の気持ちを実感する機会が少なくなっている。人間が心身ともに豊かな暮らしを営むためには、食生活のあり方が大きな役割を果たし、「食」が人間の健康に必須である。本講義では、食育基本法をベースに現代の食の問題を踏まえ、食生活に関する基本的な理解を深め、高い見識をもって健全な食生活を実践および指導できる力を身につける。

#### <授業の到達目標>

本講義では、食を様々な視点から見る力を養い、健康増進・生活習慣病予防におけるQOL向上のための方策を栄養の観点から考察する。また、ライフステージ別の食育を学び、高い見識をもって健全な食生活を実践・指導できるようになる。

#### <授業の方法>

パワーポイントによる講義形式で進める。また、必要に応じて授業の内容に基づいたテーマについてディスカッション、グループワークを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内で配布した資料は必ず目を通し、課される課題を復習として行う。（2時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

ディプロマポリシー「生涯にわたり学び続ける態度・指向性」、「専門分野に関する知識・理解」に関連した科目である。食育および栄養学の観点から様々な問題を解決する能力を習得し、各ライフステージにおける健康増進のための幅広い教養と実践力を身に付ける。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲 15%、課題・小テスト 40%、最終レポート 45%

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

山本茂・奥田豊子・濱口郁枝（2011）

食育・食生活論 社会・環境と健康（栄養科学シリーズNEXT）講談社辻とみ子・堀田千津子（2017）新版ヘルス21 栄養教育・栄養指導論医歯薬出版

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	食育・食生活の概念	食行動、食生活、栄養素の機能および意義
2	消化と吸収の機構	5大栄養素・水分の消化吸収
3	食生活と健康①	食生活と健康増進、朝食欠食、コショク
4	食生活と健康②	身体活動量の定量法、ボディイメージとダイエット志向
5	食生活と生活習慣病①	肥満と糖代謝異常
6	食生活と生活習慣病②	高血圧と骨の健康
7	生体リズムと食事	食事アセスメント、時間栄養学とサーカディアンリズム
8	世界および日本の食文化	世界および日本の食習慣、食作法
9	食育基本法の概要	法令制定の経緯・理念と内容
10	ライフステージ別の食育①	乳幼児期の栄養教育
11	ライフステージ別の食育②	学童・思春期の栄養教育
12	ライフステージ別の食育③	成人期・妊娠期の栄養教育
13	ライフステージ別の食育④	高齢期の栄養教育
14	運動と健康問題	健康づくりのための運動と食生活
15	まとめ	本講義の復習

科目コード	10200			区分	教養科目				
授業科目名	英語Ⅱ(応用)			担当者名	藤田 依久子				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

中級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。仕事、学校、娯楽などで出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば要点が理解できる。さまざまな事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1(グローバル・国際理解等に関する知識・理解)、およびディプロマポリシー4(コミュニケーション能力等の汎用的技能)と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 3 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting acquainted	Greetings; describing successful conversations; solving problems; discussing attitudes toward problem solving
3	Unit 2: Expressing yourself	Role-playing giving advice; describing feelings; discussing meanings of gestures; reacting to and discussing accents
4	Unit 3: Crime and punishment	Discussing crimes; punishments, and attitudes toward crime; discussing crime movies; speculating about a possible crime
5	Unit 4: Surprises and superstitions	Discussing strange pictures; creating and telling stories; talking about superstitions
6	Unit 5: Education and leaning	Talking about kinds of classes; recalling the first day of school and more recent details; discussing study techniques
7	Unit 6: Fame and fortune	Talking about successful and famous people; discussing sayings about money; discussing the importance of money
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Around the world	Talking about languages and language problems; discussing behavior in various situations; discussing customs
10	Unit 8: Technology	Discussing everyday products; talking about inventions; explaining how to make things
11	Unit 9: Mind and body	Talking about healthy and unhealthy situations; giving advice; explaining exercises; discussing stress and how to reduce it.
12	Unit 10: Spending money	Describing impressions of ads; discussing company slogans and brands; talking about advertising and types of shoppers
13	Unit 11: The news	Telling stories; talking about news stories; reacting to headlines; role-playing an interview
14	Unit 12: Relationships	Describing qualities of friendship; talking about friendship; describing a perfect partner; talking about marriage
15	Presentation (2)	Giving presentation in English



科目コード	14003				区分	教養			
授業科目名	キャリアデザインⅡ				担当者名	佐藤 典子			
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必須

#### <授業の概要>

「折れない、やめないIPU生」の育成を実現しながら、就職支援も強力に推し進めるために、キャリアデザインIIでは働くことの意義や大学での学びが社会にどう関連するか考える。

#### <授業の到達目標>

業界分析や職種研究によって、将来の自分のキャリアを強くイメージできるようになる。また大学での学びが社会でどのように役に立つか自分の言葉で話せるようになる。

#### <授業の方法>

講義やグループディスカッションなど。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

企業研究や課題レポートの作成などで約1時間

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本学の教育目標である「豊かな人間性と個性を有した実践力のある専門的職業人材・国際人の育成」と関連している。また教養科目ディプロマポリシー⑥「自立した社会性に関する態度・指向性」、⑦「生涯にわたり学び続ける態度・指向性」と関連している。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲・態度60%提出物40%フィードバックについては、提出物に記載して返却する。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	A. 初回ガイダンスB. 各カウンセラーからのプレゼン	キャリアデザインIIとなるので、改めて初回ガイダンスで授業のルールや心構えを徹底するとともにキャリアカウンセラーがアドバイスを提供する
2	A. ブラック企業に就職しないためにB. 秋冬インターシップに参加しよう	ブラック企業の実態について知見を深めることで、自分にとってのホワイト企業について考察する。また秋冬のインターンシップについて情報を収集する
3	A. OB・OG/先輩の経験から学ぶ①B. 適職分析	先輩の社会人経験を聞くことで、自分の今後の活動に活かすとともに、適職を見つけるアセスメントツールを試みる
4	A. OB・OG/先輩の経験から学ぶ②B. 企業動画の見方	先輩の就活経験談を聞くことで、自分の今後の活動に活かすとともに、企業研究をするにあたり動画をどのように利用すればよいかを考える
5	A. OB・OG/先輩の経験から学ぶ③B. 働くとは	先輩の就活経験談を聞くことで、自分の今後の活動に活かすとともに、外部スピーカーの講演を聞き働くことの意味を改めて問い直す
6	A. 情報の取り方/新聞の楽しい読み方B. 秋冬インターシップに参加しよう	情報過多の中でどのようにして質の高い情報を選択できるのか、楽しく新聞を読むには何が必要かを検討するとともに、秋冬のインターンシップの情報を得る
7	A. 企業シリーズ①B. 教職員シリーズ①	企業研究を深めるとともに、教職員の経験から示唆を得る
8	A. 企業シリーズ②B. 教職員シリーズ②	企業研究を深めるとともに、教職員の経験から示唆を得る
9	A. 企業シリーズ③B. 4年生シリーズ①	企業研究を深めるとともに、4年生の経験から示唆を得る
10	A. グループディスカッションB. 4年生シリーズ②	グループでディスカッションする力を高めるとともに、4年生の経験から示唆を得る
11	A. 模擬面接練習B. 4年生シリーズ③	面接の練習をして対応力を高めるとともに、4年生の経験から示唆を得る
12	A. 求人票の見方B. マナー講座	求人票を理解するポイントを学び、社会人としてのマナーを身に付ける
13	A. 就活準備B. ナビサイトの使い方	心構えやスキル、具体的な準備物などについて理解するとともに、ウェブ上のサイト活用について学ぶ
14	A. B. 合同 学内合同企業研究会の説明	企業採用担当者と直接対話が出来る機会をどのように活用するかについて考える
15	A. B. 合同 企業説明会の歩き方	70社以上の企業研究をどのように効率的に行うかについてコツを学ぶ

科目コード	14003			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアデザインⅡ			担当者名	檜寄 日佳				
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

このキャリアデザインは、子ども発達学科に在籍している幼稚園・保育園・こども園への就職を希望する学生対象である。このクラスでは、保育職を選択し働くことの意義や自己理解を深める中で、保育職に進むために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考えさせるとともに、保育職採用試験合格を目指して、論作文、面接、実技試験などの実際について指導を行う。

#### <授業の到達目標>

1 保育職を選択した意志を明確にし、保育職に進むために必要な資質や能力を高める。2 自己理解を深め、将来の生き方について考える。3 保育職採用試験合格を目指し、論作文、面接、実技試験などの技術を高める。

#### <授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明・課題についてのグループワーク・課題についての演習

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する関連資料や課題を読み、授業の準備をする。(30分程度)・復習：各回の講座の内容について、個人またはグループで復習をし、講義ごとのワークシートの追加記入や復習をする。(60分程度)

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は本学の教育目標「豊かな人間性と個性を有した実践力のある実践的職業人・国際人の育成」と関連している。教養科目ディプロマポリシー6(自律や社会性に関する態度・指向性)と7(生涯にわたり学び続ける態度・指向性)に対応している。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・学習態度15%、グループ貢献度15%、課題提出30%、小テスト40%・提出物は期限厳守のこと

#### <教科書>

特に指定しない

#### <参考書>

特に指定しない

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の目的・意義・概要
2	論作文(1)	論作文の書き方と演習(1)
3	自己分析(1)	自己分析シートを活用した自身の強みの発見
4	論作文(2)	論作文の書き方と演習(2)
5	先輩の合格体験	4年生幼保大志会、私立幼稚園・保育園・認定こども園、施設職員の合格体験談
6	個人面接・集団面接(1)	面接の形と特徴、立居振舞、言葉遣い
7	個人面接・集団面接(2)	先輩による模擬面接、面接演習(1)
8	個人面接・集団面接(3)	面接演習(2)
9	個人面接・集団面接(4)	面接演習(3)
10	個人面接・集団面接(5)	面接演習(4)
11	保育実技(1)	資料の活用と教材の選び方
12	保育実技(2)	リズム遊び・集団遊び
13	保育職の就活マナーと計画	公立保育職の募集要項の見方・探し方と合格まで、私立幼稚園・保育所・認定こども園・施設の就職マナーと合格まで、検索演習
14	理事長講話	教員養成におけるIPUの強み
15	後期キャリアデザインの振り返り、成果と課題	前期のまとめと今後の課題

科目コード	14003				区分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅡ				担当者名	森 利治			
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

このキャリアデザインⅡ（公務員）は体育学科、教育経営学科、現代経営学科に在籍している公務員就職を希望する学生対象の講義である。このクラスでは公務員就職を希望し、公僕として働くことの意義を実際に各種公務員として働くためにどんな職種の公務員があるのか、それはどのような業務をするのかを知ることになりたい職種を前期で絞ったうえで、警察官、消防士、自衛官、市役所、県庁職員など実際現場で活躍されている方などをお招きして実際の業務を生講義していただき、学生が調べてきたことと実際との相違を学び、4年生から始まる本試験に向

### <授業の到達目標>

1. 公務員採用試験に合格するために、キャリアデザインⅠで取り組んだ自己分析をもとに集団面接形式での実践演習を行い、実際の面接試験に向けての動機付けになるようにする。2. 各職種で活躍されている外部講師の方からの講話、合格を勝ち取った先輩方の体験談を聴いて、自分の進みたい道に対するの覚悟を決め受験に対するモチベーションを高める。

### <授業の方法>

講義、講演会、論文対策、模擬面接などの形式で実施する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：模擬面接や論文課題をする際に、事前に課題を与え個別に調べさせ所定用紙に準備させる（1時間程度）。復習：講演会の場合は振り返りレポートを提出させる（30分程度）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この授業は、教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。3年次後期に仕事についての意義を学び、4年次に本試験に合格できることを目的とする。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

単元別レポート70%、授業に取り組む姿勢30%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	後期の目標を設定する	志望先を考える。勉強と部活動、アルバイトなどとのバランスについてスケジュールを立てる。
2	実践演習（1）	面接試験について（集団面接①）
3	講話「現場が求める人材」（1）	消防士の仕事内容（1）
4	実践演習（2）	面接試験について（集団面接②）
5	講話「現場が求める人材」（2）	地方の警察官の仕事内容について
6	合格の秘訣を探る（1）	公務員試験合格者の体験談（1）
7	実践演習（3）	面接試験について（集団面接③）
8	講話「現場が求める人材」（3）	刑務官の仕事内容について
9	合格の秘訣を探る（2）	公務員試験合格者の体験談（2）
10	講話「現場が求める人材」（4）	県職員の仕事内容について
11	合格の秘訣を探る（3）	公務員試験合格者の体験談（3）
12	講話「現場が求める人材」（5）	自衛官の仕事内容について
13	講話「学長講話」	本試験まであと三か月、追い込み時期を乗り切るために学長先生から学生にメッセージをいただく。
14	講話「現場が求める人材」（6）	市職員の仕事内容について
15	講話「現場が求める人材」（7）	消防士の仕事内容について（2）

科目コード	14003			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアデザインⅡ			担当者名	太田 昌孝				
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

このキャリアデザインは、子ども発達学科、教育経営学科、体育学科に在籍している教員を希望する学生対象である。このクラスでは、教員を選択し、働くことの意義や自己理解を深める中で、教員になるために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考えさせるとともに、教員採用試験合格を目指して、必要な取組について指導を行う。学習成果については、論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

#### <授業の到達目標>

1 教員を選択した意思を明確にし、その職に進むために必要な資質や能力を高めることができる。2 自己理解を深め、将来の生き方について考えることができる。3 教員採用試験合格を目指して、必要な取組を理解し、日常の実践に生かすことができる。

#### <授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明。・課題についてのグループワーク。・課題についての演習。・レポートの提出。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：学習予定表に沿って、次回の内容にかかわる関連資料の収取等の事前学習をし、課題意識をもって授業に臨めるようにする。（1時間程度）  
 ・復習：各回の講座の内容について、個人またはグループでの自主学習において復習し、講義毎のワークシートの追加記入等のノート整理を進めることができるようにする。（30分から1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー⑥、⑦と関連付けられている。「高い専門性と実践力のある教師」を育成するための教養科目であり、教職を目指す意思を固める時期の3年生を対象として、教育公務員として勤務するにあたっての認識と社会性に関する態度（DP6）、教師としての生涯にわたって学び続ける態度（DP7）を養うための科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、講義内での課題等 30%、最終レポート 40%

#### <教科書>

特に指定しない

#### <参考書>

特に指定しない

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教員採用試験合格への取組 予定 進路調査 学習進行表	合格に向けての心構え～これからの努力対策講座について 調査用紙・面談・学習進行表について
2	講話「学級集団の育て方」	学級集団についての基本的な考え方と実践事例
3	教育課題への対応1	講話・グループディスカッション
4	合格の秘訣を探る1	教員採用試験合格者の体験発表「私はこうして合格した」
5	合格の秘訣を探る2	先輩の模擬授業
6	合格の秘訣を探る3	先輩の個人面接・集団面接
7	合格の秘訣を探る4	先輩の集団討論・グループワーク
8	合格の秘訣を探る5	先輩の場面指導（ロールプレイング）
9	教育課題への対応2	講話・グループディスカッション
10	教育課題への対応3	講話・グループディスカッション
11	講話「生徒指導への対応」	生徒指導についての基本的な考え方と実践事例 中学校長の講話
12	教育課題への対応4	講話・グループディスカッション
13	理事長講話	教員養成におけるIPUの強み
14	教育課題への対応5	講話・グループディスカッション
15	教員採用試験に向けた取組の成果と課題レポート（試験）	教員採用試験に向けた取組の振り返り 来年度へ向けの方策レポート試験

科目コード	13303			区分	教養科目				
授業科目名	地理・地政学			担当者名	小川 正人				
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

世界は理想だけで動くものではない。表舞台で理想が語られていても、その裏では政治的策謀と外交的駆け引きが繰り広げられている。この授業では、近年注目を集めている地政学について、地政学とは何かについて基礎的な理解をもとにして、国家間の関係をより現実的にとらえていくとともに、世界地図を通して世界各国の接続性を視覚的に把握できるようにする。

#### <授業の到達目標>

冷戦後、グローバル化の進展によって、ヒト・モノ・カネ・サービスが国境を越えて自由に行き来するようになった。インターネットで世界中の人々がつながっている現在、地理的な「接続性」が改めて注目を集めている。たとえば日本が目指す「自由で開かれたインド・太平洋」構想は、どのような世界を目指しているのか。それは、中国の「一帯一路」構想と対立するのか、協調的なのか。世界地図を前に考えていく。

#### <授業の方法>

対面授業で進めていく。各回のテーマに沿った課題はGoogle Classroomに期限までに提出していく。質問等がある場合は、担当教員のメールもしくはGoogle Classroomでの特定コメントを利用してほしい。コロナ感染が拡大した場合、オンラインもしくはオンデマンド授業に変更となる可能性もある。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業での討論や活動に備えて、決められた課題を事前に調べ、勉強しておくこと。授業の予習・復習にはそれぞれ最低1時間は使って欲しい。授業外では、ニュース、特に国際問題について注視して欲しい。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は教養科目のディプロマポリシーDP3（知識を広めるための幅広い知識・理解）とディプロマポリシーDP7（生涯にわたり学び続ける態度・指向性）に対応している。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加・態度（30%）授業課題（50%）最終課題（20%）課題については1週間程度の期間を設ける。提出期限を過ぎた場合は、採点の対象とはならないので注意してほしい

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	地政学とは何か
2	大国による世界覇権の争い (1)	アメリカ (1)
3	大国による世界覇権の争い (2)	アメリカ (2)
4	大国による世界覇権の争い (3)	アメリカ (3)
5	大国による世界覇権の争い (4)	ヨーロッパ (1)
6	大国による世界覇権の争い (5)	ヨーロッパ (2)
7	世界覇権を狙う2つの大国 (1)	中国 (1)
8	世界覇権を狙う2つの大国 (2)	中国 (2)
9	世界覇権を狙う2つの大国 (3)	ロシア
10	欧米による世界覇権を揺るがす国々 (1)	インド・パキスタン・バングラデシュ・アフガニスタン
11	欧米による世界覇権を揺るがす国々 (2)	トルコ・中東・イスラエル
12	欧米支配からの脱却を図る国々 (1)	朝鮮半島
13	欧米支配からの脱却を図る国々 (2)	アフリカ・中南米
14	欧米支配からの脱却を図る国々 (3)	アジア (1)
15	欧米支配からの脱却を図る国々 (4)	アジア (2)

科目コード	14003				区分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅡ				担当者名	宮本 彩			
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

卒業後の進路を実りあるものにするためには、計画的にキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。進路別就職活動のスケジュールを理解するとともに、実際の現場で求められている柔道整復師のスキルやモラルを理解し、身に付けることを学修成果として求めます。

#### <授業の到達目標>

柔道整復師に求められる職業倫理及び、社会保障制度について学び、柔道整復師の役割を理解し、自身の目指すべき方向性を明確にする。柔道整復師の職務と誇りを育むとともに、ビジネスマナー、自己分析力、業界に対する知識を身に付ける。

#### <授業の方法>

必要に応じて、ゲストスピーカーをお招きして講義を進める（オンライン形式も含む）。資料の配布等はGoogle Classroomを活用する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に連絡した内容を予習して授業に臨む（毎回1時間程度）復習：講話後はレポートを提出し、柔道整復師の理解を深める。（毎回1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目はディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と7（生涯にわたり学び続ける態度・指向性）関連付けられています。単に知識を習得・活用するだけでなく、これからの社会に対して柔道整復師がどのように活躍できるか考え、学生一人一人が社会に貢献できる柔道整復師像を確立できることを目指しています。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業意欲・態度：20%授業中の意見交換：30%授業課題・レポート提出：50%

#### <教科書>

なし

#### <参考書>

なし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	キャリアプランの設計①	前期授業および夏季休暇の省察就職活動に向けたキャリアプランの設計
2	職業倫理及び関係法規①	健康保険制度の概要および不正請求について
3	職業倫理及び関係法規②	業務におけるリスクマネジメント
4	社会保障制度①	関連企業講話「社会保障費から読み解く本邦の社会保障制度」
5	社会保障制度②	関連企業講話「少子高齢化が進む日本で接骨院が果たすべき役割」
6	社会保障制度③	関連企業講話「老齢年金を始めとした各種年金制度の概要」
7	社会保障制度④	関連企業講話「障がい者への福祉サービスを始めた社会福祉」
8	社会保障制度⑤	企業関連講話⑤「公的扶助（生活保護）制度」
9	グループ討議①	競技スポーツ分野で柔道整復師が活躍する方策を考える
10	グループ討議②	医療分野で柔道整復師が活躍する方策を考える
11	グループ討議③	介護・福祉分野で柔道整復師が活躍する方策を考える
12	就職セミナー①	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、興味のある企業の説明を聞く。
13	就職セミナー②	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、興味のある企業の方と面談する。
14	キャリアプランの設計②	春季休暇ならびに来年度の就職活動に向けたプランを設計する
15	キャリアプランの設計③	自分自身のキャリアプランを他者と共有する

科目コード	12303			区分	教養科目				
授業科目名	自然科学基礎			担当者名	中岡 俊				
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

身近にある科学について知ることから、自然現象はどのようにして起こっているのかを学ぶ。そして日常生活において身近にある科学に興味を持ち、自然科学の重要性を学ぶ。身近な環境問題などを含め探求心を強めることによって、課題により調べる力を身に付け、皆さんの将来に必要なスキルとして使用できるように講義を行う(非認知能力)

#### <授業の到達目標>

1. 自然科学について興味をもつことができる2. 論理的思考について理解し、使用することができる3. 疑問に思ったことをすぐに調べることができる4. 調べた事柄について自身の知識として使用することができる

#### <授業の方法>

1. 授業は各回出席を確認する2. 出席はアンケート・課題のどちらかまたは両方をもって出席とする(各回によって異なる)3. 授業で取扱う範囲が広いので、教材は用いないが参考図書は都度紹介する4. 自然科学と論理的思考方法を培うことの両面を授業で取扱う

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指定する課題を作成する(1時間程度)復習：提出課題については各授業にて振返りをおこなう(30分程度)情報はインターネットまたは図書館において必要な著書から得る

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は教養ディプロマポリシー「知識を広めるための幅広い知識・理解」と「専門分野に関する知識・理解」に関連付ける。自然科学に興味を持つことによって人間性の幅を広め、更に調査力を身に付けることにより個性を引き出し活躍ができる力を高めていきます。また「幅広い知識と専門性」を身に付けるための科目のひとつであり、自然現象について深く理解する機会を提供することで、それに付随する考え方や実用方法を学ぶ。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・課題レポート90% 期末考査10%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要、評価の説明。自然科学についての基礎講義
2	自然科学とは?	自然科学の研究と論理的思考方法について理系脳、文系脳クイズ
3	身近な自然科学	身近で起こっている自然現象を学び、考える
4	自然現象へのアプローチ-生物編-	自然現象を生物の観点から学習
5	自然現象へのアプローチ-化学編-	自然現象を化学の観点から学習
6	自然現象へのアプローチ-生物・化学編-	自然科学を生物・化学の両面から学習
7	プレゼン発表資料作成	自然科学について調査。プレゼン発表資料作成
8	プレゼン発表	プレゼン発表を行い、質疑応答を行う
9	地球の自然現象について知る	自然現象を地球科学の観点から学習
10	天気、自然災害について知る	天気の自然科学について学ぶ。自然災害について知り、対策の方法を考える
11	地球に起こる問題とは?	クイズ形式で地球に起こる問題を考える
12	宇宙について知る	宇宙についての基礎を学習する
13	宇宙についての知識①	宇宙で起こる現象について学習する
14	宇宙についての知識②	宇宙で起こる現象について学習する
15	まとめ	自然科学総括、レポート作成

科目コード	53043				区分	教養科目			
授業科目名	特別講義Ⅱ				担当者名	塩盛 俊明			
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

この授業では、履修者が公務員試験を受験することを想定して、試験頻出分野である「行政作用法」と「行政救済法」の分野を中心に学ぶ。前者では行政処分の意義とその性質や法効果を学び、一方、後者については、具体的事例の豊富な行政事件訴訟法や国家賠償法等を中心に、判例に即して当該法領域の法解釈を学ぶ。授業の内外を通して、公務員試験の過去問演習を繰り返し、公務員試験合格を達成できる実力を身に着ける。

### <授業の到達目標>

①行政法分野の全体像を把握し、関連法を知る。②行政処分の概念を理解し、その性質や効力を説明できる。③行政救済法領域のそれぞれの一般法、要件と効果を説明できる。④関連する判例の争点を指摘し、判例の導いた結論を説明できる。

### <授業の方法>

授業は、「①教科書の該当範囲に関する基本的説明を行う、②該当範囲の過去問に実際に取り組む、③解説を行う」の順で構成する。学生は、公務員試験合格のために十分な実力をつけるために授業以外でも過去問に取り組むことが必要不可欠である。ユニバを利用した小テストを行い、コメントを付して返却する。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

学生は、毎回授業前に授業予定範囲を通読(60分)の上授業に臨むこと。授業後は必ず復習を行う(60分)が、授業後だけでなく公務員試験受験までの間は繰り返し過去問を解く演習を続けることが必要。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

行政法の学びを通して、特に社会に関連した学際的な知識を身につける(DP4)。また、現代社会における行政作用に関わる問題を通じて、新たな課題に対応できる社会人を身につける(DP8)

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

到達目標①～④のそれぞれについて、UNIPAによる課題(ミニテスト)(30%)、授業への取組(10%)と筆記試験(60%)により達成度を測定する。

### <教科書>

資格試験研究会編 公務員試験 新スーパー過去問ゼミ6 行政法 実務教育出版

### <参考書>

板垣勝彦

公務員をめざす人に贈る行政法教科書法律文化社

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	行政と法(1)	教科書p13～p29 行政法の基礎
2	行政と法(2)	教科書p30～p58、行政上の法律関係、行政上の基準(行政立法・行政計画)
3	行政作用法(1)	教科書p59～p87 行政行為の概念と種類、行政行為の効力
4	行政作用法(2)	教科書p88～p107 行政行為の瑕疵、行政行為の効力の発生と消滅
5	行政作用法(3)	教科書p108～132 行政行為の付款、行政裁量
6	行政作用法(4)	教科書p133～p181 実効性確保の手段、行政手続法
7	行政作用法(5)	教科書p182～p220 行政指導、行政契約
8	行政争訟法(1)	教科書p221～p277 行政事件訴訟の種類、取消訴訟の訴訟要件
9	行政争訟法(2)	教科書p278～p312 取消訴訟の審理要件と判決
10	行政争訟法(3)	教科書p313～p343 国家賠償法1条
11	行政争訟法(4)	教科書p344～p363 国家賠償法2条
12	行政争訟法(5)	教科書p364～p380 損失補償
13	行政組織法(1)	教科書p381～p409 国の行政組織と法、地方公共団体の組織と事務
14	行政組織法(2)	教科書p410～p441 地方公共団体の自治立法と住民、公務員法・公物法
15	まとめ	公務員試験受験に向けた実力の点検



科目コード	13107			区分	教養科目				
授業科目名	近現代史			担当者名	小川 正人				
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

昭和期の日本は、戦争と戦後復興を経て世界の経済大国になった。激動する日本が歩んだ道を振り返り、世界のなかの日本、アジアのなかの日本という視点から、本授業では戦後復興のシンボルの一つである1970年に開催された大阪万博を通して戦後、昭和期、特に1970年代の歴史を考えていく。

#### <授業の到達目標>

大阪万博に関する多様な記録を教員と共に選択し、解読することによって、現代日本が進んできた道筋に対する理解を深めることができる。また、講義や議論を通じて、1970年に開催された大阪万博が、現在の社会や生活にどのような影響を与えているかを理解し、2025年に開催予定の関西万博についても考える能力とアイデアを発信する能力も身に付けていきたい。

#### <授業の方法>

対面授業で進めていく。各回のテーマに沿った課題はGoogle Classroomに期限までに提出していく。質問等がある場合は、担当教員のメールもしくはGoogle Classroomでの特定コメントを利用してほしい。コロナ感染が拡大した場合、オンラインもしくはオンデマンド授業に変更となる可能性もある。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業での討論や活動に備えて、決められた課題を事前に調べ、勉強しておくこと。授業の予習・復習にはそれぞれ最低1時間は使って欲しい。授業外では歴史だけでなく、歴史を起因とした国内外のニュースについても注視して欲しい。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は教養科目のディプロマポリシーDP3（知識を広めるための幅広い知識・理解）とディプロマポリシーDP7（生涯にわたり学び続ける態度・指向性）に対応している。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加・態度（30%）授業課題（50%）最終課題（20%）課題については1週間程度の期間を設ける。提出期限を過ぎた場合は、採点・成績の対象とはならないので注意してほしい。課題提出をもって出席とし、課題未提出や期限後の提出は欠席となるので十分に気をつけて欲しい。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	自己紹介、授業・シラバス説明
2	歴史とは？	歴史を学ぶ意味とは？
3	大阪万博とは何だったのか（1）	万博とは何か
4	大阪万博とは何だったのか（2）	国内外バビリオン
5	大阪万博とは何だったのか（3）	万博から生まれたもの：携帯電話
6	大阪万博とは何だったのか（4）	万博から生まれたもの：明治ブルガリアヨーグルト
7	大阪万博とは何だったのか（5）	万博人物伝（丹下健三、岡本太郎）
8	1970年代とはどんな時代だったのか（1）	学生運動・学生闘争
9	1970年代とはどんな時代だったのか（2）	三島由紀夫について
10	1970年代とはどんな時代だったのか（3）	1970年代の流行
11	1970年代とはどんな時代だったのか（4）	1970年代の音楽
12	1970年代とはどんな時代だったのか（5）	あさま山荘事件とカップヌードル
13	1970年代とはどんな時代だったのか（6）	クリスマスとケンタッキー・フライド・チキン
14	1970年代とはどんな時代だったのか（7）	1970年代のヒット商品
15	まとめ	2070年を予想しよう

科目コード	13205			区分	教養科目				
授業科目名	時事教養			担当者名	小川 正人				
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は再履修者用「時事教養」である。本授業では、時事問題を理解するための知識を身につけ、国内外の時事問題に関心を持ち、これを理解するための知識を得ることは、自分たちが生きている社会についての理解が深まることを意味する。授業では、政治、経済、社会・環境、国際の4つの分野から時事問題を取り上げていく。授業は講義とグループディスカッションを組み合わせで展開していく。

#### <授業の到達目標>

本授業は、国内外の時事問題について個人もしくはグループで「調べ」、「話し合い」、「考え」、そして「発表する」ことを目標とする。本授業では、新聞などのメディアを活用しながら時事問題を学ぶことで、時事問題を理解するための基礎知識を身につけ、将来の就職活動などを念頭に時事問題について自分の考えを論拠を示しながら述べる力を伸ばしていく。

#### <授業の方法>

本授業では、Learning by doing (なすことによって学ぶ)を授業方法の理念として、アクティブラーニングを活用し、新聞やインターネット等のメディアで取り上げられている時事問題を深く掘り下げ、問題の解決方法を探っていく。諸問題の原因や問題解決に向けたディスカッションを活発におこなっていく。尚、時事が対象となるので、内容が変更になることを了承して欲しい。対面型授業であるが、コロナ感染が拡大した場合はオンラインまたはオンデマンド型授業に変更になることを理解してほしい。

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業での討論や活動に備えて、決められた課題を事前に調べ、勉強しておくこと。授業の予習・復習にはそれぞれ最低1時間は使って欲しい。授業外では国内外のニュースなどの時事問題に関心を持ち、それらのニュースがどのように伝えられているのか注視して欲しい。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

コミュニケーションの能力とグローバルマインドを身に付けた人材の育成を目標に、自分の意見を他者に伝えることができる能力と、時事教養を通じて広い視野に立った知識を身につけられるようにする。なお本授業は、教養科目ディプロマポリシーDP5(情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能)及びDP6(自律や社会性等に関する態度・指向性)に対応している。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業参加・態度(30%) 授業課題(50%) 最終課題(20%) 課題については1週間程度の期間を設ける。提出期限を過ぎた場合は、採点の対象とはならないので注意してほしい

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の説明、自己紹介、時事教養・時事問題とは
2	メディアから学ぶ時事問題(政治分野)(1)	国内外の政治分野のニュースを取り上げる
3	メディアから学ぶ時事問題(政治分野)(2)	国内外の政治分野のニュースを取り上げる
4	メディアから学ぶ時事問題(政治分野)(3)	グループディスカッション
5	メディアから学ぶ時事問題(経済分野)(1)	国内外の経済分野のニュースを取り上げる
6	メディアから学ぶ時事問題(経済分野)(2)	国内外の経済分野のニュースを取り上げる
7	メディアから学ぶ時事問題(経済分野)(3)	グループディスカッション
8	メディアから学ぶ時事問題(社会・環境分野)(1)	国内外の社会・環境分野のニュースを取り上げる
9	メディアから学ぶ時事問題(社会・環境分野)(2)	国内外の社会・環境分野のニュースを取り上げる
10	メディアから学ぶ時事問題(社会・環境分野)(3)	国内外の社会・環境分野のニュースを取り上げる
11	メディアから学ぶ時事問題(社会・環境分野)(4)	グループディスカッション
12	メディアから学ぶ時事問題(国際分野)(1)	国際分野のニュースを取り上げる
13	メディアから学ぶ時事問題(国際分野)(2)	国際分野のニュースを取り上げる
14	メディアから学ぶ時事問題(国際分野)(3)	グループディスカッション
15	まとめ	授業振り返り

科目コード	11409				区分	教養科目			
授業科目名	表現活動による人間力養成IV				担当者名	前田 一誠			
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

### <授業の概要>

Students will manage their underclassmen to practice leadership and assessment skills. By having an understanding of the prior three years work, students will be in a position to understand and assist their underclassmen and give them advice on how to pro

### <授業の到達目標>

Students will be able to directly see their own style of leadership and how it affects those in their team. Both the underclassmen and the fourth year students will demonstrate growth, based on the assistance they provide. The feedback they receive from t

### <授業の方法>

このクラスでは授業に出席することを前提とし、授業内での活動が主となる。それぞれのテーマに沿って理論と実技を並行して行う。またアクティブラーニングの一貫として、ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーションを取り入れている。小グループにて個々の意見について話し合い、学期末にはアウトリーチ実習として学外の実際の教育現場にて学習の成果を実践する。※授業で扱うパフォーマンスは、ICTを活用しデータ配信で共有する。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：自身の学習過程をワークブック（Googleクラスルーム）にまとめ、振り付けや歌詞の復習を行う。※1時間程度

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教養科目のディプロマポリシー⑦（生涯にわたり学び続ける態度・指向性）と⑧（統合的な学習経験と創造的思考力）関連付けられている。この授業では主にコミュニケーションと教授法に焦点を置き、様々なスタイルの音楽を通し、自身のコミュニケーションスタイルや教授法を確立していく。また学期末のアウトリーチ実習での指導を一つの目標とし、自身の課題を見つけ、知識と共に実践力も高めていく。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、ワークブックの取り組み 25%、面接 25%、期末レポート 10%、アウトリーチ実習への取り組み 10%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の説明、アイスブレイキング、SUPER STAR/ GRANDプログラム
2	企画、演目のマネージメント1-1	下級生クラスの創作・指導計画をマネージメントし、より効果的な活動へと導く方法について学習する
3	企画、演目のマネージメント1-2	下級生クラスの創作・指導計画をマネージメントし、より効果的な活動へと導く方法について学習する
4	企画、演目のマネージメント1-3	下級生クラスの創作・指導計画をマネージメントし、より効果的な活動へと導く方法について学習する
5	学生間の相互評価、批評1	学生間で前向きな批評方法を学習し、他人のアドバイスをどう自身の成長に繋げるかを学ぶ
6	プロジェクトマネージメント1-1	下級生クラスの演目創作過程を監督し、メドレーとしてまとめあげる
7	プロジェクトマネージメント1-2	下級生クラスの演目創作過程を監督し、メドレーとしてまとめあげる
8	プロジェクトマネージメント1-3	下級生クラスの演目創作過程を監督し、メドレーとしてまとめあげる
9	下級生との面接1-1	学生間で前向きな批評方法を学習し、他人のアドバイスをどう自身の成長に繋げるかを学ぶ
10	下級生との面接1-2	学生間で前向きな批評方法を学習し、他人のアドバイスをどう自身の成長に繋げるかを学ぶ
11	テク役割マネージメント1-1	下級生クラスの広報・衣装製作・舞台作り等テク役割の活動を監督し、マネージメントスキルを習得する
12	テク役割マネージメント1-2	下級生クラスの広報・衣装製作・舞台作り等テク役割の活動を監督し、マネージメントスキルを習得する
13	まとめ (1)	これまでに学習した歌とダンスのまとめ
14	まとめ (2)	これまでに学習した歌とダンスのまとめ
15	アウトリーチ実習（実践指導）	今年度この授業で学習した内容を用いて、新たな環境での実践演習を行う

科目コード	14001				区分	教養			
授業科目名	キャリアサポート				担当者名	佐藤 典子			
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

就職活動と就職後に必要とされる社会人基礎力の中から自己管理能力や対人スキルについての意識付けをして、それらのスキルを高めることを目的とする。コーチング心理学に基づいた有用なコミュニケーションスキルのうち、特に傾聴力や質問力を高める。

#### <授業の到達目標>

傾聴や質問をする能力が高まることによって自己理解や他者理解が促進されて、人間関係構築のコツが掴めるようになる。授業の開始時と終了時に対人スキルのコンピテンシーを分析することで、学習成果を可視化する。

#### <授業の方法>

講義、ディスカッション、コーチング・デモンストレーションの観察、3人1組での実践ワークやピアコーチングを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

該当テーマについてテキストを事前に読み、授業での実践に向けて準備する。復習を兼ねて2人1組でピア・コーチングを実施する。予習復習で1時間ほど。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

教養科目ディプロマポリシーの⑦生涯にわたり学び続ける態度や指向性を身に付けることと、⑧最終学年として統合的な学習経験をし創造的な思考力を身に付けることに繋がる。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度と意欲30%、課題の提出30%、最終的なスキルの習得度合い40%スキル習得についてのフィードバックは対面で実施する。

#### <教科書>

CTIジャパン、重松延寿（2014年） マンガでやさしくわかるコーチング 日本能率協会マネジメントセンター

#### <参考書>

ローラ・ウィットワース2002年

コーチング・バイブル東洋経済新報社

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要や評価方法の説明とチーム作りのための演習など
2	コーチングとは	コーチングの定義と特性(心の在り方、スキル)を概念的に理解する
3	他者をコーチングする前にまずは自分を知る	パーソナルスタイルやMBTI診断などのツールを使って、自己理解を深める
4	コーチングの基礎スキル (1)	傾聴、質問、承認などの効用を概念的に理解する
5	コーチングの基礎スキル (2)	基礎スキルを演習を繰り返すことで体得して行く
6	コーチングモデルの紹介	コーチングの会話モデルの中で最も使われているGROWモデルを紹介して、演習をする
7	モチベーションについて	モチベーションに関する理論の紹介と、各人のモチベーションを高めるための演習をする
8	中間の振り返り	ここまでの学習の振り返りと、演習を継続する
9	リーダーシップについて	リーダーとマネジャーの違いや、コーチ型リーダーが組織にとって有益であることを概念的に理解する
10	コーチング実践	基礎スキルやモデルの習得を演習とフィードバックを継続することで加速する
11	リレーコーチング	履修者間での学びを深めるために全員がリレーする形でコーチングを実施する
12	コーチング実践の発表	習得したスキルやマインドセットをどのように実践したかを各自が発表する
13	コーチング技術の診断 (1)	習得したスキルを全体で診断、フィードバックを与え合う
14	コーチング技術の診断 (2)	習得したスキルを全体で診断、フィードバックを与え合う
15	まとめ	学習した事柄や体得したスキルやマインドについて、全体で振り返る

科目コード	14001			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアサポート			担当者名	千葉 照久				
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

この授業の目的は、キャリアデザイン等で学んだ教師としての基礎知識をもとに、教員採用試験合格に向け、より実践的な資質・能力を身につけることである。その目的を達成するために、教員採用試験に向けた心構えや具体的な攻略法について講義・演習を中心に、より実践に即した形で指導する。学習成果については、論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

#### <授業の到達目標>

・教師としての基礎知識や学校現場の抱える課題を理解することができる。・教員採用試験の傾向と対策を理解し、志望する自治体に応じた面接、論作文、模擬授業等の実践力を高めることができる。・教師のやりがい、心構え等を理解し、自らの理想とする教師像を明確にすることができる。

#### <授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明・課題についてのグループ協議・課題についての演習・レポートの提出

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：学習予定表に沿って、次回の内容にかかわる関連資料の取捨等の事前学習をし、課題意識をもって授業に臨む。(1時間程度)  
 ・復習：各回の講座の内容について、個人またはグループでの自主学習において復習し、講義毎のワークシートの追加記入等のノート整理を行う。また、グループで模擬授業、面接等の練習を行う。(30分から1時間程度)

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー⑦、⑧と関連付けられている。「高い専門性と実践力のある教師」を育成するための教養科目であり、教員採用試験を間近に控える4年生を対象として、高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢(DP6)、子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力(DP7)を育成する科目である。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、講義内での課題等 30%、最終レポート 40%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	キャリアサポートとは学習のルール・予定	授業の概要と今後4か月間の過ごし方学習進行表の活用対策講座等の予定(ノートの活用)
2	教員採用試験の事務手続き	募集要項の取り寄せ方提出書類の記入方法願書、履歴書の記入内容の確認立ち振る舞い、服装とあいさつ
3	学長講話	進路に向けてのメッセージ
4	自己アピールの書き方学習進行表	自己アピール文を書く学習進行表をもとにした情報交換
5	個人・集団面接の攻略法1	個人・集団面接の回答の仕方自分の考えをわかりやすく伝える手立て
6	集団討論等の攻略法1	集団討論・グループ活動の実施形態複数の受験者との討論の進め方過去問の分析※形態によって自治体別に分かれて演習
7	模擬授業の攻略法1	模擬授業の概要、先輩の模擬授業(VTR視聴)学習指導案の書き方と模擬授業の実際
8	教育現場の課題1「インクルーシブ教育」	講話グループに分かれて集団討論
9	教育現場の課題2「主体的、対話的で深い学び」	講話グループに分かれての集団討論
10	受験に際しての心構え個人面接の攻略法2	一次試験(2次試験)に臨む心構え聞き手を意識した回答の仕方IPUに関する質問への回答の仕方
11	論作文の攻略法	各自治体別テーマ
12	場面指導の攻略法	場面指導の実際現場に起こりうる場面での対処法
13	集団討論等の攻略法2	評価の観点を意識した面接、討論、集団活動の仕方上手な展開の仕方
14	模擬授業の攻略法2	効果的な模擬授業の実際
15	キャリアサポートで学んだこと教職への決意	教員採用試験への心構えレポートの作成

科目コード	14001				区分	教養科目			
授業科目名	キャリアサポート				担当者名	檜 日佳			
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

幼稚園、保育所、認定こども園、施設において保育職を志望する学生を対象とした選択科目である。この講義では保育者としての基礎知識と採用試験合格に向けた具体的な指導をする。

#### <授業の到達目標>

1 保育者としての資質や能力を高めることで、保育者として働くことへ意思を明確にする。2 保育職に進むために必要な論作文、面接、実技試験などの技術を高め、志望する自治体や法人に合格する。

#### <授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明・課題についてのグループワーク・課題についての演習

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する関連資料や課題を読み、授業の準備をする。（30分程度）・復習：各回の講座の内容について、個人またはグループで復習をし、講義ごとのワークシートの追加記入や復習をする。（60分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は本学の教育目標「豊かな人間性と個性を有した実践力のある実践的職業人・国際人の育成」と関連している。教養科目ディプロマポリシー7（生涯にわたり学び続ける態度・指向性）と8（総合的な学習経験と創造的な思考力）に対応している。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度15%、授業課題30%、グループ貢献度15%、小テスト40%

#### <教科書>

特に指定しない

#### <参考書>

特に指定しない

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の目的とその概要について
2	採用試験までの計画	受験自治体・志望法人調べと合格までの計画
3	採用試験の事務手続き（1）	基本的な願書の書き方の講義と演習
4	採用試験の事務手続き（2）	自治体・法人ごとの願書様式と書き方のポイント
5	個人面接、集団面接（1）	面接マナーの復習と面接ノートの作成
6	個人面接、集団面接（2）	「自分を知ってもらうための面接」グループ演習
7	個人面接、集団面接（3）	「保育の専門性を問われる面接」グループ演習
8	保育者・施設職員のやりがいと合格体験記(1)	先輩保育士の講話（卒業生公立園先輩）
9	保育者・施設職員のやりがいと合格体験記(2)	先輩保育士の講話（卒業生私立園先輩）
10	保育者・施設職員のやりがいと合格体験記(3)	先輩保育士の講話（卒業生福祉施設の先輩）
11	論作文（1）	自治体・法人別出題されやすい課題の分析と演習
12	保育実技	自治体・法人別出題されやすい実技テーマの分析と演習
13	論作文（2）	保育の今日的課題の分析と演習
14	集団討論	集団討論とは、グループ演習
15	学びのまとめ	学びのまとめと今後の課題、就職までの準備

科目コード	14001			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアサポート			担当者名	横内 浩平				
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

公務員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな出題科目について十分理解しておく必要がある。この講義では、今年度の公務員試験に必要な知識のうち、次の内容を身に付けることを目的とする。1. 点数を伸ばすために必要な「数学」2. 直前期に必要な「問題演習」3. 二次試験対策のうち主に「集団討論」「集団面接」

#### <授業の到達目標>

1. 公務員への理解を深め、公務員として働くことの意義を認識することができるようになる。2. 採用試験における「頻出分野」の理解ができるようになる。3. 今年度の公務員試験に必要な知識を養成し、採用に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

#### <授業の方法>

1. 講義（配布プリントを使用し授業、問題演習を進める）2. 振り返り（授業の内容に関するまとめ）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関するキーワードの下調べ（30分程度）復習：次回講義までに、該当する問題を解けるようにしておく（90分以上）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この授業は、教養科目のディプロマポリシー7（生涯にわたり学び続ける態度・指向性）と関連付けられている。3年次より始まっている「公務員対策講座」で基礎学力を身につけた4年生に対し、今年度の公務員試験に向けて学力伸ばすことを目的としている。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出及びミニテスト70% 授業に臨む態度等30%

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

東京アカデミー（2020年12月1日発行）

オープンセサミシリーズ 国家公務員・地方初級④数学・理科〔第〔2022版〕七賢出版

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	数学 (1)	数と式
3	数学 (2)	二次関数
4	数学 (3)	二次方程式
5	数学 (4)	その他の方程式
6	数学 (5)	図形と方程式
7	問題演習 (1)	政治
8	問題演習 (2)	経済
9	問題演習 (3)	生物
10	問題演習 (4)	地学
11	問題演習 (5)	判断推理・数的推理
12	二次試験対策 (1)	集団討論・集団面接等 (1)
13	二次試験対策 (2)	集団討論・集団面接等 (2)
14	二次試験対策 (3)	集団討論・集団面接等 (3)
15	まとめ	重要事項の確認・試験の注意など

科目コード	14001			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアサポート			担当者名	横内 浩平				
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

公務員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな出題科目について十分理解しておく必要がある。この講義では、今年度の公務員試験に必要な知識のうち、次の内容を身に付けることを目的とする。1. 点数を伸ばすために必要な「数学」2. 直前期に必要な「問題演習」3. 二次試験対策のうち主に「集団討論」「集団面接」

#### <授業の到達目標>

1. 公務員への理解を深め、公務員として働くことの意義を認識することができるようになる。2. 採用試験における「頻出分野」の理解ができるようになる。3. 今年度の公務員試験に必要な知識を養成し、採用に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

#### <授業の方法>

1. 講義（配布プリントを使用し授業、問題演習を進める）2. 振り返り（授業の内容に関するまとめ）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関するキーワードの下調べ（30分程度）復習：次回講義までに、該当する問題を解けるようにしておく（90分以上）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この授業は、教養科目のディプロマポリシー7（生涯にわたり学び続ける態度・指向性）と関連付けられている。3年次より始まっている「公務員対策講座」で基礎学力を身につけた4年生に対し、今年度の公務員試験に向けて学力伸ばすことを目的としている。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出及びミニテスト70% 授業に臨む態度等30%

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

東京アカデミー（2020年12月1日発行）

オープンセサミシリーズ 国家公務員・地方初級④数学・理科〔第〔2022版〕七賢出版

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	数学 (1)	数と式
3	数学 (2)	二次関数
4	数学 (3)	二次方程式
5	数学 (4)	その他の方程式
6	数学 (5)	図形と方程式
7	問題演習 (1)	政治
8	問題演習 (2)	経済
9	問題演習 (3)	生物
10	問題演習 (4)	地学
11	問題演習 (5)	判断推理・数的推理
12	二次試験対策 (1)	集団討論・集団面接等 (1)
13	二次試験対策 (2)	集団討論・集団面接等 (2)
14	二次試験対策 (3)	集団討論・集団面接等 (3)
15	まとめ	重要事項の確認・試験の注意など



科目コード	14001				区分	教養			
授業科目名	キャリアサポート				担当者名	河野 儀久			
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

このクラスは健康科学科に在籍する学生が対象である。接骨院、整形外科クリニックをはじめとした医療機関、フィットネスクラブ、介護事業所などへの就職を目指す学生の就職活動における指導を実施する。

#### <授業の到達目標>

日本で就職を希望する留学生にエントリーシート記入の方法、面接対策、採用試験対策についてのサポートと指導をおこない、学生の希望に応じた企業・団体への内定を獲得できることを目標とする。また出身国に戻り就職を希望する留学生に対しては、より多くの情報を集め学生と個別に相談しながら、希望に沿った企業や団体への就職獲得を目指す。

#### <授業の方法>

講義、グループワーク、演習、面談の形で実施する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前回講義で学習した内容を見直して復習し、授業終了時に示す内容等を予習する。予習復習にはHPで集めた情報の中より有用なものを抽出し、レポートはword、excel、powerpointを用いDropboxを用いて提出する。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー7（生涯にわたり学び続ける態度・指向性）と関連付けられており、医療人として現代社会に果たす役割を理解し、様々な立場の人々と良好に職務を遂行できるコミュニケーション能力を身に付け、感性豊かな人間性と高い医療倫理を備え、柔道整復学を中心として、健康科学、体育学、スポーツ医科学の学際的領域で他者と協調できるスキルを身に付ける。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内の討論参加度合 30%、講義内での課題遂行度合 30%、最終レポート 40%

#### <教科書>

特に指定しない

#### <参考書>

特に指定しない

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の目的とその概要について
2	自己分析	就職先となる医療・福祉業界の特徴を知る。
3	就職するには(1)	自分のアピール方法を知る
4	就職するには(2)	就職活動の流れと準備
5	就職するには(3)	企業・業界を知る
6	就職するには(4)	情報収集の方法
7	就職するには(5)	希望企業・業界の決定
8	就職活動サポート(1)	エントリーシートの書き方・履歴書の書き方(1)
9	就職活動サポート(2)	エントリーシートの書き方・履歴書の書き方(2)
10	就職活動サポート(3)	筆記試験・適性検査対策(1)
11	就職活動サポート(4)	筆記試験・適性検査対策(2)
12	就職活動サポート(5)	個人面接・集団面接対策
13	就職活動サポート(6)	個人面接・集団面接練習(1)
14	就職活動サポート(7)	個人面接・集団面接練習(2)
15	まとめ	就職活動を振り返って

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	片上 摩紀				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学の4年間はその後的人生に大きな影響を与える。本学での4年間をどのように生きるのか、学生一人ひとりが責任を持って、社会人として成長するための助言・指導の時間とする。また、基本的な生活習慣と学力の関係を学び、自己コントロールできる自主自律した学生の育成を目指す。さらに、読むこと、書くこと、聞くこと、伝えることの4スキルの獲得も同時に行う。

#### <授業の到達目標>

本授業は、大学生として読解力、傾聴力、プレゼンテーション力を身につけること、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけること等を目標とする。

#### <授業の方法>

初回授業時に通知する。各回の講義はテキストを用いたワークが中心で、キャンパスライフデザインや就職業界研究などの回では小グループごとのディスカッションが行われる。また、講義の後半ではワークの成果を必ずプレゼンテーションする。授業の開始時にはその日の講義内容に関するアンケートや意識調査、講義中にも質問やクイズなどをLMS上で実施し、学生には各自の情報端末から参加してもらい、それら集計結果はその場で全員で確認する。なお、授業内容について、スケジュール変更が生じた場合には、随時履修者に連絡する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講したテーマ・内容に即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各授業で指示。毎回、次の授業までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

豊かな人間性・幅広い教養に基づく課題提案力、異文化理解に基づくコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、国際人としての自覚とアイデンティティーの涵養に基づく実践力と生涯学習力、経営に対する総合的な学習経験に基づく知識の習得とそれらを活かす実践力を身につける科目である。特に、総合的な学習経験に基づき、社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ガイダンス、自己紹介
2	大学生活について	大学の授業・プロジェクトについて理解する
3	学長講話 (1)	大学生の学びについて理解する
4	メンター講話	自己学習時の注意点について学ぶ
5	リスニングスキル	「聞く・話す」スキルを身につける
6	理事長講話 (1)	大学理念について学ぶ
7	スピーチスキル (1)	スピーチの基本的なスキルを学ぶ
8	2年生プロジェクトにむけて	2年生でおこなうプロジェクトを理解し、計画を立てる
9	スピーチスキル (2)	相手に伝えるスピーチを学ぶ
10	ライティングスキル	「書く・伝える」スキルをつける
11	スピーチコンテスト (1)	学科代表のスピーチコンテスト
12	スピーチコンテスト (2)	学年代表のスピーチコンテスト
13	人権教育	人権問題について考える
14	理事長講話 (2)	非認知能力について学ぶ
15	学長講話 (2)	新2年生に向けて、学ぶことや目標を考える

科目コード	13100			区分	教養科目				
授業科目名	フレッシュマンセミナー			担当者名	呂 建輝				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学の4年間はその後的人生に大きな影響を与える。本学での4年間をどのように生きるのか、学生一人ひとりが責任を持って、社会人として成長するための助言・指導の時間とする。また、基本的な生活習慣と学力の関係を学び、自己コントロールできる自主自律した学生の育成を目指す。さらに、読むこと、書くこと、聞くこと、伝えることの4スキルの獲得も同時に行う。

#### <授業の到達目標>

本授業は、大学生として読解力、傾聴力、プレゼンテーション力を身につけること、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけること等を目標とする。

#### <授業の方法>

初回授業時に通知する。各回の講義はテキストを用いたワークが中心で、キャンパスライフデザインや就職業界研究などの回では小グループごとのディスカッションが行われる。また、講義の後半ではワークの成果を必ずプレゼンテーションする。授業の開始時にはその日の講義内容に関するアンケートや意識調査、講義中にも質問やクイズなどをLMS上で実施し、学生には各自の情報端末から参加してもらい、それら集計結果はその場で全員で確認する。なお、授業内容について、スケジュール変更が生じた場合には、随時履修者に連絡する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講したテーマ・内容に即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各授業で指示。毎回、次の授業までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

豊かな人間性・幅広い教養に基づく課題提案力、異文化理解に基づくコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、国際人としての自覚とアイデンティティーの涵養に基づく実践力と生涯学習力、経営に対する総合的な学習経験に基づく知識の習得とそれらを活かす実践力を身につける科目である。特に、総合的な学習経験に基づき、社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ガイダンス、自己紹介
2	大学生活について	大学の授業・プロジェクトについて理解する
3	学長講話 (1)	大学生の学びについて理解する
4	メンター講話	自己学習時の注意点について学ぶ
5	リスニングスキル	「聞く・話す」スキルを身につける
6	理事長講話 (1)	大学理念について学ぶ
7	スピーチスキル (1)	スピーチの基本的なスキルを学ぶ
8	2年生プロジェクトにむけて	2年生でおこなうプロジェクトを理解し、計画を立てる
9	スピーチスキル (2)	相手に伝えるスピーチを学ぶ
10	ライティングスキル	「書く・伝える」スキルをつける
11	スピーチコンテスト (1)	学科代表のスピーチコンテスト
12	スピーチコンテスト (2)	学年代表のスピーチコンテスト
13	人権教育	人権問題について考える
14	理事長講話 (2)	非認知能力について学ぶ
15	学長講話 (2)	新2年生に向けて、学ぶことや目標を考える

科目コード	13100				区分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	王 新			
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

大学の4年間はその後的人生に大きな影響を与える。本学での4年間をどのように生きるのか、学生一人ひとりが責任を持って、社会人として成長するための助言・指導の時間とする。また、基本的な生活習慣と学力の関係を学び、自己コントロールできる自主自律した学生の育成を目指す。さらに、読むこと、書くこと、聞くこと、伝えることの4スキルの獲得も同時に行う。

#### <授業の到達目標>

本授業は、大学生として読解力、傾聴力、プレゼンテーション力を身につけること、学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけること等を目標とする。

#### <授業の方法>

初回授業時に通知する。各回の講義はテキストを用いたワークが中心で、キャンパスライフデザインや就職業界研究などの回では小グループごとのディスカッションが行われる。また、講義の後半ではワークの成果を必ずプレゼンテーションする。授業の開始時にはその日の講義内容に関するアンケートや意識調査、講義中にも質問やクイズなどをLMS上で実施し、学生には各自の情報端末から参加してもらい、それら集計結果はその場で全員で確認する。なお、授業内容について、スケジュール変更が生じた場合には、随時履修者に連絡する。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講したテーマ・内容に即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各授業で指示。毎回、次の授業までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

豊かな人間性・幅広い教養に基づく課題提案力、異文化理解に基づくコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、国際人としての自覚とアイデンティティーの涵養に基づく実践力と生涯学習力、経営に対する総合的な学習経験に基づく知識の習得とそれらを活かす実践力を身につける科目である。特に、総合的な学習経験に基づき、社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

#### <教科書>

特になし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	ガイダンス、自己紹介
2	大学生活について	大学の授業・プロジェクトについて理解する
3	学長講話（1）	大学生の学びについて理解する
4	メンター講話	自己学習時の注意点について学ぶ
5	リスニングスキル	「聞く・話す」スキルを身につける
6	理事長講話（1）	大学理念について学ぶ
7	スピーチスキル（1）	スピーチの基本的なスキルを学ぶ
8	2年生プロジェクトにむけて	2年生でおこなうプロジェクトを理解し、計画を立てる
9	スピーチスキル（2）	相手に伝えるスピーチを学ぶ
10	ライティングスキル	「書く・伝える」スキルをつける
11	スピーチコンテスト（1）	学科代表のスピーチコンテスト
12	スピーチコンテスト（2）	学年代表のスピーチコンテスト
13	人権教育	人権問題について考える
14	理事長講話（2）	非認知能力について学ぶ
15	学長講話（2）	新2年生に向けて、学ぶことや目標を考える

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ			担当者名	片上 摩紀				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。大学で学ぶためには様々な能力が必要とされるが、中でも「書く」能力は非常に重要であり、レポートや論文を書くことは、大学での学問の根幹となる大事な作業である。そのため、文章を書く実践を通して「書く」ことの基本ルールとともに文章表現の技術を指導する。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立②人間性：自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感のある人間の育成③社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成④大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各授業で指示。毎回、次の授業までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

挑戦と創造の教育を建学の精神とし、①豊かな人間性と個性、②深い専門性と実践力、③コミュニケーション能力とグローバルマインドを身に付けた人材の育成を目指して科目を配置している。当該教養科目は、全学部の学生が共通に身に付ける学習内容として本科目を位置付けている。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原恵子、間瀬泰尚、富江英俊、小針誠（2017.10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版 —大学で学ぶための25のスキル— 実教出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	自己紹介大学生になるとはどういうことか
2	大学を知ろう	学部、学科を知ろう大学教員や職員の仕事を知らう
3	大学を知ろう（2）	大学設備を知ろう 緊急避難経路を確認しよう ハザードマップを確認しよう
4	PROGテストを振り返って	強みを活かしたビジネスモデルを考えよう
5	大学生活をデザインしよう	週間スケジュールから日常生活のあり方を見直そう
6	大学の授業を知ろう	講義の特徴を知ろう 予習・復習の仕方を考えよう
7	定期試験をのりきろう	高校と大学の試験の違いをしろう
8	前期まとめ	前期を振り返って 自己採点してみよう後期のスピーチコンテストに向けて
9	後期ガイダンス	後期目標設定 体育祭チームビルディング
10	スピーチコンテストクラス予選	自分のスピーチを発表しよう
11	キャリアをデザインしよう	卒業後につきたい職業・仕事について調べてみよう
12	スピーチコンテストを振り返ろう	優勝者のスピーチと自分のスピーチを比べてみよう
13	大学生活のリスクやトラブルについて考えよう	大学生活のリスクやトラブルについて知ろうリスクやトラブルの適切な対応方法について知ろう
14	1年を振り返って	1年の学びを振りかえって、自己採点してみよう
15	まとめ	春休み課題「自分の進路について」を考えよう

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	呂 建輝				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。大学で学ぶためには様々な能力が必要とされるが、中でも「書く」能力は非常に重要であり、レポートや論文を書くことは、大学での学問の根幹となる大事な作業である。そのため、文章を書く実践を通して「書く」ことの基本ルールとともに文章表現の技術を指導する。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立②人間性：自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感のある人間の育成③社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成④大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各授業で指示。毎回、次の授業までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

挑戦と創造の教育を建学の精神とし、①豊かな人間性と個性、②深い専門性と実践力、③コミュニケーション能力とグローバルマインドを身に付けた人材の育成を目指して科目を配置している。当該教養科目は、全学部の学生が共通に身に付ける学習内容として本科目を位置付けている。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原恵子、間瀬泰尚、富江英俊、小針誠（2017.10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版 —大学で学ぶための25のスキル— 実教出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	自己紹介大学生になるとはどういうことか
2	大学を知ろう	学部、学科を知ろう大学教員や職員の仕事を知らう
3	大学を知ろう（2）	大学設備を知ろう 緊急避難経路を確認しよう ハザードマップを確認しよう
4	PROGテストを振り返って	強みを活かしたビジネスモデルを考えよう
5	大学生活をデザインしよう	週間スケジュールから日常生活のあり方を見直そう
6	大学の授業を知ろう	講義の特徴を知ろう 予習・復習の仕方を考えよう
7	定期試験をのりきろう	高校と大学の試験の違いをしろう
8	前期まとめ	前期を振り返って 自己採点してみよう後期のスピーチコンテストに向けて
9	後期ガイダンス	後期目標設定 体育祭チームビルディング
10	スピーチコンテストクラス予選	自分のスピーチを発表しよう
11	キャリアをデザインしよう	卒業後につきたい職業・仕事について調べてみよう
12	スピーチコンテストを振り返ろう	優勝者のスピーチと自分のスピーチを比べてみよう
13	大学生活のリスクやトラブルについて考えよう	大学生活のリスクやトラブルについて知ろうリスクやトラブルの適切な対応方法について知ろう
14	1年を振り返って	1年の学びを振りかえって、自己採点してみよう
15	まとめ	春休み課題「自分の進路について」を考えよう

科目コード	14100			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナール I			担当者名	王 新				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。大学で学ぶためには様々な能力が必要とされるが、中でも「書く」能力は非常に重要であり、レポートや論文を書くことは、大学での学問の根幹となる大事な作業である。そのため、文章を書く実践を通して「書く」ことの基本ルールとともに文章表現の技術を指導する。

### <授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立②人間性：自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感のある人間の育成③社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成④大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成

### <授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各授業で指示。毎回、次の授業までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

挑戦と創造の教育を建学の精神とし、①豊かな人間性と個性、②深い専門性と実践力、③コミュニケーション能力とグローバルマインドを身に付けた人材の育成を目指して科目を配置している。当該教養科目は、全学部の学生が共通に身に付ける学習内容として本科目を位置付けている。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、レポート課題60%、最終課題10%。毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。レポート課題については、次回までにフィードバックをする。

### <教科書>

吉原恵子、間瀬泰尚、富江英俊、小針誠（2017.10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版 —大学で学ぶための25のスキル— 実教出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	自己紹介大学生になるとはどういうことか
2	大学を知ろう	学部、学科を知ろう大学教員や職員の仕事を知らう
3	大学を知ろう（2）	大学設備を知ろう 緊急避難経路を確認しよう ハザードマップを確認しよう
4	PROGテストを振り返って	強みを活かしたビジネスモデルを考えよう
5	大学生活をデザインしよう	週間スケジュールから日常生活のあり方を見直そう
6	大学の授業を知ろう	講義の特徴を知ろう 予習・復習の仕方を考えよう
7	定期試験をのりきろう	高校と大学の試験の違いをしろう
8	前期まとめ	前期を振り返って 自己採点してみよう後期のスピーチコンテストに向けて
9	後期ガイダンス	後期目標設定 体育祭チームビルディング
10	スピーチコンテストクラス予選	自分のスピーチを発表しよう
11	キャリアをデザインしよう	卒業後につきたい職業・仕事について調べてみよう
12	スピーチコンテストを振り返ろう	優勝者のスピーチと自分のスピーチを比べてみよう
13	大学生活のリスクやトラブルについて考えよう	大学生活のリスクやトラブルについて知ろうリスクやトラブルの適切な対応方法について知ろう
14	1年を振り返って	1年の学びを振りかえって、自己採点してみよう
15	まとめ	春休み課題「自分の進路について」を考えよう

科目コード	13200			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	范 一楠				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

#### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	ベンチャーミーティング
5	プロジェクト学習②	租税教室
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	日経ビジネス「キャリア」を考える
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	インターンシップについて
10	プロジェクト学習⑤	日経ビジネスで学ぶ就活、仕事のための教養
11	プロジェクト学習⑥	社会に必要とされる企業とは
12	プロジェクト学習⑦	就職活動を知る
13	私の目指す道（My Dream）①	プレゼンテーション能力を高める①
14	私の目指す道（My Dream）②	プレゼンテーション能力を高める②
15	1年間のまとめ、「3年生に向けて」	学長講話「3年生に向けて」



科目コード	13200			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	大平 真紀子				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

#### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	ベンチャーミーティング
5	プロジェクト学習②	租税教室
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	日経ビジネス「キャリア」を考える
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	インターンシップについて
10	プロジェクト学習⑤	日経ビジネスで学ぶ就活、仕事のための教養
11	プロジェクト学習⑥	社会に必要とされる企業とは
12	プロジェクト学習⑦	就職活動を知る
13	私の目指す道（My Dream）①	プレゼンテーション能力を高める①
14	私の目指す道（My Dream）②	プレゼンテーション能力を高める②
15	1年間のまとめ、「3年生に向けて」	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	13200			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアディベロップメント			担当者名	倉田 知秋				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員・保育士・幼稚園教諭およびゲストスピーカーによる「

#### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

#### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プロジェクト学習①	ベンチャーミーティング
5	プロジェクト学習②	租税教室
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	プロジェクト学習③	日経ビジネス「キャリア」を考える
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	プロジェクト学習④	インターンシップについて
10	プロジェクト学習⑤	日経ビジネスで学ぶ就活、仕事のための教養
11	プロジェクト学習⑥	社会に必要とされる企業とは
12	プロジェクト学習⑦	就職活動を知る
13	私の目指す道（My Dream）①	プレゼンテーション能力を高める①
14	私の目指す道（My Dream）②	プレゼンテーション能力を高める②
15	1年間のまとめ、「3年生に向けて」	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	范 一楠				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を身に付ける。②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身に付ける。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身に付ける。④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身に付ける。

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話） 2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論） 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・グループワークのまとめ・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

銅直信子・坂東実子（2013） 大学生のための文章表現&口頭発表練習帳 国書刊行会

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の内容と方法の理解、1年間の目標設定
2	自己分析・適職発見	2年目の大学生活の自己点検。就職について考える。
3	私のキャリアデザイン①	1年間のテーマと目指すゴールを考える
4	プレゼンテーションの作成①	ブレインストーミング、構成を考える
5	プレゼンテーションの作成②	表現技法
6	プレゼンテーションの作成③	学科予選（7分間）向けの資料作成
7	自己分析結果の報告	自己分析、適職分析を踏まえた振り返り
8	前期のまとめ	グループプロジェクト発表、前期中間目標振り返り
9	後期オリエンテーション	後期の目標設定・プレゼンテーションの作成に向けて
10	私のキャリアデザイン②	自分の将来像についてプレゼンテーションしよう
11	私のキャリアデザイン③	自分の将来像についてクラスで発表し合う（プレゼンテーション）
12	私のキャリアデザイン④	自分の経験を後輩に伝えよう！
13	文章表現の基本①	賛成・反対の意見文
14	文章表現の基本②	対立項と時間軸のある文章
15	文章表現の基本③ /1年間のまとめ	2年生の目標達成について振り返ろう。3年生に向けての課題と目標を考えよう

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	大平 真紀子				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を身に付ける。②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身に付ける。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身に付ける。④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身に付ける。

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話） 2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論） 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・グループワークのまとめ・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

銅直信子・坂東実子（2013） 大学生のための文章表現&口頭発表練習帳 国書刊行会

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の内容と方法の理解、1年間の目標設定
2	自己分析・適職発見	2年目の大学生活の自己点検。就職について考える。
3	私のキャリアデザイン①	1年間のテーマと目指すゴールを考える
4	プレゼンテーションの作成①	ブレインストーミング、構成を考える
5	プレゼンテーションの作成②	表現技法
6	プレゼンテーションの作成③	学科予選（7分間）向けの資料作成
7	自己分析結果の報告	自己分析、適職分析を踏まえた振り返り
8	前期のまとめ	グループプロジェクト発表、前期中間目標振り返り
9	後期オリエンテーション	後期の目標設定・プレゼンテーションの作成に向けて
10	私のキャリアデザイン②	自分の将来像についてプレゼンテーションしよう
11	私のキャリアデザイン③	自分の将来像についてクラスで発表し合う（プレゼンテーション）
12	私のキャリアデザイン④	自分の経験を後輩に伝えよう！
13	文章表現の基本①	賛成・反対の意見文
14	文章表現の基本②	対立項と時間軸のある文章
15	文章表現の基本③ /1年間のまとめ	2年生の目標達成について振り返ろう。3年生に向けての課題と目標を考えよう

科目コード	14101			区分	教養科目				
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当者名	倉田 知秋				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学における学び及びキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と、明確な将来像の獲得及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を身に付ける。②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身に付ける。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身に付ける。④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身に付ける。

### <授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話） 2. グループワーク、ディスカッション（キャリアディベロップメントの内容に関する議論） 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられています。現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 40%、プレゼンテーション・グループワークのまとめ・レポート 40%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

### <教科書>

銅直信子・坂東実子（2013） 大学生のための文章表現&口頭発表練習帳 国書刊行会

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の内容と方法の理解、1年間の目標設定
2	自己分析・適職発見	2年目の大学生活の自己点検。就職について考える。
3	私のキャリアデザイン①	1年間のテーマと目指すゴールを考える
4	プレゼンテーションの作成①	ブレインストーミング、構成を考える
5	プレゼンテーションの作成②	表現技法
6	プレゼンテーションの作成③	学科予選（7分間）向けの資料作成
7	自己分析結果の報告	自己分析、適職分析を踏まえた振り返り
8	前期のまとめ	グループプロジェクト発表、前期中間目標振り返り
9	後期オリエンテーション	後期の目標設定・プレゼンテーションの作成に向けて
10	私のキャリアデザイン②	自分の将来像についてプレゼンテーションしよう
11	私のキャリアデザイン③	自分の将来像についてクラスで発表し合う（プレゼンテーション）
12	私のキャリアデザイン④	自分の経験を後輩に伝えよう！
13	文章表現の基本①	賛成・反対の意見文
14	文章表現の基本②	対立項と時間軸のある文章
15	文章表現の基本③ /1年間のまとめ	2年生の目標達成について振り返ろう。3年生に向けての課題と目標を考えよう

科目コード	10200			区分	教養科目				
授業科目名	英語Ⅱ(応用)			担当者名	三垣 雅美				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

中級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。仕事、学校、娯楽などで出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば要点が理解できる。さまざまな事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1(グローバル・国際理解等に関する知識・理解)、およびディプロマポリシー4(コミュニケーション能力等の汎用的技能)と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 3 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting acquainted	Greetings; describing successful conversations; solving problems; discussing attitudes toward problem solving
3	Unit 2: Expressing yourself	Role-playing giving advice; describing feelings; discussing meanings of gestures; reacting to and discussing accents
4	Unit 3: Crime and punishment	Discussing crimes; punishments, and attitudes toward crime; discussing crime movies; speculating about a possible crime
5	Unit 4: Surprises and superstitions	Discussing strange pictures; creating and telling stories; talking about superstitions
6	Unit 5: Education and leaning	Talking about kinds of classes; recalling the first day of school and more recent details; discussing study techniques
7	Unit 6: Fame and fortune	Talking about successful and famous people; discussing sayings about money; discussing the importance of money
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Around the world	Talking about languages and language problems; discussing behavior in various situations; discussing customs
10	Unit 8: Technology	Discussing everyday products; talking about inventions; explaining how to make things
11	Unit 9: Mind and body	Talking about healthy and unhealthy situations; giving advice; explaining exercises; discussing stress and how to reduce it.
12	Unit 10: Spending money	Describing impressions of ads; discussing company slogans and brands; talking about advertising and types of shoppers
13	Unit 11: The news	Telling stories; talking about news stories; reacting to headlines; role-playing an interview
14	Unit 12: Relationships	Describing qualities of friendship; talking about friendship; describing a perfect partner; talking about marriage
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	14002			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアデザイン I			担当者名	大平 真紀子				
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

卒業後の人生を実りあるものにするためには、きちんとしたキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。本科目では、前期は進路別の就職活動の基本的スケジュールを理解するとともに、自己理解、職業・仕事の理解を通じ自身の目指すべき方向性を明確にする。後期は、就職活動に必要なビジネスマナー、自己分析、業界研究、面接対策等について実践的に学習していく。

#### <授業の到達目標>

卒業後の進路を選択し、選択した進路に進むために必要な資質や考え方、能力を獲得する。

#### <授業の方法>

講義と演習を組み合わせて実施する。業界・企業研究に関連する授業回で、グループワークを行う。面接対策に関連する授業回で、プレゼンテーションに類するものを行う。提出物はGoogle Classroomを用いて提出する。

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習(各回60分程度)：課題の指定された部分を通読したうえで、分からない言葉を調べる。復習(各回80分程度)：授業で学んだことを踏まえて、自身のキャリアについて考えたり、進路決定に向けた準備を進めたりする。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

進路選択を取り巻く諸相やそれらにかかわる不確実性を理解したうえで、自律的な意思決定とそれにもとづく個人行動を取れるようになることを目指すものである(教養科目DP6)。グローバル化・情報化による多様な環境変化の下、高い倫理観と豊かな教養力で問題解決に向けチームワークを構築する力を身に付け、生涯にわたり学ぶ基礎をつける科目である(教養科目DP7)。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

参加態度・学習意欲30%、講義内での課題60%、最終レポート10%。課題に対するフィードバックは講義内で、最終レポートについてはUNIVERSAL PASSPORTで行う。

#### <教科書>

#### <参考書>

久保田学(2018)

「留学生のための就職内定ワークブック」日本能率協会マネジメントセンターグエン・テュアン・ズオン(2018)「ベトナム人が日本企業に就職するための心得」日本ベンチャー大学パブリッシング

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	多様な選択肢を知る	日本就職、母国就職、進学などの選択肢の概観
2	日本で就職すること(1)	日本の採用文化、就活スケジュール
3	日本で就職すること(2)	留学生に対する企業側の期待と不安
4	キャリアを考える(1)	内的キャリアと外的キャリア
5	キャリアを考える(2)	キャリア・アンカー
6	自分がどういう人かを考える(1)	人生曲線、自分史
7	自分がどういう人かを考える(2)	コンピテンシー
8	自分がどうしたいかを考える(1)	未来史
9	自分がどうしたいかを考える(2)	日本との関係(つながり)
10	インターンシップ	日本のインターンシップの特徴、参加する意義、参加方法
11	業界を知る(1)	業界研究の視点、基本的な方法
12	業界を知る(2)	業界研究の実践
13	企業を知る(1)	企業研究の視点、基本的な方法
14	企業を知る(2)	企業研究の実践
15	筆記試験の重要性	適性検査、一般常識試験、論作文

科目コード	13205			区分	教養科目				
授業科目名	時事教養			担当者名	片上 摩紀				
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

SDGsを知っているだろうか？ SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称である。2015年9月に国連で開かれたサミットで策定されたSDGsは、先進国と途上国が丸一となって地球が直面している課題（環境、経済、教育、社会等）の解決に向けた17の目標で構成されている。SDGsは、2020年の学習指導要領に導入されるなど、これからの時代を生きる全ての人々が理解すべき目標かつ「SDGs＝地球市民の必須教養」でもある。本授業では、新聞等のメディアを活用しな

### <授業の到達目標>

本授業では、新聞等を活用し、いくつかの時事問題を取り上げ、その背景知識を学ぶとともに、現在の日本や世界の情勢について理解を深め、国際的な見方や考え方を養う。学習によって得られた知識を論理的に組み立て、SDGsの目標達成に向けた自分なりの意見が持てるようにする。

### <授業の方法>

6名の教員がオンデマンド授業をローテーションで担当する。Google Classroomで事前録画された講義を視聴し、それぞれのテーマについての課題に取り組んでいく。尚、時事が対象となるので、内容が変更になることを了承して欲しい。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

決められた課題を事前に調べ、勉強しておくこと。授業の予習・復習にはそれぞれ最低1時間は使って欲しい。授業外では国内外のニュースなどの時事問題に関心を持ち、それらのニュースがどのように伝えられているのか注視して欲しい。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

コミュニケーションの能力とグローバルマインドを身に付けた人材の育成を目標に、自分の意見を他者に伝えることができる能力と、時事教養を通じて広い視野に立った知識を身につけられるようにする。なお本授業は、教養科目ディプロマポリシーDP5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向性）に対応している。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 40%、授業内課題40%、最終課題20%課題提出期間は1週間とする。提出期限を過ぎた場合は受け付けない。課題提出をもって出席とし、課題未提出や期限後の提出は欠席となるので、十分に注意してほしい。

### <教科書>

特に指定しない

### <参考書>

特に指定しない

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の説明、時事問題とは、SDGsとは
2	政治の最新時事	政治問題をすべてのマスメディアから最新のものを紹介し解説する。
3	経済の最新時事	経済問題をすべてのマスメディアから最新のものを紹介し解説する。
4	外交問題の最新時事	外交問題をすべてのマスメディアから最新のものを紹介し解説する。
5	ジェンダーを考える(1)：ジェンダーとは何かを理解する	自分の住む地域の身近な問題や自身が気になる時事問題を見つめ、自分事であるSDGsの17の目標への繋がりを見つける。
6	ジェンダーを考える(2)：世界各国の状況	SDGsで唱えられているジェンダーやSOGIなどについて、身近な事例からスタートし、世界各国の状況を見ながら理解を深める。
7	ジェンダーを考える(3)：先進的な取り組み	ジェンダーレスやジェンダーギャップなどをテーマに、先端的な取り組み例から、自分自身ができる解決に向けた取り組みについて検討する。
8	平等を哲学する(1)：現代の不平等や格差	可能な限り新しいニュースを媒体として、日常の中に不平等や格差の実例を発見できるようになる
9	平等を哲学する(2)：3種類の正義	平等と格差問題を考える際の基盤となる正義論を理解する
10	平等を哲学する(3)：平等主義の哲学	ロールズやネーゲルを代表とする現代哲学者の平等主義の考え方を理解し、それを自身のものとして使用できるようになる
11	貧困ってなんだろう？ 貧困をなくすためには？	貧困の定義を学び、最近の貧困について学びます。
12	健康ってなんだろう？ すべての人が健康に暮らす為の福祉とは？	健康とは何なのか？ということについて学び、福祉の推進について時事を踏まえながら学ぶ。
13	住みやすい街づくり、住み続けられる街づくりってなんだろう？	住みやすいとはということについて考え、持続可能な都市について学ぶ。
14	SDGsを考える(1)	SDGsの17の目標のうち1つを選び解決のためのアクションプランを考える
15	SDGsを考える(2)	SDGsの17の目標のうち1つを選び解決のためのアクションプランを提出(最終課題)



科目コード	10204			区分	教養科目				
授業科目名	コンピュータリテラシー I			担当者名	宮 昊君				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必須

### <授業の概要>

AI時代においてコンピュータ利活用は必須のスキルである。本科目では、まずコンピュータ操作スキルを習熟するため、WordやPowerPointといった必須アプリケーションを駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。さらに、WordやPowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータスキル・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。

### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等(90分)程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2(専門分野に関する知識・理解)及び、ディプロマポリシー5(情報活用、論理、問題解決力等に関する汎)

### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集(2021年1月29日) パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	PCメールの活用、LMSとクラウドの活用
2	PCとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
3	クラウドとグループワーク環境	インターネット活用とネットモラル
4	Wordビジネス文書(1) 文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書(2) 画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書(3) 図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート(1) スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート(2) 参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート(3) 表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定(PDF化)、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習

科目コード	14205			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)			担当者名	片上 摩紀				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、非認知能力育成専用学舎であるDiscoveryの主要な教室5ヶ所に対応する5つのリテラシーを学習する。その際には、学習するリテラシーに応じた単元（A～E）を作成し、3コマ完結の授業を展開する。各単元には専属教員が配置され一貫した授業内容を展開する。

### <授業の到達目標>

本授業は、認知能力育成学舎Discoveryの主要教室に対応するリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。そのため、5つの単元を巡ることで以下のスキルを身に付けることを到達目標とする。単元A「調べぬく力」（対応教室：ラーニングコモンズ）：情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」（対応教室：インタラクティブラボ）：情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを

### <授業の方法>

複数教員がローテーションで担当する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。なお、本授業全体の説明と3Rsとの関係についての動画を配信する予定である。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の指導者が課す予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。さらに1つの単元（3コマ）が終了するごとに「自己評価シート」（90分程度）を提出する。以上のように、合計30時間程度の予習と復習が必要となる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の教養ディプロマポリシーのDP4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向）に対応している。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、単元終了後の振り返りレポート（20%×5）によって行う。その際の評価基準としては、授業中の活動の振り返り、授業によって新たに獲得したスキル、レポート全体の構成を重視する。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専門家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用

科目コード	10204			区分	教養科目				
授業科目名	コンピュータリテラシー I			担当者名	宮 昊君				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必須

### <授業の概要>

AI時代においてコンピュータ利活用は必須のスキルである。本科目では、まずコンピュータ操作スキルを習熟するため、WordやPowerPointといった必須アプリケーションを駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。さらに、WordやPowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータスキル・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	PCメールの活用、LMSとクラウドの活用
2	PCとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
3	クラウドとグループワーク環境	インターネット活用とネットモラル
4	Wordビジネス文書（1）文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書（2）画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書（3）図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート（1）スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート（2）参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート（3）表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定（PDF化）、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習

科目コード	14205			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)			担当者名	片上 摩紀				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、非認知能力育成専用学舎であるDiscoveryの主要な教室5ヶ所に対応する5つのリテラシーを学習する。その際には、学習するリテラシーに応じた単元（A～E）を作成し、3コマ完結の授業を展開する。各単元には専属教員が配置され一貫した授業内容を展開する。

#### <授業の到達目標>

本授業は、認知能力育成学舎Discoveryの主要教室に対応するリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。そのため、5つの単元を巡ることで以下のスキルを身に付けることを到達目標とする。単元A「調べぬく力」（対応教室：ラーニングコモンズ）：情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」（対応教室：インタラクティブラボ）：情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを

#### <授業の方法>

複数教員がローテーションで担当する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。なお、本授業全体の説明と3Rsとの関係についての動画を配信する予定である。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の指導者が課す予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。さらに1つの単元（3コマ）が終了するごとに「自己評価シート」（90分程度）を提出する。以上のように、合計30時間程度の予習と復習が必要となる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の教養ディプロマポリシーのDP4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向）に対応している。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、単元終了後の振り返りレポート（20%×5）によって行う。その際の評価基準としては、授業中の活動の振り返り、授業によって新たに獲得したスキル、レポート全体の構成を重視する。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専門家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用

科目コード	14001				区分	教養科目			
授業科目名	キャリアサポート				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本科目では、キャリアデザインで取り組んだ内容をもとに、日本の会社で働くために必要な資質、知識やマナーをさらに向上させることを目指す。日本で就労するためには日本人の考え方、国との働き方の違い、法規に関する問題などを知り、日本社会の中で共生していく必要がある。そのための知識の養成や心構えについて学ぶ。

#### <授業の到達目標>

卒業後の進路を選択し、選択した進路に進むために必要な資質や考え方、能力を獲得する。 ※留学生が卒業後に「特定活動」の在留資格を得るためには、本科目の単位を修得する必要があるので留意すること。

#### <授業の方法>

講義と演習を組み合わせ実施する。面接対策に関連する授業回で、プレゼンテーションに類するものを行う。提出物はGoogle Classroomを用いて提出することもある。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前回講義で学習した内容を見直して復習し、授業終了時に示す内容等を予習する。（予習・復習とも30分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

卒業後の進路選択という一時点での意思決定に向き合うことだけに留まるのではなく、生涯を通じたキャリアの発達や開発を自律的に行うための態度や考え方を身につけることを目指すものである。主体性・積極性を持って学習し、グローバルな課題解決の一端を担い、国際社会に貢献し、同時に生涯学習力や統合的な経験と創造的思考力を身に付ける科目である（教養科目DP7、8）。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加態度・学習意欲30%、講義内での課題 60%、最終レポート10%。課題に対するフィードバックは講義内で、最終レポートについてはUNIVERSAL PASSPORTで行う。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明
2	就職活動の中間報告	各自の就職活動の「これまで」と「これから」
3	キャリアについて考える	内的キャリアと外的キャリア、キャリア・アンカー
4	自己分析 (1)	人生曲線、自分史
5	自己分析 (2)	自己PRのための日本語表現
6	業界・企業研究 (1)	業界・企業を捉える多様な視点、情報収集の方法
7	業界・企業研究 (2)	選択肢を広げるための業界・企業研究
8	自己分析 (3)	業界・企業選択に向けた価値観の模索
9	業界・企業研究 (3)	価値観にもとづく業界・企業選択
10	書類の作成	読み手に伝わる日本語表現とは
11	就職活動におけるマナー	身だしなみ、電話・メール・対面での日本語表現
12	面接対策 (1)	基本的な手順、聞かれる質問
13	面接対策 (2)	個人面接のロールプレイング
14	面接対策 (3)	集団面接のロールプレイング
15	まとめ	就職活動の総括とこれからの学びに向けて

科目コード	10101			区分	教養科目				
授業科目名	英会話			担当者名	小川 正人				
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

#### <授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

#### <授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

#### <準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、一般教養科目のディプロマポリシー1（グローバル・国際理解等に関する知識・理解）、およびディプロマポリシー4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）と関連付けられている。英語を通じて世界を見る力を身に付けながら、英語でのコミュニケーション能力の育成も目標としている。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

#### <教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

#### <参考書>

特になし

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others; asking for and giving personal information
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
7	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
8	Presentation (1)	Giving presentation in English
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
14	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
15	Presentation (2)	Giving presentation in English

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ				担当者名	宮 昊君			
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得した技能をもとにさらに高度な操作スキルを身につけることを目指す。表計算アプリケーションであるExcelを中心にグラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につける。またこれに並行して、情報の扱い方を中心にセキュリティ、情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得することを第一の目標とする。さらに、Excelといった必須アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索からのキューレーションやネット社会におけるモラル・セキュリティを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算（Excel）について	入力と四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数、フィル
3	データ処理（1）	並べ替え、フィルター機能と、テーブルとして書式設定（並べ替え、フィルター、スライサー）
4	データ処理（2）	条件付き書式、合計、平均、最大値、最小値絶対番地指定と、名前の定義
5	グラフ作成（1）	グラフ作成
6	グラフ作成（2）	グラフ作成、描画、Office連携
7	Excel関数確認	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MIN, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
8	Excel中間課題	Excel関数確認試験
9	文字列関数	CONCATENATE, LEN, RIGHT, LEFT, MID
10	データ抽出（1）条件によって処理を分ける	IF, AND, OR
11	データ抽出（2）別表からデータを取り出す	VLOOKUP, IF, IFERROR
12	データ配布とセキュリティ	入力規制、セルやブックの保護
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel総合課題	プロパティ、印刷設定（PDF化）を含む最終課題

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ				担当者名	宮 昊君			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得した技能をもとにさらに高度な操作スキルを身につけることを目指す。表計算アプリケーションであるExcelを中心にグラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につける。またこれに並行して、情報の扱い方を中心にセキュリティ、情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得することを第一の目標とする。さらに、Excelといった必須アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索からのキューレーションやネット社会におけるモラル・セキュリティを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算（Excel）について	入力と四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数、フィル
3	データ処理（1）	並べ替え、フィルター機能と、テーブルとして書式設定（並べ替え、フィルター、スライサー）
4	データ処理（2）	条件付き書式、合計、平均、最大値、最小値絶対番地指定と、名前の定義
5	グラフ作成（1）	グラフ作成
6	グラフ作成（2）	グラフ作成、描画、Office連携
7	Excel関数確認	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MIN, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
8	Excel中間課題	Excel関数確認試験
9	文字列関数	CONCATENATE, LEN, RIGHT, LEFT, MID
10	データ抽出（1）条件によって処理を分ける	IF, AND, OR
11	データ抽出（2）別表からデータを取り出す	VLOOKUP, IF, IFERROR
12	データ配布とセキュリティ	入力規制、セルやブックの保護
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel総合課題	プロパティ、印刷設定（PDF化）を含む最終課題



科目コード	14205			区分	教養科目				
授業科目名	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)			担当者名	片上 摩紀				
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

本授業は、非認知能力育成専用学舎であるDiscoveryの主要な教室5ヶ所に対応する5つのリテラシーを学習する。その際には、学習するリテラシーに応じた単元（A～E）を作成し、3コマ完結の授業を展開する。各単元には専属教員が配置され一貫した授業内容を展開する。

#### <授業の到達目標>

本授業は、認知能力育成学舎Discoveryの主要教室に対応するリテラシーを学生一人一人に育成することを目標とする。そのため、5つの単元を巡ることで以下のスキルを身に付けることを到達目標とする。単元A「調べぬく力」（対応教室：ラーニングコモンズ）：情報収集力（幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力）、単元B「考えぬく力」（対応教室：インタラクティブラボ）：情報分析力（事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを

#### <授業の方法>

複数教員がローテーションで担当する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。なお、本授業全体の説明と3Rsとの関係についての動画を配信する予定である。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各単元の授業中は実践的な活動が中心となる。そのため、本授業では予習と復習が不可欠である。予習については、各単元の指導者が課す予習課題（60分程度）を学習した上で授業に臨むこと。授業後は、各授業での活動（パフォーマンス）の内容を振り返るとともに、新たにできるようになったスキルを自分自身で書き残す活動（30分程度）を行う。さらに1つの単元（3コマ）が終了するごとに「自己評価シート」（90分程度）を提出する。以上のように、合計30時間程度の予習と復習が必要となる。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の教養ディプロマポリシーのDP4（コミュニケーション能力等の汎用的技能）及びDP6（自律や社会性等に関する態度・指向）に対応している。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、単元終了後の振り返りレポート（20%×5）によって行う。その際の評価基準としては、授業中の活動の振り返り、授業によって新たに獲得したスキル、レポート全体の構成を重視する。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	単元A「調べぬく力」①	調べぬく力の重要性を理解する
2	単元A「調べぬく力」②	情報の収集方法について学ぶ
3	単元A「調べぬく力」③	情報の収集方法を実践に応用する
4	単元B「考えぬく力」①	考え抜く力の重要性を理解する
5	単元B「考えぬく力」②	情報の分析方法について学ぶ
6	単元B「考えぬく力」③	情報の分析方法を実践に応用する
7	単元C「話し合う力」①	対話の重要性を理解する
8	単元C「話し合う力」②	対話の具体的スキルを学習する
9	単元C「話し合う力」③	対話を実践する
10	単元D「伝える力」①	プレゼンのお手本披露と分析
11	単元D「伝える力」②	自己紹介プレゼンの準備
12	単元D「伝える力」③	受講者によるプレゼン
13	単元E「発信する力」①	スタジオ専門家によるレクチャー
14	単元E「発信する力」②	動画作成法基礎
15	単元E「発信する力」③	動画作成法応用

科目コード	10205				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシーⅡ				担当者名	宮 昊君			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本科目では、「コンピュータリテラシーⅠ」で習得した技能をもとにさらに高度な操作スキルを身につけることを目指す。表計算アプリケーションであるExcelを中心にグラフィカルなドキュメントを効果的に作成する技法や情報を扱うツールとしてのスキルを身につける。またこれに並行して、情報の扱い方を中心にセキュリティ、情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの構造や仕組みの変化について正しく学びつつ、データを正しく扱うの技術を習得することを第一の目標とする。さらに、Excelといった必須アプリケーションの基本的な技法を学びながらドキュメント作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なPC・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索からのキューレーションやネット社会におけるモラル・セキュリティを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」※1を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。※1 コンピュータリ

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等（90分）程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2（専門分野に関する知識・理解）及び、ディプロマポリシー5（情報活用、論理、問題解決力等に関する汎

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集（2021年1月29日） パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	表計算（Excel）について	入力と四則計算
2	罫線による表作成	よく使う関数、フィル
3	データ処理（1）	並べ替え、フィルター機能と、テーブルとして書式設定（並べ替え、フィルター、スライサー）
4	データ処理（2）	条件付き書式、合計、平均、最大値、最小値絶対番地指定と、名前の定義
5	グラフ作成（1）	グラフ作成
6	グラフ作成（2）	グラフ作成、描画、Office連携
7	Excel関数確認	SUM, SUMIF, AVERAGE, AVERAGEIF, MAX, MIN, COUNT, COUNTA, COUNTBLANK, COUNTIF
8	Excel中間課題	Excel関数確認試験
9	文字列関数	CONCATENATE, LEN, RIGHT, LEFT, MID
10	データ抽出（1）条件によって処理を分ける	IF, AND, OR
11	データ抽出（2）別表からデータを取り出す	VLOOKUP, IF, IFERROR
12	データ配布とセキュリティ	入力規制、セルやブックの保護
13	ピボットテーブルとピボットグラフ（1）	数値合計のピボットテーブル
14	ピボットテーブルとピボットグラフ（2）	数値個数のピボットテーブル
15	Excel総合課題	プロパティ、印刷設定（PDF化）を含む最終課題

科目コード	14003			区分	教養科目				
授業科目名	キャリアデザインⅡ			担当者名	大平 真紀子				
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

卒業後の人生を実りあるものにするためには、きちんとしたキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。本科目では、前期は進路別の就職活動の基本的スケジュールを理解するとともに、自己理解、職業・仕事の理解を通じ自身の目指すべき方向性を明確にする。後期は、就職活動に必要なビジネスマナー、自己分析、業界研究、面接対策等について実践的に学習していく。

#### <授業の到達目標>

卒業後の進路を選択し、選択した進路に進むために必要な資質や考え方、能力を獲得する。

#### <授業の方法>

講義と演習を組み合わせて実施する。業界・企業研究に関連する授業回で、グループワークを行う。面接対策に関連する授業回で、プレゼンテーションに類するものを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（各回60分程度）：課題の指定された部分を通読したうえで、分からない言葉を調べる。|復習（各回80分程度）：授業で学んだことを踏まえて、自身のキャリアについて考えたり、進路決定に向けた準備を進めたりする。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

進路選択を取り巻く諸相やそれらにかかわる不確実性を理解したうえで、自律的な意思決定とそれにもとづく個人行動を取れるようになることを目指すものである。グローバル化・情報化による多様な環境変化の下、高い倫理観と豊かな教養力で問題解決に向けチームワークを構築する力を身に付ける科目である。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加態度・学習意欲30%、講義内での課題60%、最終レポート10%。|課題に対するフィードバックは講義内で、最終レポートについてはUNIVERSAL PASSPORTで行う。

#### <教科書>

#### <参考書>

久保田学（2018）

「留学生のための就職内定ワークブック」日本能率協会マネジメントセンターグエン・テュアン・ズオン（2018）「ベトナム人が日本企業に就職するための心得」日本ベンチャー大学パブリッシング

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	前期振り返り	前期の振り返りと後期の授業概要 インターンシップや業界・企業研究などの成果の共有
2	就職活動におけるマナー（1）	基本的な身だしなみ
3	就職活動におけるマナー（2）	敬語、電話・メールの日本語表現
4	インターネットを活用した就職活動の展開	就活サイトの活用法、各種データベースの利用方法
5	企業を知る（3）	個別企業の事例に基づく企業理解（外部講師予定）
6	業界・企業を選ぶ	業界・企業選びの方向性
7	履歴書とエントリーシート	書類提出の意味、基本的な書き方・注意点
8	日本の税制と福利厚生	給与と福利厚生、所得税
9	自己分析	自分の「これまで」と「これから」を改めて見つめ直す
10	自分のことを他人に伝える	自己PRのための日本語表現
11	面接対策（1）	基本的な手順、よく聞かれる質問
12	面接対策（2）	面接のロールプレイング [基本編]
13	面接対策（3）	面接のロールプレイング [応用編]
14	在留資格について	「特定活動」資格の説明
15	まとめ	全体の総括と補足説明

科目コード	13202			区分	教養				
授業科目名	政治・経済学			担当者名	藤田 依久子				
配当年次	0	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

本科目では、私たちと政治や経済との関わり合いについて理解することを目的とする。私たちの暮らす社会はどのような方向に向かっているのか、今の社会でいったい何が起きているのか、現在起きている出来事から政治と経済のしくみについて紐解き、解説していく。私たちの生活に影響を与える政治や経済の政策は、どのような仕組みで決まっているのか、現代政治や経済を理解するための基本的な考え方や概念を整理する。我が国の政治や経済について、様々な側面から検討することによって、学生は現代の政治・経済の基本的な仕組みを理解し考察できる

### <授業の到達目標>

基礎的なことからの修得を中心としているが、同時に歴史的な背景を学ぶことによって、奥行きのある理解を目指す。政治や経済についての基本的な考え方や事実について学ぶことを通じて、学生は政治や経済についての根幹の知識と教養を身につけ、さらに発展的な学習を進めるための基礎を習得できる。現在起きている様々な政治や経済の事象を読み解く視座を涵養するとともに、国際社会から見た日本について考える視点の習得を目指す。

### <授業の方法>

講義を基本とする。受講者の人数によっては、グループワークを取り入れることとする。また、毎回、レポート課題を課すこととする。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各講義のテーマに対し提示される内容をもとに、前の回の授業で提示した課題や資料を調べ、ポイントをまとめ、何を考えたのかを整理しておくこと（各回1時間）。講義後には、講義内容や課題内容、教科書の内容から自分で考えたことを整理し、理解の深化に努めること。また、学習の深化のための課題についても各自で調べること（各回1時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、政治経済学に関する「専門分野に関する知識・理解」（DP2）を習得し、実社会における様々な問題を自分事の問題として生活の中の身近な具体例と共に説明できるようトレーニングを繰り返すことで、「統合的な学習経験と創造的思考力」（DP8）を育成し、それらを深めることに力点を置く。現在、日本でだけでなく、世界はきわめて流動的な状況にあり、諸問題を解決する正解は存在しない。そこで、常に変化し続ける政治と経済のいまを理解することで、21世紀の行く先を展望し、将来にわたって学習し続けることの意義を検討していくこと

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 40%、授業内課題40%、最終課題20%により評価する。授業内課題については、内容の良いレポートについては、そのポイントを紹介し、共有できる体制をとる。提出期限を過ぎた場合は受け付けないので、十分に注意していただきたい。教科書購入が履修条件の一つとなる。

### <教科書>

池上彰（2019/2/21） 新版 政治と経済のしくみがわかるおとな事典 講談社

### <参考書>

川出良枝・谷口将紀（2012）

政治学東京大学出版会北山俊哉ほか（2009）はじめて出会う政治学—構造改革の向こうに有斐閣アルマStephen Wendel著、武山政直監修（2020）行動を変えるデザイナー—心理学と行動経済学をプロダクトデザインに活用するオライリー—ジャパン

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	授業ガイダンス ?政治、経済を読み解く視点
2	政治1	2院制と政党政治
3	政治2	選挙区制度の歴史とねらい
4	政治3	与党と野党の役割
5	政治4	大阪”都”構想に見る行政制度（統治機構）
6	政治5	少子高齢化の進展と政治
7	政治6	選挙活動とSNS
8	政治7	日本の政治が抱える課題
9	経済1	インフレとデフレ
10	経済2	円安と円高の仕組みと影響
11	経済3	金融緩和から見る日銀の役割
12	経済4	税の役割と影響
13	経済5	GDPと貿易
14	経済6	新型コロナ下における経済活動①
15	経済7	新型コロナ下における経済活動②

科目コード	10204				区分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I				担当者名	宮 昊君			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必須

### <授業の概要>

AI時代においてコンピュータ利活用は必須のスキルである。本科目では、まずコンピュータ操作スキルを習熟するため、WordやPowerPointといった必須アプリケーションを駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報処理技術のトータル的な理解を目指す。

### <授業の到達目標>

コンピュータやインターネットの歴史、その構造や仕組みについて正しく学びつつ、コンピュータの利活用を習得することを第一の目標とする。さらに、WordやPowerPointといった必須アプリケーションの基本的な操作技術を学びながら文書作成の実習を行うことで、社会人として必要・十分なコンピュータスキル・情報リテラシーを習得することを第二の目標とする。また、web情報検索の基礎やネット社会におけるモラルを正しく学び、情報・インターネットリテラシーを高めることも目指す。

### <授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。各回の講義では、まずはじめに事前に示された予習範囲に関するいくつかのポイントを教員が例示し、操作方法・手法を確認する。講義の後半は、その日に学んだ手法を用いた例題を示し、5人程度のグループワークで学生同志相談しながら作業する。完成させた成果物を授業内課題として毎回提出する。テキストはオンライン学習サービス「日経パソコンEdu」を利用する。同サイトは以下に示した指定テキストを購入することでライセンス利用可能となる。

### <準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義に臨むにあたり、事前に示された講義該当箇所を事前に予習することを必要とする。じっくり精読し、PCで実際に操作を確認しながら予習を行うため、予習にはおよそ60分～90分程度の時間を要する。復習は必ず次回の授業までに行い、少なくとも授業時間と同等(90分)程度の時間を割くような学習姿勢が望ましい。また、授業内で理解不十分だった点、時間的に未完成だった課題、欠席してしまっただ日の内容などは、次回までにしっかりと習得して授業に臨むことが求められる。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

専門分野にかぎらず幅広い知識と理解を習得することで、高い専門性と実行力を備えた人材としての資質が養成される。そのためにも、PC操作や文字入力など広く一般的なPCリテラシー、および各種アプリケーションスキルの習得は非常に重要である。これは、今後の実学教育につながっていく。また、授業での課題は、問題解決能力。グループワークは、協調性、自立性・自律性を高め個性を磨いていく。なお、本科目は、教養科目ディプロマポリシー2(専門分野に関する知識・理解)及び、ディプロマポリシー5(情報活用、論理、問題解決力等に関する汎)

### <成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義前課題 30%、講義ごとの制作課題 30%、中間課題20%、期末課題20%

### <教科書>

日経パソコン編集(2021年1月29日) パソコン&オンライン授業活用読本 2021年版 日経BPマーケティング

### <参考書>

特に指定なし

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ICT活用の必要性	PCメールの活用、LMSとクラウドの活用
2	PCとドキュメント作成環境	文字入力と変換、ドキュメントの書式設定
3	クラウドとグループワーク環境	インターネット活用とネットモラル
4	Wordビジネス文書(1) 文書作成ルール	ページ設定とレイアウト設定ビジネス文書ルール
5	Wordビジネス文書(2) 画像の挿入	画像挿入、スクリーンショット、画像処理、アクセスビリティ
6	Wordビジネス文書(3) 図形描画と、スマートアート	図形挿入と描画ツール、透かし、ページ罫線の挿入
7	Wordレポート(1) スタイルとデザイン	スタイル設定、ヘッダとフッター、表組と段組み
8	Wordレポート(2) 参考資料	文末脚注と脚注、脚注の書式設定、引用文献と文献目録、図表番号の追加と変更
9	Wordレポート(3) 表と計算、グラフ	表の計算機能、グラフ作成機能。Officeの連携機能
10	Word総合課題	プロパティ設定と、これまでの機能を利用した中間課題の作成実習
11	PowerPointプレゼンテーションの作成と管理	PowerPoint基本操作とスライドマスター設定
12	PowerPointアニメーション・スライドショー設定	アニメーション・スライドショーで、プレゼンテーションを考える
13	PowerPointプレゼンテーション資料制作	動きを付けた図表でのプレゼンテーションを考える
14	PowerPoint目的別プレゼンテーション資料制作	グループワーク、プレゼンテーションの連結と、目的別プレゼンテーション
15	PowerPoint総合課題	印刷設定(PDF化)、配布資料これまでの機能を利用した最終課題の作成実習

科目コード	13103				区分	教養科目			
授業科目名	日本の伝統文化				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

日本の伝統文化の一つである「書」を通じて伝統文化への知見を深める。書は中国が起源のものではあるが、日本に伝来して以来日本でも独自に発展してきた。本授業では中国の古典から日本の仮名、漢字仮名交じりの書に至る流れを概観し、その運筆法も学ぶ。

#### <授業の到達目標>

到達目標は次の3点である。1. 書の基本的な知識を知る。2. 古典の違いを理解し、作品を味わう。3. 運筆法を学び、それが体現できるようになる。

#### <授業の方法>

講義形式であるが、理解を深めるために体験活動も取り入れる。資料については適宜配布する。提出物はGoogle Classroomを用いて提出することもある。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：用語の理解、それぞれの書の特徴、運筆法などをしっかり理解しておく。（30分程度）復習：その日習った用語や運筆法をまとめて、覚える。また、それらが体現できるように練習する。（60分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

グローバルな国際社会の中で人が共存していくためには、多文化や異文化に関する知識を身につけることが必要不可欠である（教養科目DP1）。国際社会で活躍する人材として成長するために、日本の伝統や文化についての理解を深め、尊重し、そのよさを継承・発展させていくことが求められている（教養科目DP2）。本授業では、日本の伝統文化について知るだけでなく、日本の文化を他の国に伝えられるよう知見を広げてほしい。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30%, 課題提出 40%, 期末試験 30%各課題に関しては授業内において解説していくものとする。期末試験についてはGoogle Classroomを用いて個別のフィードバックを行う。

#### <教科書>

#### <参考書>

石飛博光ほか13名（平成23年12月20日）

書道 I 東京書籍

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション書写から書道へ	授業の進め方と評価書写の確認、用具・用材、姿勢・執筆法
2	漢字仮名交じりの書	いろいろな線・濃淡による表現の広がり
3	漢字の書 楷書（1）	楷書の用筆法楷書の成立と唐の四大家「九成宮醴泉銘」と「孔子廟堂碑」
4	漢字の書 楷書（2）	「雁塔聖教序」と「自書告身」
5	漢字の書 楷書（3）	「牛?造像記」と「鄭義下碑」
6	漢字の書 行書	行書の特徴「蘭亭序」
7	漢字の書 草書	草書の成立と特徴「真草千字文」
8	漢字の書 隸書	隸書の成立と特徴「曹全碑」
9	漢字の書 篆書	篆書の成立と特徴「泰山刻石」
10	仮名の書（1）	仮名の成立、仮名の用具・用材、仮名の筆遣い平仮名の単体、連綿、変体仮名
11	仮名の書（2）	「高野切」散らし書き
12	漢字仮名交じりの書（1）	線質の調和による表現用具・用材による表現
13	漢字仮名交じりの書（2）	紙面構成のバリエーション
14	漢字仮名交じりの書（3）	古典を生かした創作（1）
15	漢字仮名交じりの書（4）	古典を生かした創作（2）

科目コード	13103				区分	教養科目			
授業科目名	日本の伝統文化				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

日本の伝統文化の一つである「書」を通じて伝統文化への知見を深める。書は中国が起源のものではあるが、日本に伝来して以来日本でも独自に発展してきた。本授業では中国の古典から日本の仮名、漢字仮名交じりの書に至る流れを概観し、その運筆法も学ぶ。

#### <授業の到達目標>

到達目標は次の3点である。1. 書の基本的な知識を知る。2. 古典の違いを理解し、作品を味わう。3. 運筆法を学び、それが体現できるようになる。

#### <授業の方法>

講義形式であるが、理解を深めるために体験活動も取り入れる。資料については適宜配布する。提出物はGoogle Classroomを用いて提出することもある。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：用語の理解、それぞれの書の特徴、運筆法などをしっかり理解しておく。（30分程度）復習：その日習った用語や運筆法をまとめて、覚える。また、それらが体現できるように練習する。（60分程度）

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

グローバルな国際社会の中で人が共存していくためには、多文化や異文化に関する知識を身につけることが必要不可欠である（教養科目DP1）。国際社会で活躍する人材として成長するために、日本の伝統や文化についての理解を深め、尊重し、そのよさを継承・発展させていくことが求められている（教養科目DP2）。本授業では、日本の伝統文化について知るだけでなく、日本の文化を他の国に伝えられるよう知見を広げてほしい。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30%, 課題提出 40%, 期末試験 30%各課題に関しては授業内において解説していくものとする。期末試験についてはGoogle Classroomを用いて個別のフィードバックを行う。

#### <教科書>

#### <参考書>

石飛博光ほか13名（平成23年12月20日）

書道 I 東京書籍

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション書写から書道へ	授業の進め方と評価書写の確認、用具・用材、姿勢・執筆法
2	漢字仮名交じりの書	いろいろな線・濃淡による表現の広がり
3	漢字の書 楷書（1）	楷書の用筆法楷書の成立と唐の四大家「九成宮醴泉銘」と「孔子廟堂碑」
4	漢字の書 楷書（2）	「雁塔聖教序」と「自書告身」
5	漢字の書 楷書（3）	「牛?造像記」と「鄭義下碑」
6	漢字の書 行書	行書の特徴「蘭亭序」
7	漢字の書 草書	草書の成立と特徴「真草千字文」
8	漢字の書 隸書	隸書の成立と特徴「曹全碑」
9	漢字の書 篆書	篆書の成立と特徴「泰山刻石」
10	仮名の書（1）	仮名の成立、仮名の用具・用材、仮名の筆遣い平仮名の単体、連綿、変体仮名
11	仮名の書（2）	「高野切」散らし書き
12	漢字仮名交じりの書（1）	線質の調和による表現用具・用材による表現
13	漢字仮名交じりの書（2）	紙面構成のバリエーション
14	漢字仮名交じりの書（3）	古典を生かした創作（1）
15	漢字仮名交じりの書（4）	古典を生かした創作（2）

科目コード	12100			区分	教養科目				
授業科目名	生化学			担当者名	佐藤 忠文				
配当年次	0	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

生物の体は「分子」で作られている。本授業では、生命現象を分子の反応として理解することを目標に、①自然界を構成する原子・分子についての基礎知識を整理し、②生物の体を構成し、その働きを担っている分子の特徴について学習し、③生物体の基本単位となっている細胞の構造と働き、④生物の活動に伴って起こる物質とエネルギーの変換、⑤世代から世代へと引き継がれる遺伝情報の発現と維持、⑥運動・感覚・免疫その他の生理機能について分子レベルでの理解を深める。

### <授業の到達目標>

最初に、生物体を作っている水・タンパク質・炭水化物・脂質・核酸などについて、分子としての特徴を理解する。その上で、生物体の構成単位である細胞について構造と機能の概略を分子レベルで理解する。次のステップとして、①生命活動に不可欠なエネルギーの獲得過程である呼吸・発酵・光合成、獲得されたエネルギーを消費することで進行する諸々の生理現象、②世代を通して伝達される遺伝情報の発現と維持などの仕組みについて焦点を絞って学習し、日常生活で接する生命現象に関わるいろいろな情報を生化学の立場から説明できることを到達目標とす

### <授業の方法>

教科書・プリント・視聴覚機器を使用する。最終回では、興味をもったテーマについて全員にプレゼンテーションが求められる。昨今、話題のウイルスとは？ PCRの原理は？ どうしてRNAがワクチンに？ 質問大歓迎！

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、原子や分子など、化学の初歩的な内容を把握（1時間）しておく。毎回の復習として各前回の内容に目を通しておくこと（1時間）。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

生物学、化学はもとより、医学、農学など生命科学の分野に関する基礎知識を習得する科目である。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験が70%、レポートおよび発表が30%のウエートにより評価する。

### <教科書>

平澤栄次 はじめての生化学（第二版）生活のなぜ？を知るための基礎知識 化学同人

### <参考書>

亀井碩哉

ひとりでマスターする生化学講談社

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	生化学への導入	生命とは何か？
2	化学の基礎知識	自然界を構成している物質と化学結合
3	生物体の化学的な構成	生体を構成している物質の特徴（生体膜を含む）
4	細胞（1）	細胞の基本的な構造
5	細胞（2）	細胞の基本的な機能
6	アミノ酸とタンパク質（1）	アミノ酸とタンパク質の一次構造
7	アミノ酸とタンパク質（2）	タンパク質の高次構造と機能発現
8	酵素反応（脂質・炭水化物）	生体反応の酵素による触媒
9	物質とエネルギーの代謝（1）	生命活動に必要なエネルギーの獲得（呼吸・発酵・光合成）
10	物質とエネルギーの代謝（2）	生命活動に伴うエネルギーの消費（物質合成・筋収縮など）
11	遺伝物質としての核酸	遺伝情報が宿る核酸の構造（DNAの構造・ゲノム解読など）
12	遺伝情報の発現とその制御	DNAの一部はRNAとして転写され、そのRNAがタンパク質を作る鋳型となる。
13	分子でみる生命現象	動的平衡、タンパク質とエネルギーの共演
14	生命の起源と進化	生命の起源と進化
15	－受講者による発表－	（質問・発表・討論）



科目コード	13101				区分	教養科目			
授業科目名	日本国憲法				担当者名	未定			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

私たちが生きる現代の日本は、歴史的に見ても、またグローバルな観点から見ても、恐怖と欠乏から免れた最も自由な社会の一つといえる。では、人々はそのような自由や幸福をどのようにして実現することができるのだろうか。グローバル化が進展し、さらなる変化を遂げようとしている現代社会において、私たち自身の現在と未来、そして将来の世代の自由をも守っていくことにも繋がるこの問いについて、日本国憲法の基礎的知識を身につけた上で、憲法学的視点から自ら考える力を養うことを目的とする。

### <授業の到達目標>

①日本国憲法における基本的人権の保障や日本の統治機構を学び、理解できる。②現代国家を形成し、それを守る一定のルールとメカニズムを理解できる。③憲法の条文を解釈しつつ、それらと現実社会との関係を自ら考え、理解できる。

### <授業の方法>

講義形式で進行する。教科書のテーマに沿いつつ、レジュメも配布するが、板書もするのでノートを準備されたい。学生は、毎回教科書の指定範囲をあらかじめ熟読し、指定された予習課題について自分なりの回答を考えておく。Universal Passportを使用した小テストを行う。

### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回事前に指定された教科書の該当範囲を熟読しておく。（60分）復習：レジュメや板書ノートをまとめなおす（60分）

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

日本国憲法の学びを通して、特に社会に関連した学際的な知識を身につける（DP4）。また、現代社会における人権問題や統治に関する問題を通じて、新たな課題に対応できる社会人力を身につける（DP8）

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験60%、毎回の小テスト30%、受講態度（授業への取り組み）10%により授業の到達目標①～③を測定する。

### <教科書>

井上典之（2016年12月） 憲法の時間 有斐閣

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	人権保障の総論(1)	教科書p6～p15 憲法の基本原理～基本的人権の尊重
2	人権保障の総論(2)	教科書p16～p20、p31～p35 公共の福祉、国家と人権
3	人権規定(1)	教科書p41～p51 個人の尊重、幸福追求権
4	人権規定(2)	教科書p52～p57、p64～p69 法の下での平等、両性の本質的平等
5	人権享有主体性	教科書p36～p40、p21～p25 外国人の人権、子どもの人権
6	人権として保障されているもの(1)	教科書p77～p86 刑罰と死刑
7	人権として保障されているもの(2)	教科書p87～p91、p97～p102 思想・良心の自由、信教の自由と政教分離
8	人権として保障されているもの(3)	教科書p103～p114 表現の自由
9	人権として保障されているもの(4)	教科書p131～p135、p141～p146 教育を受ける権利、職業選択の自由
10	人権として保障されているもの(5)	教科書p159～p168 生存権、勤労の権利と労働基本権
11	国民主権と政治のしくみ	教科書p170～p175、p194～p198 国会と内閣
12	権利や自由を守るしくみ	教科書p206～p220 司法権の役割と違憲審査制
13	憲法とはどのような法？(1)	教科書p228～p239 国家の成り立ちと三権分立
14	憲法とはどのような法？(2)	教科書p246～p256 憲法改正
15	まとめ	日本国憲法の俯瞰

科目コード	13103				区分	教養科目			
授業科目名	日本の伝統文化				担当者名	藤原 章楷			
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

日本の伝統文化は幅広く、伝統行事や伝統芸能の分野も包含される中で、その歴史、現状と課題、将来展望等について、体験を交えながら精神構造も含めて考察し、理解を深める。

#### <授業の到達目標>

次のことを通じて、日本の伝統文化の幅広さを理解し、その一端を具体的に話すことができる。ア 全国各地の特色ある伝統文化について視野を広くする イ「備前焼」や「後楽園」など、岡山の様々な伝統文化についても知識を深める。ウ「書道」の用具の重要性を学び、毛筆を用いて「半紙」に表現する

#### <授業の方法>

講義形式であるが、日本の伝統文化を深く理解するために、体験活動等も取り入れる。資料については適宜配布する。

#### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各テーマの理解を深めるために、書籍、あるいはインターネットなどを活用して、事前学習をする。また、振り返りレポートを提出する(1時間程度)。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

国際社会に生きる社会人として必要な自国文化への理解、とりわけ日本の伝統文化について理解する。

#### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義後の課題レポート提出：講義1～4、8～14回で各5点、講義(5・6・7)書道作品提出25点(5・6は各5点、7は15点)、講義最終15回目の期末試験20点

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	日本の伝統文化概論(1)	芸道、芸能、衣食住、伝統行事等の「日本の伝統文化」の概括説明
2	日本の伝統文化概論(2)	伝統文化とスポーツ。剣道、弓道、相撲、水泳と素材(木・竹など)
3	岡山県の陶芸	備前焼の歴史と特徴
4	書道(1)	書道概論、文房四宝などの用具・用材の説明
5	書道(2)	毛筆による体験(半紙にひらがな、カタカナを書く)
6	書道(3)	毛筆による体験(半紙に漢字を書く、楷書・行書)
7	書道(4)	毛筆による体験(半紙に創作表現)
8	後楽園	回遊式庭園美、構造物(延養亭、茶室、能舞台)、茶園、鶴、馬場
9	伝統工芸	着物、人形、陶芸・工芸(金工、木工)など。民芸
10	祭り(1)	雛祭り、花見、端午の節句、七夕、夏祭り、盆踊り、花火
11	祭り(2)	出初、節分、西大寺会陽、「誕生寺」練供養、神楽、山車、民謡、下津井節
12	食	稲作と伝統行事、赤飯、日本酒。発酵食品、和食、箸(マイ箸)
13	正月関連の伝統行事	正月準備、餅つき、年越しそばと雑煮。門松、凧、独楽、羽子板
14	伝統文学	年賀状、書初め、俳句(芭蕉・蕪村・一茶)、川柳
15	伝統文化の将来展望、期末試験	花鳥風月、首里城、素材と後継者。食文化、国際化、百年樹人、期末試験

科目コード	53043			区分	教養科目				
授業科目名	特別講義Ⅱ			担当者名	未定				
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

この授業では、履修者が公務員試験を受験することを想定して、試験頻出分野である「行政作用法」と「行政救済法」の分野を中心に学ぶ。前者では行政処分の意義とその性質や法効果を学び、一方、後者については、具体的事例の豊富な行政事件訴訟法や国家賠償法等を中心に、判例に即して当該法領域の法解釈を学ぶ。授業の内外を通して、公務員試験の過去問演習を繰り返し、公務員試験合格を達成できる実力を身に着ける。

### <授業の到達目標>

①行政法分野の全体像を把握し、関連法を知る。②行政処分の概念を理解し、その性質や効力を説明できる。③行政救済法領域のそれぞれの一般法、要件と効果を説明できる。④関連する判例の争点を指摘し、判例の導いた結論を説明できる。

### <授業の方法>

授業は、「①教科書の該当範囲に関する基本的説明を行う、②該当範囲の過去問に実際に取り組む、③解説を行う」の順で構成する。学生は、公務員試験合格のために十分な実力をつけるために授業以外でも過去問に取り組むことが必要不可欠である。ユニバを利用した小テストを行い、コメントを付して返却する。

### <準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

学生は、毎回授業前に授業予定範囲を通読(60分)の上授業に臨むこと。授業後は必ず復習を行う(60分)が、授業後だけでなく公務員試験受験までの間は繰り返し過去問を解く演習を続けることが必要。

### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

行政法の学びを通して、特に社会に関連した学際的な知識を身につける(DP4)。また、現代社会における行政作用に関わる問題を通じて、新たな課題に対応できる社会人を身につける(DP8)

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

到達目標①～④のそれぞれについて、UNIPAによる課題(ミニテスト)(30%)、授業への取組(10%)と筆記試験(60%)により達成度を測定する。

### <教科書>

資格試験研究会編 公務員試験 新スーパー過去問ゼミ6 行政法 実務教育出版

### <参考書>

板垣勝彦

公務員をめざす人に贈る行政法教科書法律文化社

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	行政と法(1)	教科書p13～p29 行政法の基礎
2	行政と法(2)	教科書p30～p58、行政上の法律関係、行政上の基準(行政立法・行政計画)
3	行政作用法(1)	教科書p59～p87 行政行為の概念と種類、行政行為の効力
4	行政作用法(2)	教科書p88～p107 行政行為の瑕疵、行政行為の効力の発生と消滅
5	行政作用法(3)	教科書p108～132 行政行為の付款、行政裁量
6	行政作用法(4)	教科書p133～p181 実効性確保の手段、行政手続法
7	行政作用法(5)	教科書p182～p220 行政指導、行政契約
8	行政争訟法(1)	教科書p221～p277 行政事件訴訟の種類、取消訴訟の訴訟要件
9	行政争訟法(2)	教科書p278～p312 取消訴訟の審理要件と判決
10	行政争訟法(3)	教科書p313～p343 国家賠償法1条
11	行政争訟法(4)	教科書p344～p363 国家賠償法2条
12	行政争訟法(5)	教科書p364～p380 損失補償
13	行政組織法(1)	教科書p381～p409 国の行政組織と法、地方公共団体の組織と事務
14	行政組織法(2)	教科書p410～p441 地方公共団体の自治立法と住民、公務員法・公物法
15	まとめ	公務員試験受験に向けた実力の点検

科目コード	11301			区分	教養科目				
授業科目名	人権と教育			担当者名	未定				
配当年次	0	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

教育の現場で求められる人権意識を涵養することを目的として、日本国憲法の人権保障に関する知識を身につけた上で、具体的にどのような人権問題が生じているのかについて、過去の事件・裁判などを題材として学ぶ。

#### <授業の到達目標>

①日本国憲法の人権保障に関する知識を身につけ、②現代社会において具体的にそれらがどのような形で侵害されうるのかについて知り、③それらがど解消されるべきかについて判断することができる。

#### <授業の方法>

講義形式で進行する。教科書を用いず、毎回配布するレジュメに沿って進行する。板書もするのでノート等を準備されたい。Universal Passportを使用した小テストを行う。

#### <準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回事前に予習内容を指定する（初回を除く）ので、それに従い事前学習を行う（60分）。授業後はUNIPA上で課される小テストを通して復習を行う（60分）。

#### <卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

人権に関する学びを通して、特に社会に関連した学際的な知識を身につける（DP4）。また、現代社会における人権問題に関わる問題を通じて、新たな課題に対応できる社会人を身につける（DP8）

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験60%、毎回の小テスト30%、受講態度（授業への取り組み）10%により授業の到達目標①～③を測定する。

#### <教科書>

#### <参考書>

横藤田誠、中坂恵美子（2017年3月）

人権入門法律文化社

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	人権総論(1)	人権とは何か・日本国憲法
2	人権総論(2)	自由権(1)
3	人権総論(3)	自由権(2)
4	人権総論(4)	生存権
5	人権総論(5)	教育を受ける権利
6	人権総論(6)	自己決定権
7	人権と教育 各論(1)	子どもの人権
8	人権と教育 各論(2)	医療と人権
9	人権と教育 各論(3)	性における人権
10	人権と教育 各論(4)	犯罪被害と人権
11	人権と教育 各論(5)	少年非行と人権
12	人権と教育 各論(6)	障害者と人権
13	人権と教育 各論(7)	ナショナルリティと人権
14	人権と教育 各論(8)	移民・難民と人権
15	まとめ	人権と教育に関する学びを俯瞰する